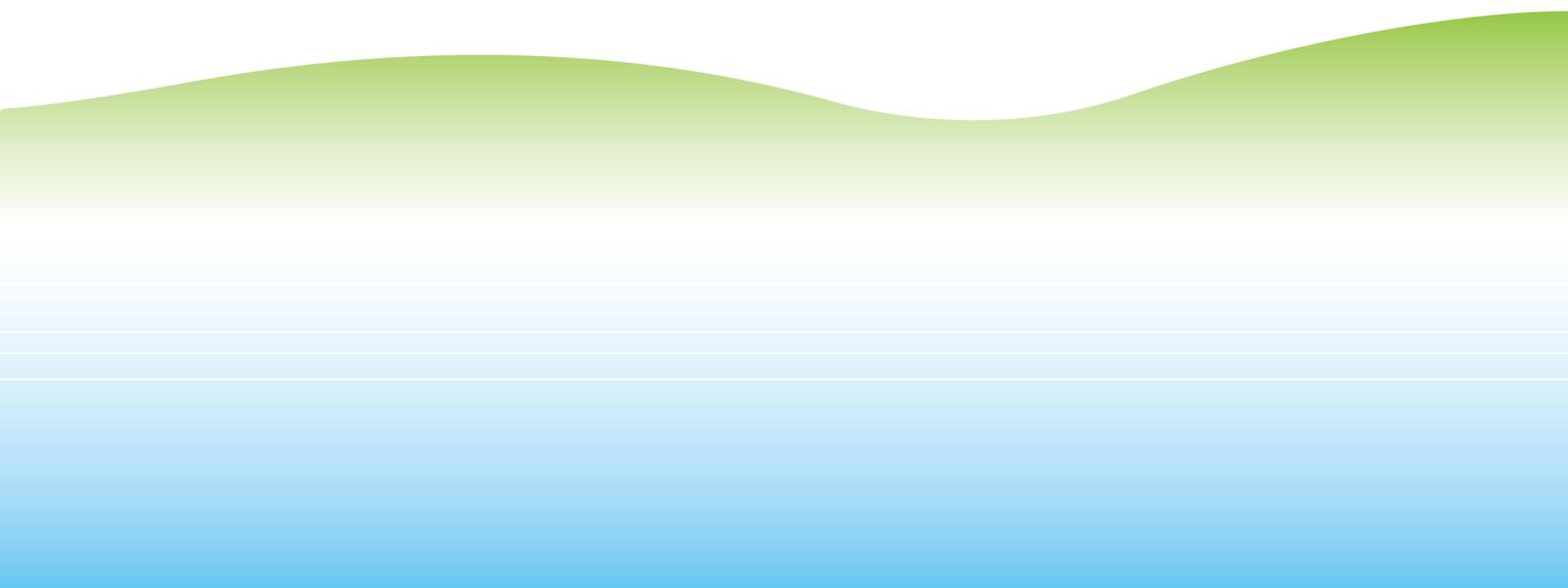


年報 京都大学フィールド 科学教育研究センター

Annual Report

Field Science Education and Research Center,
Kyoto University

No.10 2012



年 報

京都大学フィールド科学教育研究センター

第 10 号

2 0 1 2

目次

組織	1
教育研究部	2
1. フィールド研活動の記録	
(1) 主な取り組みの紹介	
1) 10周年記念プレシンポジウム「流域研究と森里海連環学」	4
2) 森里海連環学教育ユニットを開設	6
3) 第22回公開講座	7
4) 4年目となる「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業」	8
5) 周南市との協定締結と檜皮実験林調査	9
6) 瀬戸臨海実験所における避難誘導マニュアル作成と防災訓練	10
7) 芦生研究林における有害鳥獣対策	11
8) 旧台湾演習林ガラス乾板と故吉村助教授撮影16mmフィルムのデジタル化	12
(2) 京都大学における全学共通科目	
1) 全学共通科目（リレー講義）	13
①森里海連環学 ②森林学 ③水圏生物学入門 ④アンケート結果	
2) 森里海連環学実習	18
①実習A「芦生研究林－由良川－丹後海－舞鶴水産実験所コース」	
②実習C「別寒辺牛川流域における森里海連環学実習」 ③アンケート結果	
3) 少人数セミナー	27
①原生的な森林の働き ②お魚好きのための魚類研究入門 ③海岸生物の生活史 ④魚類心理学入門	
⑤森里海のつながりを清流古座川に見る ⑥フィールド実習“森は海の恋人”	
⑦木造校舎を造る：木の文化再生へ ⑧海産無脊椎動物－分類群と形の多様性	
⑨京をめぐる森と人の暮らし ⑩森のつくりだすもの ⑪地域連環学入門 ⑫北海道の森林	
⑬森林の動態と再生 ⑭日本海に遊ぶ～日本海学入門 ⑮環境の評価 ⑯瀬戸内に見る森里海連環	
⑰アンケート結果	
4) 暖地性積雪地域における冬の自然環境(実習)	50
(3) 教育関係共同利用拠点事業	
1) フィールド実習ワークショップ	51
2) 舞鶴水産実験所における教育関係共同利用拠点事業	52
3) 瀬戸臨海実験所における教育関係共同利用拠点事業	53
(4) 外部資金の獲得状況	54
(5) 2012年度 フィールド科学教育研究センターにおける主な取り組み（日記）	59
2. 各施設等における活動の記録	
(1) 各施設等の活動概要	
1) 芦生研究林	67
2) 北海道研究林	68
3) 和歌山研究林	69
4) 上賀茂試験地	70
5) 徳山試験地	71
6) 北白川試験地	72
7) 紀伊大島実験所	73

8) 舞鶴水産実験所	74
9) 瀬戸臨海実験所	75
10) 森里海連環学教育ユニット	76
11) 森里海連環学プロジェクト支援室	77
12) 企画情報室	78
(2) 各施設を利用した学生実習等	79
(3) 各施設を利用した社会連携教育および野外学習等	82
3. フィールド研教職員の活動の記録	
(1) 新任教員紹介	85
(2) フィールド研関連事業における活動	87
(3) 研究成果	97
(4) 教育活動	119
(5) 学会等における活動	126
(6) 社会貢献活動	129
(7) 国際活動	134
(8) 研修参加・資格取得等	137
4. 資料	
(1) 職員配置表	139
(2) 常設委員会名称及び委員一覧	140
(3) 全学委員会等	140
(4) 運営委員会	141
(5) 協議員会	141
(6) 教育関係共同利用拠点運営委員会	142
(7) 新聞・雑誌等に掲載された記事	143
(8) 各施設利用者数	146
(9) 瀬戸臨海実験所附属水族館月別入館者数	146
(10) 人事異動	147
(11) 規程の改正等	149

教育研究部

企画研究推進部門

森里海連環学分野と国際共同研究分野から構成される。フィールド研が共通の理念の下に機能的に統合化され、森一里一海連環学の創出を目指す。さらに、国際的にもオープンな組織へ自己革新するための役割を担う。とくに、来るべき環日本海時代を展望した日・中・韓の国際共同研究や、異質気候帯における比較研究のための東南アジア熱帯域における共同研究の展開を図る。

森里海連環学分野

森林域、里域および沿岸海洋域を対象として、隣接する生物圏相互の関連に焦点を当てた研究部門間の共同研究を促進する。多様な共同研究を基礎に、森一里一海の連環に関する研究プロジェクトを企画し、全国の関連研究機関との連携の下、新たなフィールド科学の創出と展開を図る。

国際共同研究分野

東アジアならびに東南アジアを主なフィールドとして、陸域と海域の連環を柱とした地球環境問題に関する国際共同研究を展開し、海外における連携拠点の構築を図る。当面は、世界規模で展開される沿岸域の生物多様性の総合調査(NaGISA・CoML)のリーダーとしての活動を通じて、国際共同研究の基盤を固める。

森林生物圏部門

本部門では、森林科学ならびに森林資源科学に関する大学院レベルの多岐にわたるフィールド研究ならびに教育が行われている。具体的には、森林資源情報学の統合的理解とシステム解析、自然環境や生態的構造、社会経済的状况に基づく森林景観の機能的評価と空間ゾーニング技術、持続的森林資源管理技術の体系化、林学的観点からの森林資源上の持続性と生態系としての生産性の向上、が含まれる。

森林生態保全学分野

森林生態系が示す種・個体（遺伝子）、個体群、群集、集水域、景観といった階層性に注目し、各階層における多様性とシステムの形成維持メカニズムや多様な森林生物種の生活史の解明を主とした教育研究を行う。また野外操作実験を実施し、森林生態系の保全と生物資源の持続的な再生利用のための手法の提示も目指す。

森林資源管理学分野

森林が有する環境、生物、文化としての資源の機能を評価し、これに基づく森林資源の持続的な管理理論の構築と管理技術についての実践的な教育研究を行う。特に当面の課題としては、近年、フィールド研が木文化プロジェクトとして展開しつつある、管理圧の低下から荒廃しつつある人工林・二次林の持続的管理手法の確立に向けた研究を行う。

森林環境情報学分野

持続可能な森林管理に向けて、環境影響評価基準・指標の定量化、GIS/GPSによる森林利用機能区分、LCI/LCAによる環境低負荷型生産技術、森林認証・ラベリング等を中心とした実践的・問題解決型研究を展開する。

里域生態系部門

山間部から沿岸部に至る広く、変化に富む地域は、人間の関与が様々な強度で継続しており、自然と人間の相互作用、もしくは人間と自然との共生によって生み出される特有の生態系を形成する。この生態系には、農業、林業、水産業という人間の生活を維持するために必要な基本的な生業による二次的自然が含まれるほか、居住域としての農山漁村や都市も含まれる。これらの人間が与えるインパクトを把握することは、現在の地球環境問題の本質の把握にも通じるものであり、本部門ではそのために不可欠な人間-自然相互作用環の解明を多くの視点から実践し、その共生システム構築のための教育研究を行う。

里山資源保全学分野

生活圏に接する森林において、人間との相互作用により成立した生態系の特性や機構を明らかにするとともに、多面的なアプローチから、生物多様性および森林の保全、森林と人間との新たな共存に向けた幅広い教育研究を行う。

里地生態保全学分野

人里と一部に里山と里海を含む、いわゆる里地に分布する攪乱依存性植生ならびに攪乱依存性植物の起源と歴史および生態的特性を明らかにし、それらの管理保全体系ならびに持続的利用に関する考察を行う。

河口域生態学分野

陸域と海域の接点にあたる河口域は、多くの海洋生物の再生産に極めて重要な場であり、生物多様性の宝庫でもある。しかし、一方では人間の生活と生産活動の様々なインパクトが集積する場所でもある。有明海などのモデル的な河口域を対象に、資源生物学的ならびに保全生態学的教育研究を行う。

里海生態保全学分野

陸域からの影響も含めた沿岸域の環境特性を把握し、生息する資源生物の生産生態との関係を解明する。とくに、藻場、砂浜域、干潟域などでの仔稚魚の分布、行動、摂餌、成長、生残等を明らかにし、魚介類の成育場としての里海の役割を定性、定量的に評価する。

沿岸資源管理学分野

若狭湾西部海域をフィールドとして主要な資源生物の個体群動態を研究し、海洋環境構造や海況変動の影響を明らかにする。さらに、資源生物の分類と生活史・生態特性を調べ、それらの資源変動機構の解明に取り組む。

基礎海洋生物学部門

本部門では、主に温帯性海産無脊椎動物を材料として用い、分類学・進化生物学・発生生物学・生理生態学・生物地理学といった様々な基礎生物学的な研究教育活動を、分子レベルから生態系レベルにわたって広範囲に展開している。更にその研究フィールドを熱帯域・北方域へと地球規模に広げながら、環境生物学や保全生物学といった応用的な領域へと、その研究教育活動の内容を拡大している。

海洋生物系統分類学分野

系統分類学は、生物の多様性を認識する基本であり、1922年の瀬戸臨海実験所の創設以来、連綿と続けて来た研究分野である。海洋生物の多様性は非常に高く、多くの未知の事柄が残されている。このような多様性の包括的な解明を目指して教育研究を行う。

海洋生物進化形態学分野

形態観察は、生物の多様性を認識するために必須の作業である。本分野では、最新の装置を用いた精密な比較・機能形態学的研究や、分子生物学的手法による形態形成のメカニズムを解明する研究と教育を行う。

海洋生物多様性保全学分野

海洋生物の多様性を保全するために、多様な生物が環境の変動に対してどのように反応するのかを明らかにするとともに、瀬戸臨海実験所島島実験地における30年以上にわたる長期観察や、地球規模の環境変動を把握するための国際共同研究の中核的役割を果たす。

(学際融合教育研究推進センター)

森里海連環学教育ユニット

フィールド研が推進してきた森里海連環学を教育と研究に生かし、学問分野として確立すること、そして、この考え方を実践し、国際的に活躍する人材を育てることを目的に、日本財団との共同事業として「森里海連環学教育プロジェクト」を2012年4月からスタートさせ、「森里海連環学教育ユニット」を、人間・環境学研究科、農学研究科、地球環境学堂・学舎とともに創設した。

1. フィールド研活動の記録

(1) 主な取り組みの紹介

1) 10周年記念プレシンポジウム「流域研究と森里海連環学」

森林資源管理学分野 教授 吉岡 崇仁

2013年のフィールド研創立10周年を記念するプレシンポジウム「流域研究と森里海連環学」を2012年12月2日(日)に京都大学百周年時計台記念館2階の国際交流ホールで開催した。このシンポジウムは、森里海連環学教育ユニットと共催し、京都府教育委員会と京都市教育委員会の後援、公益財団法人日本財団からの助成および、生物地球化学研究会、NPO法人エコロジー・カフェ、NPO法人シニア自然大学校、フィールドソサイエティーからの協賛を受けたもので、2003年に発足したフィールド研が提唱してきた森里海連環学の成果を報告するとともに、全国の「流域研究」と比較しながら今後の方向性について検討した。参加者は、約200名であった。

第1部の「流域研究の今」では、5つの河川流域での事例が紹介された。「矢作川流域」(講演者：豊田市矢作川研究所 間野隆裕総括研究員)では、流域環境の保全に関する地域住民の活動が活発であったことからそれら諸団体との連携が進んでいる事例が紹介された。「天塩川流域」(北大北方生物圏フィールド科学センター 上田宏教授)では、サケの母川回帰が、河川水中のアミノ酸組成がニオイとなって母川の識別に使われていることが紹介された。さらに、「太田川流域」(広島大学生物圏科学研究科 山本民次教授)では、太田川-広島湾の環境保全、再生計画について、地方自治体等を含む取り組みが紹介され、間伐や複層林化による森林整備、カキ殻を硫化水素やリンの吸着材として利用する例など興味深い事例が話された。

続いて、フィールド研が推進している「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業(略称：木文化プロジェクト)」の成果を紹介した。「仁淀川流域」では、間伐施業が森林、河川生態系に及ぼす影響や地域社会の経済や文化に与える影響を総合的に調査していることを紹介した。「由良川流域」に関しては、土地利用と河川水質の関係、とくに硝酸態窒素、溶存鉄に関する調査結果が報告されたほか、河口域での水の動きのモデル化と生態系モデル開発について紹介した。また、国産材に関する人びとのイメージなど社会調査に関しても話題を提供した。



会場の様子



間野 隆裕研究員による発表(矢作川)

第2部のパネルディスカッション「流域研究から見た森里海連環学」では、パネラーに元環境省自然環境局長の小林光氏、京大学術研究支援室の田中耕司室長を迎えて、「流域研究」と「森里海連環学研究」の関係について討議した。小林氏からは、これからの環境研究について、将来どうなるのかという予測と、どうすべきなのかについての強いメッセージが必要であることが指摘され、また、現在、多くの地域から人がいなくなるという地域の崩壊が進行しており、日本の国土の将来がどうなるのかと考えるととても不安であるので、「森里海連環学」に期待したいという応援メッセー

2) 森里海連環学教育ユニットを開設

森里海連環学教育ユニット 特任教授 向井 宏

2008年度から公益財団法人日本財団の助成金によって始まった海域陸域統合管理学研究部門のプロジェクトは、2012年3月で終了した。2012年度から、新しい森里海連環学教育プロジェクトが始まり、日本財団との共同事業として、森里海連環学を通して国際的に流域環境保全と統合的沿岸域管理を实践できる人材を育てることを目的として、京都大学学際融合教育研究推進センターに「森里海連環学教育ユニット」を設立した。

本ユニットは、農学研究科、人間・環境学研究科、地球環境学堂・学舎、フィールド研が協力して運営し、それぞれの部局から4名の教員が本ユニットに所属し、プロジェクト雇用教員4名とポスドク研究員2名、教務補佐員1名、特定職員1名、事務補佐員2名の、合計14名となる予定である。2012年度は準備期間として、雇用教員は2名とし、1名は10月から非常勤教員として雇用した。11月から非常勤教員の1名を特定准教授として雇用した。

このユニットでは、京都大学大学院生を対象とした森里海連環学教育プログラムを2013年度から開講し、森・里・海および統合的な環境管理と政策について学び、森里海連環学に基づく持続可能で自然との共生を行う世界を作ることを国際的な舞台で実行できる優秀な人材を育てることとしている。このプログラムは、5年間実施される。2012年度は、このプログラムを立ちあげるための準備期間であり、ユニットの中に、運営協議会、事業推進委員会、部門会議を設け、ユニットの運営を行うための内規や申しあわせなどを確定させた。また、プログラムの科目を決定し、科目提供教員を確定し、シラバスを作成した。それらに基づき、2013年度の学生募集に向けたポスター、パンフレット、履修要覧などを作成、配布した。

本教育プログラムでは、必修の森里海連環学2科目を含んで、関係する3大学院から全体で30人以上の協力教員によって授業科目が提供され、履修生は1~2年で最低14単位相当以上の講義を履修すると、修了証が授与される。講義は、原則として英語で行われる。履修生には、英語での受講やコミュニケーションに必要なスキルを身につけてもらうために、特別の英語教室も開講し、無料で英会話研修を受けることができる。また、優秀な外国人私費留学生には、奨学金を支給する。さらに、1ヶ月以上のインターンシップで国外・国内の国際機関へ出かける履修生については、旅費等の補助も行われる。国際学会等へ研究成果を発表する学生にも、旅費等の補助が行われる。このように、本プログラムは、履修生に多くの特典を用意して、大学院生の履修を待っている。



履修生募集パンフレット



履修生募集ポスター

3) 第22回公開講座

里山資源保全学分野 助教 中西 麻美

第22回フィールド研公開講座を7月27～29日の日程で芦生研究林にて開催した。受講生は37名で、中学生から80代までの幅広い年代であった。今回の応募者は54名で数年ぶりに定員を上回った。シニアのリピーターが多かったが、中・高校生の若い世代の応募もあった。

今回は、本講座が開催される前の5月に研究林内の下谷の一流域で木文化プロジェクトによる間伐が実施されたことを機に、「森を伐る」をテーマとした。「森を伐る」意味を受講生に考えてもらうため、森林資源の利用の変遷から、今後、森を伐ることにより期待される効果、伐ることによる流域環境への影響、という内容で、長谷川准教授、坂野上助教、徳地准教授による講義を行った。初日の講義は、本学のOCW（オープンコースウェア）に提供するため、講義の様子を撮影した（既に公開されている）。

2日目の林内での実習では、初日の最後に平井技術職員による「樹木の識別入門」で習ったことを復習してもらいながらの樹木の同定、森林生態系の観察、植生に及ぼすシカ食害の影響を説明しながら、午前中に上谷流域を歩いた。午後は、三国峠コース、木を測るコース、長治谷ぶらつきコースに分かれての実習を行った。また、本講座のテーマの「森を伐る」現場である、間伐施業が実施された人工林の見学も行った。

最終日の3日目には、由良川沿いのトロッコ軌道を歩きながら、集落跡地で中島講師から当時の集落や研究林を取り巻く状況などについて説明があり、かつて研究林が「森を伐る」現場であったことに触れた。最後に、上賀茂試験地産のヒノキ材で作った、フィールド研のマーク入りのコースターを受講生にお土産として配布した。希望者には、コースターにクマの焼印を押して楽しんでいただいた。閉講後の昼食には、芦生山の家の特典メニューである地元産シカ肉を使ったカレーを食した。

3日間とも雨の心配は全くいらなかったが、とても暑かった。特に、初日の講義は、暗幕を使うため風通しが悪く、扇風機だけでは対処しきれず、時折トタン屋根に水をかけても効果はほとんど感じられず、相当な暑さの中で行われた。しかし、受講生は暑さに耐えて講義をしっかりと聞いてくれていた。

例年、テキストに含めていた、樹木の識別方法の部分は、林内で手軽に見て使えるようにと、別冊のポケットガイドとした。チラシ、ポスター、テキストもすべて自作した。本講座のテーマとともにポスターのデザインもインパクトのあるものができた。受講生へのお土産としたヒノキ材のコースターの作成には、上賀茂試験地の藤井技術班長はじめ試験地の職員諸氏に協力いただいた。研究協力掛、佐藤技術長をはじめ、関係各位に深く感謝申し上げたい。

本講座は、全日本空輸株式会社の協賛をいただくとともに、林内等での受講生の移動のためのマイクロバスを提供していただいた。ここに記してお礼申し上げる。



2日目午後の木を測るコース：機器で測る前に樹高を目測中



受講生へのお土産：上賀茂試験地のヒノキ材で作ったコースター

4) 4年目となる「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業」

森林資源管理学分野 教授 吉岡 崇仁

本事業は京都府由良川流域と高知県仁淀川流域において、森から海に至るすべての生態系間の連環を研究する森里海連環学研究を推進し、森林管理による森林流域環境の変化と、地域社会での森林資源の利活用に関して、自然科学的評価と人文科学的評価の双方の結果を統合することにより、地域循環木文化社会創出のモデル事業を実現しようとするものである（略称「木文化プロジェクト」）。平成24年度はプロジェクト5年計画の4年目の年度にあたり、由良川、仁淀川両流域ともに、これまでの野外調査データの集約と不足データの取得に努めた。また、由良川流域ではフィールド研芦生研究林下谷の実験地において、間伐施業を実施し、間伐後の調査を実施した。間伐地にシカ防除柵を設置し、間伐による林床植生の回復過程とシカ食害の影響解析を開始した。また、土壌窒素栄養塩動態に及ぼす効果を把握するために、イオン交換樹脂コアの埋設実験を行っている。平成25年度に向けてデータの集積を目指している。一方、社会調査に関しては、由良川流域の美山町森林組合、仁淀川流域の仁淀川森林組合の森林所有者に対する意識調査「美山町の森とくらしに関するアンケート」と「仁淀川町の森とくらしに関するアンケート」を実施した。その結果、森林を管理し利用する上で資金と労働力が制約となっているが、所有森林の資源活用の意欲は高いことが明らかとなるなど、将来の地域循環木文化社会を構築するための基礎資料として重要な知見が得られた。それぞれの調査結果について速報版を公開した（<http://fserc.kyoto-u.ac.jp/proshien/kibunka/Image/121226%20miyama.pdf>, <http://fserc.kyoto-u.ac.jp/proshien/kibunka/Image/130128%20niyodo.pdf>）。また、木文化サロンセミナーとして「高知の森からバイオマス利用を考える」（6月14日）を開催するとともに、由良川プロジェクトの拠点の一つである芦生研究林において、研究成果報告会を実施した（9月26日）。

プロジェクトで明らかとなった学術成果については、ニホンジカによる食害に関する植生影響の論文を発表したほか、国内外の学会にて発表し、複数のポスター賞を受賞するなど、高い評価を得ている。また、地域社会への貢献としては、両流域における地域連携の市民講座、シンポジウムを開催するとともに、フィールド研10周年記念プレシンポジウムにおいて、プロジェクトの成果を発信した。



芦生研究林間伐実験地：伐採前



芦生研究林間伐実験地：伐採後

5) 周南市との協定締結と檜皮実験林調査

徳山試験地長 講師 中島 皇

徳山試験地では2010年から地元周南市との連携事業を開始し、継続している(詳しくはフィールド研2011年度年報)。このような実績のもと、周南市と京都大学フィールド科学教育研究センターが2012年9月27日に連携を主とした協定を締結する運びとなった。当日は市及び大学の関係者や報道機関の記者が見守るなか、木村健一郎周南市長と柴田昌三センター長が協定書にサインし、調印式は無事終了した。

協定書の主な内容は「地域創造・地域振興および教育・研究の発展を目的として、それぞれの自主性に基づいて、相互の交流・連携を図るもの」で、具体的には以下のような取り決めを交わしている(文中、甲は周南市、乙は京大フィールド研をいう)。

1. 地域社会の発展と人材育成に寄与するため、甲及び乙の協力により、次の事項を実施する。

- (1) 森里海連環学を基礎とした地域創造・地域振興に関すること
- (2) 環境問題の解決に貢献し得る専門的な知識を備えた人材の育成
- (3) 自然や環境の保全に関する地域に根ざした教育の振興
- (4) 森林域、里域、沿岸海域における生物圏情報の発信による地域連携の推進
- (5) その他協定の目的に資すること

詳しくは、協定書および取り決めを参照頂きたい。

今後両者の協力態勢が充実し、ますますの交流が推進され、周南市の「森里海連環都市」宣言に発展することを望んでいる。

一方、2008年度に文化庁の「ふるさと文化財の森(檜皮)」に選定(フィールド研ニューズレターNo. 14 参照)された檜皮林はそれを遡ること11年、1997年に全国大学演習林協議会メンバーの主要大学を中心に共同研究「大径材及び高品位材の供給に関する研究(文化庁科研)」を立ち上げて、檜皮採取による剥皮が樹木の成長に及ぼす影響を調べようとする試みが始められた。徳山試験地では1998年1月に予備調査、2月に調査木の設定がなされた(演習林試験研究年報1997)。設定後5年、10年、15年に剥皮木と無剥皮木を伐倒し、樹幹解析を行って剥皮の影響を調べる調査が継続され、2013年1月が最終調査のための伐倒になった。これまでの調査結果では剥皮によると考えられる樹木の成長に及ぼす顕著な影響は認められていない。解析は継続中で、今後最終結果が出るのが楽しみである。



調印式における木村市長・柴田センター長、中島試験地長
(左から3人目、4人目、5人目)



樹幹解析用の円盤

6) 瀬戸臨海実験所における避難誘導マニュアル作成と防災訓練

瀬戸臨海実験所長 教授 朝倉 彰

東日本大震災のあと日本各地で想定される大地震の規模と津波高の予測値が見直され、瀬戸臨海実験所の立地する和歌山県の白浜町では、南海トラフ大地震の際に想定される最大震度は7、津波の最大高は15mとなった。このことに鑑み、実験所としての災害に対する新たな取り組みを行うことになった。

瀬戸臨海実験所では年間を通じて京都大学、近畿圏の大学、近畿圏の高校など多くの臨海実習が行われ、多数の学生と教職員が利用している。また附属白浜水族館は年間入場者数が6万人以上を数える。このためこうした大地震と津波に対する対策としては、実験所所員が避難するのみならず、多数の外部からの利用者をいかに迅速かつ安全に誘導し避難するかが課題となる。

そのためまず避難誘導マニュアルを作成した。これは日本語版と英語版の2つがある。実験所では標高30mに位置する実験所に隣接する南方熊楠記念館に協力を要請し、ここを一時避難の場所としている。マニュアルは、大地震と大津波の際の行動の指針、南方熊楠記念館への安全な避難ルートを示したもので、実験所職員が持ち、外来研究者や臨海実習の引率者に配布し、また臨海実習の際には実際に避難ルートを実地で教えている。

また白浜消防署、白浜町役場、京大安全管理課の指導のもと12月11日に避難訓練を実施した。想定としては、臨海実習の団体と水族館の一般客が訪れている時間帯に大地震と大津波が発生、水族館では負傷者が出たとし、職員が手分けして、宿泊棟にいる臨海実習団体の南方熊楠記念館への避難誘導、水族館では負傷者を担架で運ぶとともにそこにいた来館者ともども南方熊楠記念館への避難誘導を行った。地震が発生してから津波がくるまでは白浜町では15分とされているが、訓練では10分で全員が避難することができた。訓練のあと白浜消防署と京大安全管理課から講評をいただいたが、おおむね良い評価をいただいた。



水族館で負傷者が発生しこれを救出する訓練



避難訓練が終了し、白浜消防署より講評をいただく

7) 芦生研究林における有害鳥獣対策

森林資源管理学分野 教授 吉岡 崇仁

有害鳥獣捕獲を通じ芦生の森の植生回復、知井地区の農林業被害の軽減を図ることを目的とした「知ろう、守ろう芦生の森シンポジウム ―豊かな森の再生に向けて―」を、芦生地域有害鳥獣対策協議会（以下、協議会）、南丹市、京都府南丹広域振興局との共催で開催した。このシンポジウムの趣旨は、シカ食害やナラ枯れの影響で、植生に大きな被害が出ている芦生の森の現状を広く一般の人びとに伝えることである。今回のシンポジウムは、2011年の「知ろう、守ろう芦生の森シンポジウム ―芦生の森が問いかけているもの―」に続く第2回目である。100名を超える参加者があり、盛況なシンポジウムとなった（写真左）。

基調講演では、「芦生生物相保全プロジェクト」での活動を中心としてシカ食害影響に関する研究が詳細に報告された。また、「スチュワードシップ」という語を用いて、豊かな森、自然を残すことは、現世代の責任であり、人間に対してだけでなく、生物や地球に対する責任でもあると強調された。この責務を果たすために、地域住民やボランティアなど裾野の広い活動が必要であると述べられた。「知ろう：芦生の森からの活動報告」では、協議会関係者4名がそれぞれの立場から、活動内容を報告した。シカの有害捕獲実施者である藤原氏から、捕獲事業の問題点が指摘された。藤原氏の、シカを捕獲するだけでは殺生になる、獲ったシカの肉をありがたくいただくことで供養になるという発言には重みを感じられた。また、植生調査ボランティア活動（写真右）に関しては、芦生研究林の枕谷にシカ排除実験地を設置して、下層植生の回復過程の調査が始まったことが披露された。昼食時には、藤原氏に用意していただいたシカ肉料理が試食として供され、昼食会場（京都大学生協北部食堂2階喫茶ほくと）は大盛況であった。シンポジウムの内容と共鳴し相乗効果があったものと考えられる。

午後のパネルディスカッション「守ろう：豊かな森の再生に向けて」では、午前の部での講演者への質問のほか、「豊かな森」を守るための質問や提案が活発に出された。議論の多くに共通したのは、森を守るためにはまず森のことをよく知ってもらい、興味を持ってもらうことが重要であるということであった。美山町自然文化村の大野氏からは、エコツーリズム等のイベントでのリピーター率が3割程度と高いことから、芦生の森のすばらしさを知ってもらえていること、芦生の森の危機的現状についても認識してもらえていることなどが紹介された。森や自然を「守る」ことへの教育の貢献についても取り上げられ、森を育てると同様に教育に長い時間が必要であるといった議論がなされた。会場の漁業関係者からは、森と川のつながりに関する話題が出され、フィールド研が提唱している森里海連環学についても紹介することができた。



シンポジウム会場の様子



芦生研究林枕谷でのボランティア活動

8) 旧台湾演習林ガラス乾板と故吉村助教授撮影 16mmフィルムのデジタル化

森林資源管理学分野 准教授 安藤 信
企画情報室 技術班長 榎田 盤

京都大学に残される資料を保存し活用する研究資源アーカイブが、2011年度から研究資源化プロジェクトの公募を開始したため、フィールド研の本部事務倉庫に保管されてきた旧演習林資料を対象に申請したところ、採択された。2012年度は、旧台湾演習林で撮影されたガラス乾板約150枚、オリジナルの紙焼き写真462枚、さらに、劣化が進んでいる16mm映像フィルム29本などを対象に、デジタル化するとともに、これら資料の内容を確認する作業を進めた。ガラス乾板と16mmフィルムは専門業者によってデジタル化され、より確実に保存するために中性紙などを利用した保管箱に収納するとともに、紙焼き写真は総合博物館で接写が行われた。

旧台湾演習林のガラス乾板の写真には、1940年頃までに現地で撮影された植生、マラリアの特効薬であるキニーネの原料となる規那（キナ樹）栽培の様子とともに、現地の「蕃族」（先住民）の風俗なども記録されていた。これらの写真は1990年頃に整理し一部を農学部70年史などで利用したが、今回、紙焼き写真とともに網羅的にデジタル化されることによって利便性が著しく高くなった。

「賜天覧」と表紙に書かれた台湾演習林での規那栽培を記録した写真帳については、その経緯は不明であったが、京大文書館に残されていた資料などによって、1940年6月11日に京都帝国大学の研究業績を天皇陛下に紹介する際に、現地から空輸された3種類の規那の花などとともに関東で展示されたものであることがわかった。

16mmフィルムは、故吉村健次郎助教授が1970年頃から撮影、編集したものであった。吉村は、1962年に農学部附属演習林助手に採用され、芦生演習林勤務を経て、1966年から1975年まで北海道演習林に林長として勤務した。16mmフィルムのうち、知床半島の記録映像は、1970年から6年かけて縦走しながら撮影されたもので、知床横断道路が1980年に開通する前の植生が記録された貴重なものであった。1970年のメンバーはすべて当時の北海道演習林の職員であり、1973年のメンバーには竹内典之（1971年から北海道演習林勤務・現フィールド研名誉教授）が含まれている。芦生演習林での雪下ろし風景、北海道演習林標茶区構内や徳山試験地事務所の光景も記録されている。また、吉村が精力的に研究していたクマはぎの原因探求に関連して、1977年北海道大学天塩演習林での映像、1981年の岐阜クマ牧場での実験観察記録映像などがあつた。さらに、生態学者である故今西錦司（京都大学名誉教授）が1980年に北海道で登山するのと同行した際の記録映像のほか、1981年頃の三重県での人工降雨実験の様子、1982年に知床半島の稜線上でシレットコスミレの個体数調査をした記録映像などが残されていた。

フィールド研に蓄積されている映像は、現在の植生などと比較することもできる貴重な資料として確実に後世に伝えるとともに、扱いやすい形として活用していきたい。今後、残る旧樺太演習林、旧朝鮮演習林などのガラス乾板写真（約550枚）や紙焼き写真、各施設に残されている調査記録などのアーカイブ化を進めていきたい。また、新たに発見された写真や資料と照合することによって、今回アーカイブ化した資料の精査を進めたい。なお、アーカイブ化された映像は、京都大学デジタルアーカイブシステム <http://www.rra.museum.kyoto-u.ac.jp/> で公開される予定である。



旧台湾演習林・扇原作業所の規那苗圃
背後は規那造林地か（天覧写真帳より）



知床縦断・知円別岳下でキャンプ（1970-07-09）
（16mmフィルム映像からのキャプチャー画像）

(2) 京都大学における全学共通科目

1) リレー講義

① 森里海連環学－森・川・海と人のつながり－

里海生態保全学分野 教授 山下 洋

リレー講義「森里海連環学」は平成 22 年度まで後期に開講していたが、夏季の森里海連環学実習と連続させる目的で平成 23 年度から前期開講に変更された。平成 24 年度もリレー講義形式により、4 月 13 日から 7 月 20 日まで、吉田南総合館共北 27 号室（金曜日 4 限目 14：45～16：15）にて開講した。対象は、文系、理系を問わず 1 回生から 4 回生までとした。また、成績は出席および各回の講義の最後に実施する小テストの成績を総合して評価した。

平成 24 年度は履修制限を行い、内訳は理系学部 52 名、文系学部 67 名であった。23 年度は文系の学生に比べて理系の学生の割合が約 35%と低かったが、今年度は 44%まで増加した。本科目の趣旨から文系・理系半々程度が望ましい。本科目では、環境経済学や法学的視点の重要性を強調しているが、そのせいか、例年経済学部と法学部の受講生が多い。また、例年工学部、理学部の受講生が少ないことから、シラバスにおいて環境修復など理工学的視点を取り入れ、地球環境を考えるうえでの基礎的教養科学をわかりやすく伝える努力を行ったが、受講生の増加は見られなかった。必修科目が忙しすぎて受講しにくい環境にあることも原因のひとつと推察された。学年の分布を見ると、1 回生が 78%を占めた。知識欲旺盛な学生が、この講義をきっかけとして環境や生態系を広い視野で見ることの重要性を認識することを期待している。

- | | | |
|--------------------------------|--------|-------------------------------------|
| 1. (4/13) 森と里山の生態 | 柴田 昌三 | (京大フィールド研) |
| 2. (4/20) 森里海間の物質循環－水と土砂 | 中島 皇 | (京大フィールド研) |
| 3. (4/27) 森里海をつなぐ元素の指紋－安定同位体 | 中野 孝教 | (総合地球環境学研究所) |
| 4. (5/11) 森里海間の物質循環－栄養塩 | 徳地 直子 | (京大フィールド研) |
| 5. (5/18) 森林の利用と保全 | 長谷川 尚史 | (京大フィールド研) |
| 6. (5/25) 琵琶湖の農業濁水と流域管理 | 谷内 茂雄 | (京大生態学研究センター) |
| 7. (6/1) 流域環境における人間・自然相互作用系の研究 | 吉岡 崇仁 | (京大フィールド研) |
| 8. (6/8) 魚類から見た河口域の構造と機能 | 中山 耕至 | (京大フィールド研) |
| 9. (6/15) 河川生態系の構造と機能 | 竹門 康弘 | (京大防災研究所) |
| 10. (6/22) 森の恵みと海の恵み | 畠山 重篤 | (NPO 法人森は海の恋人
・京大フィールド研(社会連携教授)) |
| 11. (6/29) 陸域と海域の相互作用と生物多様性 | 朝倉 彰 | (京大フィールド研) |
| 12. (7/6) 里海の生態と保全 | 山下 洋 | (京大フィールド研) |
| 13. (7/13) 森里海の連環と経済 | 佐藤 真行 | (神戸大学発達科学部) |
| 14. (7/20) 森から海までの統合的管理と法制度 | 磯崎 博司 | (上智大学) |



中山助教



磯崎教授

②森林学

森林生態保全学分野 准教授 徳地 直子

森林は我が国の国土の7割を占め、私たちの環境の主要な構成要素である。また、そのうちの4割は人工林であり、人間活動と森林の関係は非常に重要なものとなっている。この講義では、森林について、森林をとりまく社会情勢、林業の現状、森林の生態学的把握、森林の生み出す機能、森林をよりよく利用するための方策など、多方面から森林を解析し、総合的に森林に対する理解を深めることを目的としている。講義の形式は、森林を考える場合、自然科学の面のみならず、林業などを含んだ人間とのかかわりを考えることが欠かせないため、各分野の専門の教員によるリレー講義としている。

講義では、まず、安藤信准教授により日本の森林の現況やわが国の森林面積の4割を占める人工林とその施業について、講義がなされた。次いで、柴田昌三教授により日本の里山の現状について紹介された。これらの森林が成立する過程や維持機構について、寄元道徳助教が森林のダイナミズムと樹木の生態について紹介した。中西麻美助教からは樹木の一次生産について、特にヒノキ林分における調査結果をもとに説明がなされ、徳地により森林が生み出す森林生態系の機能(2回)について検討された。さらに中島皇講師により森林と水・土(2回)の関係について述べられた。次いで、館野隆之輔准教授による森林管理と物質循環についての講義が加わった。今後の森林とのかかわりの上で、重要な森林政策について農学研究科森林・人間関係学の松下幸司准教授が講義された。また、森林資源の利用について長谷川尚史准教授による講義があり(2回)、坂野上なお助教により木材の消費・流通システムが考察された。最後に吉岡崇仁教授による森林を流域の中で位置付け、流域と環境に対する意識についての講義がなされ、森林の持続可能な利用についての総合的な講義が行われた。



館野准教授による森林の物質循環に関する講義
2012-06-15



長谷川准教授による森林資源の利用に関する講義
2012-07-06

③水圏生物学入門

海洋生物進化形態学分野 講師 宮崎 勝己

全学共通科目として「水圏生物学入門」を、後期（木曜・4限）に全14回のリレー講義として提供した。

今年度より、新たに瀬戸臨海実験所に着任した朝倉彰教授が担当講師に加わり、「ヤドカリ類の生物学」のテーマで講義を行った。成績の判定については、例年通り、各講義の最後に課す小レポートにより出席を確認し、出席数とレポートの評価を総合する事で行った。また明らかな遅刻者に対しては、それ専用のレポート用紙を渡すことで、減点の対象とした。レポート用紙の配布は、TAが学生一人一人に一枚ずつ手渡しし、一人の学生が複数枚レポートを作成する「なりすまし」を防いだ。

それぞれの講師の先生は、それぞれの専門性を活かしながら、水の世界に生息する様々な生き物たちの生き様や環境との関係について解説・論議を行った。出席率やレポートの内容からは、受講生の満足度はますます高かったことが伺える。

従来、この講義は前期の同じ曜日・時限に行っていたが、今回より後期へ移行した。ここ数年この講義には受講希望者が殺到し、教室定員から認められる最大数の413名に受講者数を制限していたため、今回も例年通り定員376名の最大教室を確保したが、おそらくこの移行に起因して受講者数は271名に減少し、今回は希望者全員が受講することが出来た。受講環境からいうと、より適正な規模に落ち着いたといえることができるであろう。

今年度の講義の順番・題名は以下の通り。

- | | |
|---------------------------|------------------------------|
| (1) 水圏生物学入門オリエンテーション | － 宮崎 勝己（フィールド研・瀬戸臨海実験所・講師） |
| (2) 潜水調査の可能性と限界 | － 益田 玲爾（フィールド研・舞鶴水産実験所・准教授） |
| (3) 渚の自然史 | － 加藤 真（人間・環境学研究科・教授） |
| (4) 魚の初期生活史：小さな卵から大きな体へ | － 田川 正朋（フィールド研・河口域生態学分野・准教授） |
| (5) へんないきもの：ウミグモとクマムシの生物学 | － 宮崎 勝己（フィールド研・瀬戸臨海実験所・講師） |
| (6) 水辺のつながりが育む生物多様性 | － 奥田 昇（生態学研究センター・准教授） |
| (7) 日本海と太平洋：生物の分布と環境 | － 上野 正博（フィールド研・舞鶴水産実験所・助教） |
| (8) 水圏の植物学：磯焼けと藻場造成について | － 鯨坂 哲朗（農学研究科・助教） |
| (9) ヤドカリ類の生物学 | － 朝倉 彰（フィールド研・瀬戸臨海実験所・教授） |
| (10) クラゲの生物学 | － 久保田 信（フィールド研・瀬戸臨海実験所・准教授） |
| (11) カサガイ類の生物学 | － 中野 智之（フィールド研・瀬戸臨海実験所・助教） |
| (12) 海産生物の生き残り機構 | － 山下 洋（フィールド研・舞鶴水産実験所・教授） |
| (13) フジツボ類における性表現の進化 | － 大和 茂之（フィールド研・瀬戸臨海実験所・助教） |
| (14) 全体総括・アンケート | － 宮崎 勝己（フィールド研・瀬戸臨海実験所・講師） |



初回オリエンテーションの様子（宮崎講師）

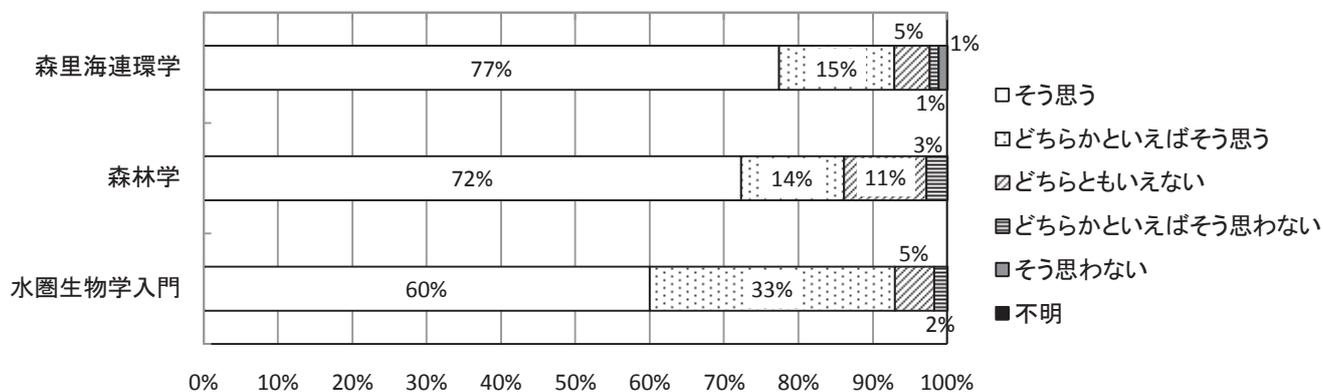


講義の一風景（益田准教授）

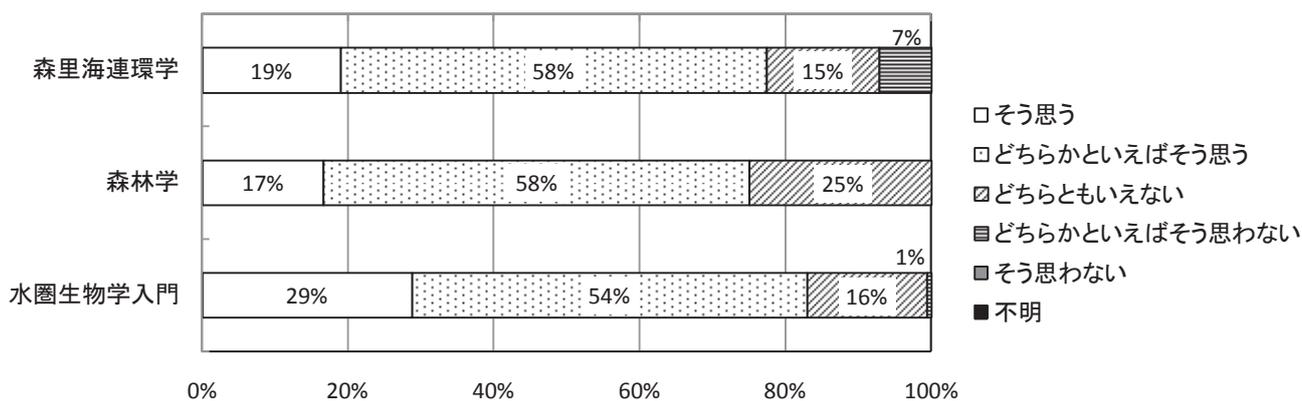
④全学共通科目（リレー講義）に関するアンケート結果

このアンケートは、フィールド科学教育研究センターのリレー講義を今後より充実したものにしていくため、学生の率直な意見を求めたものである。有効回答者数は、森里海連環学:84名、森林学:36名、水圏生物学入門:170名であった。以下、設問ごとに、集計結果をグラフで表示した。

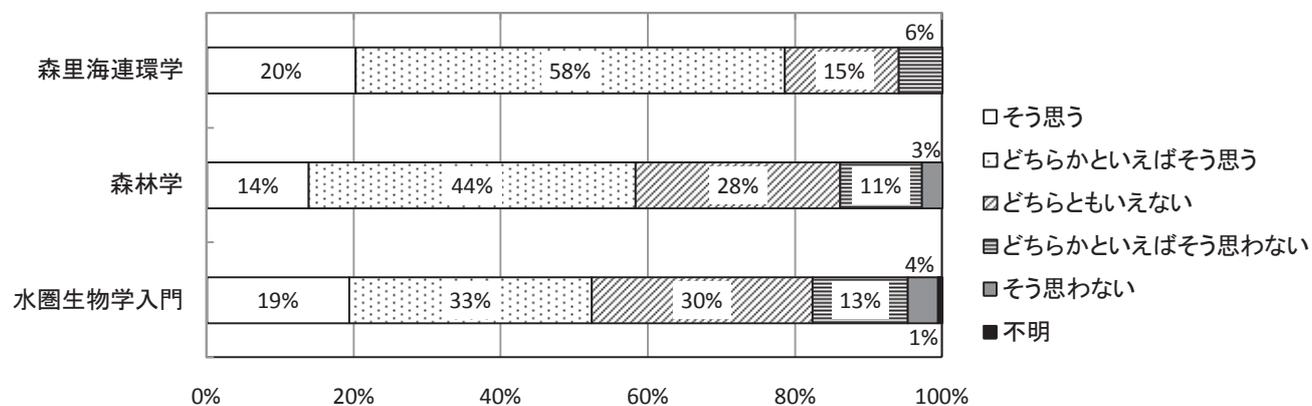
○この授業にはほとんど出席した



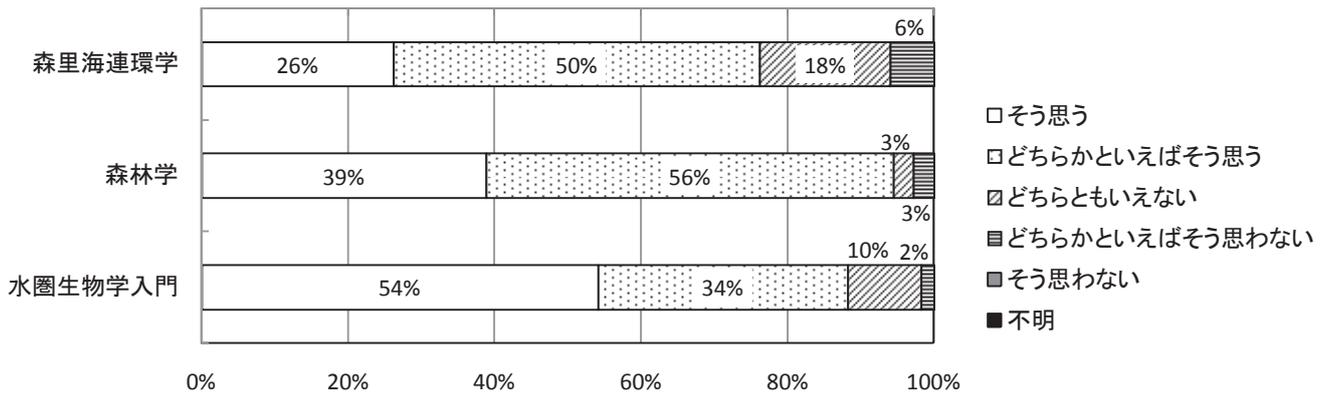
○この授業の内容はよく理解できた



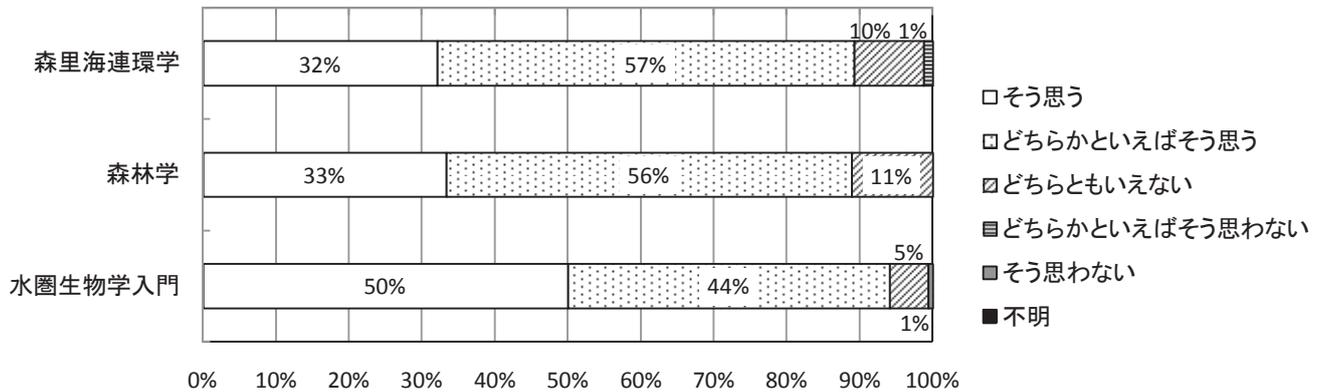
○この授業は体系的であった



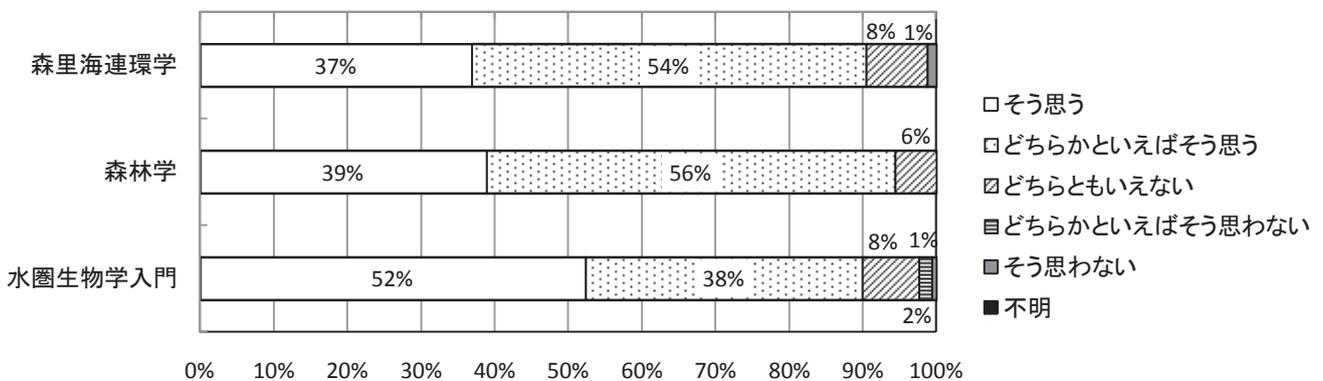
○この授業で知的に刺激された



○この授業で森から海までのつながりの機構と問題点がよく理解できた(森里海連環学)
 この授業で森林の機構と問題点がよく理解できた(森林学)
 この授業で水圏にすむ生物の特性や生きざまなどがよく理解できた(水圏生物学入門)



○この授業は自分の学習にとって有益であった



2) 森里海連環学実習

①森里海連環学実習A「芦生研究林ー由良川ー丹後海ー舞鶴水産実験所コース」

里海生態保全学分野 教授 山下 洋

京都府の北部を流れる由良川は、京都大学芦生研究林を源流とし若狭湾西部の丹後海に注ぐ。本実習では、森林域、里域、農地、都市などの陸域の環境が、由良川の水質、生物多様性、沿岸域の生物環境にどのような影響を与えているかを分析し、川を通じた森から海までを生態系の複合ユニットとして、科学的に捉える視点を育成することを目的としている。今年度実習に参加した学生は12名（本学農学部5名、理学部2名、法学部1名、文学部1名、総合人間学部1名、医学部1名、他大学はお茶の水大学1名）であった。

芦生研究林における森林構造と生態系、シカによる食害の影響やナラ枯れ被害木の観察、由良川に沿って源流域から美山、和知、綾部、福知山を經由して河口域までの水質（水温、塩分、電気伝導度、溶存酸素、COD、硝酸態窒素、亜硝酸態窒素、アンモニア態窒素、珪酸、懸濁物質）調査、魚類、水生昆虫、プランクトンなどの水生生物の採集調査および土地利用様式の調査を行った。今回は調査地点を、森林域を流れる源流（美山川）、農業地帯を流れる犀川、市街地を流れ下水処理場排水が流入する和久川、および河川横断構造物の影響を見るために大野ダム湖内とその下流の和知とし、流域の土地利用やダムが、水質や水生生物の群集構造にどのような影響を与えているかを調査した。とくに、従来水質分析は簡易キットによる分析だけであったが、今年度からオートアナライザーを用いた精度の高い分析を並行して行い、簡易キットの結果と比較した。これまで測定限界以下であった上・中流域のリンや窒素濃度のデータが得られたことから、水質データの精密な解析が可能となった。また、全調査点でプランクトンネット採集を行い、和久川の下水処理場の下流の調査点では、他では見られない大量の原生動物が観察されるなど、これまでの実習では確認できなかった新しい発見があった。

今年度は標本分析とデータ処理のための時間を増やすことにより、参加学生がじっくりとデータを解析しレポートを作成できるよう配慮した。例年いくつかの班に分けてデータ分析と考察を行っている。今年度は新たにプランクトン標本を全調査点で採集したところ、その結果が明瞭に水質等を反映していたため、4つの班がいずれも水質や人間活動とプランクトン組成との関係に焦点を当てた解析と報告を行った。



森林土壌の構造（芦生研究林）



ヒラメの稚魚が捕れるかも（由良川河口）

②森里海連環学実習C 「別寒辺牛川流域における森里海連環学実習」

森林資源管理学分野 教授 吉岡 崇仁

平成 24 年度の森里海連環学実習 C は、京都大学フィールド研の北海道研究林標茶区と北海道大学北方生物圏フィールド科学センターの厚岸臨海実験所を拠点として、8 月 31 日から 9 月 6 日の日程で実施した。

8 月 31 日 実習生集合、ガイダンス、安全教育、講義、樹木識別実習

9 月 1 日 天然林毎木調査、土壌調査、講義

9 月 2 日 パイロットフォレスト視察、牧草地土壌調査、水源域調査

9 月 3 日 別寒辺牛川の水生生物・水質調査、講義

9 月 4 日 厚岸湾および厚岸湖の水質・底質・水生生物調査、グループ発表準備

9 月 5 日 グループ発表、レポート作成

9 月 6 日 レポート提出、解散

受講した実習生は、京都大学と北海道大学からそれぞれ 10 名、男子学生 13 名、女子学生 7 名の計 20 名であった。受講生 5 名ずつで「森」「川」「里」「海」の 4 つの班を構成した。男・女および京大・北大が混成する班になるようにした。教員・研究者及び TA は、京都大学からそれぞれ 5 名と 2 名、北海道大学から 7 名と 2 名である。京都大学フィールド研の技術職員 6 名、北海道大学北方生物圏フィールド科学センターの技術職員 2 名の協力を仰いだ。

北海道研究林標茶区での毎木調査では、天然生林の尾根と谷部にそれぞれ 2 つずつのプロットを各班がそれぞれ担当して、胸高直径 5cm 以上のすべての木の胸高直径と種類を記録した。また、プロット周辺において土壌断面を作成し、森林における土壌の形成過程、火山灰の堆積に関する実習を行った。尾根と谷部とで出現する樹木の種類、種数に大きな違いがみられた。また、研究林で実施している人工林での間伐施業地（写真左）と隣接地において国の事業として取り組まれてきたパイロットフォレストの視察を通して、林業に関する知見を得ることができたようである。

水質調査では、14 地点の河川水について、デジタル・パックテスト・マルチと携帯型イオンクロマトグラフィーを併用して分析の原理と実際の試料測定を実習した。水質と集水域の土地利用・被覆との関係は明確ではないものの、森と川の連環の一端を実習することができた。

水生生物実習では、特別採捕の許可を得て、北海道研究林標茶区内の水源域と別寒辺牛川－厚岸湖・厚岸湾流域で実施した（写真右）。採取した魚類の消化管内要物の分析により、動物相が、海、湖、河川でどのように異なり、また、動物の餌資源が、海、湖、川起源から陸起源に移り変わる様子を把握し、森、人間活動（牧草地）と河川のつながりを解析した。



カラマツ人工林間伐地の調査

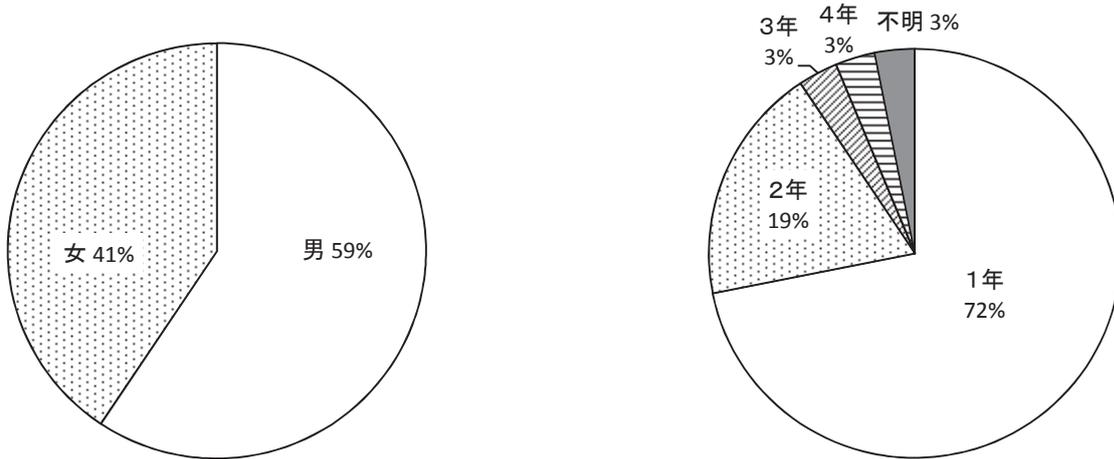


別寒辺牛川支流（チャンベツ川）での水生生物調査

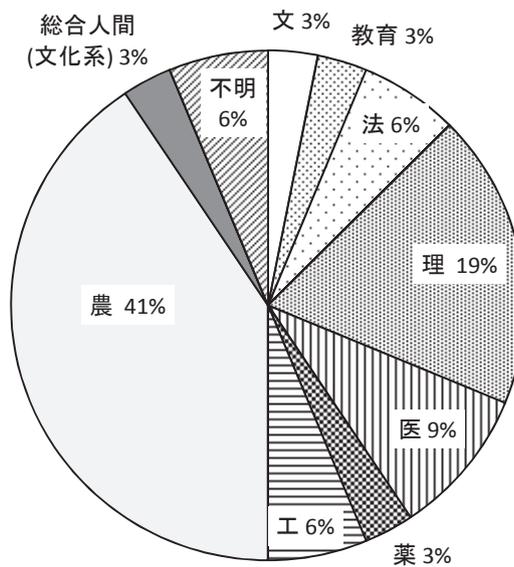
③森里海連環学実習（A・C）に関するアンケート結果

このアンケートは、フィールド科学教育研究センターの森里海連環学実習を今後より充実したものにしていいため、学生の率直な意見を求めたものである。アンケートは10設問からなっており、有効回答者数は32名（うち他大学10名）であった。以下、設問ごとに、集計結果をグラフで表示した。
 なお、実習Cでは他大学の施設として、北海道大学の厚岸臨海実験所を利用している。

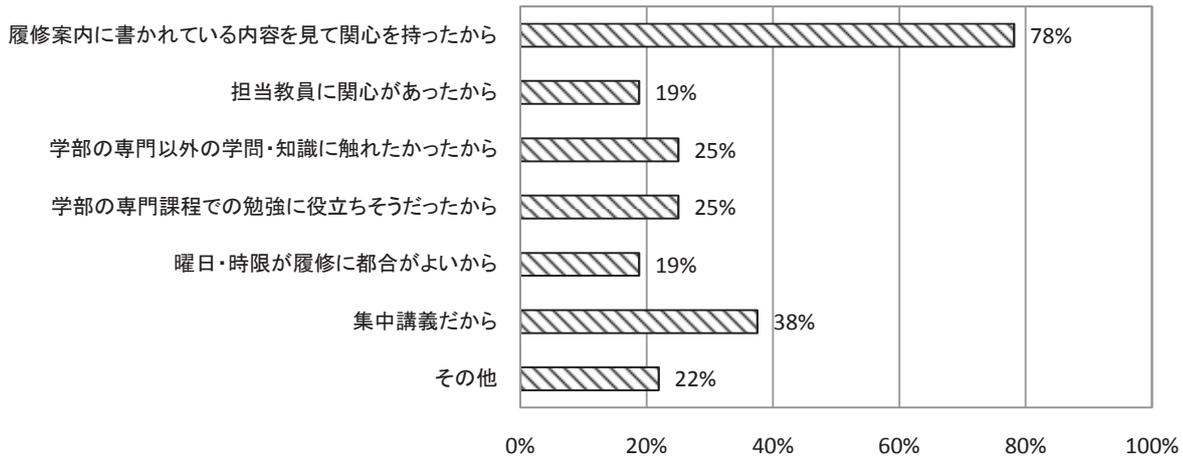
Q1 あなたの性別と学年を答えて下さい。



Q2 あなたの所属学部を答えて下さい。



Q3 この実習を受講することにした理由を答えて下さい。(複数回答可)

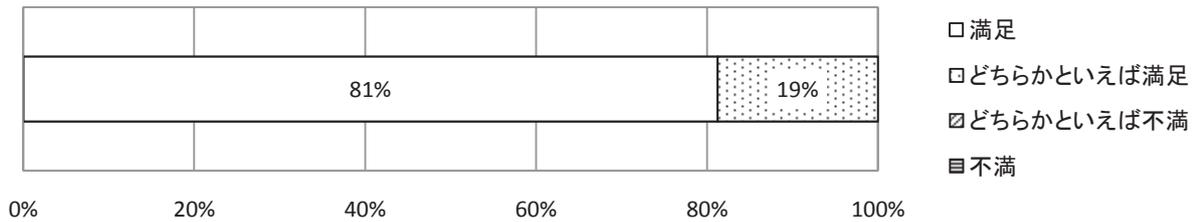


「その他」・・・

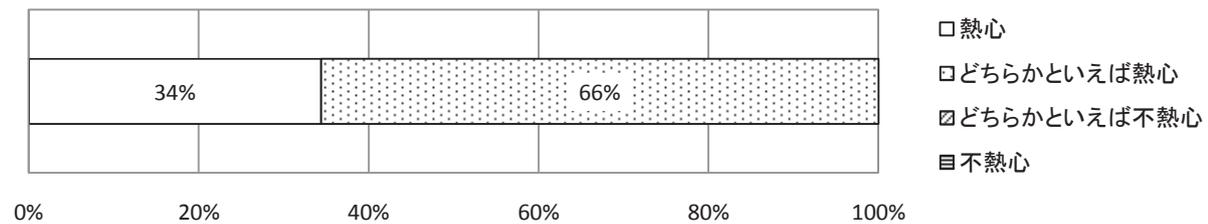
- ・先輩から聞いて面白そうだったから(A)
- ・北海道に行きたかったから(C)
- ・先輩にすすめられた(C)
- ・他大学の学生と会えるから(C)

Q4 この実習を受講しての感想をうかがいます。

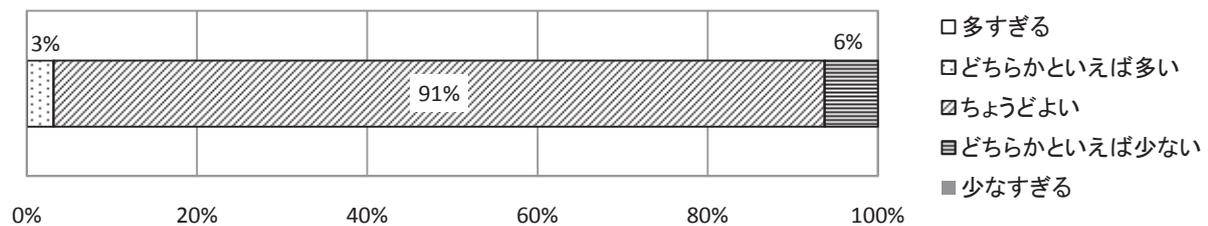
(1) この実習の授業内容に満足していますか。



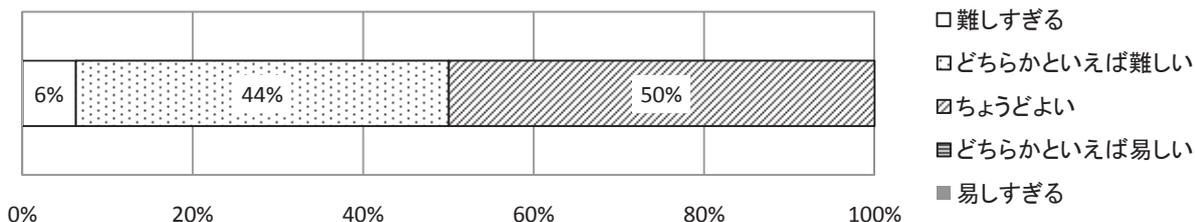
(2) あなた自身の受講姿勢はどうだったと思いますか。



(3) この実習の学生数についてはどう思いますか。

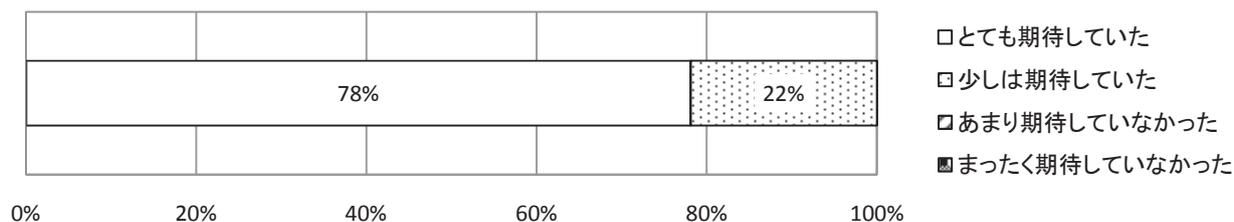


(4) 授業の難易度はどうでしたか。

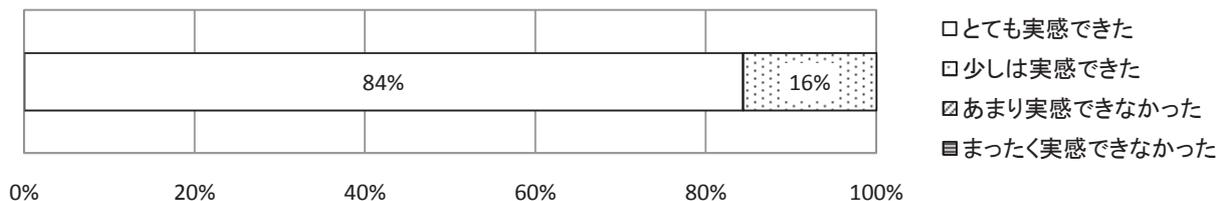


Q5 森里海連環学実習の授業形式についてうかがいます。

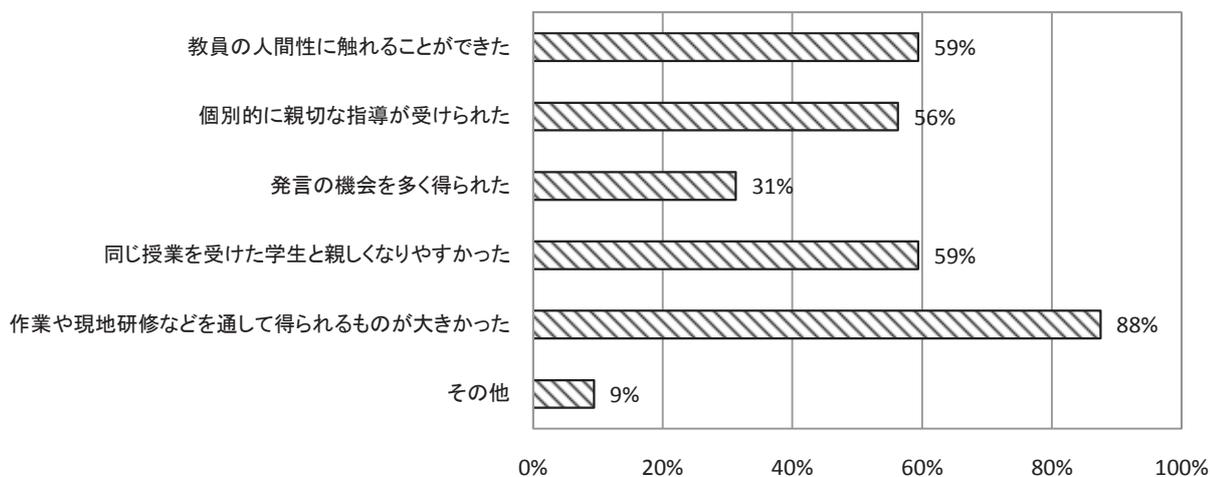
(1) この実習を受講する前、講義などの授業よりも多くのものが得られることを期待していましたか。



(2) では、実際に受講してみて、この実習でしか得られないものがあると実感できましたか。



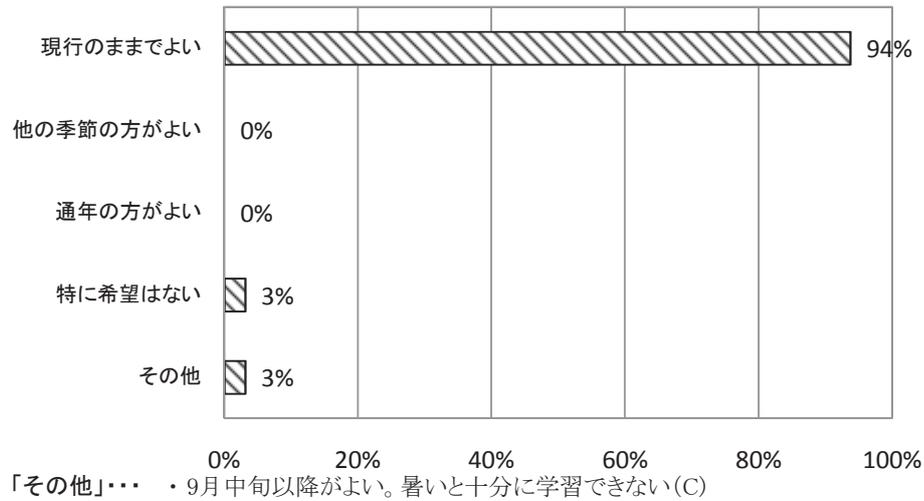
(3) 前問(2)で「とても実感できた」または「少しは実感できた」を選んだ方にうかがいます。この実習でどのような点がよかったですか。(複数回答可)



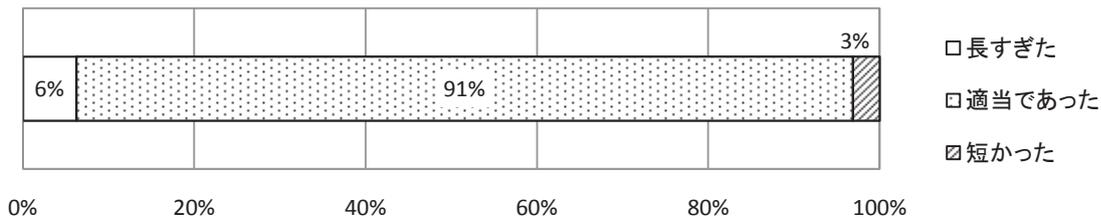
- 「その他」・・・
- ・フィールドワークという貴重な体験ができたこと(A)
 - ・森・里・海という大きな視点で調査、考察ができたこと(A)
 - ・この機会がなければ知らなかった生物を直に観察できたこと(A)

Q6 森里海連環学実習の実施方法等についてのご意見をうかがいます。

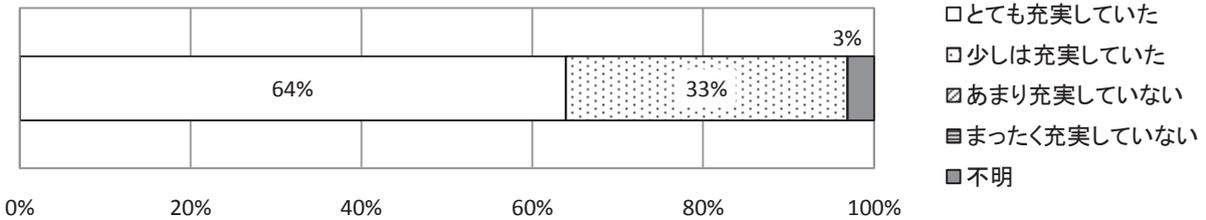
(1) 今回の実習の開講時期についてはどう思いますか。



(2) この実習の実施期間についてどう思われますか。

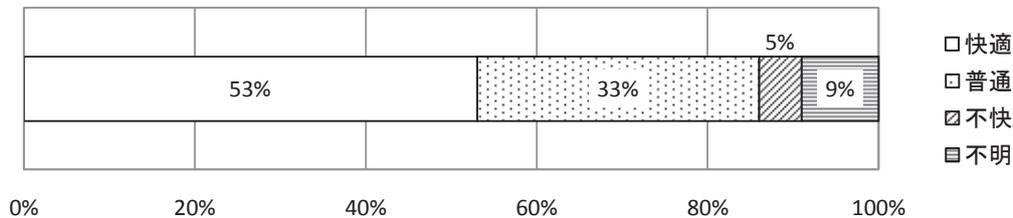


(3) この実習の実施場所の実験設備や実験器具についてどう思われましたか。

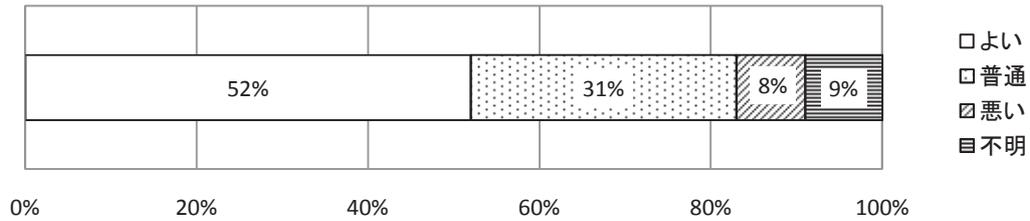


(4) この実習の宿泊についてうかがいます。

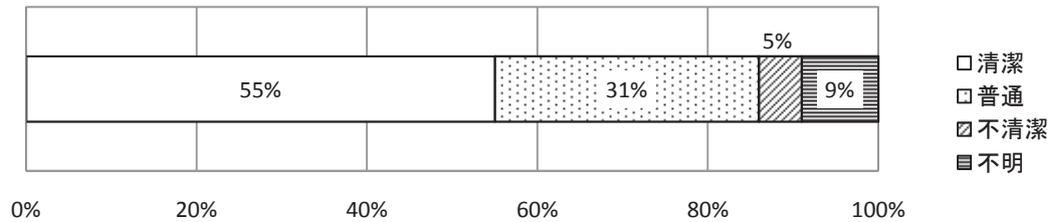
・ 共同の宿泊生活は



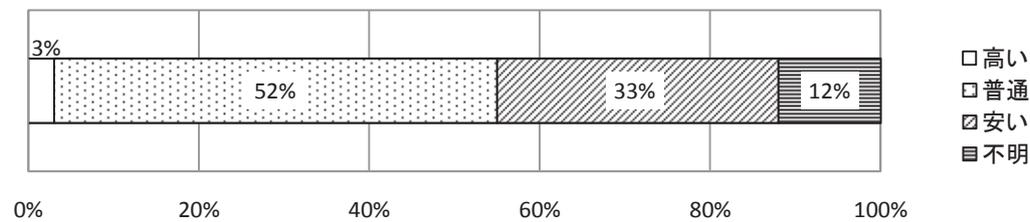
・ 宿泊施設の整備は



・ 宿泊施設の寝具は



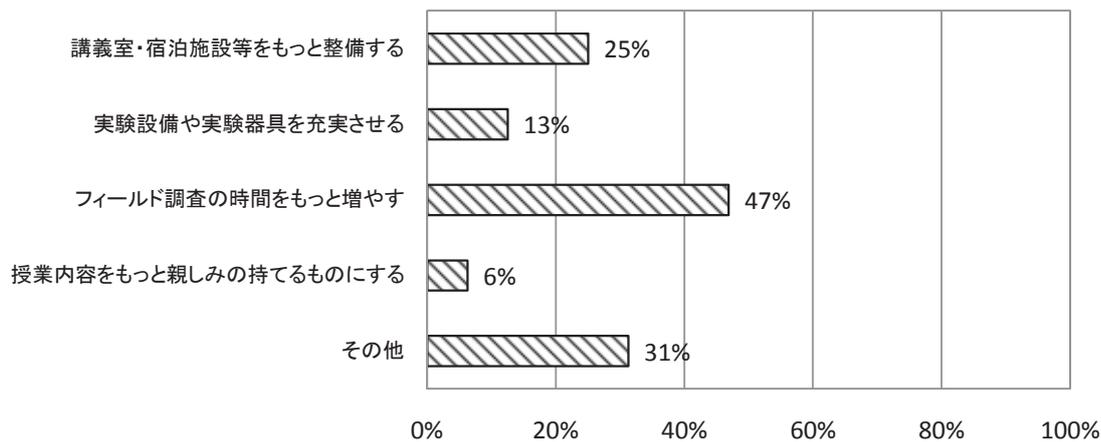
・ 宿泊施設の経費は



(5) 宿泊施設や食事について、何かご意見やご要望があれば自由に記入して下さい。

- 〈C〉 ・ 食事の量が多い。
 ・ ご飯おいしかったです！
 ・ 厚岸の施設でシャワーの水量が少し少なく寒かった(男子)。
 ・ 昼食の海鮮系がおいしかった。でも夕食の揚げ物はちょっと重たかった。
 ・ 刺身がよかったです。
 ・ 全体的に食事はおいしかったが、油っぽいものが集中して野菜がとれない日があったので少し改善してほしい。
 ・ 標茶のキッチンは大いぶ汚そう。
 ・ 施設(特に標茶)をもう少し充実させてほしい。ご飯はおいしかったです。
 ・ 北大施設の夕食は油っこすぎる。弁当の仕入れ先を変えた方が良いと思う。朝も味噌汁か何かあった方がよい。

Q7 今後、実習をさらに充実させるためには、どのようにすれば良いと思いますか。(複数回答可)



- 「その他」・・・
- ・船に乗りたい(A)
 - ・事前知識があればもっとフィールド調査が有意義になったと思うので、先に講義をしてほしい(A)
 - ・フィールド内での説明などを増やす(A)
 - ・文系にももっとアピールをお願いします！(A)
 - ・とても充実した一週間でした。自然に親しむことができました(C)
 - ・大浴場があるとうれしい(C)
 - ・スケジュールがハードすぎるため、もう少し余裕が欲しい(C)
 - ・体力的に厳しいため十分な学習ができない(C)

Q8 森と海のように全く異なった生態系が本来は不可分につながっていることや、そのことが地球環境問題に深く関わるることについて、何か得るものがありましたか。自由に記入して下さい。

- 〈A〉
- ・上流から下流に向かう実習は他にないと思うので、ピンポイントのデータだけがつながりが少し分かった。
 - ・生態系ではなく、生態網というのはとてもおもしろい。
 - ・森と海のつながりについて、知識としては言われていたが、実際に見ると、より疑問がわいた。
 - ・森と海の関連について、より具体的に数値を計測することで、より分かりやすく理解できました。
 - ・全体を通してみることで、それぞれの違いやそれぞれを通しての共通性がより具体的にとらえられた。
 - ・普段の勉強では分野を細分化して、細かい視点で見ることが多いのですが、大きな視点で物事を見ることでしかわからないものがあると分かりました。有意義でした。
 - ・川の水質はその川の源流のある環境に大きく左右されているのだと分かった。
 - ・植物連鎖があんなに複雑なものとは知らなかった。BBQで先生方の話を聞いて、林業も楽しいなと思った。
 - ・人為的な行為の影響が、水質等の環境に大きく現れるということが実感できたように思います。
 - ・普段の実習では、海のためのフィールドや講義ばかりで、生態系を総合的に見ることができて、川と海を比べられたことがとてもおもしろかった。
 - ・単に川の上流・下流できれいさが決まるわけではないと実感できました。様々な要因があって、それらの関わり方を考えていくことが大事だと言うことを学びました。
 - ・最初は上から眺めるだけだった川や山に入り、生物を見ることで、より身近に実感として川や山、海を感じる事ができました。意識が改善したと思います。
- 〈C〉
- ・今まで、森→海のつながりしか考えていなかったのですが、海→森のつながりを認識し、生態系のつながりについて新しい考え方ができるようになりました！
 - ・森と海の間には流れているのは見えないものであり、海・川で魚が行き来していないのが関係が明確でないけれども海を育てるのにとっても重要であると分かった。
 - ・川のような地形だけでなく、生物もこの2つをつなぐ役目を果たしていて、しかもそのはたらきが地形のはたらきと比べても大きいものでありそうだったこと。
 - ・森→川→海という流れだけではなく、その逆もあること。土壌が大きく生物相に影響することの知識が、これから生態学を学び、相互作用を考えていく上で、有用な視点を与えてくれると感じた。
 - ・普段は森や海というひとつの環境としてしか扱わないものを連環させて考察できたので、新鮮な考え方や知識を得ることができた。
 - ・何気なく見ている身近な生き物が何かしら他の生態系に影響を与えていることが面白いです。影響の与え方に様々な方法があり、もっと自分で考えてみようと思いました。
 - ・海で暮らす漁業・養殖業をやっている人も森林の保護をしている。同様に里で暮らす人々も連環学に関心を持つ人が増えることで、より多くの動きがおこり、環境問題を正しく考えられるようになる。

- ・ 森に棲む昆虫を食べて成長するアメマスなどが海で栄養を蓄え川に還元すること。
- ・ すごく考えさせられた。
- ・ その生物が何を食べているのかを見るだけで、それぞれの環境のつながりが見えてくるという実感が得られた。とても新鮮な経験だった。
- ・ 森と海のように全く異なった生態系が本来は不可分につながっていることを、厚岸での講義や実習で実感できた。

Q9 今回受講された実習について、何かご意見やご希望があれば自由に記入して下さい。

- 〈A〉
- ・ とても楽しかった。最後のまとめの時間がもう少し欲しかった。
 - ・ 朝が早いのでちょっとつらい。
 - ・ 施設が充実している(洗濯機、水中ブーツなど)ことも、もう少しアピールして欲しかった。
 - ・ フィールド調査+まとめであと2日ぐらい欲しかった。
 - ・ 普通の授業とは違い、参加していた生徒とも仲良くなれたし、先生方の話もいつもより深く聞けてとても良かった。ありがとうございました。
 - ・ 先生方がとても良く話を聞いて下さってとても良かった。楽しかった。
 - ・ 内容が非常に充実していたと思います。
 - ・ ほとんどの人が京大生で少し残念でしたが、学部や興味のバラバラの人々と活動できて、とても刺激になりました。
 - ・ 5日間お世話になりました。
 - ・ 森の中を歩いたりもしてみたかった。
- 〈C〉
- ・ 魚の同定はとても苦労しました。もう少し自由時間が欲しかった。
 - ・ 河川の生物調査でもっといろいろな所へ行きたかった。
 - ・ 草木類についての図鑑が欲しかった。
 - ・ 海の時間が少し少なかったと思いました。
 - ・ 少しハードな内容でしたが、全体を通して様々な体験が1度の実習でできたので満足です。楽しかった。
 - ・ 実習内容について自分で深く考える時間があって良かった。
 - ・ 課題が多すぎます。
 - ・ 学生の前でタバコはやめて欲しい。
 - ・ スケジュールにもう少し余裕がほしい。

Q10 当センターのホームページにアクセスしたことがありますか。内容についてどう思われますか。

- ・ 教員紹介のページが人によってばらばらだった。
- ・ あります。いいと思います。
- ・ ないです。
- ・ 幅広く活動内容が分かるので良いと思います。
- ・ アクセスしたことがあります。分かりやすいと思います。
- ・ ありますが、詳しい内容は覚えていません。すみません。
- ・ いいと思います。
- ・ 帰宅してから見ようと思います。

3) 少人数セミナー

①原生的な森林の働き

森林環境情報学分野 講師 中島 皇

今年度も昨年度のスケジュールと同様に1コマセミナーを4月、5月の後半に1回ずつ、いずれも吉田キャンパス北部構内で行った。6月9日(土)には都市近郊林と見本林の見学のために上賀茂試験地で1dayセミナーを、7月に芦生研究林で合宿形式セミナー(2泊3日)を行った。参加者は6名(文1(1), 理2, 農3(1):カッコは女子数), 出身地は姫路市, 舞鶴市, 京都市, 奈良市, 静岡市, 石川県能登町。自然環境が違う場所からやって来たフレッシュな新入生諸君が芦生研究林のフィールド(森林)に出て, 自ら体験し, 考え, 自然と人間の関わり方に興味を持つ契機とすることがこのセミナーの目的である。

芦生での集中セミナーは, 7月7日(土)の広河原バス停集合で始まった。梅雨のさなか, 雨が皆を迎えた。芦生研究林の技術職員が車で迎えてくれ, 佐々里峠を越え30分程で芦生に。昼食をとり, 身支度を整えて由良川本流沿い(芦生では標高が低い谷沿い)の自然を観察しながらトロッコ道を歩く。今年は「根返りスギ」に会いにタケヤクリまで足をのばした。小雨ではあったがその大きさと生命力に一同感動したようである。夕食はお好み焼き, 6人でワイワイ言いながらの楽しい時間である。自分の「始末」は自分であることを体験するのもこのゼミの重要な要素である。夜は, 芦生研究林の概要説明とTAの研究紹介。

7月8日(日): 雨はそれ程は降っていないが, 雨具は必要。昼食のおにぎりを作って出発した。幽仙谷の大面积・長期プロットや暖温帯と冷温帯の移行帯についての説明を受け, 事務所からは400m程高い丹波高地へ。杉尾峠は雲の中のようなのである。日本海は到底望めないが, 府県境の尾根道は若狭側から上がってくる霧で, 非常に幻想的な雰囲気醸し出されていた。由良川最源流の「最初の一滴」を自分の目で見た後, 途中で昼食をとって約2時間半で長谷谷まで。トチの木の実や葉のつき方をじっくり観察したり, ナラ枯れにあったミズナラの幹に圧倒されたり, 大きなブナの倒木の橋を渡ったりと, 人為の影響が少ない原生的な森林を満喫していた。しかし, 上谷でも, 明治時代まであったという木地師の住居跡, 現在はシカの激増による林床植生の激減やシカが好まない木草本のみになっている場所など, 人為や人間の影響?も見られる。それらも含めて原生的な森林を実感し, 考えてくれれば良い。長谷谷に着く頃には雨も上がり, 量水堰の近くで流量観測を行った。その後, 下谷では大桂, 二次林と人工林を観察し, 幽仙谷では天然林からの流出物を回収した。夕食はすき焼き, 少し贅沢か。といってもちゃんと安い肉を仕入れたので問題はない。腹一杯食べて, 食後にはTAの大学院生や研究員である先輩たちの話を眠気と戦いながらも真剣に聞き, それぞれに的を射た質問をしていた。

7月9日(月): 流量観測データをレポートにまとめ, 回収してきた流出物と水生昆虫の観察とデッサン。最後に宿舎・食堂の片付けとフィールド研からのアンケートを書いて, 広河原バス停までの送りでセミナーは終了となった。



トチの実や葉を観察する



「根返り杉」と一緒に

②お魚好きのための魚類研究入門

河口域生態学分野 准教授 田川 正朋

河口域生態学分野 助教 中山 耕至

少人数セミナー「お魚好きのための魚類研究入門」では、吉田キャンパス北部構内において8回の講義と実習を行い、フィールド研舞鶴水産実験所において2泊3日のフィールド実習を実施した。実際に手を動かしながら、かつ議論しながら進めるため抽選により募集人数を6名に制限した。1名は受講を辞退し5名（理1，農4）での実施となったが、全員が全講義・全実習に出席した。

○京都での講義と実習（月曜4限）

導入：魚類に関する多様な検討項目を魚類研究における学問分野に振り分け、学問体系の把握を行った。

発生：メダカ受精卵が卵割る瞬間を各自が観察した。また、受精卵を各自が持ち帰り、発生過程を観察した。翌々週に全員のデータを集計し、データの分析法や結果の考え方について討論を行った。

形態：各自が釣った魚を材料として、種同定、外部形態、各種臓器および胃内容物の観察を行った。これらの結果をもとにその魚の「生き様」を推測し、発表会形式で討論を行った。

舞鶴ガイド：舞鶴での実習に備え、魚の飼育や資源量調査の基礎知識などを講義した。

○舞鶴での実習（8月7日から8月9日）

7日：宮津エネルギー研究所水族館（丹後魚つ知館）を訪問し、水槽裏側のろ過設備や繁殖水槽等を見学した。舞鶴水産実験所に移動し、仔稚魚飼育設備および標本館の見学を行った。

8日：由良川河口近辺（神崎）にてケタ網採集を行った。採捕されたマハゼ等についてヒレを切除して放流し、1時間後に再捕を試みた。放流数、捕獲数、及びヒレ切除个体数を用い、現場海域の資源量推定を試みた。

9日：緑洋丸にて由良浜沖でケタ網採集を行った。5m、10m、30mの3深度で採集される生物相の差異を観察した。昼食後に最終ミーティングを行い実験所をあとにした。

○反省点など

もともと「お魚好き」の学生を集めたことによって、魚という研究対象への集中力を持続させることが出来たと思う。高校までの「勉強」と大学での「研究」の違いを明確にするため、自分の頭を使ってもらふことと、普段は見ることでできないものを実際に見てもらふことに重点をおいたが、内容的にはやや多すぎたかも知れない。受講人数を6名としたため抽選で涙をのんだ学生もいたと聞くが、ゼミとしての効果を維持できる人数を考慮するとやむを得ないように感じる。その一方で今年度は辞退者が出たため、抽選に外れた学生から再募集するなどの対策を取りたかった。しかし教務システム上は、それができない仕組みになっており非常に残念であった。例年通り4限の講義として行ったが、今年度は5限をとっている学生が多く、吉田南との移動時間を考えると、実習的な内容を行うにはかなり時間が厳しかった。何よりも事故もなく良い雰囲気の中かで1学期間のゼミを終了できたことに満足している。



丹後魚つ知館のバックヤード見学



由良川河口近辺での魚類資源量調査

③海岸生物の生活史

海洋生物系統分類学分野 准教授 久保田 信

少人数セミナー「海岸生物の生活史」は、5名（農2女、薬1女、理1男、工1男）の参加（定員4名）で5月3日から6日に実施した。自然環境に恵まれ風光明媚な白浜町（和歌山県）に産する動物を中心に、伝統ある水族館を有する瀬戸臨海実験所の周囲の海岸において実地授業を行った。主な実習内容は、(1)海洋生物の多様性の解説（教科書：拙著「宝の海から」）と図鑑での学習；(2)プランクトンの採集と観察およびクラゲの形態とGFPの検鏡；(3)漂着物調査（番所崎と実験所“北浜/南浜”）；(4)磯観察（番所崎）と番所山の自然観察；(6)瀬戸漁港の生物観察；(7)実験所構内に出現する夜行性熱帯性動物の観察と地球温暖化の説明；(9)水族館で飼育展示中の諸動物分類群の解説と観察；(10)南方熊楠館で粘菌の観察；(11)特製DVD・CDで、特に不老不死のベニクラゲと早死のカイヤドリヒドロクラゲ（担当者のライフワーク）の解説と歌。

多様な生物群を自然あふれた現場で実地実習する有効性と整った設備と廉価な施設使用料（クリーニング代以外は無料）の滞在費の負担（食費含め1万円程度）は、交通費の実費にもかかわらず決して重くない。日本最古で質のよい温泉で、フィールドワークの疲労も吹き飛ばした。参加者5名の実習の感想の一部を紹介する。「人間関係、実習ともに良いものを築くことが出来て何よりでした。ベニクラゲはとても神秘的な動物で、不老不死という人間の夢を実現できていることはすごいことだ。同時に、クラゲを愛するあまり作った様々な曲に脱帽です。「白浜の自然の中の生物をたくさん見せて頂けて非常に勉強になりました。楽しかったです。「ベニクラゲ音頭は明るくて歌いやすくとても好きです。今回のメンバーとカラオケに行ったら、皆で歌います」。

本実習はいくら時間があっても足りない。その理由は、生命の母なる海には未知な生物が無数に、多様に、時空的に変化しながら、お互いに影響しあって存在しているからである。例えば145万種もの動物は最細分しても、たった44門。この基礎を得心し、これからの人生で、地球の同朋者として生きている彼らの個々の一生、つまり、配偶子から受精卵・幼生・幼体・成体・老齢体など、「生活史」のことを常に頭におき、個体・種全体・特定地域個体群・地球全生物の現在・過去・未来に思いを十二分に寄せること。人間以外は非情な“食う食われるの関係”で種の存続が成り立っている「食物網」にも留意し、現存できる“おごそかさ”を十分にかみしめること。人間として生まれた幸せを納得すること。以上のポイントを心得ておくことこそ人間の義務です。今後、多様な「宝の海洋生物」、特に岸辺で出会える様々な生き物に、人生をかけて、あるいは趣味として、めいっぱい親しもう・何かすごいことを究明しようといった思いが芽生えてくれば、本実習に参加した意義あり。3大テーマ：(1)ベニクラゲの若返りのメカニズムの解明とその人類への応用；(2)造礁サンゴ類・サンゴイソギンチャクに習って人工光合成で食糧問題の解決；(3)南海・東海大地震の予測、これらに加えて、海に潜む生物の様々な秘密を発掘・研究・応用する醍醐味を夢にみましよう。最後に、実習に参加した先輩とのよき交流も続行して下さい。



水族館での海洋生物の解説と観察



番所崎の潮間帯での海洋生物の観察と説明

④魚類心理学入門

沿岸資源管理学分野 准教授 益田 玲爾

少人数セミナー「魚類心理学入門」は4月から6月にかけての京都での6回の講義と、6月下旬に舞鶴水産実験所で行った2泊3日の実習からなる。募集人数10名のところ、重複履修によるキャンセルが出たため、9名の受講者となった。

講義のタイトルは以下の通り。

- 第1回 研究の道具としてのスキューバ潜水
- 第2回 群れ行動の発達心理学
- 第3回 魚類心理学を栽培漁業に活かす
- 第4回 魚の行動から海の資源の未来を読む
- 第5回 回遊魚の行動学
- 第6回 研究というゲームの楽しみ方

講師自身の研究成果を中心に1時間ほどの講義を行い、その後フリーディスカッション、さらに簡単なレポートを書いてもらい、このレポートをもとに次回の講義を組み立てるという構成をとった。最終回には「プレゼンテーションの奥義」というコーナーも設け、口頭発表の技術を伝授した。

実習では、6月22日金曜日の夜に学生らが舞鶴に到着し、ガイダンスを行った。本年度の実習では、NPO法人 エコロジー・カフェの「学びツアー」からの参加者を受け入れたため、高校生3名、エコカフェスタッフ2名も加えての実習となった。23日土曜日には、朝食のあと、舞鶴市三浜海水浴場へ移動し、ネットによる稚魚の採集やシュノーケリングによる生物の観察を行った。なお、三浜では漁協の運営する海浜施設「ととのいえ」のシャワーと更衣室を利用した。帰りにスーパーの鮮魚コーナーを見学し、食材としての魚について理解を深めた。翌日曜日には、西舞鶴の京都府漁連を訪れたものの臨時休業であったため、市内の大規模鮮魚小売店を訪れて市場調査を行った。

講義で魚料理について熱く語っていた手前、実習中の料理は魚をメインに皆で自炊した。「学びツアー」に参加した京都府立海洋高校生、エコカフェスタッフ、実験所の学生と研究員、さらには研究のため実験所に滞在していた他大学の大学院生らとも、調理と食事を通して会話が弾み、互いに良い刺激になったと思う。



ウェットスーツを着て海に入る



ケタ網により稚魚の採集を試みる

⑤森里海のつながりを清流古座川に見る

里地生態保全学分野 准教授 梅本 信也

8月20日(月)から24日(金)まで、紀伊半島南部の古座川流域と串本湾岸域に広がる合計約400km²に展開する里域生態系構成要素連環の実体感を素材にした少人数セミナー「森里海のつながりを清流古座川に見る」が行われた。法学部、総合人間学部、農学部1回生の合計6名が参加した。聞き取り調査期間は南方海上に位置する台風14、15号の影響で大気が不安定であったが、昼間は天候に恵まれた。照葉樹林に囲まれた紀伊大島実験所宿泊棟での共同生活は節電、節水を励行しながらも軽快に、そして朝晩は緑風によって涼しく過ごせた。

初日は、京都大学における新人教育用に設置された少人数セミナーの意義と経緯を紹介し、資源博物学的調査方法や調査時の諸マナーの説明を行った。「古座川合同調査報告集・第1, 2, 3, 4, 5, 6巻」, 「清流古座川物語」, 「里域食文化論入門」, 「里域震災論入門」, 「紀伊大島のイノシシ」, 調査用地図などの資料や調査用帳帳を必要に応じて配布、古座川流域と串本湾岸域の概観、地形、気象、植生、土壌、生物相、文化相の概要を把握させた。今年度は古座川ならびに串本湾岸域の各地区における宗教関連植物の多様性と起源や変容を聞き取りと観察によって探らせることを通じて、社会人としての礼儀や作法を実地研修させながら、諸要素の通時的、共時的連環を体感させることにした。具体的には古座川流域および串本湾岸域における宗教儀礼に供される植物の種類、入手方法、加工方法、献花様式、処分方法を地域構成要素とどのように結びつけて住民が捉えているのか、供花文化相にどのようなパターンがあるのかを調査させた。

第2日は各班2名からなる合計3班を編成し、古座川河口域の串本町中湊地区や古座川町高池地区、串本湾岸域の串本町檜野地区を訪問し、景観観察とアポなし聞き取り調査を行い、情報提供者ごとの基礎カルテを作成した。この種の調査は学生にとって全くの初体験であり、南紀方言の問題、知識不足、動的会話力の未熟さ、学生同士の心的距離の問題なども相まって最初は明らかな戸惑いがあったが、聞き取り相手の心に自己の心を同調させる術を自ら体得し、聞き取り技術が急速に向上していった。公用車による移動距離は120kmに達し、移動中の車内では地域の概要を説明しながら、積極的な仮報告や議論が続いた。例年通り、学生の目が本来の輝きを取り戻し、他人への心配りが日に日に向上した。

第3日は中流域の古座川町高池地区と串本湾岸域の串本町大島地区で調査を展開した。調査技術は格段に向上、動的会話力も見違えるほど進歩した。

第4日の午前中は追加補充ならびに仮説検討のために古座川中流域の古座川町明神地区と串本湾岸域の串本町檜野地区で調査を展開、午後はデータの総括的整理やレポート作成作業に入った。まず、基礎カルテを集結、全員で取得した情報の共有化を図った。分量はA4のレポート用紙で厚さ2.5cmにもなった。集成した情報を踏まえて、森里海連環、古座川と串本湾岸域、供花文化、地域性、歴史変容といったキーワードで構成される共同レポートを作成した。教科書的な世界とは異なり、現実の里域フィールドを構成する諸要素は複雑に繋がっており、驚異や多様性に満ち、さらに事実には重層性や奥行きがあることを学生は実体感できたようだった。

第5日目は、宿泊施設の片付け、発表会、レポートならびにアンケート提出が行われ、正午前に解散となった。例年通りではあるが、共同での調査作業、共同での宿泊生活を重ねていく過程で、学生の顔や言動にエネルギーが満ちていくのが指導教員として改めて嬉しく思われた。なお、本ゼミの活動の一部は9月1日付け紀伊民報4面に掲載された。



古座川を背景に古座川町役場前で行われた現地作戦会議



古座川町高池地区での聞き取り調査風景

⑥フィールド実習“森は海の恋人”

里山資源保全学分野 准教授 長谷川 尚史

2012年度フィールド実習“森は海の恋人”を、8月19日から25日まで（移動日を含む）宮城県気仙沼市を中心にした地域で開催した。2011年3月に東日本大震災が発生し、水山養殖場も施設の大半が流出するという大変な被害を受けられたが、被災直後の昨年に続き、復興作業でお忙しい中で開催させていただいた。

本年度は部局活性化経費における対象事業として募集数を8名に増やし、引率教員2名（長谷川尚史・中野智之）、TA2名の体制で実施した。参加学生は法学部2名、医学部1名、工学部2名、農学部4名の9名、総勢13名（男性6名、女性7名）であった。宿泊は昨年に引き続き、畠山重篤氏（京大フィールド研社会連携教授・水山養殖場）らが植林活動を行っている森の近くに位置するひこばえの森交流センター（岩手県一関市室根町）で、地元の方々によって大変おいしい地元食材を用いた朝夕食を提供していただいた。

8月19日夕刻に先着者のみ仙台駅で打ち合わせを行った後、20日朝に夜行バス組を合わせて再集合し、2台のレンタカーで塩釜、松島、石巻、女川、南三陸などの海岸沿いの町を経由して、夕方に気仙沼市に到着した。昨年に比べてずいぶんと復興の気配は見えたとともに、多くの町は全く手つかずのまま放置されており、学生達にも大きな衝撃を与えたようであった。水山養殖場のある舞根地区もまだ津波の傷跡は大きく残されていたが、牡蠣の養殖は再開されており、様々な話を聞くことができた。

21日は畠山氏の操舵するボートで湾内を巡り、畠山氏の解説を聞くとともに、網によるサンプル調査によって復活しつつある生物相を観察した。昼食時に取れたてのホタテをごちそうになった後、午後は気仙沼湾にそそぐ大川を遡上し、河川水質と生物相の変化を観察し、上流のひこばえの森において、小野寺寛氏の指導でコナラ等の植林を行った。22日は畠山信氏（NPO 法人森は海の恋人副理事長）の指導のもと、震災による地盤沈下によってできた住居跡の干潟における生物相を観察した。午後には湾周辺の森林の植生調査を行った。23日はボランティアで滞在されていた稲見充典氏に指導していただき、周辺の森林で伐採された木材の製材の実習を行い、午後に気仙沼市森林組合を訪問して吉田参事による講義と製材所の見学をさせていただいた。さらに震災関連の展示がされているリアス・アーク美術館を見学した。24日は午前には水山養殖場にて震災の瓦礫に含まれていた木材を薪として整理する実習を行い、昼食時には畠山氏の奥様によるホタテカレーをご馳走になった。その後、再び畠山氏の操舵するボートに乗って牡蠣筏を見学するとともに、震災後にできた牡蠣をご馳走になり、さらに森里海連環学に関する船上講義をしていただいた。夕刻には気仙沼市内の復興屋台と市場を見学した。25日は陸前高田市の奇跡の一本松と市内を見学し、昼過ぎに仙台駅に到着し、解散した。

震災後、2年続けて復興の大変な時期に、当セミナーを開催させていただき、復興にはまだまだ時間が掛かること、しかしそれでも自然は大きく復活し、人々の暮らしも少しずつ戻り始めていること、さらに集落の高台移転や防潮堤の建設など複雑な社会問題を抱えていることなど、引率者としても貴重な体験をさせていただいた。学生のレポートも、ほとんどの学生が指定分量を大幅に越える枚数を提出しており、本セミナーの教育効果の高さを窺うことができた。

最後になったが、忙しい中、プログラムにお付き合いいただいた畠山重篤氏、畠山信氏、小野寺寛氏、稲見充典氏、吉田高美氏をはじめ、丁寧に対応していただいた現地の皆様にも、心から感謝するとともに、一日も早い復興を祈りたい。



畠山重篤連携教授による船中講義



畠山信氏による干潟の解説

⑦木造校舎を造る：木の文化再生へ

センター長 柴田 昌三

少人数セミナー「木造校舎を造る：木の文化再生へ」は2012年度は定員いっぱいの10名の履修登録者を迎えることができた。登録者はすべて1回生で、所属学部の内訳は、総合人間学部1名、法学部1名、経済学部2名、医学部1名、工学部4名、農学部1名(男子9名、女子1名)であった。女子学生の比率がこれほど低いことは初めてのことである。また、留学生が1人含まれていたこともまれな例であった。いずれの学生も出席率は高く、大変、真面目に講義を受けてくれたことも印象的であった。今年度の少人数セミナーを担当したのは、例年通り、地球環境学堂の小林正美教授、小林広英准教授と落合千帆助教及び柴田であった。小林教授と小林准教授には、京都大学が知的財産権を有し、耐震性に優れた木造構造物である京大フレーム工法に関する講義や日本の木造建築物に関する講義、海外で模索されている木質資源を用いた農村計画の紹介等をしていただいた。柴田は、日本の森林に関する総論的な知識を伝えたほか、木質資源を供給する人工林や里山等の現状を紹介した。柴田の学内における講義は、京大北部キャンパスのフィールド研北白川試験地内に所在する、京大フレーム工法によって学内で最初に建てられたj.Pod 実証実験棟と地球環境学堂の講義室を使って行った。これらの講義に加えて、学外での実習も2回行った。1回は京都府立植物園の見学であり、もう1回はフィールド研上賀茂試験地における伐木・製材体験である。昨年度は上賀茂試験地での実習は悪天候のため中止とせざるを得なかったが、今年度は無事に開催することができたことは何よりであった。植物園では木本を中心とするさまざまな植物種を学び、その高い多様性と豊富さを学ぶ一方、木造建築物を考える上で重要な有用樹種について、簡単な情報を学んだ。上賀茂試験地においては、学生のすべてが木の伐採を初めてみるものであったため、非常に興味深く見学し、自らもチェーンソーを握っていた。これらの実習は従来の1コマの時間では行い得ないため、午後半日を用いて行わざるを得ない。そのため、過密な受講スケジュールを組んでいる学生たちの中には参加できない者もいた。このことは残念なことであるが、現状のカリキュラムのシステムの中では致し方ないことである。なお、本少人数セミナーは、次年度以降、少し内容に変更を加え、「木文化再生」をメインのキーワードにし、森と都市の繋がりを重視した講義内容にする予定である。



府立植物園の見学



上賀茂試験地での実習：伐採体験

⑧海産無脊椎動物一分類群と形の多様性

海洋生物進化形態学分野 講師 宮崎 勝己

少人数セミナー「海産無脊椎動物一分類群と形の多様性」は、海産無脊椎動物の種類（分類群）や形の多様性について、実物の採集と観察を通じ理解を深めていく事を目的として行うもので、京都での2回の講義と、瀬戸臨海実験所での4泊5日の実習とで構成される。今年度の受講学生の内訳は、理学部1名、工学部1名、農学部3名の計5名（全て男性）で、奇しくも前年度と同じ学部構成であった。

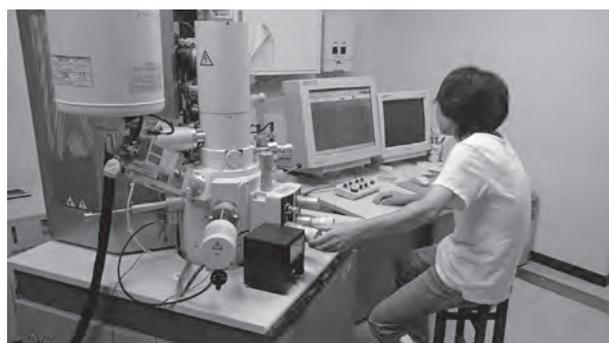
2回の講義は、いずれもフィールド研会議室にて放課後に行った。4月16日に行った第1回目の講義では、オリエンテーションとして各自の自己紹介、少人数セミナー全体の概要説明と今後の日程調整を行った。また、ある海洋生物学の英語の教科書から海岸動物の採集と保全に関する章を抜き出し、その和訳を宿題として課した。6月13日に行った2回目の講義では、海の動物の多様性に関する概説的な講義を行った後、実習日程の調整と宿題の回収を行った。

実習は9月26日から30日の4泊5日の日程で、瀬戸臨海実験所にて行った。学生5名のうち1名は都合がどうしても付けられず、残念ながら欠席となった。実習初日は午後4時半に集合し、オリエンテーションと所内見学を行った。2日目は実験所周辺の番所崎での磯採集と採集物の同定作業を行った。3日目は水族館見学に引き続き、実験所裏の北浜での砂及びフジツボ採取と採取物からの小型ベントスの抽出を行い、得られた生物の同定を行った。並行して小形ベントス採集物の中から走査型電子顕微鏡で観察するための試料を各自選び、観察のための試料作りを進め、その日の夜には2名が実際の観察を行った。4日目は残り2名の電子顕微鏡観察と並行して同定結果の整理とレポート作成を進め、夜は実験所宿泊棟食堂にて、ささやかな反省会を行った。最終日の午前中に宿泊棟及び実習使用スペースの片付けと掃除を行い、レポートの提出をもって現地解散した。今回は実習を大潮に重ねることが出来ず、特に2日目の磯採集は、南方に位置する台風の影響もあって非常に条件の悪中行ったが、最終的に例年とほぼ同じ数の動物門及び動物種を実際に観察する事が出来、教員・学生とも満足度が高いものとなった。

この少人数セミナーでは、今回まで夏季休業期間中に実習を行っていたが、この期間中の臨海実習の数が近年更に増加し、潮汐等の条件が良い時に実習を設定することが難しくなっていることから、次年度からはゴールデンウィークの頃に実習日を移行して開講する予定にしている。



北浜における砂（左）とフジツボ（右）の採取



走査型電子顕微鏡による小型ベントスの観察

⑨京をめぐる森と人の暮らし

森林生態保全学分野 助教 寄元 道徳

森林資源管理学分野 助教 坂野上 なお

少人数セミナー「京をめぐる森と人の暮らし」は、8名（文学部1名、法学部1名、経済学部2名、医学部1名、工学部1名、農学部2名）の受講者とともに、京都市周辺に広がる二次的な森林植生と人の関わりとの理解を目的として、初回と最終回の室内講義と、京都市周辺の古社寺とその所有林など5ヶ所を訪れてのフィールドワークを実施した。

フィールドワーク第1回目の大文字山コースでは、先ず、銀閣寺を多くの観光客に紛れて拝観した。その後、強い日差しを受ける中、五山の送り火で有名な大文字の火床まで登り京都市街地のパノラマ風景を望みながら暫し休憩を挟んだ後、さらに山頂までを往復し、アカマツと落葉広葉樹から成る大文字山の森と歴史について学んだ。第2回目の東山コースでは、それぞれの社寺（清水寺など）の歴史、森の管理の歴史、古建築の材種について、さらには現在見られる森と主要構成種の生態特性などについて学んだ。第3回目の比叡山コースでは、延暦寺の根本中堂と文殊楼の古建築、境内林を構成する杉の巨木を見学した後、最澄が辿ったとされる本坂を途中まで下り、モミ林と分布下限域に在るブナの巨木、円仁廟、そして延暦寺所有の広大な人工林を見学しながら、比叡山の森と人の関わりについて学んだ。第4回目の上賀茂コースでは、賀茂別雷神社とその周辺の森を見学し、ヒノキを中心とした上賀茂の森と人の歴史的な関わりについて学んだ。そして、フィールドワーク最後となった第5回目の京北・山国コースでは、平安時代以降、禁裏御料地とされていた山国地域を訪れ、往時の森の姿がうかがえる片波川源流域自然環境保全域で台杉の巨木群を主とした森、光厳法皇の生涯を伝えているかのように山間にひっそりと佇んでいる常照皇寺とその所有林、そして山国神社を見学し、京北・山国の森、人の利用、そして流通などについて学んだ。また、帰りには、中世に始まったともされる北山林業地での台杉仕立てによる垂木生産地も見学した。

5回のフィールドワーク全てが天候に恵まれ、爽やかな新緑が薫る中、予定通りに楽しく実施できた。そのお陰なのか、本セミナーは学生にかなり好評であったことがアンケートからうかがえた。一方、学生に課したレポートでは、普段、街中から何気なく眺めているだけでは分からない森の中の様子、木々の生活などを間近にすることによって森への意識や認識に変化があったこと、また街周辺の森（二次林）が人々の暮らし・利用などによる関わりとの中で長年かけて形成されてきたことを改めて認識したことなどが書かれており、森の中で見て、感じて、深く考えていたことがうかがえた。さらに、京都市周辺の森林景観については、自然植生の推移のままに任せる、社寺と森のバランスがとれた状態を維持する、森と人工物が一体性をもつような調和を図った都市をつくるなど、自らの考えをしっかりと書いている学生が多く、感心させられた。



本坂を下る途中で休憩中（延暦寺，比叡山）



スギ巨木林を見学した後で（片波川原流自然保全域，京北）

⑩森のつくりだすもの

森林生態保全学分野 准教授 徳地 直子

森は有形・無形のさまざまなものを私たちにもたらしてくれるが、森の実際の姿や森の作り出す機能の創出のためにどのようなしくみがあるのか、よく知っているとはいえない。この少人数セミナー「森のつくりだすもの」は、森に入って、森にふれ、さまざまな森の性質をとらえることを目的としている。

本実習は、和歌山研究林において夏季休業期間に行われる。和歌山研究林はフィールド研の研究林においても集落から離れた自然にめぐまれた地域にあり、また人工林率の高い森林である。そのため、以前は人工林の育成に関する林学教室の実習が行われていた。このような特徴を生かし、自然の森林を体験するだけでなく、現在産業として厳しい状態にある林業についても考えるきっかけとしてもらいたいとカリキュラムを立てている。今年度は、2011 年秋の台風 11 号により林道がほぼ全壊し、利用場所が限られた中での開催となったため、期間を短縮して行い、以下のようなスケジュールとなった。

- 第 1 日目 研究林を源流のひとつとする有田川の downstream 地点に集合した。有田川に沿って最上流にある和歌山研究林に向かって河川水の調査を行いながら移動し、流程に沿った水質の変化を調査した。
- 第 2 日目 和歌山研究林において、林内を散策し、森林生態系の様子を観察するとともに、樹木の識別を行い、植生の分布と森林生態系の特徴について学習した。天然生林と人工林の比較を行い、人工林を管理することの重要性を体感した。その後、実際に枝打ち、間伐などの手入れを体験した。

特に今年度は、昨年度の台風 11 号の被害状況を実際に見てもらい、土砂で流された林道などを歩くことで、自然の力を感じてもらえたのではないかなと思う。一方で、人工林は植栽にはじまり、下刈り、枝打ち、間伐など様々な手入れがあって成り立っていることも、作業を通じて学習した。普段何気なく感じている森林の多様さ、人との関わりについて考える機会になったのではないかなと思っている。



人工林には手入れが必要なることを講義とともに試験地で実感し、間伐を行った



和歌山研究林に分布する主要な樹種について、その識別の基礎を学んだ

⑪地域連環学入門

里地生態保全学分野 准教授 梅本 信也
海洋生物進化形態学分野 講師 宮崎 勝己

少人数セミナー「地域連環学入門」は昨年度まで9回にわたり実施していた森里海連環学実習B「紀伊半島の森と里と海」の内容を移行し、今年度新設したものである。この実習では紀伊半島南部の自然域と里域（里山，里空，里地，里川，里浜，里海）を対象とし，連環学的視座からのフィールド調査の理論と実践的手法を体得し，現地での観察ならびに聞き取り結果，各域から得られる各種サンプルやデータとそれらの客観的分析と地域文化的翻訳に基づき，地域連環の成立や諸相（環境，生物，文化）について考察し，地域の包括的保全と観光のあり方について議論するのが目的である。

今年度は9月17日から21日の日程で開催した。学生の登録は8名であったが，連絡無しの欠席が2名あり，実際参加したのは6名であった（総合人間学部，教育学部，経済学部，医学部，工学部，農学部各1名ずつ）。当初は紀伊大島実験所を実習の拠点とし，そこで寝食を共にしながら，古座川をフィールドとした実習を行う予定であったが，代表担当教員の梅本准教授の都合によって，実習の拠点を瀬戸臨海実験所に移し，梅本および京都市北白川の田川准教授に適宜連絡・報告・相談しながら，宮崎講師と中野助教とで実習指導を行った。今回の実習を通して，ゆとり教育世代である学生に対する少人数セミナーというプログラム形態の高い有効性を確信した。

日程と実習概要は以下の通りである。

17日（月）：紀伊大島実験所に13時に集合した。実習計画の変更について学生に説明し，エントリーシートを記入させた後，瀬戸臨海実験所へと車で移動し，15時頃到着した。全体ガイダンスで実習の目的，従来の調査事例，古座川と紀伊大島・白浜の地理的關係等について説明と情報提供を行い，テーマ設定と班分けについて参加学生でディスカッションをさせ，フィールドを古座川に設定すること，班分けはせず全員まとまってひとつのテーマに取り組むこと，産業・生活・ダム・水質をキーワードとしたテーマ設定をすることとした。

18日（火）：大雨警報の発令に伴い，この日の古座川でのフィールド調査は断念し，午前中は1時間ほど白浜中央公民館図書室で古座川に関する調べ物を行った後，車で古座川へ移動し，七川ダムを含む本流主要部を巡回し，大雨による増水時の川の様子を観察しながら，古座川の概要把握に努めた。その後，事前にアポイントメントを取っていた古座川町役場産業振興課での古座川町の町勢と災害に関する資料の受け取りと，教育委員会での町史編纂委員へのインタビューを行い，七川ダムを中心とした古座川町の歴史・産業・文化等に関する情報を得た。帰所後，資料のまとめと翌日の計画立案を行った。

19日（水）：この日は好天に恵まれ，前日に計画を立てた通り，古座川本流及び小川の計6箇所にて増水に注意を払いながら水質調査（各種パックテスト，pH試験紙，CTD，流速計を使用）を行った。帰路，教育委員会町史編纂室を再訪し，地質に関する資料を入手した。

20日（木）：報告書の題名を「自然と文化の連環学的発想に基づく古座川町の産業構造及び現況の分析」と決定し，これまでに得たデータ，情報，資料を総合・分析し，種々議論しながら仮報告書の作成を進めた。

21日（金）：宿泊棟の清掃後，仮報告書の作成を続行し，8ページにまとめて完成させ，アンケートと共に提出した。



簡易水質分析風景



データ分析ならびに報告書作成

⑫北海道の森林

森林環境情報学分野 准教授 舘野 隆之輔

今年度より北海道研究林を使った新規の少人数セミナー「北海道の森林」の募集を開始した。日程は8月5日から9日にかけての4泊5日である。7名の募集に対して、参加学生は、文学部1名、経済学部2名、工学部2名、農学部1名、総合人間学部1名の計7名であった。また北海道研究林職員8名とTAとして森林情報学分野院生1名が指導の補助を行った。

本セミナーは、北海道の森林・湿原の生態系や人と自然の関わりについて森林調査や森林作業などの野外体験を通して理解を深めることを目的として行った。セミナーでは、緯度や標高の傾度に対する植生の変化、林床の光環境と下層植生の関係、湿地や火山ガスなど特殊な環境傾度に対する植生の変化、間伐前後の光環境の変化など、植生と環境条件との関わりについて、野外調査や自然観察を通して理解することに主眼を置いた内容とした。

初日は、各自で京都から集合場所である北海道研究林の最寄駅である標茶駅まで移動してもらったが、当日の気温は肌寒く、猛暑の京都からやってきた学生にとっては、本州と北海道の自然環境の違いを実感したことであろう。その後、北海道研究林においてガイダンスや植生に関する講義、切り枝を使った樹木識別実習などを行った。2日目は、天然林遊歩道において樹木識別実習を行った後に、研究林内の様々な植生タイプ（ミズナラ天然林、シラカンバ天然林、カラマツ人工林、トドマツ人工林）において、林床の光環境の測定と毎木調査、下層植生の被度調査を行った。3日目は、屈斜路湖の北に位置する藻琴山（標高1,000m）の登山を行い、北海道における森林限界付近の植生を見学し、標高に沿った植生の変化について学んだ。また屈斜路湖と摩周湖を見学し、道東のカルデラ湖の成り立ちについて学んだ。その後、川湯硫黄山付近の火山ガス噴出孔からの距離に応じた植生の変化について、川湯エコミュージアムセンター裏のアカエゾマツ天然林からつつじヶ原自然探勝路沿いを硫黄山麓まで歩いて見学した。4日目は、北海道研究林内のアカエゾマツ人工林において間伐体験を行った。間伐の前後には、2日目と同様の調査を行い、間伐によって林内光環境がどのように変化するか、また間伐によってどのように下層植生が変化していくかについて学んだ。生まれて初めて触るチェーンソーにドキドキしながらも、無事に間伐作業を終えることが出来た。最終日は、塘路湖エコミュージアムセンターと細岡展望台を訪問し、湿地の植生について学んだ。様々な学部からの参加となったが、普段はあまり気に留めない森林について色々と学び、京都ではなかなか体験できない大自然でのセミナーを体験出来て、受講生は皆、満足して真夏の京都へと帰って行った。

当セミナーの開催にあたっては、北海道研究林職員およびTAには多大なるご協力をいただいた。また川湯自然保護官事務所および根釧西部森林管理署には川湯入林に際してご協力頂いた。この場をお借りしてお礼申し上げる。



間伐作業（列状間伐）を終えて



初めてのチェーンソー

⑬森林の動態と再生

森林資源管理学分野 准教授 安藤 信

京都市市街地周辺林，奥山の芦生研究林，その中間に位置する北山・八丁平湿原周辺の天然林・二次林を踏査，調査し，森林帯，地形，遷移過程の違いに伴う種組成や林分構造の変化と動態，そして近年の環境変化や「マツ枯れ」，「ナラ枯れ」，シカ等の動物による森林被害の実態，さらに防除に関する取り組みや森林の再生について，講義・実習を行った。セミナーは4，5月の土・日・祝日を中心に実施した。

○4月20日（金） 昼：ガイダンス

日程，野外実習における注意事項を説明した。

○4月21日（土）：樹木分類・識別法

樹木の分類・識別法，わが国の代表的樹種の分布について説明した。北白川試験地の樹木園において樹木識別に関する実習を行い，吉田山において京都市市街地周辺林の近年の植生変化について概説した。

○4月28日（土）：上賀茂試験地における樹木識別実習と京都付近の植生の変化

試験地で行われた「春の自然観察会」に参加した。京都付近の里山にみられる代表的な構成種の識別および海外から導入された多くの樹木種の観察を行った。午後は暖温帯に位置する京都の過去からの森林の変遷，近年の「マツ枯れ」，「ナラ枯れ」による急激な変化，さらに古都の景観回復と伝統的な文化を継承するため行われている森林施業についての講義を行い，現在なお「マツ枯れ」が拡大している高標高地の神山，住吉山の被害状況を視察した。

○4月30日（祝）：大文字山におけるアカマツ林の再生と森林調査法

大文字山の「マツ枯れ」進行林分で行われているアカマツ林再生のための取り組みについて解説し，設定されている調査地を対象に，毎木調査，稚樹の成長調査を行った。

○5月12日（土）：八丁平二次林の林分構造と動態

冷温帯域の北山・八丁平二次林の踏査を行い，地形や攪乱の歴史が異なる森林の遷移過程，近年増加している「シカ害」「ナラ枯れ」被害の実態を視察した。

○5月20日（日）：芦生の天然林，二次林の林分構造と動態

芦生研究林のブナやスギが優占する冷温帯の天然林の動態や構成種について解説した。長年継続されている天然林の大面積調査地を視察して，フィールド調査の難しさを体験した。

○5月27日（日）：東山シイ林の林相改善

東山では「マツ枯れ」や森林の放置によってシイ林が拡大している。落葉広葉樹が混交し，多様性が高い森林に導くための林相改善事業が始まっている。再生林の調査を行って，森林施業法についての検証を行った。

本セミナーでは，人間・環境学研究科 M2 の棚田史彦君，農学研究科 M1 の中野周平君，農学部 2 回生の甘田岳君，成田あゆさんが協力してくれた。



参加学生と記念撮影



野外実習の様子

⑭日本海に遊ぶ～日本海学入門

沿岸資源管理学分野 助教 上野 正博

今年度の少人数セミナー「日本海に遊ぶ～日本海学入門」は11人での開講となった。日本海の形成から始めて、環境・漁業・日本人の暮らしとの関わりなど事前授業を京都で2回行い、2月20日から2泊3日の実習にそなえた。

病欠などで6人が参加した実習は、20日11時に西舞鶴駅前で開始された。駅前にある魚屋で水産物調理実習用のいろんな魚を仕入れる。西舞鶴の名物魚屋であるこの店にはまいどお馴染みなので思い切り勉強して頂く。定価なんか糞喰らえの値引に実習生達はびっくり。

午後は、各自が準備してきた日本海をテーマとする発表大会とした。1人30分の持ち時間でプレゼンと討論を夕方まで行った。気候やエチゼンクラゲから日本史、経済問題まで幅広いテーマでプレゼンがあったので学生と楽しむ。17時から水産物調理実習である。院生時代に実験所の花板と呼ばれたPDのFさんに指導されているいろんな魚貝類を調理する。意地悪な私が仕入れたホウボウ、カワハギなど、普段余りお目にかからないものの調理をワイワイとやり、おきまりの宴会となった。ほとんどの学生にとって初体験の味が多かったが、予想外のうまさを堪能したらしい。

21日は実験所の緑洋丸に乗船し、海洋調査を体験する予定だったが、少し時化模様だったため午前中で切り上げて帰港した。最終日は朝から舞鶴魚市場を見学した。京都府各地から運び込まれたいろんな魚貝類の生態や漁法、暮らしとの関わりを解説した。学生たちは初めて見るセリが何をやっているのかまったく分からずかなり驚いた様子であった。ついで宮津にある水族館「魚っ知館」でバックヤード見学会を行った。飼育の苦労話などを館長さんにかがう。最後は恒例の成相山に上り、雪に埋もれた境内にびっくりする。眼下に天橋立を眺めながら海岸地形のでき方や海面にできた潮目の解説などを講義して2泊3日の少人数セミナーは今年も無事終了した。



降りしきる雪の中、緑洋丸に乗り込む



水族館バックヤード見学会

⑮環境の評価

森林資源管理学分野 教授 吉岡 崇仁

少人数セミナー「環境の評価」は、2012年度は全学共通A群のセミナーとして開講し、自然環境を評価することの意味について、自然科学的、社会科学的側面から解説と討論の形式で実施した。教室で7回の講義形式の授業と芦生研究林での合宿を実施した。受講生は、文学部1名、経済学部1名、理学部1名、工学部5名、医学部1名、農学部1名の合計10名であった。中国からの留学生3名(全て工学部生)が受講したが、概念的、哲学的考察においても日本語をよく駆使してゼミでの議論に参加することができていた。

このセミナーでは、人間が環境を評価することの本質について、概念的に検討するため、人間は物事をどのように認識し価値を判断しているのかという枠組みに気付かせることから始めた。教室でのゼミで、環境の価値評価について議論した際には、人間中心主義的観点と非人間中心主義的観点を立場に分かれ、環境保全についてディベートを行った。自らの考え方の確認をするためであったが、ディベートになれていないためか、議論を深めるのが難しいようであった。しかし、セミナーを通して自分の観点を始めて認識し、他の学生の意見を聞きながらさらに考察することの大切さを学び取ったようである。

芦生研究林での合宿(8月9-10日)では、シカ食害によって貧弱な植生となった芦生の森を実際に観察し、野生動物の保護と植生保全のジレンマを実地に体験することができた。当日、たまたま調査に来られていた農学研究科の高柳敦史講師には、特別にフィールド講義をしていただくことができ(写真左)、一層有意義な合宿となった。

レポートは、環境に関する新聞等の記事を選び、そこに含まれる「環境評価」の文脈の抽出と解説を課し、その内容を発表し議論した(写真右)。原子力発電について複数の学生が課題として取り上げ、放射性廃棄物の処理に関する話題と、二酸化炭素排出に関するメリットを扱った話題についてそれぞれ考察が加えられた。また、アマゾン熱帯雨林でのハイウェイ建設に関する話題や、マングースによるハブ退治、三峡ダムの水質汚染、ウナギの高騰、木材エコポイントなど、多種多様な話題が取り上げられた。企業による社会的責任に関わる活動、いわゆるCSR活動が、消費者から見れば非人間中心主義的価値観で評価されるが、企業側から見れば人間中心主義的価値観で評価されるものであるという発表もあり、質の高い議論ができたと思う。

急な依頼にも関わらず快くフィールド講義をしてくださった高柳氏、現地観察に同行してくださった芦生研究林の技術職員の皆さんにお礼申し上げる。



高柳講師によるフィールド特別講義



芦生研究林の施設での発表と質疑応答

⑩瀬戸内に見る森里海連環

森林環境情報学分野 講師 中島 皇

メンバーの顔合わせ、本少人数セミナーの動機付け(森里海連環学や瀬戸内の予備知識、JR 徳山駅までのアクセス方法や瀬戸内地域レポートのヒントなど)のセミナーを5・6月に1回ずつ北部構内で行い、8月9～12日に徳山試験地で合宿形式ゼミ(3泊4日)を行った。今年はキャンセルはなく参加者は7名(文1(1)、法2、教1、工2、農1(1):カッコは女子数)となった。フレッシュな新入生諸君が瀬戸内の恵まれたフィールド(環境:森・里・海)に出て、自ら体験し、自然と人間の関わり方、里の意味を考えることがこのセミナーの目的である。

集中ゼミは、8月9日(火)15:30にJR徳山駅集合し、街から試験地の森を眺めながらの説明で実習は始まった。TAは鈴木君(森林情報学研究室M1)、空手部主将経験者である。女子2名の参加ということで、今年も試験地の収容能力いっぱいセミナーとなった。ロッカー等を上手く配置し、キャンプ同様の態勢で対応した。事務所では大きなスイカが一俵、皆を待っていた。スイカは非常勤の職員が学生さんが来るからと準備してくれたもので、後で聞くとご自分で作ったそうである。よく冷えた甘いスイカを食べ、大いに夏を感じた。その後、飯炊き班と買い出し班に分かれ、街のスーパーへ。刺身や惣菜を買い、炊きたてのご飯とで夕食。さすがに海のものが美味しい。夕食後は、レポート発表会第1部。夜は、谷を渡る涼しい風に吹かれながら、誰かが仕入れてきた花火を楽しんでいた。

10日(水)。恒例の万葉の森(周南西緑地公園:旧徳山試験地)の見学と大賀ハスを観賞。ここで、今年九州大学の柳哲雄先生がゲスト参加された。先生は末武川河口の出身である。旧試験地から最源流部の烏帽子岳(697m)近くの赤松ヶ平展望台に登った。九州・四国まで見える。魚切ノ滝のしぶきやスギやヒノキ林の人工林を感じながら溪流に沿って下る。人の暮らした跡が感じられるようになり、緑の鮮やかな水田風景。八代盆地の公園では川に入って水を感じた。下松市水道水源池の温見ダム、多目的ダムである末武ダムを見学して、初めてお世話になる大田原自然の家(周南市の施設:S46年に休校になった大田原分校)に向かった。試験地よりずっと山奥の旧分校。広い教室で給食のような夕食を食べた後、発表会第2部を行った。時間がゆっくり過ぎて行くのを実感できる場所であった。

11日(木)晴れ。午前中は試験地のヒノキ人工林(ふるさと文化財の森(檜皮))と常緑広葉樹天然林を巡る見学から始まった。末武川下りは昨日の終点に近い花岡八幡宮からお昼にスタートした。今年は潮のめぐりが悪く、それほど引いていなかったが、海水で遊びたい面々には楽しかったようだ。末武川河口部の観察は最後に行った。15時半頃には切り上げて、法学部の2名は後ろ髪を引かれる思いで、試験のために京都へ帰って行った。恒例のバーベキューは鈴木君の指示のもと準備が整い、人数は少なくなったものの大いに盛り上がった。

12日(金)は京大の先輩である柳先生の研究人生活を伺って、アンケートと感想文を完成させ、後片付けをして、昼頃に徳山駅で解散となった。今年女子2名の参加があったが、ほぼ問題なくプログラムが実行できた。今回でどうやら徳山試験地での少人数セミナーが軌道にのったように感じる。協力に感謝したい。



街から望む(試験地説明)

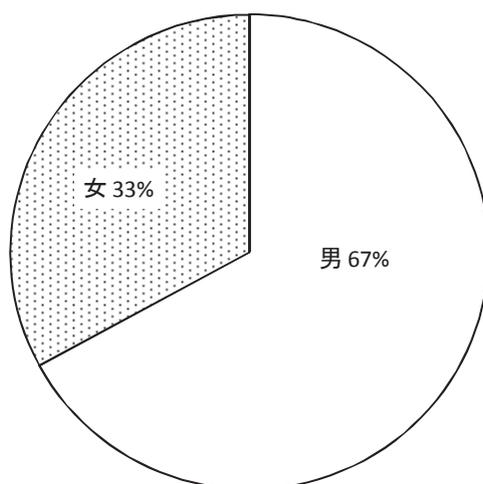


大島半島の海岸にて

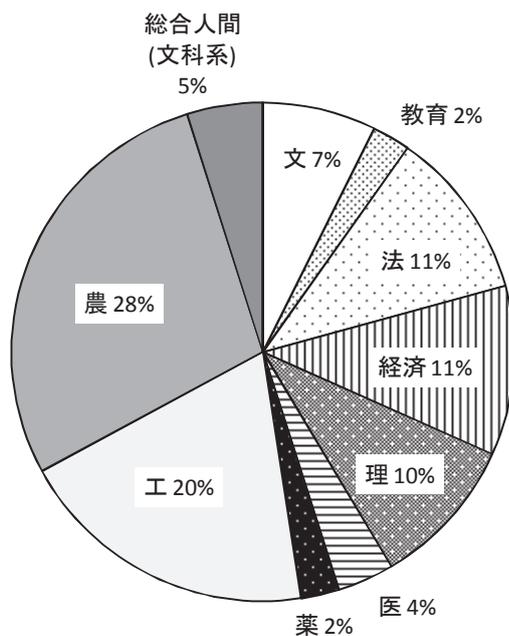
⑰少人数セミナーに関するアンケート結果

このアンケートは、フィールド科学教育研究センターの少人数セミナーを、今後より充実したものにしていくため、学生の率直な意見を求めたものである。アンケートは9設問からなっており、有効回答者数は87名(芦生研究林、上賀茂試験地、徳山試験地、紀伊大島実験所、舞鶴水産実験所、瀬戸臨海実験所、その他の施設)である。以下、設問ごとに、集計結果をグラフで表示した。

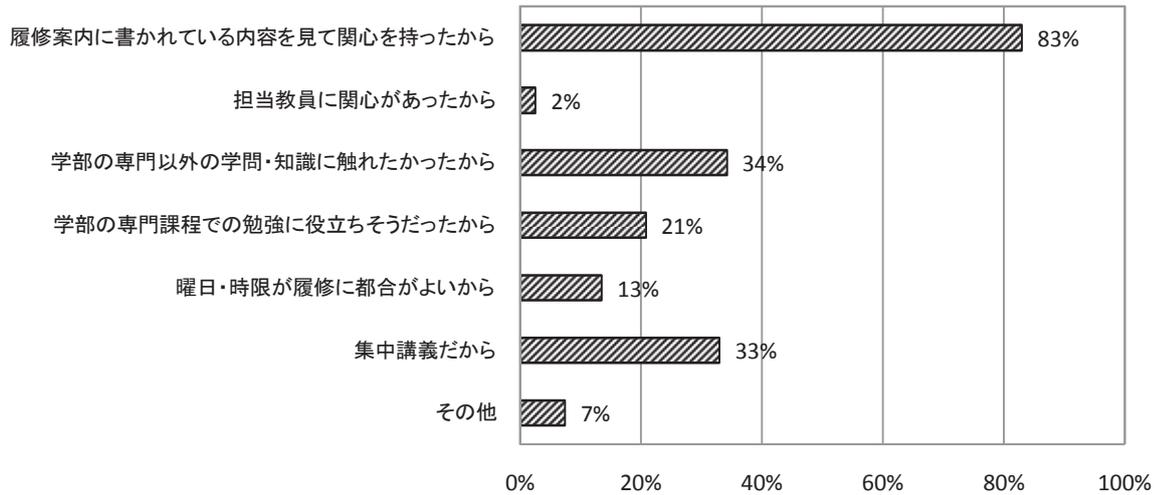
Q1 あなたの性別を答えて下さい。



Q2 あなたの所属学部を答えて下さい。



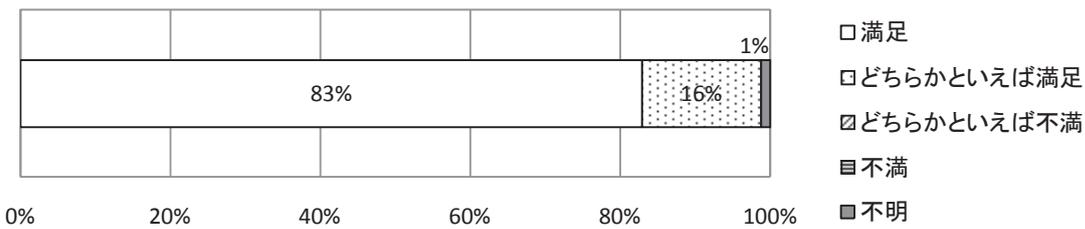
Q3 このセミナーを受講することにした理由を答えて下さい。(複数回答可)



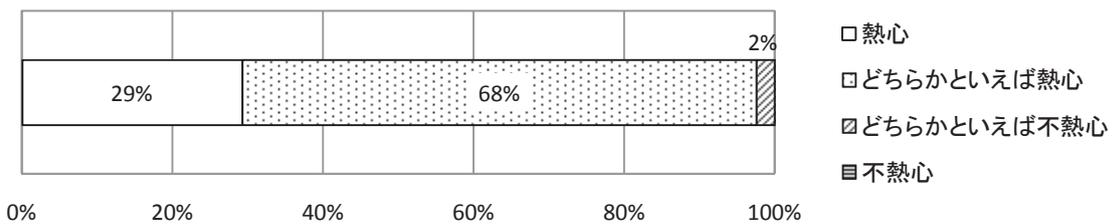
- 「その他」・・・
- ・先輩にすすめられたから。
 - ・過去の報告書を見て関心をもったから。
 - ・フィールドワークに興味があったから。
 - ・京都府外の施設を利用してみたかったから。
 - ・北海道に行きたかったから。
 - ・フィールド研究に興味があったから。

Q4 このセミナーを受講しての感想をうかがいます。

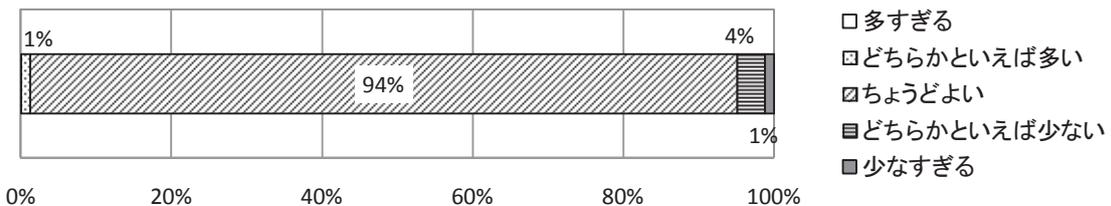
(1) このセミナーの授業内容に満足していますか。



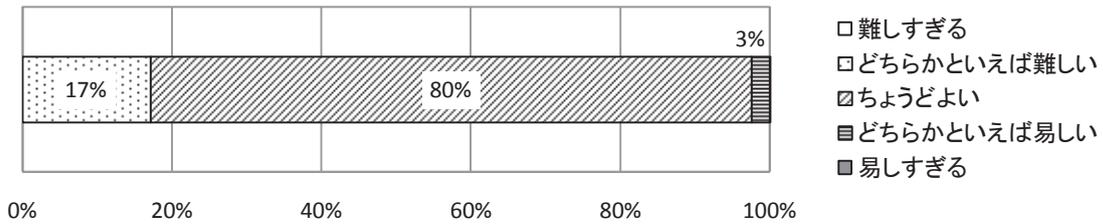
(2) あなた自身の受講姿勢はどうだったと思いますか。



(3) このセミナーの学生数についてはどう思いますか。

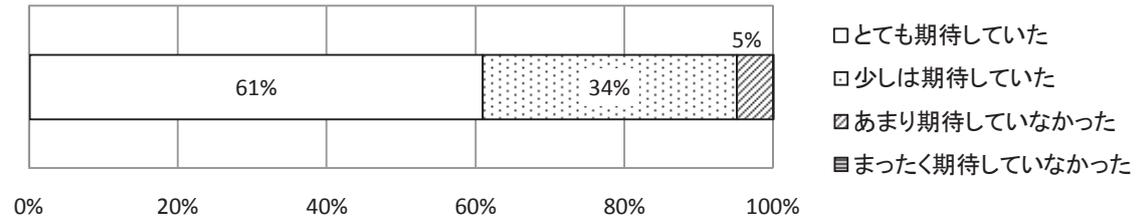


(4) 授業の難易度はどうでしたか。

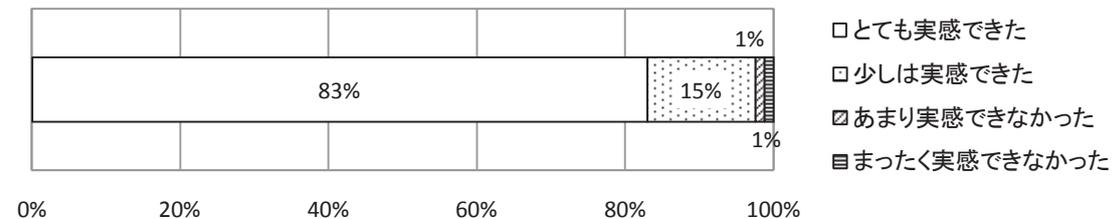


Q5 少人数制の授業形式についてうかがいます。

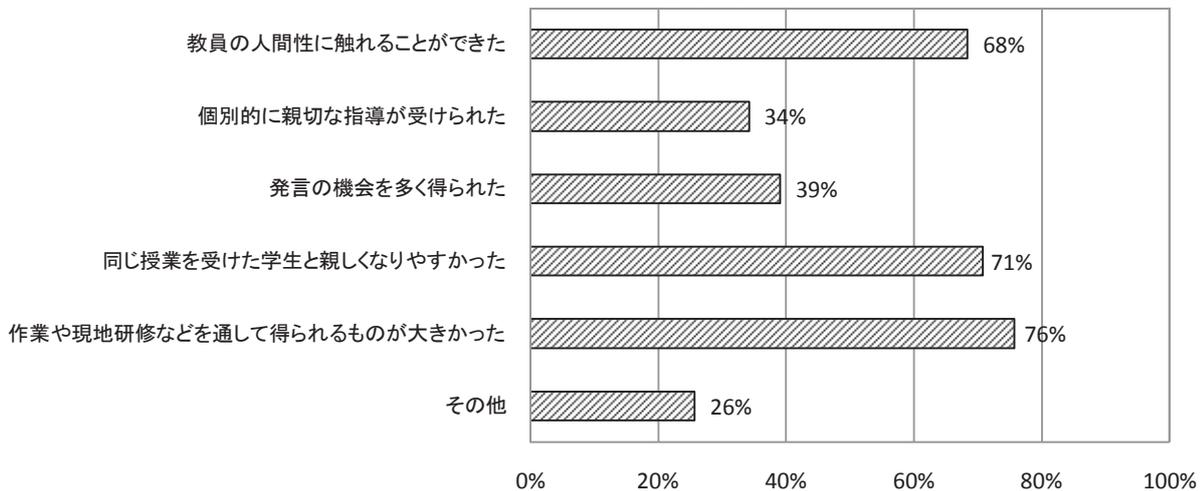
(1) このセミナーを受講する前、講義のような大人数形式の授業よりも多くのものが得られることを期待していましたか。



(2) では、実際にこのセミナーを受講してみて、少人数形式でしか得られないものがあると実感できましたか。



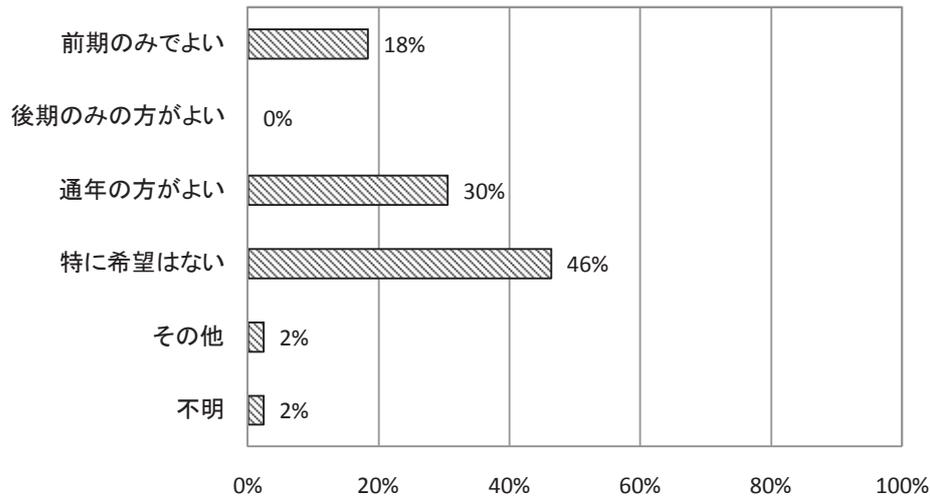
(3) 前問(2)で「とても実感できた」または「少しは実感できた」を選んだ方にうかがいます。少人数形式の授業でどのような点がよかったですか。(複数回答可)



- 「その他」…
- ・大人数形式の授業ではできない実習をすることができた。
 - ・質問がすぐに出来る。質問にすぐに答えてもらえる。講義中に先生と対話出来る。
 - ・京大生のみで固まることなく他の参加団体の方々とも親しくなり、共に協力して生活できた。
 - ・特別な環境の生活に耐えることでたくましくなった。
 - ・少人数だから可能な密な実習内容。
 - ・京大での学びのイメージができた。

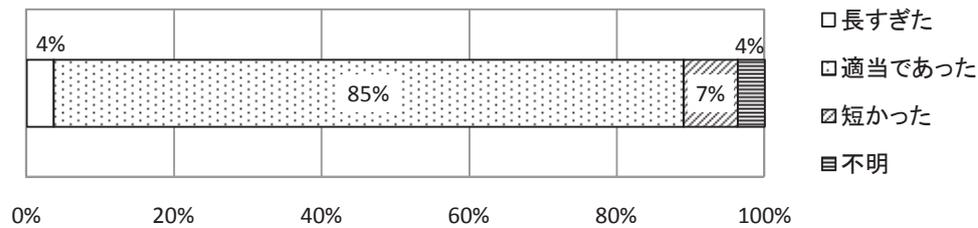
Q6 少人数セミナーの実施方法等についてのご意見をうかがいます。

(1) 少人数セミナーは前期のみの開講となっておりますが、この開講時期についてはどう思いますか。

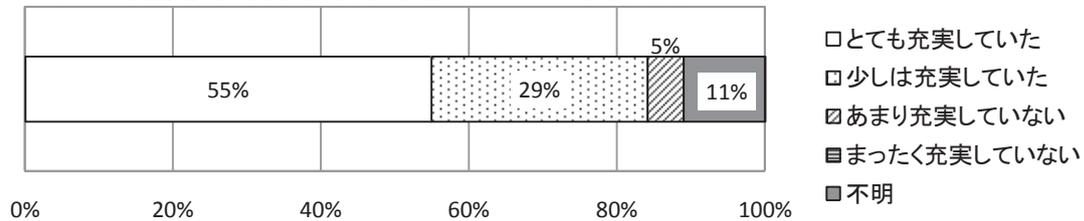


「その他」・・・
 ・夏休みなどの利用で集中がよい。
 ・抽選落ちの人が出ないくらい、前後期共にフィールド実習の科目が増えたら嬉しい。

(2) このセミナーの実施期間についてどう思われますか。

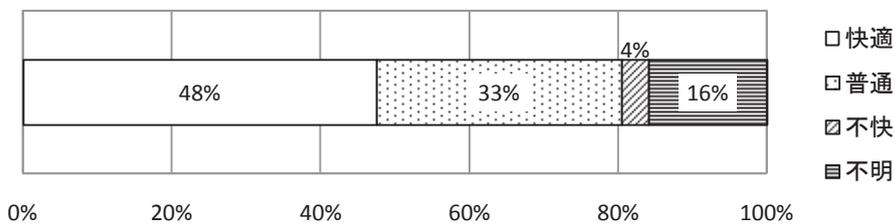


(3) このセミナーの実施場所の実験設備や実験器具についてどう思われましたか。

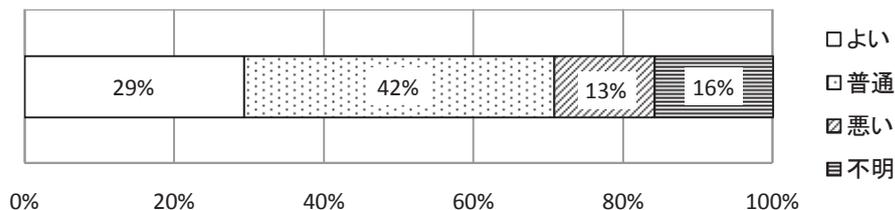


(4) このセミナーの宿泊についてうかがいます。

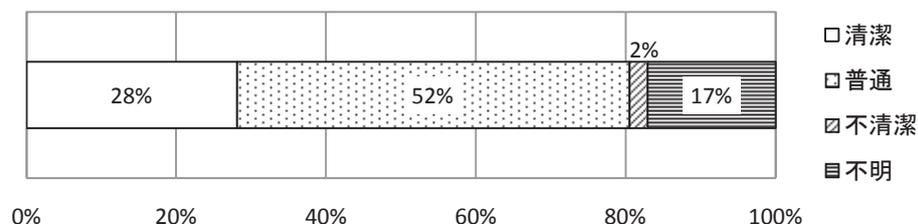
・ 共同の宿泊生活は



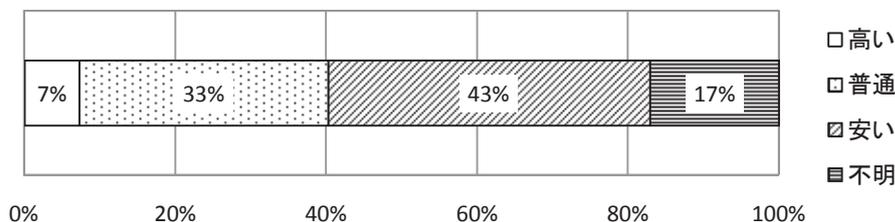
・ 宿泊施設の整備は



・ 宿泊施設の寝具は



・ 宿泊施設の経費は



(5) 宿泊施設や食事について、何かご意見やご要望があれば自由に記入して下さい。

【芦生研究林】

- ・ 食費が高いと思った。

【北海道研究林】

- ・ 宿泊施設は快適でした！ 食事もおいしかったし、満足です！！

【徳山試験地】

- ・ 床が抜けていて大変だった。スイカが美味しかった。
- ・ トイレは水洗の方がいいです。女子トイレに汚物入れがあるとよかったです。

【紀伊大島実験所】

- ・ モリチャバネゴキブリが多いことが辛かった。

【舞鶴水産実験所】

- ・ 食事もおいしく、施設も充実していてよかったです。
- ・ ごはんの量が多かった。
- ・ 昼食のカレーは確かにおいしかったが、自分としてはサザエごはんと干物を楽しみにしていたので残念。
- ・ 大変よかったです。是非また来たいと思います。要望としては、浴室が「小」しか使えず1人ずつ交代だったので「大」も空けると良いと思いました。
- ・ 枕が低いです。
- ・ 自炊が楽しかった。
- ・ もう少し衛生状態の良いところで調理・食事したい。
- ・ 先生の料理が本当に美味しかったです。

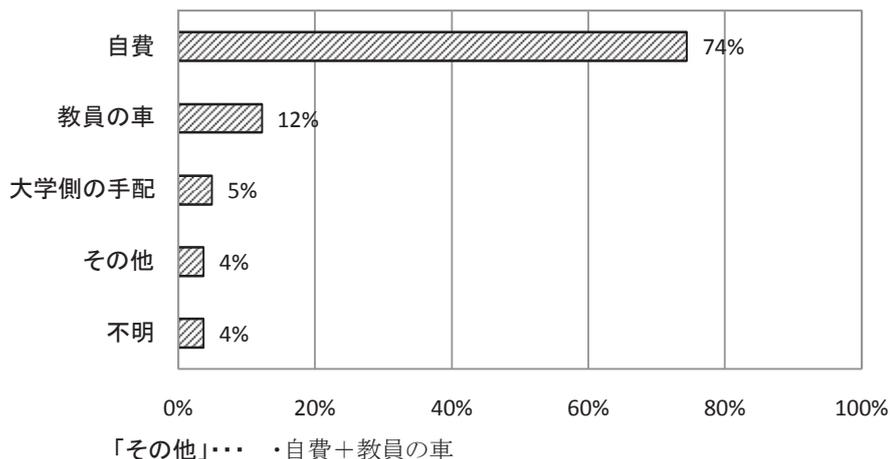
【瀬戸臨海実験所】

- ・ 宿泊費、食費は大学側が出してほしい。
- ・ 食事はもう少し安くしてほしいです。
- ・ 食費が少し高いと感じた。
- ・ 費用が安いので仕方ないですが、食事に海の幸をふやすとよいと思います。
- ・ 魚介類を食べたかった。

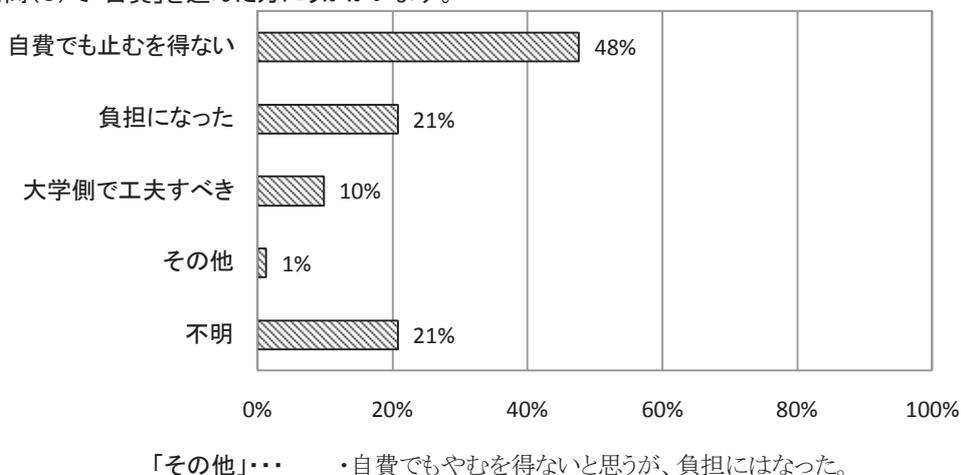
【その他の施設】

- ・ 朝、夕のご飯がとても美味しかったです。ありがとうございました。(気仙沼)

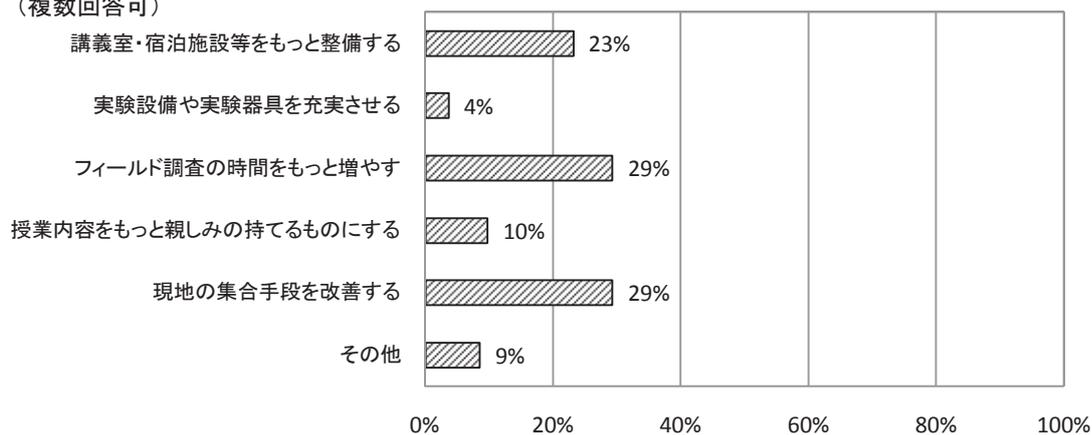
(6)このセミナーの現地集合場所へのアクセスについてうかがいます。



(7)前問(6)で「自費」を選んだ方にうかがいます。



Q7 今後、少人数セミナーをさらに充実させるためには、どのようにすれば良いと思いますか。
(複数回答可)



「その他」・・・

- ・施設に備わっているものをあらかじめ伝えてほしい。
- ・金銭的負担を減らす。
- ・現地で行う作業を前もってもう少し説明すればよいと思います。
- ・集合場所の正確な指示をしていただきたい。
- ・花火ができるとよい。

Q8 今回受講された少人数セミナーについて、何かご意見やご希望があれば自由に記入して下さい。

【芦生研究林】

- ・貴重な経験が出来、幅広い視野をもつことができました。様々な学部の人を受け入れて下さったことで、他学部の人との交流においても自身の肥やしにすることができましたので大変嬉しく思っております。ありがとうございました。
- ・とても楽しかったし、得られるものも大きかった。夜中ずっと騒いですいません。
- ・虫よけがほしい。
- ・時期的に梅雨で雨が多かったので、もう少し時期をずらした方が良かったかなと思いました。
- ・通常の大学の講義では体験できないものを数多く体験することができた。
- ・樹木についていろいろ知れてよかった。先生方も忙しいのだと思うが、入学すぐは大学の生活リズムにもまだなれていない時期でもあり、体力的に少し大変だった。
- ・実習の内容をもっと具体的に事前に教えておいてほしかったです。

【北海道研究林】

- ・大変楽しかったです。先生がとても良かった。授業も楽しいです。
- ・人数が少ないので、実習もやりやすくて、充実していました。

【上賀茂試験地】

- ・達成感があって良かったです。本当に楽しかったです。
- ・他学部の人とはサークル以外では会うことがないので、こうした少人数セミナーはとても良いと思います。男女比もちょうど良く遠慮なく話をすることができるので、今度からもあると良いと思います。
- ・自らの興味のある授業だったので、楽しかったです。これから専門に入るにあたって、参考になりました。とても良い経験になりました。
- ・自分の学部では学べないことを学べる良い機会だったので是非継続して欲しいと思います。
- ・気候にも恵まれ、全てにおいて満足でした。

【徳山試験地】

- ・法学部も気兼ねなく行ける時期に設定してほしい。
- ・新鮮で楽しめたと思います。
- ・苦労したり、不便に感じたりすることがあったが、そのような体験をすることで普段の便利な生活では得られない気持ちになって大変有意義だった。

【紀伊大島実験所】

- ・事前に京都でのガイダンスないしKULASISを活かした適切な指示が欲しかった。具体的にはJR串本駅に集合する際、他の学生の名前や顔がわからない、集合場所もはっきりしない等、不具合があった。
- ・先生が親しみやすかったので、実習が進めやすかったです。
- ・定員は10名ということですが、6人でちょうど良かったように思います。
- ・紀伊大島実験所の前や付近には何か目印となる看板を設置していただきたい。

【舞鶴水産実験所】

- ・大変、有意義でした。先生方が毎回の授業のたびに、大変丁寧に指導して下さり、大変感謝しています。また、先生→生徒への一方的な内容ではなく、積極的に意見交換を行う活発な授業であり、たくさんの刺激をうけました。
- ・色々なことができてとてもよかったです。
- ・先生が講義で教えてくれたような「魚類心理」を調べる実験を何かしたいです。でも、学習などをさせるには1日や2日では足りないのでしょうか…。
- ・フィールド研のセミナーに限らず、4月6日に締切というのは早すぎると思う。
- ・とても楽しかったです。ポケゼミの実習に他団体の方々に参加してもらおうというのは素晴らしいと思います。様々な環境でそれぞれの志を持った人達と共に実習に参加できて本当に良かったです。
- ・とても面白かったです。またこのような形の講義を受けてみたいと思います。
- ・非常にやりやすく楽しい授業だった。
- ・教員や学生同士が仲良くできて良かった。
- ・楽しかった。普通はできない経験がいっぱいできた。
- ・事前にタオルやシャンプー等、持ち物を周知した方が良い。

【瀬戸臨海実験所】

- ・とても充実したゼミになった。毎年続けて欲しい。
- ・本当に受講してよかった。
- ・非常に充実したひとときでした。ありがとうございました。
- ・時期が悪く、他大学の方や研究者との交流がほぼ無かったのが残念。

【その他の施設】

- ・大変勉強になり、満足でした。(気仙沼)
- ・とても良い環境の中で充実した学習や活動ができました。このポケゼミをとって良かったです。自然だけでなく現地の素晴らしい人々に出会えたことも、大変収穫になりました。(気仙沼)

Q9 当センターのホームページにアクセスしたことがありますか。内容についてどう思われますか。

- ・ある。面白い。
- ・どんな先生や生徒がいて、どんな研究をしているのかがわかりました。特に益田先生の紹介のところには、魚の研究についてとても充実していたと思います。
- ・あります。とても分かりやすくてよいと思います。
- ・デザイン性に優れていると思います。
- ・交通手段の参考になりました。
- ・少し見にくい。
- ・過去の研究を残してほしかった。アクセスは分かりやすかった。
- ・京都大学の近くからのアクセス方法をいくつか示してほしい。
- ・紀伊大島実験所へのアクセス方法がもう少し詳しくあったらありがたかったです。
- ・交通手段のページや写真のページがかなり昔のものであったので、新しくしてもらった方がよいと思いました。

4) 暖地性積雪地域における冬の自然環境(実習)

森林環境情報学分野 講師 中島 皇

今年度の実習(全学共通科目の後期集中講義)は2013年2月8~11日に3泊4日の日程で行われた。テーマは「暖地性の積雪(山間)地域における冬の自然環境を体感する。雪氷調査法(入門)を習得し、水が態を変えた雪や氷について理解を深めその影響を考究する。特に人間をはじめとする生物への影響をフィールドで実感する。」(シラバス)である。

芦生研究林事務所ではクリスマスを過ぎると50cm程度の積雪があり、1月末には1m30cmを越える積雪量。参加者は12名(文1(1), 法1(1), 理1, 工3, 農6(2):カッコは女子(内数))で冬の芦生実習としては最適の人数になった。実習は1月後半の説明会から始まる。メンバー12人が顔を合わせて実習についての説明を受け、自己紹介などを行うが、一番重要なのは班毎に夜・朝・昼の食事メニューと食材の量を考えることである。すき焼きをメニューに入れて金額の心配をするのなら良いが、最近では自分たちがどれくらい食べるのかが分かっていない学生があまりにも多いことにショックを受けている。最終決定は大学院生のTAとメール等で連絡を取って、出発前に買い出しに行き、現地では調理から後片付けまですべて自分たちでこなす必要がある。TAは本実習経験のある森林生物学研究室D2山崎君他2名が担当なので安心だ。

この日は京都周辺も雪化粧の京見峠を越えるのにも大変な状態であるのに、今年は自転車で参加を申し出た1回生がいた。案の定、少し遅れて(本来は失格である。)何とか到着し、集中実習は始まった。芦生へは昨年同様に数台の乗用車に分乗しての移動になった。途中の自然環境や人間の暮らしを確認しながら、芦生に到着。昼食後、クラブ(宿泊所)使用法の説明を受け、長靴とカンジキを装着して歩行訓練、宿舎周辺の積雪に着目した自然観察、雪の造形を写真に撮ってくるプログラムがスタートした。夕食後のセミナーでは芦生研究林の概要説明と足慣らしの間に各自が撮ってきた写真の発表会である。

朝は握り飯を作って内杉谷林道の自然観察に出発した。今日は1日雪の上を歩く。林道脇に続くつららのカーテンが今年は盛大である。霜柱も林道の法面の上部に立派に成長していた。内杉谷ゲートで小休止。ヴァージンスノーを踏みしめ、幽仙橋へ。昼食後、幽仙谷の量水堰を見学に行ったり、雪を溶かしてお湯を沸かしスープを作ったりと雪とフィールドを十分堪能した1日である(写真)。夕食はカレーである。夜のセミナーはTAの研究紹介。

3日目は青空がのぞく。クラブ周辺で積雪調査実習と便利な移動手段であるスノーモービルの試乗に挑戦した。食堂での昼食時に班を交替し、参加者はどちらも体験した。技術職員の人達が準備してくれていたもので、プログラムはスムーズに進んだ。夕方からは幽仙谷で回収した流出物の中にある水生昆虫と葉のデッサンを熱心に描く。夕食は楽しみにしていたすき焼き。満足がいくものだったか。

最終日は班毎にレポート作成し、それを発表した。各自の感想文、アンケートそして宿舎の片付けと掃除をして、昼食後降雪に見送られながら芦生研究林の車でJR山陰線の園部駅まで。皆元気いっぱい荷物を持って街の子に戻っていく姿がTAの鈴木君が撮ってくれた写真の中に残っていた。



「Kitty かまくら」にて(幽仙橋)



積雪調査実習風景

(3) 教育関係共同利用拠点事業

1) フィールド実習ワークショップ

里海生態保全学分野 教授 山下 洋

平成 24 年 11 月 30 日に文部科学省教育関係共同利用拠点事業として、受講生に魅力的で教育効果の高いフィールド実習について、知恵を出し合うためのフィールド実習に関するワークショップを開催した。

ー水産・臨海・臨湖実験所フィールド実習ワークショップー「魅力ある、効果の高いフィールド実習を考える」

開催日時：平成 24 年 11 月 30 日（金）13 時 30 分～17 時

開催場所：京都大学フィールド研会議室（農学部総合館 N283）

講演内容：

「森里海連環学実習；フィールド実習の新たな展開」 山下 洋（京都大学 舞鶴水産実験所）

「東京大学海洋アライアンスにおける海洋学際教育プログラムの現状と展望」
木村 伸吾（東京大学 大気海洋研究所）

「瀬戸内発、未知のフィールドへの旅：広島大学の取り組み」 小路 淳（広島大学 竹原実験所）

「フィールド実習を活用した長期生態系モニタリングの試み：琵琶湖・木曾川サイトを例に」
奥田 昇（京都大学 生態学研究センター）

「瀬戸臨海実験所における教育拠点利用を通じての海洋生物教育」 朝倉 彰（京都大学 瀬戸臨海実験所）

総合討論

ワークショップにおいて出された意見及び議論の概要を以下に示す。

1. 広報の工夫

- ・ポスターを関係大学、部局へ送るだけではほとんど効果はない
- ・中四国教育ネットワークなど地域の大学コンソーシアム等の利用は有効
- ・フィールド実習ポータルサイトを検討してはどうか。少なくとも臨海臨湖実験所長会議や水産実験所長会議の実習に関する情報を充実させリンクすることは可能
- ・実習参加者集めでは、教員間の関係やこれまでの実績と評判が重要な役割を果たしている。すなわち、口コミはかなり効果的
- ・学会のメーリングリストや SNS の活用
- ・実習の重要性とおもしろさを社会にアピールし、社会における認知度を上げることが重要

2. 制度の工夫

- ・少人数の実習の方が参加者の評価が高く集まりも良い。しかし、拠点では参加者数の絶対値を求められる側面もある
- ・単位互換制度の充実
- ・実習がキャリアパスにつながる制度の工夫
- ・フィールド実習に関する広域的な共同体制、実習内容、開催時期の整理とすりあわせ
- ・関係学会教育部会との連携
- ・全国フィールド実習専属スタッフ（予算の獲得）

3. 内容の工夫

- ・実習で得られたデータが、LTER などのデータベースとして役に立っていることを実習生が知ることで、実習のモチベーションが高まる
- ・そこにしかない環境やそこでしかできない実習テーマの設定
- ・観光や地域文化体験とのセット化
- ・先端技術の習得
- ・実習後に必ずアンケートを実施し、内容の充実を図る。また、アンケート結果を広報に利用する

2) 舞鶴水産実験所における教育関係共同利用拠点事業

舞鶴水産実験所長 益田 玲爾

■他大学生が参加できる実習科目

全国の大学生を対象に次の5科目の公開実習を開講した。「森里海連環学実習A」は、京都北部を流れる由良川をフィールドとして、源流から河口域までの各地において水棲昆虫と魚類を採集し、同時に水質や土地利用様式の調査を行う実習である。「海洋生物科学実習I, II」では、舞鶴湾内・湾外の海洋観測、砕波帯の仔稚魚調査、魚類分類学・解剖学、底生生物調査、海洋無脊椎動物の採集・同定と生理活性物質の抽出・活性測定、岩礁域の海藻の調査、魚市場の見学等を行った。「若狭湾秋季の水産海洋生物実習」および「若狭湾春季の水産海洋生物実習」では、若狭湾各地の沿岸から沖合にかけての各定点でネットにより生物を採集し、同時に海洋物理環境の観測を行い、得られたデータから生物多様性と環境の問題について考えてもらった。これら実習の期間は合計31日間であり、参加者は合計28人・171人日、参加者の出身大学はのべ14大学となった。

■他大学による実習の受け入れ

近畿大学、広島大学、および岐阜大学の3大学から合計4件の実習を受け入れた。これらの実習は、合計14日間で、学生42人、教職員5人が参加し、利用は246人日（学生：220、教職員26）であった。

■他大学生、大学院生による論文作製のための利用

共同利用研究として、北海道大学、東京大学、東京海洋大学、龍谷大学、近畿大学、福井県立大学、広島大学、高知大学、長崎大学、鹿児島大学などから、合計312人日の利用があった。

■運営実施体制

上記の事業については、ポスターを作成して全国の大学に配布し、またホームページに最新の情報を掲載するなどして、公募情報を全国の大学に周知した。共同利用運営委員会を4月に、またフィールド実習教育に関するワークショップを11月にそれぞれ開催し、拠点としての質の向上を目指した。本事業に専属の研究員を雇用することにより、上記の事業を円滑に進めた。

以上の通り、当初の計画通り事業を遂行し期待以上の成果を得た。公開実習の参加者は回を追うごとに着実に増加している。次年度以降は、共同利用実習および共同利用研究を一層拡充し、全国共同利用拠点としての長期的な成果に結びつける予定である。

3) 瀬戸臨海実験所における教育関係共同利用拠点事業

瀬戸臨海実験所長 朝倉 彰

■公開臨海実習

瀬戸臨海実験所では、1989年度から国立大学法人臨海臨湖実験所長会議に所属する施設が開講する公開臨海実習を、文部科学省の財政的支援を受けながら実施しており、教育関係共同利用拠点到認定された2011年度からは、拠点事業として開講している。従来年間2科目の開講だったところ、今年度からは概算要求による運営費交付金を活用し、以下の5科目に拡充した。

発展生物学実習：8月4～10日。2大学2人参加。今年度より新規開講。

理学部臨海実習第2部と日程・内容を重ねる。

自由課題研究：8月27日～9月3日。1大学1人参加。今年度より新規開講。

理学部臨海実習第4部と日程・内容を重ねる。

海産無脊椎動物分子系統学実習：3月2日～9日。7大学12人参加。今年度より新規開講。

藻類の系統と進化：3月15～20日。3大学3人参加。今年度より新規開講。

理学部臨海実習第3部と日程・内容を重ねる。

海産無脊椎動物多様性実習：3月25～30日。4大学8人参加。今年度より新規開講。

全学共通科目「生物学実習II」と日程・内容を重ねる。

海産無脊椎動物多様性実習の受講者のうち所定の手続きを取った者については、理学部特別聴講生として京都大学から正式に単位(2単位)を認定し、その他の公開臨海実習については、従来通り参加学生の所属機関の長に対して、受講を証明する書類(2単位相当・評価付き)を発行した。

■他大学による実習の受け入れ

瀬戸臨海実験所の施設・設備を活用して行った他大学による臨海実習(共同利用実習)の参加は、のべ9大学10科目893人日となった。

■他大学学部生、大学院生による研究利用

他大学の学部生及び修士課程までの大学院生による研究目的での実験所利用は、10大学28人259人日となった。今年度も長期滞在者は少なく、滞在数日までの短期滞在者が利用者のほとんどを占めていた。

■運営実施体制

4月5日に共同利用運営委員会(学内委員4名、学外委員6名)を開催し、共同利用拠点認定の報告、平成24年度事業計画の検討と承認、平成25年度概算要求事項の報告と協議等を行った。実験所における実際の事業(公開臨海実習・共同利用実習・共同利用研究)については、実験所教員5名(教授1、准教授1、講師1、助教2)、技術職員8名、事務職員5名が分担して運営にあたった。

また今年度から拠点に対する運営費交付金を使って、新たに研究員2名を雇用し、拠点事業の運営補助にあたらせた。

■その他

拠点に対する運営費交付金を使って、拠点事業にかかる消耗品類を充実させるなど、教育研究環境を整備した。また拠点事業による船舶の使用については、使用料を徴収しないようにした。

公開臨海実習については、科目数・参加人数とも大きく増加したが、共同利用実習・共同利用研究については、規模が横ばいないし微減となった。今後より積極的な広報活動を行い、全事業について拡充に努めていく。

(4) 外部資金の獲得状況

(金額の単位はすべて千円)

2012年度 受託研究

委託者	委託研究名	研究担当者	職種	代表者名 (所属)	研究課題名	分担課題名	2012年度 交付額
東京大学	沿岸海域複合生態系の変動機構に基づく生物資源生産力の再生・保全と持続的利用に関する研究	山下 洋	教授				13,775
舞鶴市	舞鶴湾におけるアサリ資源再生方策に関する研究	山下 洋	教授				1,000
環境省	環境研究総合推進費	徳地 直子	教授	陀安 一郎 (京都大学生態学研究センター)	生物多様性の機能評価のための安定同位体指標に関する研究	森林生態系管理が河川生態系に及ぼす影響の研究	10,101
京都伝統文化の森推進協議会	東山風景林相改善事業植生モニタリング調査	安藤 信	准教授				525
(独) 科学技術振興機構	戦略的創造研究推進事業(CREST)/海洋生物多様性および生態系の保全・再生に資する基盤技術の創出/海洋生態系における魚類の環境DNAの抽出および種同定手法の確立	益田 玲爾	准教授				2,670
兵庫県丹波県民局	平成24年度丹波産木材低コスト生産システム調査事業業務委託	長谷川 尚史	准教授	長谷川 尚史	丹波産木材(主にヒノキ)の木材供給低コスト化シミュレーション		400
環境省研究費	環境経済の政策研究	佐藤 真行	特定准教授	馬奈木 俊介 (IGES フェロー, 東北大学)	高質で持続的な生活のための環境政策における指標研究		1,512
千葉県	新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業委託事業	宮崎 勝己	講師	鳥羽光晴(千葉県水産総合研究センター)	カイヤドリウミグモの寄生被害を回避軽減するためのアサリ放流生産手法の開発	ウミグモ初期寄生強度推定手法の開発	2,000
文部科学省	東北マリンサイエンス拠点形成事業(海洋生態系の調査研究)	山下 洋	教授	河村 知彦 (東京大学大気海洋研究所)	地震・津波による生態系攪乱とその後の回復過程に関する研究		- (注)
受託研究	計9件						31,983

(注) 分担分の経費(6,000千円)の管理は東京大学が担当

2012年度 受託事業

委託者	受託事業名	研究担当者	職種	2012年度 交付額
公益財団法人日本財団	森里海連環学教育プロジェクト	森里海連環学教育ユニット ユニット長 山下 洋	教授	148,550 (注)
受託事業	計1件			148,550

(注) 交付額は2年間(2012/04/01-2014/03/31)

(金額の単位はすべて千円)

2012年度 共同研究

委託者	委託研究名	研究担当者	職種	代表者名 (所属)	研究課題名	分担課題名	2012年度 交付額
マリンバイオ 共同推進機構 (JAMBIO)	2011年度共同利用・共同研究	宮崎 勝己	講師	宮崎 勝己	下田・狼煙崎サンゴイソギンチャク群落に寄生するフタツメイソウミグモの生活史に関する研究		130
高知県	高知県仁淀川流域における生態系機能の向上	柴田 昌三	教授				—
独立行政法人 水産総合研究センター日本海区水産研究所	放流ヒラメの生き残りに及ぼす馴致飼育の効果	山下 洋	教授				—
独立行政法人 水産総合研究センター日本海区水産研究所	スズキ仔稚魚の生態と生育場機能の解明	山下 洋	教授				—
APN Project ARCP2011-12NMY	"Seagrass-Mangrove Ecosystems: Bioshields against Biodiversity Loss and Impacts of Local and Global Change along Indo-Pacific Coasts"	向井 宏	特任教授	Prof. M. S. Fortes (Univ of Philippines)			—
浙江省林業科学研究院、浙江農林大学	杭州近郊風景林の育成および評価技術	安藤 信	准教授				—
地方独立行政法人北海道立総合研究機構栽培水産試験場	カレイ目魚類における形態・体色異常の出現防除対策とそれに伴う基礎的な知見の集積に関する共同研究	田川 正朋	准教授				—
鳥取大学乾燥地研究センター	中国黄土高原におけるニセアカシアとリュウトウナラ林における水利用効率の長期変動	舘野 隆之輔	准教授				—
共同研究	計8件						130

(金額の単位はすべて千円)

2012年度 寄附金

寄付者(団体)	プロジェクト名	担当教員	職種	2012年度 交付額
財団法人 自然環境研究センター	森林生態系の長期動態に関する研究助成金	吉岡 崇仁	教授	1,740
財団法人 阪本奨学会	演習林の研究及び施業運営等の助成	吉岡 崇仁	教授	300
財団法人 自然環境研究センター	森林生態系の長期動態に関する研究助成金	徳地 直子	教授	1,800
サントリービジネスエキスパート株式会社	竹林生態系機能の定量的把握	徳地 直子	教授	1,000
財団法人 阪本奨学会	演習林の研究及び施業運営等の助成	徳地 直子	教授	500
サントリービジネスエキスパート株式会社	都市近郊の里山林における「環境林施業と持続可能なバイオマス利用」に関する研究の助成	長谷川 尚史	准教授	1,500
財団法人 美山町自然文化村	芦生研究林の環境保全を目的とする助成	長谷川 尚史	准教授	200
芦生山の家	芦生研究林の環境保全を目的とする助成	長谷川 尚史	准教授	120
針畑ルネッサンスセンター	芦生研究林の環境保全を目的とする助成	長谷川 尚史	准教授	30
特定非営利活動法人 アースウォッチ・ジャパン	森林の持つ環境保全機能と森林環境教育に関する研究助成	中島 皇	講師	459
財団法人 自然環境研究センター	森林生態系の長期動態に関する研究助成金	寄元 道德	助教	1,560
公益信託ミキモト海洋生態研究助成基金	東南アジアにおけるベッコウガサ群種の分子生物地理学的研究	中野 智之	助教	535
公益財団法人 河川環境管理財団	水源域における森林生態系の攪乱が流域全体の河川及び沿岸河口域の栄養塩動態に与える影響の解明のための研究助成	福島 慶太郎	特定研究員	900
寄附金 計 13 件				10,644

2012年度 科学研究費補助金

(交付機関はすべて独立行政法人日本学術振興会である。)

研究種目	研究者	職種	代表者名 (所属)	研究期間 (年度)	課題番号	研究課題名	分担課題名	交付額 合計 ※予定含む	2012年度 交付額
基盤研究(B)	吉岡 崇仁	教授	-	2009-2012	21380096	森林土壌-溪流系における溶存有機物の動態に関する研究	-	11,050	1,690
基盤研究(B)	山下 洋	教授	-	2009-2012	21380124	水産重要魚類稚魚の成育場としての河口・沿岸域生産力の定量評価	-	17,030	3,250
基盤研究(C)	朝倉 彰	教授	-	2010-2012	22570101	暖温帯～熱帯域の浅海生物の遺伝的多様性からみた起源に関する研究-甲殻異尾類を例に	-	3,900	1,170
基盤研究(C)	安藤 信	准教授	-	2012-2014	24580218	冷温帯林におけるブナ科樹木の衰退とその要因	-	5,460	2,470
基盤研究(C)	田川 正朋	准教授	-	2012-2014	24580266	カレイ類に起こる形態異常の本質的理解と、二次黒化の根本的防除法の開発	-	5,460	1,820
基盤研究(C)	長谷川 尚史	准教授	-	2011-2013	23580206	樹冠下におけるGPS信号の劣化を利用した森林モニタリング手法の開発	-	5,330	3,120
基盤研究(C)	中西 麻美	助教	-	2011-2013	23580205	スギ、ヒノキ林における間伐が中長期的な養分循環に及ぼす影響の評価	-	4,550	1,560
基盤研究(C)	中山 耕至	助教	-	2011-2013	23580253	養殖用として移入された外来海産魚による日本在来魚への遺伝的攪乱の解明	-	4,680	1,170
挑戦的萌芽研究	吉岡 崇仁	教授	-	2012-2014	24658136	シカ食害を排除しても森林生態系の窒素吸収能が回復しないのはなぜか?	-	4,160	1,690
挑戦的萌芽研究	徳地 直子	教授	-	2011-2013	23658126	窒素負荷がもたらす森林木本種の窒素利用の変化に伴うコストの定量	-	3,900	1,040

若手研究(A)	佐藤 拓哉	特定助教	-	2012-2014	24687003	生態系間相互作用の季節動態：寄生者が引き起こすパルスの資源補償の生態学的意義	-	9,750	9,750
若手研究(B)	館野 隆之輔	准教授	-	2011-2013	23780166	土壌中の形態別有機物動態を考慮にいたした森林伐採の溪流水質への影響評価法の開発	-	4,420	1,820
若手研究(B)	甲斐 嘉晃	助教	-	2011-2013	23770085	北太平洋産クサウオ科魚類の系統地理学～爆発的種分化の要因と種多様性の解明	-	4,030	1,170
若手研究(B)	福島 慶太郎	特別研究員	-	2010-2012	22780145	森林生態系における窒素流出メカニズムの解明と窒素飽和の将来予測	-	4,030	1,040
基盤研究(S)	徳地 直子	教授	石川 登 (京都大学東南アジア研究所)	2010-2014	22221010	東南アジア熱帯域におけるプランテーション型バイオマス社会の総合的研究	混合ランドスケープにおける生物多様性の空間構造と物質循環(生態学的ローカル連環)	-	1,690
基盤研究(A)	館野 隆之輔	准教授	柴田 英昭 (北海道大学)	2010-2012	22248016	気候変動による積雪変化が森林土壌の物質循環機能に及ぼす影響	植生窒素動態解析	-	1,040
基盤研究(A)	佐藤 真行	特定准教授	植田 和弘 (京都大学地球環境学堂)	2011-2015	23241019	制度を媒介とした持続可能な発展と主観的福祉のリンケージ	GSの測定と分析、主観的福祉と成長、経済実験	-	1,300
基盤研究(A)	坂野上 なお	助教	山本 博一 (東京大学)	2011-2013	23240113	文化的価値のある伝統的木造建造物を維持するための植物性資材確保の基礎的要件の解明	社寺有林・山村調査	-	910
基盤研究(A)	中野 智之	助教	野尻 幸宏 (独立行政法人国立環境研究所)	2011-2013	23241017	沿岸海洋底生生物が受ける海洋酸性化影響の精密な評価	ウニ等の海洋無脊椎動物の海洋酸性化影響実験、和歌山県白浜における沿岸CO ₂ 分圧観測	-	2,132
基盤研究(B)	梅本 信也	准教授	山口 裕文 (東京農業大学)	2011-2013	23310168	東アジア原産観賞植物の栽培化と野生化に関する保全生物学的研究	-	-	520
基盤研究(B)	中山 耕至	助教	中坊 徹次 (京都大学総合博物館)	2012-2014	24370036	更新世の氷期-間氷期サイクルが日本列島周辺魚類の分布形成に与えた影響の解明	-	-	1,170
基盤研究(B)	甲斐 嘉晃	助教	中坊 徹次 (京都大学総合博物館)	2012-2014	24370036	更新世の氷期-間氷期サイクルが日本列島周辺魚類の分布形成に与えた影響の解明	-	-	1,170
基盤研究(B) 海外学術調査	徳地 直子	教授	杉本 敦子 (北海道大学)	2009-2012	21403011	東シベリアタイガ林の生態系機能変動解析	樹木の窒素利用解析	-	130
基盤研究(C)	松山 周平	特定研究員	伊東 明 (大阪市立大学)	2011-2013	24510330	遺伝解析と生態特性把握による雑種タンポポの起源地と拡大経路の推定	マイクロサテライト解析	-	390
挑戦的萌芽研究	徳地 直子	教授	大手 信人 (東京大学)	2011-2013	24658133	安定同位体比情報を用いた森林土壌中の総硝化量の原位置推定	-	-	390
挑戦的萌芽研究	徳地 直子	教授	吉岡 崇仁 (京都大学フィールド研)	2012-2014	24658136	シカ食害を排除しても森林生態系の窒素吸収能が回復しないのはなぜか？	-	-	-
挑戦的萌芽研究	福島 慶太郎	特定研究員	吉岡 崇仁 (京都大学フィールド研)	2012-2014	24658136	シカ食害を排除しても森林生態系の窒素吸収能が回復しないのはなぜか？	-	-	-
挑戦的萌芽研究	松山 周平	特定研究員	吉岡 崇仁 (京都大学フィールド研)	2012-2014	24658136	シカ食害を排除しても森林生態系の窒素吸収能が回復しないのはなぜか？	-	-	-
基盤研究(S)	福島 慶太郎	特定研究員	石川 登 (京都大学東南アジア研究所)	2010-2014	22221010	東南アジア熱帯域におけるプランテーション型バイオマス社会の総合的研究	混合ランドスケープにおける生物多様性の空間構造と物質循環(生態学的ローカル連環)	-	-
科学研究費補助金 計 29 件								43,602	

(金額の単位はすべて千円)

2012年度 科学研究費補助金(特別研究員奨励費)

(交付機関はすべて独立行政法人日本学術振興会である。)

研究者	職種	指導教員名	研究期間 (年度)	課題番号	研究課題名	交付額合計 ※予定含む	2011年度 交付額
今田 省吾	特別研究員 (DC2)	舘野 隆之輔	2012-2014	24・4309	侵入樹種 <i>Tamarix ramosissima</i> の窒素 利用の解明	3,300	1,100
宮島 悠子	特別研究員 (DC1)	益田 玲爾	2011-2013	23・2423	カワハギによるミズクラゲ捕食の個体 発生	1,900	600
西本 篤史	特別研究員 (DC1)	宮崎 勝己	2010-2012	22・2580	海底沈木における生物群集形成プロセスの 解明	2,100	700
諏訪 僚太	特別研究員 (PD)	宮崎 勝己	2011-2013	23・2760	海洋酸性化がウニ幼生に及ぼす影響に 関する研究	2,500	800
科学研究費補助金(特別研究員奨励費) 計4件							3,200

2012年度 研究助成金(学生取得分)

助成名	プロジェクト名称	学生氏名	所属・学年	担当指導教員	2011年度 交付額
笹川科学研究助成	海産魚類仔魚の成長と捕食圧に及ぼす濁度の影響	大畑 亮輔	農学研究科応用生物学専攻 博士課程3回生	益田 玲爾	800
笹川科学研究助成	野外におけるハゼ科魚類仔魚の分布・拡散生態の解明 ～スジハゼ3種の比較研究～	松井 彰子	農学研究科応用生物学専攻 博士課程2回生	山下 洋	700
笹川科学研究助成	海底洞窟におけるクマムシ(緩歩動物門)相の成立に関する進化学的研究	藤本 心太	理学研究科生物科学専攻 修士課程2回生	宮崎 勝己	680
黒潮生物研究財団研究助成	四国黒潮流域沿岸の海産クマムシ相調査	藤本 心太	理学研究科生物科学専攻 修士課程2回生	宮崎 勝己	200
京都大学教育研究財団 国際研究集会発表助成(Ⅱ期)	第12回国際クマムシシンポジウム	藤本 心太	理学研究科生物科学専攻 修士課程2回生	宮崎 勝己	200
研究助成金(学生取得分) 計5件					2,580

(5) 2012 年度 フィールド科学教育研究センターにおける主な取り組み（日記）

- (1) 2012 年 4 月 1 日
柴田 昌三教授(里域生態系部門 里山資源保全学分野)が地球環境学堂・学舎(景観生態保全論)の教授に異動。
フィールド科学教育研究センター長職は継続
- (2) 2012 年 4 月 1 日
北白川試験地長が交代(柴田昌三教授 → 吉岡崇仁教授)
- (3) 2012 年 4 月 1 日
公益財団法人日本財団との共同事業を実施するため、学際融合教育研究推進センターに「森里海連環学教育ユニット」を設置(運営事務を担当する「森里海連環学教育ユニット支援室」を設置)
- (4) 2012 年 4 月 1 日
海域陸域統合管理学研究部門の向井宏特任教授、佐藤真行特定准教授は、新たに開設した学際融合教育研究推進センターの森里海連環学教育ユニットに異動し、同時に、フィールド研では、連携教授、連携准教授の称号を授与(企画研究推進部門所属)
- (5) 2012 年 4 月～
2012 年度新入生向け少人数セミナーを開講
- | | | |
|----------------------|-------------------|-------------------------|
| ・「原生的な森林の働き」 | (上賀茂試験地・芦生研究林) | 中島 皇 |
| ・「お魚好きのための魚類研究入門」 | (舞鶴水産実験所) | 田川 正朋・中山 耕至 |
| ・「海岸生物の生活史」 | (瀬戸臨海実験所) | 久保田 信 |
| ・「魚類心理学入門」 | (舞鶴水産実験所) | 益田 玲爾 |
| ・「森里海のつながりを清流古座川に見る」 | (紀伊大島実験所) | 梅本 信也 |
| ・「フィールド実習 “森は海の恋人”」 | (気仙沼) | 畠山重篤・長谷川 尚史・中野 智之 |
| ・「木造校舎を造る：木の文化再生へ」 | (上賀茂試験地) | 柴田 昌三 他 |
| ・「海産無脊椎動物一分類群と形の多様性」 | (瀬戸臨海実験所) | 宮崎 勝己 |
| ・「京をめぐる森と人の暮らし」 | (上賀茂試験地・北白川試験地 他) | 寄元 道徳・坂野上 なお |
| ・「森のつくりだすもの」 | (和歌山研究林) | 徳地 直子 |
| ・「地域連環学入門」 | (紀伊大島実験所) | 梅本 信也・田川 正朋・宮崎 勝己・中野 智之 |
| ・「北海道の森林」 | (北海道研究林) | 舘野 隆之輔 |
| ・「森林の動態と再生」 | (芦生研究林 他) | 安藤 信 |
| ・「環境の評価」 | (芦生研究林) | 吉岡 崇仁 |
| ・「瀬戸内に見る森里海連環」 | (徳山試験地) | 中島 皇 |
- (6) 2012 年 4 月～7 月
全学共通科目(リレー講義)「森林学」「森里海連環学」を開講
- (7) 2012 年 4 月～
紀伊大島実験所において、古座川合同調査を実施(毎月実施・第 77～88 回)
- (8) 2012 年 3 月 24 日～4 月 5 日
瀬戸臨海実験所附属白浜水族館において、「研究者と飼育係のこだわり解説ツアー」「バックヤードツアー」を毎日開催 参加者：解説ツアー(一般)73 人、バックヤードツアー(小学生以上)103 人
- (9) 2012 年 4 月 3 日
瀬戸臨海実験所において、セミナー(東京大学生命科学研究科 良永知義准教授)を実施 参加者 14 人
- (10) 2012 年 4 月 4 日, 4 月 17 日, 5 月 8 日, 5 月 29 日, 6 月 12 日
木文化プロジェクトが、木文化サロンを開催
- (11) 2012 年 4 月 5 日
2012 年度第 1 回海域ステーション舞鶴水産実験所共同利用運営委員会を開催
- (12) 2012 年 4 月 5 日
2012 年度第 1 回海域ステーション瀬戸臨海実験所共同利用運営委員会を開催

- (13) 2012年4月12日
瀬戸臨海実験所において、NPO法人シニア自然大学校受講生に対して、講演を実施(参加者46人)
- (14) 2012年4月17日～2013年1月8日
和歌山研究林において、和歌山県立有田中央高等学校清水分校との共催でウッズサイエンスを開講(週1回・計27回・3年生4人)
- (15) 2012年4月19日
東北復興支援学生ボランティア(第2回)活動報告会を開催
- (16) 2012年4月21日・5月19日・6月16日
瀬戸臨海実験所附属水族館において、体験学習「水族館の磯採集体験」(和歌山県教育委員会「きのくに県民カレッジ」連携講座)を開催(参加者47人)
- (17) 2012年4月24日～2013年3月25日
森里海連環学教育ユニットが事業推進委員会(第1～8回)を開催(第2回協議会は、書面審議によって開催)
- (18) 2012年4月28日
上賀茂試験地において、「2012年度上賀茂試験地春の自然観察会」を開催 参加者19人(応募者21人)
- (19) 2012年5月2日～2013年3月4日
森里海連環学教育ユニットが運営協議会(2012年度第1～3回)を開催(第2回協議会は、書面審議によって開催)
- (20) 2012年5月4日
柴田センター長が、大韓民国麗水市で開催された「海洋生態系の再生とボランティア活動ー2012麗水 EXPOの成功的な開催に向けたボランティア活動 特別フォーラムー」において、基調講演
- (21) 2012年5月5日
柴田センター長が、全南(チョンナム)大学校 麗水キャンパスで開催された「持続可能な地球海洋環境のための青少年ボランティア活動ー2012麗水世界博覧会関連事業 青少年プロジェクト開発フォーラムー」において、基調講演
- (22) 2012年5月9日
和歌山研究林において、和歌山県立有田中央高等学校清水分校との共催で「SIMIZU タイム」(ふるさと体験)を実施(1年生10人・引率者4人)
- (23) 2012年5月14日～2013年3月6日
瀬戸臨海実験所において、瀬戸海洋生物学セミナー(第25～33回)を実施
- (24) 2012年5月16日
芦生研究林において、「知ろう、守ろう芦生の森ー芦生の森探索とシカ防護ネット設置ボランティア活動ー」の一環として、芦生の森に設置したシカ防護ネットを上げる作業及び植生観察等を実施(主催：芦生地域有害鳥獣対策協議会、京都府南丹広域振興局/共催：フィールド研他) 参加者5人
- (25) 2012年5月23～24日
施設部長が和歌山研究林および瀬戸臨海実験所を視察
- (26) 2012年5月24日
吉田事業所産業医が瀬戸臨海実験所を巡視
- (27) 2012年5月26日
芦生研究林において、芦生の森自然観察会 入門編「春の森を歩きながら樹木観察をしよう」を開催 参加者21人(応募者93人)
- (28) 2012年5月30～31日
瀬戸臨海実験所において、全国臨海臨湖実験所長会議を開催
- (29) 2012年5月31日
学際融合教育研究推進センター 森里海連環学教育ユニットの佐藤真行特定准教授(フィールド研 連携准教授)が、同センター内のグローバル生存学大学院連携ユニットに異動するため、辞職
- (30) 2012年6月2日
全日空「私の青空 根室中標津空港・シマフクロウの森」において、フィールドセミナー(青空塾)を開催

- (31) 2012年6月14日
木文化プロジェクトが木文化サロンセミナー「高知の森からバイオマス利用を考える」を開催
- (32) 2012年6月17日, 9月16日, 11月18日
徳山試験地において, 山口県周南市との共催で, 周南市連携講座を開催 参加者: 6月23人・9月16人・11月12人
- (33) 2012年6月22~24日
舞鶴水産実験所において, NPO法人エコロジー・カフェと共催で「森里海学びツアーin舞鶴」を開催
- (34) 2012年6月25日
吉田事業所産業医が芦生研究林を巡視
- (35) 2012年6月25日, 11月29日
和歌山研究林において, 有田川町立八幡小学校との共催で, 総合的な学習の時間「森は友だち森林の町清水」を実施(5年生7人, 教諭3人)
- (36) 2012年6月27日
北海道研究林標茶区において, 標茶町立沼幌小学校との共催で木工教室を実施(生徒6人, 教諭4人)
- (37) 2012年6月30日
全日空「私の青空 オホーツク紋別空港・とっかりの森」において, フィールドセミナー(青空塾)を開催
- (38) 2012年7月1日
舞鶴水産実験所長が交代(山下洋教授 → 益田玲爾准教授)
- (39) 2012年7月1日
横山壽特定准教授が, 学際融合教育研究推進センター森里海連環学教育ユニットに着任(フィールド研企画研究推進部門 連携准教授)
- (40) 2012年7月4日
西阪理事(財務・施設担当)が舞鶴水産実験所を視察
- (41) 2012年7月8日
舞鶴市中総合会館 コミュニティホールにおいて, 第4回由良川市民講座「森・里・海の対話〜豊穡の海を育む森づくり〜」を開催(京都府中丹広域振局との共催・日本財団助成) 参加者約220人
- (42) 2012年7月8日
舞鶴市京都府水産会館において開催された「ふるさと海づくり大会」式典に, 舞鶴水産実験所が参加
- (43) 2012年7月12~13日
総務部長が紀伊大島実験所, 瀬戸臨海実験所を視察
- (44) 2012年7月14日
京都烏丸コンベンションホールにおいて, NPO法人エコロジー・カフェと共催して, シンポジウム「祇園祭とくらしの関係って? -伝統行事・文化を環境問題という視点から考える-」を開催 参加者114人
- (45) 2012年7月14日
京都大学百周年時計台記念館において, 地球環境学堂主催・森里海連環学教育ユニット共催の第13回京都大学地球環境フォーラム「リスクとつきあう」を開催 参加者約80人
- (46) 2012年7月21日~9月2日
瀬戸臨海実験所附属水族館において, 夏休みイベント「研究者と飼育係のこだわり解説ツアー」「バックヤードツアー」を毎日開催 参加者: 解説ツアー(一般)309人, バックヤードツアー(小学生以上)369人
- (47) 2012年7月23日~8月29日
瀬戸臨海実験所附属水族館において, 夏休みイベント「大水槽のエサやり体験」を毎週月・火・水曜日に開催 参加者: (小学生以上)177人
- (48) 2012年7月26日~2013年1月31日
森里海連環学教育ユニットが京都大学・日本財団共同事業協議会(第1~3回)を開催

- (49) 2012年7月27～29日
フィールド研公開講座 2012「今、森から考えるー森を伐るー」を芦生研究林において開催 参加者：一般枠32人 高校生枠5人
- (50) 2012年7月28日
北海道研究林標茶区において、ひらめき☆ときめきサイエンス「大学の森で学ぼう 2012」(模擬講義・自然観察・草木染め)を開催 参加者：小中学生8人
- (51) 2012年7月28～29日, 8月25～26日
瀬戸臨海実験所附属水族館において、夏休みイベント「海の生き物何でも相談会」を開催 参加者：7月24人, 8月22人
- (52) 2012年8月2日
協議員会を開催
- (53) 2012年8月2日, 10月11日, 11月22日, 12月27日
森里海連環学教育ユニットが, 森里海連環学(CoHHO)セミナーを開催
- (54) 2012年8月4～10日
瀬戸臨海実験所において, 公開臨海実習「発展海洋生物学」を実施(教育関係共同利用拠点事業, 他大学2人, 理学部科目「臨海実習第2部」併催)
- (55) 2012年8月5日
瀬戸臨海実験所が, 南方熊楠記念館と共催で, 2012熊楠体験自然教室「番所崎で海の生物観察」を開催 参加者16人
- (56) 2012年8月6～10日
芦生研究林および舞鶴水産実験所において, 全学共通科目「森里海連環学実習A(芦生研究林ー由良川ー丹後海コース)」を実施(11人)
- (57) 2012年8月6～10日
芦生研究林および舞鶴水産実験所において, 公開実習「森里海連環学実習A(芦生研究林ー由良川ー丹後海コース)」を実施(教育関係共同利用拠点事業, 他大学1人, 全学共通科目「森里海連環学実習A」併催)
- (58) 2012年8月11日
芦生地域有害鳥獣対策協議会の活動の一環として, 芦生研究林に設置したシカ防護ネット内のブナ芽生えの継続調査と, 新たに設定したネット外の対照区の植生調査および今後のボランティア活動についての意見交換を実施(主催: 芦生地域有害鳥獣対策協議会, 京都府南丹広域振興局/共催: フィールド研) 参加者25人
- (59) 2012年8月11～30日
瀬戸臨海実験所において, 白浜温泉旅館協同組合主催「海の中まで白浜を知っちゃおう!水族館の裏側探検」として解説ツアー(展示スペース, バックヤード)を実施 参加者17人
- (60) 2012年8月17～23日
舞鶴水産実験所において, 公開実習「海洋生物科学技術論と実習I」を実施(教育関係共同利用拠点事業, 他大学2人, 農学部科目「海洋生物科学技術論と実習I」併催)
- (61) 2012年8月19日
高知県土佐市グランディール(旧ウェディングプラザ寿苑)において, 仁淀川の再生をめざして「仁淀川の森と水を考える」シンポジウム2012を開催(仁淀川漁業協同組合主催・フィールド研後援) 参加者約300人
- (62) 2012年8月23日
吉田事業所産業医が徳山試験地を巡視
- (63) 2012年8月23～29日
舞鶴水産実験所において, 公開実習「海洋生物科学技術論と実習II」を実施(教育関係共同利用拠点事業, 他大学2人, 農学部科目「海洋生物科学技術論と実習II」併催)
- (64) 2012年8月25日
徳山試験地において, 周南市観光ボランティアガイドの会研修会を実施(一般30人)

- (65) 2012年8月27日～9月3日
瀬戸臨海実験所において、公開臨海実習「自由課題研究」を実施（教育関係共同利用拠点事業，他大学1人，理学部科目「臨海実習第1部および第4部」併催）
- (66) 2012年8月28～29日
西阪理事（財務・施設担当）が北海道研究林を視察
- (67) 2012年8月31日～9月3日
北海道研究林標茶区において，全学共通科目（1～4回生対象）「森里海連環学実習C京大・北大合同演習（夏の北海道実習）」を開講（京大10人，北大10人）
- (68) 2012年9月1日
徳地直子准教授が，里域生態系部門里山資源保全学分野の教授に着任
- (69) 2012年9月4～6日
芦生研究林，上賀茂試験地および北白川試験地において，京都大学公開森林実習－近畿地方の奥山・里山の森林とその特徴－を実施（公開実習・他大学8人）
- (70) 2012年9月7～14日
北海道研究林標茶区・白糠区において，全学共通科目「北海道東部の人と自然」を実施（3人，農学部科目「研究林実習III夏の北海道」併催）
- (71) 2012年9月15日
大阪大学総合学術博物館で開催された“日本動物学会第83回大阪大会2012”動物学ひろば「見てみよう触ってみよう－多様な動物の世界」に，瀬戸臨海実験所が参加
- (72) 2012年9月20日
京都大学北部総合教育研究棟において，全国大学演習林協議会秋季総会（当番校：京都大学）を開催（95人）
- (73) 2012年9月21日
上賀茂試験地において，全国大学演習林協議会現地見学会を実施（56人）
- (74) 2012年9月23日
京都大学ジュニアキャンパス2012において，中学生向けゼミ「ヒノキの花粉生産－ヒノキの花粉飛散量を予測しよう－」（中西 麻美助教）および「森の水はきれいな水？：森・里・海の水質くらべ」（森林育成学・森林情報学研究室 大学院生）を実施
- (75) 2012年9月23～27日
京都大学が東北復興支援学生ボランティア（第3回）を派遣（学生20人，教員・研究員3人，事務職員2人）
- (76) 2012年9月24～29日
舞鶴水産実験所において，公開実習「若狭湾秋季の水産海洋生物実習」を実施（教育関係共同利用拠点事業，京大3人・他大学7人）
- (77) 2012年9月26日
芦生研究林において，芦生地区に関する木文化プロジェクト報告会を実施
- (78) 2012年9月27日
京都大学フィールド科学教育研究センターと山口県周南市が，地域振興等に関する連携協定を締結
- (79) 2012年10月～2013年2月
2012年度新入生向け少人数セミナーを開講
・「日本海に遊ぶ」（舞鶴水産実験所）上野 正博
- (80) 2012年10月1日
全学共通科目（リレー講義）「水圏生物学入門」を開講
- (81) 2012年10月2～4日
和歌山研究林において，有田川町立八幡中学校との共催で，総合的な学習の時間「職業体験学習」を実施（2年生2人）

- (82) 2012年10月11日
キャンパスプラザ京都において、シンポジウム「森と海の未来力(ちから)～子どもたちに手渡すべきこと～」を開催(主催：NPO 法人森は海の恋人・フィールド研・フィールドソサイエティ) 参加者 250人(この中で、東北復興支援学生ボランティア(第3回)の活動を報告)
- (83) 2012年10月12日
財団法人国際高等研究所において、気仙沼舞根プロジェクト・シンポジウム「地震と津波に学び“海とともに生きる”未来創生」を開催(主催：舞根湾生物環境調査グループ・有明海再生研究会・NPO 法人森は海の恋人、共催：財団法人国際高等研究所・フィールド研・三井物産株式会社) 参加者 64人
- (84) 2012年10月15日～11月9日
芦生地域有害鳥獣対策協議会の活動の一環として、ニホンジカの捕獲を行うため、芦生研究林の平日午前9時までの入林制限を実施
- (85) 2012年10月16～17日
江島監事が北海道研究林標茶区を視察
- (86) 2012年10月20日
北海道研究林白糠区において、ミニ公開講座「自然観察・草木染め」を実施(京大ウィークス参加イベント・参加者 10人)
- (87) 2012年10月20日～2013年2月24日
白糠町エゾシカ被害防止緊急捕獲事業の活動の一環として、エゾシカの捕獲のため、北海道研究林白糠区の土日・祭日の入林制限を実施
- (88) 2012年10月20日、12月15日、2013年2月16日
瀬戸臨海実験所附属水族館において、体験学習「水族館の飼育体験」(和歌山県教育委員会「きのくに県民カレッジ」連携講座)を開催(参加者 10月14人・12月3人・2月21人)
- (89) 2012年10月21日
周南市徳山保健センターにおいて、徳山試験地が周南市と共催で、周南市・京都大学フィールド科学教育研究センター連携協定締結記念公開講座を開催(京大ウィークス参加イベント) 参加者 55人
- (90) 2012年10月27日
芦生研究林において、芦生の森自然観察会 入門編「秋の森を歩きながら樹木観察をしよう」を開催(京大ウィークス参加イベント) 参加者 22人(応募者 88人)
- (91) 2012年10月27～28日
舞鶴水産実験所が、第4回高等教育機関等合同PRフェアにおいて、魚類標本の展示とそれを用いた研究を紹介する展示を実施(入場者 1,135人)
- (92) 2012年10月27日
瀬戸臨海実験所において、「瀬戸臨海実験所 施設見学会」を実施(京大ウィークス参加イベント) 参加者 11人
- (93) 2012年11月1日
清水夏樹特定准教授が、学際融合教育研究推進センター森里海連環学教育ユニットに着任(フィールド研企画研究推進部門 連携准教授)
- (94) 2012年11月15日
財務部長が芦生研究林を視察
- (95) 2012年11月17日
上賀茂試験地において「2012年度上賀茂試験地秋の自然観察会」を開催 参加者 21人(応募者 38人)
- (96) 2012年11月18日
上賀茂試験地において、平成24年度京都市青少年科学センター 未来のサイエンティスト養成事業秋冬コースの小中学生に対して、講義と自然観察を実施 参加者 22人(応募者 40人)

- (97) 2012年11月22日
 芦生研究林において、「知ろう、守ろう芦生の森－芦生の森探索とシカ防護ネット設置ボランティア活動－」の一環として、芦生の森に設置したシカ防護ネットを下ろす作業及び植生観察等を実施(主催：芦生地域有害鳥獣対策協議会，京都府南丹広域振興局／共催：フィールド研他) 参加者14人
- (98) 2012年11月30日
 水産・臨海・臨湖実験所フィールド実習ワークショップ「魅力ある，効果の高いフィールド実習を考える」を実施(参加者21人)
- (99) 2012年12月2日
 百周年時計台記念館において，森里海連環学教育ユニットと共催で，京都大学フィールド科学教育研究センター10周年記念プレシンポジウム「流域研究と森里海連環学」を開催 参加者約200人
- (100) 2012年12月5～14日
 芦生地域有害鳥獣対策協議会の活動の一環として，ニホンジカの捕獲を行うため，芦生研究林の平日午前9時まで(12月5日および12日は終日)の入林制限を実施
- (101) 2012年12月8日
 北部総合教育研究棟において，芦生地域有害鳥獣対策協議会他と共催で，「知ろう，守ろう芦生の森シンポジウム－豊かな森の再生に向けて－」を開催 参加者約140人
- (102) 2012年12月11日
 瀬戸臨海実験所において，防災訓練を実施
- (103) 2012年12月22日～2013年1月7日
 瀬戸臨海実験所附属水族館において，冬休みイベント「研究者と飼育係のこだわり解説ツアー」「バックヤードツアー」を毎日開催 参加者：解説ツアー(一般)81人，バックヤードツアー(小学生以上)107人
- (104) 2013年1月19～20日
 北海道研究林標茶区において標茶町教育委員会「しべちャアドベンチャースクール」第5ステージを開催(北海道研究林共催)(参加者20人)
- (105) 2013年1月31日
 江島監事が芦生研究林を視察
- (106) 2013年2月8日
 協議会を開催
- (107) 2013年2月8～11日
 芦生研究林において，全学共通科目「暖地性積雪地域における冬の自然環境」を開講(16人)
- (108) 2013年2月17～23日
 北海道研究林標茶区において，全学共通科目「北海道東部の厳冬の自然環境」を実施(6人，農学部科目「研究林実習IV冬の北海道」併催)
- (109) 2013年2月27日
 運営委員会を開催
- (110) 2013年2月27日
 京都大学渉外部情報発信事業として，α-STATION FM京都「SUNNYSIDE BALCONY Kyoto University Academic Talk」にフィールド研から益田玲爾准教授が出演
- (111) 2013年3月2～9日
 瀬戸臨海実験所において，公開臨海実習「海産無脊椎動物分子系統学実習」を実施(教育関係共同利用拠点事業・京大3人，他大学9人)
- (112) 2013年3月9日
 舞鶴市政記念館において，舞鶴水産実験所が「舞鶴・海のつながりフォーラム」を開催 参加者180人
- (113) 2013年3月11～12日
 文部科学省大臣官房文教施設企画部が和歌山研究林の災害状況について，現地調査を実施

- (114) 2013年3月14日
西阪理事(財務・施設担当)が上賀茂試験地を視察
- (115) 2013年3月15～20日
瀬戸臨海実験所において、公開臨海実習「藻類の系統と進化」を実施(教育関係共同利用拠点事業・他大学3人、理学部科目「臨海実習第3部」併催)
- (116) 2013年3月16日
かでの2・7(札幌市)において、第8回京都大学附置研究所・センターシンポジウムを開催 参加者約480人
- (117) 2013年3月17～22日
京都大学が東北復興支援学生ボランティア(第4回)を派遣(学生28人、教員2人、事務職員2人、技術職員1人)
- (118) 2013年3月18日
津田副理事(宇治・遠隔地キャンパス担当)が北海道研究林標茶区を視察
- (119) 2013年3月21日
芦生研究林において、第1回芦生の森ガイド連絡会を開催(参加者31人)
- (120) 2013年3月21～26日
舞鶴水産実験所において、公開実習「若狭湾春季の水産海洋生物実習」を実施(教育関係共同利用拠点事業、京大3人・他大学10人)
- (121) 2013年3月23～31日
瀬戸臨海実験所附属白浜水族館において、「研究者と飼育係のこだわり解説ツアー」「バックヤードツアー」「大水槽えさやり体験」を毎日開催(参加者:解説ツアー(一般)50人、バックヤードツアー(小学生以上)65人、エサやり体験(小学生以上)98人)
- (122) 2013年3月25～30日
瀬戸臨海実験所において、公開臨海実習「海産無脊椎動物多様性実習」を実施(教育関係共同利用拠点事業、京大1人・他大学7人、全学共通科目「生物学実習II[海洋生物学コース]」併催)
- (123) 2013年3月25～30日
瀬戸臨海実験所において、全学共通科目 生物学実習II [海洋生物学コース]を実施(9人)

2. 各施設等における活動の記録

(1) 各施設等の活動概要

1) 芦生研究林

芦生研究林長 長谷川 尚史

■教育研究

2012年度における芦生研究林の利用者総数は延べ11,082人であり、311人の増加であった。実習等の教育利用者数は1,785人で、うち学内利用が22件と前年と同数、他大学の利用は1件で2件減少した。また研究利用者数は1,985人であり、学内利用が34件、他大学等が17件といずれも微増した。学生実習のうち2件はフィールド研が主催し、全国の大学から学生を募集して行われた。全国大学演習林協議会と連携して開催された公開森林実習では、7大学（東京農工大学、お茶の水大学、信州大学、静岡大学、三重大学、鳥取環境大学、島根大学）から8人の学生が参加し、うち1人は特別聴講生として協定に基づく単位互換手続きが執られた。森里海連環学実習Aでは、学内6学部12人のほか、他大学から1人の学生が参加した。

教育研究として、本年もシカによる植生変化に関する一連の教育研究事業を実施した。上谷の一流域において13haの集水域全体を防除柵で保護する試験が行われており、設置後6年を経過して回復が顕著になった植生のモニタリングとともに、水質に関するモニタリングも継続して実施し、卒業論文等の作成に活用された。また本年度は、概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業」において下谷流域の伐採試験地（スギ一斉人工林）でも、間伐・搬出を行うと同時に一部にシカ柵を設置し、間伐による植生や水質の変化を計測するとともに、そのシカの影響を観測する試験を開始した。シカによる食害が著しい芦生研究林では、このような防鹿柵の設置と管理は、教育研究を実施する上で大変重要な業務となっており、本年度も研究林職員が積極的に柵の維持管理作業の補助を行った。

一方、フィールド研の研究プロジェクトである林内の実生発生調査および採水・水質調査を継続したほか、温帯林最大規模の長期生態系調査プロットである16haの集水域における20年目の毎木調査を実施した。さらに、動物調査用センサーカメラを3台購入し、林内に設置し、自動撮影による動物の生息調査を開始した。

■社会連携

フィールド研主催事業として第22回芦生公開講座「今、森から考える」を開催した。本年のテーマは「森を伐る」とし、一般参加と高校生グループ参加を合わせて37人が参加した。また芦生研究林主催事業として「芦生の森自然観察会」を春と秋に企画した。共同開催事業としては、自然体験教室（美山町内小学校第4学年）、宿泊体験学習（美山中学校）、郊外森林体験実習プログラム（京都府立北桑田高校）、サマーチャレンジ（洛南中学校）、フィールドワーク研修（大阪府立住吉高校）が行われた。公共団体等が主催する教育講座として、地域の宿泊施設である芦生山の家、美山町自然文化村、針畑ルネッサンスセンターからのガイドツアーを引き続き受け入れたほか、NPO法人や地方自治体が主催する各種の市民講座へのフィールド提供と研究林内での講義、研修への協力などを行った。さらに、芦生地域有害鳥獣対策協議会によるボランティア活動に協力するとともに、北部構内において開催されたシンポジウム「知ろう、守ろう芦生の森—豊かな森の再生に向けて」を共催した（参加者約140人）。本年度の報道関係等からの取材件数は5件であった。

芦生研究林では平成9年にガイド養成講座を開催し、16人の認定ガイドによるガイドツアーを受け入れてきたが、15年が経過し様々な問題が生じてきたことから、本年度にガイド連絡会を組織し、今後に関する意見・情報交換を行う場を設けた。

■施設の特記事項

過去のナラ枯れ被害木の倒木、枝の落下が多くなっていることから、歩道沿いの枯死木の伐倒を行うとともに、一般入林者の入林規則を改定した。また現在、芦生研究林周辺が新たな国定公園として指定される方向で調整が行われており、地権者や地域住民等の関係者を交えた協議を行った。一方、芦生研究林の地上権契約期間は2020年までであり、地権者の見学会（参加者約50人）および地権者との会合を開催し、契約延長等に関する協議を行った。

2) 北海道研究林

北海道研究林長 舘野 隆之輔

■教育研究

北海道研究林は、釧路湿原、阿寒、知床の3つの国立公園と至近距離にあり、2012年度もその地理的特性を生かした教育研究が行われた。2012年度は教育利用7件、研究利用19件、その他利用2件の合計28件の利用申請を受け付け、延べ1,468人の利用を受け入れた。

教育利用は、全学共通および農学部の実習が3回と少人数セミナー1回が行われ、延べ567人の利用があった。「森里海連環学実習C」は北海道大学厚岸臨海実験所と共同で行い、8月31日～9月6日の7日間の日程で、本学の教育学部、薬学部、理学部、工学部、農学部、1～2回生10人と、北海道大学の理系総合学部、文系総合学部、農学部、理学部、工学部、医学部、1回生10人の計20人が参加し、自然度が高い別寒辺牛川の最上流部に近い標茶区から、牧草地として使われている中流、そして下流の厚岸湖にいたる流域の植生、土壌、水質、水生生物調査を通じて、森-里-海-の繋がりについて学んだ。「北海道東部の人と自然・研究林実習III」は、9月7～14日の8日間の日程で農学部、理学部、法学部の1～3回生9人が参加し、北方の森林・湿原植生、森林の垂直分布や火山性土壌、道東の林業・林産業の現況を学ぶとともに間伐施業などを実践した。「北海道東部の厳冬期の自然環境・研究林実習IV」は、2月17～23日の7日間の日程で農学部、文学部、法学部、理学部、薬学部、総合人間学部1～3回生21人が参加し、季節凍土が発達する道東において、冬の森林、積雪・凍土の調査法を修得し、環境資源としての森林の役割や持続的な管理について学んだ。

また2012年度は、北海道研究林において、数年ぶりに少人数セミナーが8月5日～9日の5日の日程で開講された。少人数セミナー「北海道の森林」では、文学部1人、経済学部2人、工学部2人、農学部1人、総合人間学部1人の計7人が参加し、植生と環境条件との関わりに野外観察や調査を通して学び、また間伐などの林業体験を行った。

研究利用は、19件の申請を受け付け、延べ674人の利用があった。本学10件延べ569人、他大学4件延べ18人、他機関2件延べ5人、一般3件延べ82人で、研究内容は森林の植生や物質循環など多岐にわたった。なお2012年度は、農学研究科に所属する学生が修士論文研究課題のために長期滞在して研究を行った。

■社会連携

社会連携として、5件の催しを実施し、延べ149人の利用があった。研究林主催により標茶区で行ってきたミニ公開講座「自然観察・草木染め」を、今年度は日本学術振興会の研究成果の社会還元・普及事業「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」の一環として、「大学の森で学ぼう2012」と題して小学生(5・6年生)と中学生を対象として行った。開催日は、7月28日(土)で、参加者は8人(中学生5人、小学生3人)で標茶町内から3人、釧路市内から5人であった。実施代表者の舘野と実施分担者の北海道研究林職員8人に加えて、京都から農学研究科森林情報学分野院生1人が実施協力者として、プログラム実施に携わった。また当日は地元新聞社2社の2人、学術振興会から事業担当の委員と職員の2人、保護者1人の参加があった。

また研究林主催による白糠区で行ってきたミニ公開講座「自然観察・草木染め」を、今年度は京大ウィークスの一環として行った。開催日は、10月20日(土)で、参加者は10人であった。

沼幌小学校との共催の「木工教室」は、6月27日に開催し小学生6人が参加し、子供たち自らがデザインした様々な作品を作りあげた。標茶町教育委員会との共催の「しべちゃアドベンチャースクールジュニアリーダー養成講座」は、1月19～20日に開催し、小学生13人中学生1人高校生2人が参加し、スノーシューを着用して冬の樹木の様子や雪上の動物の足跡を観察した。

■施設の特記事項

今年度は、社会連携活動において、日本学術振興会の研究成果の社会還元・普及事業「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」や京大ウィークスなど他の行事の一環として行うことで、地元の北海道新聞に募集広告の掲載や釧路駅にポスター掲示を行う費用を獲得し、広報活動の対象範囲を従来より広げて行うことが出来た。また引き続き、北海道林業試験場との共同研究や森林総合研究所北海道支所の「北海道野生生物観測ネットワーク」への参加など外部研究機関と連携した調査研究を行っている。

3) 和歌山研究林

和歌山研究林長 徳地 直子

■教育研究

和歌山研究林は、2012年度に5件の研究利用申請を受け付け、延べ87人の研究利用を受け入れた。学内からの利用はフィールド研教職員や農学研究科からの利用が中心であった。大学関係以外からは、地元和歌山県下からのさまざまな研究者の利用がみられた。主な利用者の組織は、和歌山県教育庁生涯学習局文化遺産課、日本野鳥の会和歌山県支部であった。

一方、教育利用としては6件、申請を受け、許可した。延べ143人の利用があった。学外の利用は有田川町内の小中学校および高等学校による体験学習であった。県立有田中央高等学校清水分校によるウッズサイエンスでは、年間を通じて合計11回の利用があった。中学校からは有田川町立八幡中学校の職業体験学習を、小学校からは同町立八幡小学校の授業をそれぞれ受け入れ、共に技術職員を中心とする対応が行われた。

■社会連携

上述した地元小中高等学校に対する事業は、和歌山研究林が社会連携事業として主体的に行っているものである。なかでも、県立有田中央高等学校清水分校では研究林を用いた正規の授業が行われており、「ウッズサイエンス」と名付けられている。また、「SIMIZU タイム」(森林ウォーク)という課外授業も行った。同町立八幡小学校は「森は友だち森林の町清水」という授業を行っており、地元の自然を見直す体験学習を行っている。

■施設の特記事項

2011年9月3日に高知に上陸し日本列島に壊滅的な被害を及ぼした台風12号により研究林の幹線道路はほぼ壊滅的な被害を受けており、自力での復旧は困難を極めている。大型機械も失われたが、2012年度は台風による被害のため前年度に研究林より約4km下流に仮移転した事務所を本拠として、レンタルした機器を用いて公道からアクセス可能な11林班での作業を進めるなど、できる限りの業務を行った。そのような中、2012年11月には大学本部による視察が行われるなど、復旧のための取り組みについて協議が重ねられた。3月には文部科学省への復旧申請が行われ、2013年度から復旧工事が開始されると期待している。

4) 上賀茂試験地

上賀茂試験地長 安藤 信

■教育研究

上賀茂試験地では、2012年度の利用申請が計54件あり、教育研究に、市民の見学等の利用も加えると延べ2,494人が訪れた。

教育に関しては18件の申請があり、利用者数は791人であった。内訳は、フィールド研、農学部森林科学科、農学研究科地域環境科学専攻、大学院地球環境学舎等の学内の利用が11件で、学外は京都府立大学、京都教育大学、京都精華大学、京都造形芸術大学等によるものであった。また、他大学の学生を対象にした「公開森林実習－近畿地方の奥山・里山の森林とその特徴－」は3回目となり、6大学から8人の参加があった。

研究に関しては21件の申請があり、利用者数は516人であった。

■社会連携

社会連携活動として、2012年度も春と秋に2回の自然観察会を開催した。春の観察会には19人、秋には21人の参加があり、応募者にはリピーターも多い。これらの活動以外にも、京都市青少年科学センターの「未来のサイエンティスト養成講座」、総合地球環境学研究所の「地球環境学の扉」など、学内外の諸団体が主催する観察会等を積極的に受け入れた。

■施設の特記事項

試験地周辺では、近年の急速な宅地化にともない、境界部の森林管理が問題になってきている。2012年度も、14、15、16林班の危険木75本16m³を、境界支障木として伐採した。

2000年代半ば以降に再び被害が発生しているマツ枯れは、依然として、150本35m³の被害量があった。

ナラ枯れは、前年度より大きく減少し、38本18m³の被害量となった。被害木は伐倒、玉切り、集積するとともに、一部は薪ストーブの燃料として活用した。外国産ナラ類など、とりわけ貴重な見本樹については、樹幹注入剤の使用も併用して保護に努めている。

講義室、実験室、標本室の耐震工事が実施された。標本室は、工事に伴い、間仕切りし収納部屋を設けた。また、杉木皮葺きの玄関屋根の修繕及び、屋根と壁の塗装も併せて行われた。標本類は、現段階では一般展示用のものと学術上貴重なもの、整理段階の資料が混在する。展示物を整理し、利用しやすい展示方法の検討を開始した。

5) 徳山試験地

徳山試験地長 中島 皇

■教育研究

「瀬戸内に見る森里海連環」(少人数セミナー(ポケゼミ):全学共通科目)の実施

昨年同様に、3泊4日(8月4～7日)の日程で実施された。今年はキャンセルもなく、7人(文1(1)、法2、教1、工2、農1(1):カッコは女子数)の1回生が参加した。例年の徳山試験地と末武川の源流から瀬戸内海(大島干潟)までのフィールドに加え、2日目の宿泊には大田原自然の家(周南市の施設:昭和46年に休校になった大田原分校)の利用を試みたため、市の北部に広がる人工林も見学し、昔の分校での宿泊体験が出来た。また、地元出身で京大生の先輩でもある九州大学の柳哲雄先生がゲスト参加し、昔の末武川河口域の話や海の研究について紹介頂いた。

檜皮実験林調査(最終年)

この調査は、檜皮採取のための剥皮が樹木の成長に及ぼす影響を調べる全国大学演習林共同研究の一環である。徳山試験地では1998年2月に調査木の設定がなされ、設定後5年、10年、15年に剥皮木と無剥皮木を伐倒し、樹幹解析を行って剥皮の影響を調べる調査が継続されていた。今回、2013年1月が最終調査のための伐倒となった。サンプル木の円盤は専門家のいる担当大学に送られ、データの読み取りや解析が進行中で、今後最終結果が出る予定である。これまでの調査結果では、剥皮によると考えられる樹木成長への顕著な影響は認められていない。

■社会連携

周南市との連携協定締結

木村健一郎周南市長と柴田昌三センター長が2012年9月27日に協定書にサインをして、連携協定を締結した。協定書の主な内容は「地域創造・地域振興および教育・研究の発展を目的として、それぞれの自主性に基づいて、相互の交流・連携を図るもの」で、具体的な項目については、「森里海連環学を基礎とした地域創造・地域振興に関すること」など、別に取り決めを交わしている。

周南市連携公開講座(京大ウィークス2012)と連携講座他

今年度の連携公開講座は京大ウィークス2012として市役所の向かいにある保健センターで、森里海連環学に関する講演会とフィールド研を紹介するポスター展示を行った。参加者は47人。周南市以外からの参加もあった。連携講座は、昨年度に続いて第4回から第6回(年3回)を実施し、参加者は合計で51人であった。この他、周南市観光ボランティアガイドの会の研修会(参加者30人)が8月25日に実施された。

6) 北白川試験地

北白川試験地長 吉岡 崇仁

■教育研究

北白川試験地は、フィールド研の施設の中で唯一本学キャンパス内に所在する施設であることから、研究室に直結した研究が可能であり、その立地を活かした教育・研究利用ができる。2012年度には、24件の研究利用、6件の教育利用、合計30件の利用申請を受け付け、年間利用者数は、延べ1,559人であった。例年のように部局内と農学研究科からの利用が中心であったが、これらに加えて、学内からの利用として教育学研究科、理学研究科、地球環境学堂からの利用があった。学外からは、昨年から引き続き京都学園大バイオ環境学部からの利用があった。2012年度の利用内容は、昨年度と同様であり、ヒノキ枝葉採取、土壌のサンプリング、植物観察等の実習や、苗畑を利用した植栽試験や温室内の鉢植えによる樹木類を中心とする植物の育成試験などであった。また、9月4日から6日の日程で実施された他大学を対象とする京都大学公開森林実習の一環として、東京農工大学、お茶の水女子大学、信州大学、静岡大学、三重大学、鳥取環境大学、島根大学の学部生（計8人）による実習利用があった。

■施設の特記事項

2012年度は、通常業務として、見本樹の剪定、草刈り、境界木の剪定等を行った。4月には、試験地内のセンペルセコイアが、台風並に発達した低気圧による強風により幹折れして、試験地東側にある農学部グラウンドのフェンス上に落下しフェンスを破損した。同時に試験地内に1本しかないメラノキシロンアカシヤも根返りをおこした。かろうじてぼう芽枝があったので周辺保存して育成していたが、結局枯死してしまった。マツクイムシの被害でアカマツ2本も枯死してしまったので直営で伐採した。大径木のヒマラヤゴヨウ、アマミゴヨウ（ヤクタネ）が枯死してしまったが、試験地内にはそれぞれ1本しかなく現在、後継樹を探している。また、高所作業車をリースし、上賀茂試験地技術職員の協力を得て大径木のアメリカニレも伐採した。今後、試験地内に1本しかない樹木やレッドリストの絶滅危惧種であるアマミゴヨウ等の後継樹の育成に取り組む必要がある。

7) 紀伊大島実験所

紀伊大島実験所長 梅本 信也

■教育研究

紀伊大島実験所は2004年度以来継続している古座川プロジェクトの拠点であり、その具体的な展開である古座川合同調査を実施する植物班、シダ類班、きのこ班、聞き書き班、文化班、河川班、ダム班、水害班など、官民学諸班の参加者間の連絡調整、情報交換、議論、資料閲覧、簡易宿泊の場として2012年度も積極的に活用された。古座川合同調査は毎月開催され、4月の第77回調査から翌年3月の第88回調査まで本年度も合計12回実施された。古座川合同調査は当センターの3大柱のひとつである地域連携を前提に行っており、次項に述べる社会連携と不可分の関係にある。合計12回の調査内容の一部は「古座川合同調査報告集 第7巻」(本文は2段組で326ページ)として出版された。こうした活動に関連して、夏季に古座川流域等を対象に実施される集中講義や少人数セミナー等実習用に「里域食文化論入門 II」「紀伊半島南端の植物」を刊行した。古座川プロジェクトの展開を円滑にするために、和歌山県が主体運営する古座川流域協議会や地域行政諸機関、古座川内水面漁協、和歌山東漁業協同組合各支所との連絡調整を行った。

8月には地球環境学舎院生向け「里域植生保全論」(宿泊型集中講義)、1回生向け少人数セミナー「森里海のつながりを清流古座川に見る」(宿泊型集中講義)、9月には農学部2回生向け「植物調査法と実習」(宿泊型集中講義)、1回生向け少人数セミナー「地域連環学入門」(宿泊型集中講義)が行われた。

■社会連携

紀伊大島実験所は、従来の教育、プロジェクト研究、教員研究、地域貢献を意識しての諸活動を、フィールド研と統合した後は、教育・研究・社会連携に書き換えて、さらに関係地域や分野を拡大して活動している。2012年度の延べ利用者数は1,200人前後、一般訪問者、講義実習関係の学生院生、教員や研究者、行政機関職員、マスコミ関係者からの利用は毎月30人前後である。

■特記事項

1999年に紀伊大島は本州と串本大橋により地続きとなったが、その副産物として島内にイノシシが侵入・増殖し、島民の生活に甚大な被害をもたらしている。和歌山県鳥獣保護区である当実験所が有する希少な植生、たとえばショウガ科アオノクマタケラン、も被害を受けているため、2009年初夏から保護区規制を一部解除して和歌山県、串本町、当実験所等が共同で捕獲作戦を展開し、徐々にではあるが個体群減少などの成果が表れ始めている。串本町、串本町猟友会と共同で当実験所を特別な捕獲エリアとし、捕獲檻を4基設置してイノシシ捕獲作戦を実行し、2011年度には合計8頭、2012年度にも8頭の捕獲に成功した。

8) 舞鶴水産実験所

舞鶴水産実験所長 益田 玲爾

■教育研究

2012年度に舞鶴水産実験所里海生態保全学分野に所属する大学院生の数は、修士課程5人、博士後期課程6人である。これに加えて、プロジェクトによる研究員3人を擁する。

本年度に実験所の教職員・大学院生が発表した論文は、英文国際誌17編、和文誌・著書等13編、学会における講演数は46（うち国際学会10）であった。この他、教員と共著の研究において、博士後期課程3年の大畑亮輔さんが生態学会における最優秀ポスター賞に選ばれ、研究員の高橋宏司さんの論文が日本水産学会の論文賞を受賞するなど、研究および大学院教育が高いレベルで行われていることの裏付けとなった。

外部資金により舞鶴水産実験所の実施しているプロジェクトは、「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業」「舞鶴湾におけるアサリ資源再生方策に関する研究」「国家基幹研究開発推進事業：沿岸海域複合生態系の変動機構に基づく生物資源生産力の再生・保全と持続的利用に関する研究」「東北マリンサイエンス拠点形成事業」「戦略的創造研究推進事業・特定課題研究：海洋生物多様性および生態系の保全・再生に資する基盤技術の創出」である。さらに、2人の大学院生が科学財団の研究補助金を獲得し、研究に対する大学院生の積極的な姿勢が評価される。

前年度から採択された教育関係共同利用拠点としての活動は、2012年度から本格的に始動した。本年度は、京都大学の実習3コースに加え、公開臨海実習5コースを開催し、また他大学の実習4コースを受け入れた。さらに、共同利用研究として、全国の10大学の学生および教職員による利用があった。

■社会連携

地域社会との連携活動として、催しなどへの協力、保育所・幼稚園・小・中・高等学校の生徒に対する出前授業などを行った。これらの中には、サイエンスパートナーシッププログラム（SPP：京都府立南陽高校、同西舞鶴高校）、スーパーサイエンスハイスクール（SSH：京都教育大学附属高校、兵庫県立神戸高校）、見学学習（京都府立海洋高校）などが含まれる。地域との主な連携活動として、由良川市民講座、舞鶴市京都教育機関等合同PRフェア、舞鶴・海のつながりフォーラムなどを主催または協力、参加した。このほか、当実験所教員が京都府漁業調整委員、舞鶴市チャレンジファンド委員会委員などを担当し、京都府北部地域や舞鶴市の地域産業の活性化において重要な役割を担った。

■施設の特記事項

舞鶴水産実験所における最も大きな課題は、水産実験所の教育研究活動の核となる緑洋丸の代船建造である。本船は平成2年3月に竣工してからすでに24年目に入っており、船体や機関などの不具合の発生件数はますます増加しつつある。安全な教育環境を維持するためにも、早期の代船建造が強く求められる。また、平成14年3月に建てられた研究棟も軽量鉄骨による簡易的な建造物であり、耐久性が低いことから、今後長期間使用できるとは考えられない。同時期に建設された飼育棟も、既に老朽化が進み、台風で倒壊する危険性もある。これらについては、できるだけ早く鉄筋コンクリート製の建物を建築する必要がある。

9) 瀬戸臨海実験所

瀬戸臨海実験所長 朝倉 彰

■教育研究

瀬戸臨海実験所では、理学研究科の協力講座(海洋生物学分科)として、大学院生を受け入れている。2012年度の構成は、修士1人、修士2人、博士3人である。その他に農学研究科から委託研究学生として博士1人を受け入れた。また、日本学術振興会の特別研究員(ポスドク)1人、神戸大学からの修士1年の指導委託学生を受け入れた。理学部の学部生を対象としては、夏期に2コース、春期に3コースの臨海実習を行った。それぞれ、1週間程度の期間、実験所の周囲の環境を利用し海洋環境から生物自体まで幅広い分野を教えた。また少人数セミナーを3コース開催した。

海洋生物の自然史科学に関わる人材育成を通じた高等教育の充実に対する貢献への期待と、長年にわたる他大学臨海実習受け入れの実績から、昨年度から5年間、文部科学省から教育関係共同利用拠点(事業名:黒潮海域における海洋生物の自然史科学に関するフィールド教育共同利用拠点)に認定され、本年度が本格的なスタートとなった。そのための研究員2人を雇用し、また実習に必要な消耗品類の整備を行った。この事業によって、公開臨海実習5科目を実施し、他大学による臨海実習を10件受け入れた。

■社会連携

瀬戸臨海実験所の最大の社会連携は水族館の通年公開であり、延べ69,057人の入館者があった。それ以外には、上記の教育関係共同利用拠点事業のほか、高等学校・中学校の実習・学習コースを10コース実施した。

2012年度には1つの研究集会(海洋酸性化勉強会)が瀬戸臨海実験所で実施された。

その他の社会連携として、各種の団体への委員会において重要な役割を果たし、研究成果などの社会への還元に貢献した。

■施設の特記事項

5月30～31日に、全国臨海臨湖実験所所長会議を行い各実験所所長30人の研究者と文部科学省の高等教育局から1人の参加があった。5月30日には各実験所からの活動報告があったほか、学術交流会「生物多様性学の最前線:臨海臨湖実験所の取り組み」が開かれた。5月31日は文科省からの拠点事業に関する講義ほかがあり、活発な討論が行われた。

南海トラフ大地震とそれに続く大津波を想定しその対策を行った。避難誘導マニュアルの日本語版、英語版を作成し、所員および実験所利用者などに配布した。南方熊楠記念館に協力を依頼し、緊急の避難所にしていただき、また緊急時の食料と飲み物を備蓄してもらった。

なお、実験所の研究教育活動、および水族館での展示のため、魚類・無脊椎動物を以下の方から受贈した。記して謝意を示したい。

魚彦水産(白浜町)・日高明宏さん・湯川五郎さん(みなべ町)・真鍋豊守さん(白浜町)・小谷喬崇さん(みなべ町)・佐田章さん(田辺市)・遊佐陽一教授(奈良女子大学)・真鍋正さん(白浜町)・鈴木博之さん(白浜町)・大江富夫さん(白浜町)・岡本昭生さん(白浜町)・荒賀忠一さん(白浜町)・田上拓也さん(田辺市)・真鍋巒さん(白浜町)・岩城金吾さん(白浜町)・松崎隆治さん(みなべ町)・百合まさひろさん(白浜町)

(2011年1月から2012年3月まで)

樫山嘉郎さん(白浜町)・佐田空斗さん(田辺市)・佐田有飛さん(田辺市)・岩本孝寛さん(白浜町)・真鍋正さん(白浜町)・真鍋巒さん(白浜町)・島和敏さん(白浜町)・刑部全晃さん(三重県)・岡本昭生さん(白浜町)・荒賀忠一さん(白浜町)・山名祐介さん(和歌山県立自然博物館)・片山博之さん(白浜町)

(2012年度)

10) 森里海連環学教育ユニット

森里海連環学分野 連携教授 向井 宏

■教育研究

2012年度から、公益財団法人日本財団との共同事業として、京都大学学際融合教育研究推進センターの中に森里海連環学教育ユニットを設立した。このユニットは、森里海連環学を基盤として国内外の環境問題に取り組むことのできる国際的な人材を育成する目的で、農学研究科、人間・環境学研究科、地球環境学堂・学舎とフィールド研の協力によって設立された。このプログラムは京都大学のすべての大学院生を対象として、2013年度から開始される予定である。2012年度は、森里海連環学教育プログラム開始に向けたさまざまな準備に取り組んだ。まず、ユニットの専任教員として、向井宏特任教授、佐藤真行特定准教授が、前年までのフィールド研海域陸域統合管理学研究部門を辞して、ユニットに所属、あらたにユニットの支援室に林晴夫特定職員を雇用、研究員として安佛かおり、宋泳根の2人、教務補佐員に大嶋真謙、事務補佐員に富田寿子、上田美保子を雇用し、新しい体制で教育プログラムの準備に取り組んだ。佐藤真行は、5月末で神戸大学に転任し、その後任として横山壽が特定准教授として赴任した。また、11月からは清水夏樹が特定准教授として赴任した。年度末の2月末日に、宋泳根研究員がソウル大学（韓国）の研究員に転任した。

森里海連環学教育ユニットは、本来大学院生を対象とする教育と研究に取り組む教育組織であるが、同時に前年に引き続き全学共通教育の一環として「森林学」「森里海連環学」「水圏生物学入門」を開講した。昨年まで開講していた「沿岸環境保全学」は、中止した。それぞれの2012年度の受講生は、58人、119人、271人であった。また、「森里海連環学実習 A, C」の2コースを実施した。実習のAコースは、全国公開実習の学生1人とともに京都大学の学生12人が参加して行われた。Cコースは北海道大学との共同実習として北海道大学生10人と京大生10人が参加して行われた。

研究面では、フィリピンにおける森里海連環学とジュゴン個体群保全の研究に、向井宏特任教授が従事、また、横山壽特定准教授は、ナマコとマダイやマガキとの複合養殖に関する研究論文を執筆・投稿するとともに、東北震災後出現した気仙沼の塩性湿地における環境と底生動物に関する調査を行った。安佛かおり研究員は、海水と淡水の境界をなす、河口域の生態学的機能をとくに基礎生産者に着目して特徴づけるために、夏季に塩水くさびの侵入がみられる丹後海流入河川由良川で、塩分・クロロフィル・栄養塩等の分布と基礎生産量の季節変化を調べた。清水特定准教授は、地域資源を活用した地エネルギー（主としてバイオマスエネルギー）の生産・利用システムの各段階の担い手に着目し、物質循環・人の循環の実態・可能性について、産業・雇用条件および地域の社会的条件に関する調査研究を行った。

■社会連携

2012年度、森里海連環学教育ユニットは、日本財団の助成を受けて、2ヶ所（京都府舞鶴市と京都市）で地域連携講座を開催した。まず、2012年7月8日に、舞鶴市中総合会館において、「第4回由良川市民講座」と銘打って「森・里・海の対話～豊穡の海を育む森づくり～」というシンポジウムを開催した。参加者は、約200人であった。また、12月2日には、フィールド研が年度末に10周年を迎えることから、10周年プレシンポジウムとして「流域研究と森里海連環学」と題したシンポジウムを開催した。京都大学百周年時計台記念館2階の国際交流ホールを会場とし、約200人の聴衆が参加した。

■特記事項

1. 学生ボランティアの派遣：2011年度から始まった京都大学主催の東北復興支援学生ボランティアが、2012年度にも8月および3月の2度にわたって派遣され、森里海連環学教育ユニット（横山壽特定准教授）は、フィールド研徳地直子教授とともに実務的な任務を担った。農学研究科等事務やフィールド研教員・技術職員らの協力を得て、現地視察、ボランティア計画立案、ボランティア募集業務（各回約25人の組織）、広報、ガイダンスなどを行い、研究ボランティアについては、助言と指導を行った。
2. CoHHOセミナー（森里海連環学を英語で、The study on the Connectivity of Hills, Humans and Oceans, CoHHOと訳すこととした）：前年度までのICMセミナーを改称しCoHHOセミナーを4回行った。新しく発足した森里海連環学教育ユニットを受けて、CoHHOセミナーは、「森里海連環学」を中心テーマに、新しい構成員による研究の紹介と森里海連環学への取り組みについての議論が中心となった。参加者はそれぞれ12, 11, 16, 15人であった（発表者及び演目、日程は、3章（p.96）掲載の記録を参照）。

11) 森里海連環学プロジェクト支援室

森里海連環学プロジェクト支援室長 吉岡 崇仁

■特記事項

森里海連環学プロジェクト支援室では、室長、副室長、特定研究員2人、技術職員1人、研究支援推進員1人の6人体制で、森林生態、物質循環に関する野外調査、試料分析に加えて、社会調査の実施支援を行った。主に、木文化プロジェクトにおいて実施された仁淀川および由良川流域の調査と採取試料の処理、溶存物質・懸濁物質の分析を行ったほか、社会調査に関しては、仁淀川町および美山町の森林組合員（森林所有者）を対象として意識調査を実施した。また、木文化サロンセミナー「高知の森からバイオマス利用を考える」を開催した。木文化プロジェクトの2012年度の報告会の実施が2013年度早々となり、これに代えて、12月2日開催のフィールド研10周年記念プレシンポジウム「流域研究と森里海連環学」でその成果を報告することとしたため、支援室としてシンポジウム開催の支援とパネル展示を行った。また、日本森林学会第124回大会では、室員がテーマ別シンポジウム「森林資源の積極的な利用に伴う生態系サービス間のトレードオフ：森林管理と流域管理のバランスポイントを探る」（2013年3月26日）を企画し、木文化プロジェクトに関する成果発表を行ったほか、他の講演者から関連する研究成果が紹介され、有意義な議論を展開することができた。2012年度の調査等の日程及び分析等の業務は以下の通りである。

<木文化仁淀川プロジェクト>

- ・2012年4月～2013年3月 仁淀川上流域における植生調査・間伐実験調査・渓流水調査 計10回

<木文化由良川プロジェクト>

- ・2012年4月～12月 芦生研究林・下谷調査および伐採・シカ柵設置 計40回
- ・2012年4月～11月 芦生研究林・渓流水・雨水および土壌調査 計13回
- ・2012年4月～2013年3月 由良川・丹後海調査 計6回
- ・2012年6月, 11月, 12月 芦生研究林・下谷・長治谷の鳥類調査 計3回

<木文化プロジェクト社会調査>

- ・2012年4月, 7月, 2013年1～2月 仁淀川プロジェクト社会調査 計3回
- ・2012年10月 森とくらしに関するアンケート（仁淀川町, 美山町）実施
- ・2012年12月 「美山町の森とくらしに関するアンケート（速報版）」を公開
- ・2013年1月 「仁淀川の森とくらしに関するアンケート（速報版）」を公開

<木文化プロジェクト関連会議>

- ・2012年6月14日 木文化サロンセミナー「高知の森からバイオマス利用を考える」を開催
- ・2012年12月2日 フィールド研10周年記念プレシンポジウム「流域研究と森里海連環学」を支援

<その他>

- ・2012年10月 木文化プロジェクト2011年度報告書を発行

<分析・解析等>

- ・水質分析と結果のとりまとめ, 住民意識調査の調査票の設計・配付・回収と結果の集計など

12) 企画情報室

企画情報室長 柴田 昌三

■特記事項

<広報>

企画情報室では、広報委員会の指示の下、定期刊行物として、年報を1冊(第9号)、ニュースレターを3号(27～29号)、ニュースメールの配信を7回、編集・発行・発送した。ただし今年度から室員が縮小された関係で、ニュースレターの発行は、広報委員の担当教員を中心として進める体制に変更された。インターネット上ではフィールド研のウェブページを随時更新しており、2012年度にWordPressで作成・公開したウェブページは359ページ、映像データベースでの写真の公開は1,511枚となった。その他、百周年時計台記念館におけるディスプレイ映像の更新、展示用パネルの管理等を行った。

2012年度フィールド研はOCW(オープンコースウェア)で6つのシンポジウムなどの映像を公開した。企画情報室は、芦生研究林での公開講座の映像撮影を担当するとともに、その他のイベントについても、撮影ファイルの変換など技術的なことも含めたサポートや確認、撮影編集担当の土佐研究室への連絡を適宜行った。

<情報システムの企画、開発、運用>

企画情報室では、学内ネットワークにおけるVLANの設定、メーリングリストの管理、大判プリンタなど共用機器類の管理、各施設等の不具合等に対する連絡調整、各施設の教職員が参加するテレビ会議システムの運用などを担当している。公開ウェブページは、6月に新環境のレンタルサーバへ移行してWordPressを3.3にアップデート、1月には3.5にアップデートするとともに、表示デザイン(テーマ)を全面新規作成して刷新した。テレビ会議システムMeetingplazaではWindows7マシンでの音声接続の不具合などに対応し、10月にシステムをver.6.1に更新した。3月には、センター長裁量経費で整備される瀬戸臨海実験所の遠隔講義システムの導入を支援した。

新しく設立された教育ユニットのウェブページを7月に初期ページの公開、10月にMODxシステムの設定、3月に別業者によるシステムの更新を行った。

情報部の整備している無線LAN基地局のうち、6月には北海道研究林標茶区の、9月には紀伊大島実験所の機器が落雷によって故障したため、修理等の支援を行った。2012年度は舞鶴水産実験所および上賀茂試験地に新たに基地局が整備された。

<各施設及びフィールド研教職員の各種情報の収集>

企画情報室は、フィールド研及び教職員の各種活動状況を収集するため、各施設から毎月報告される利用実績報告書の集計、新聞・雑誌等のセンター関連記事の収集、講義や事業の映像記録、研究業績・外部資金・各種活動などの業績調べを行っている。また、教職員の利用するコンピュータとソフトウェアライセンスの管理状況について、職員対象は年2回、教員対象調査は年度末に1回、回答を集約し報告した。

2008-2011年度を対象期間とする『自己点検・評価報告書』を編集し2月に発行した。

<フィールド研常設各種委員会に係る実務>

企画情報室では各種委員会の実務を担当しており、シラバス調べ、アンケート集計、各種調書への対応、全施設におけるコンピュータウイルス対応支援などを行っている。無線LAN基地局設置者の設置報告の義務化に対応し、「情報セキュリティポリシー実施手順書」の改訂を行った。

<フィールド研行事(イベント)に係る実務>

企画情報室は、12月2日に開催した10周年記念プレシンポジウムの運営の一部を担当した。また、9月に当番校として開催した全国演習林協議会秋季総会、10月のシンポジウム「森と海の未来力」などの実施の支援を行った。

<その他>

企画情報室は、各種申請・提出書類の作成の支援、センター長秘書に係る実務、施設・教職員による業務の支援、教職員交流イベントの開催支援等を弾力的に行った。

安藤准教授を代表者として公募に申請した研究資源アーカイブ化事業が採択され、旧演習林事務室時代書類倉庫から継承されているガラス乾板写真と16mmフィルムの整理とデジタル化を始めることとなり、2012年度は旧台湾演習林関係のガラス乾板150枚と、紙焼き写真462枚、1970年代の故吉村助教授撮影・編集の16mmフィルム29本をデジタル化することができた。

(2) 各施設を利用した学生実習等

(学生数・教員等数は、延人数)

芦生研究林

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
12.05.12 ~ 12.05.13	2	京都大学	生態学研究センター	生態科学IIゼミナール第4部(理学研究科) / 紙牌・菌類ゼミナール(全学共通教育・少人数セミナー) / 発達論A(総合人間学部) 合同研究会		22	4	
12.05.20	1	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「森林の再生と動態」	全学1回生	4	1	
12.06.02 ~ 12.06.03	2	京都大学	情報学研究科	生物圏情報学セミナー		38	12	
12.06.30 ~ 12.07.01	2	京都大学	大学院アジア・アフリカ地域研究研究科	アジア・アフリカ地域研究演習		42	14	
12.07.07 ~ 12.07.09	3	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「原生的な森林の働き」	全学1回生	24	8	
12.08.06 ~ 12.08.07	2	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習A	全学学部生	34	20	
12.08.09 ~ 12.08.10	2	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「環境の評価」	全学1回生	14	8	
12.08.10 ~ 12.08.23	5	京都大学	農学部	森林利用学実習及び実習法	3回生	68	32	
12.08.27 ~ 12.08.31	5	京都大学	農学部	研究林実習I	2回生	102	24	
12.09.11 ~ 12.09.14	4	京都大学	農学部	研究林実習II	森林・B3	44	18	
12.09.25 ~ 12.09.27	3	京都大学	理学部	野外実習第1部	3回生以上	24	6	
12.09.26 ~ 12.10.21	3	京都大学	大学院理学研究科	生態科学IIゼミナール第4部		7	5	
12.09.27 ~ 12.09.30	4	京都大学	理学部	野外実習第2部	3回生以上	32	4	
12.10.08	1	京都大学	大学院理学研究科	フィールドワーク実習―菌類層から森を考える―		25	5	
12.11.04	1	京都大学	フィールド研	葉っぱ研in芦生研究林(自主ゼミ)		16	1	
13.02.08 ~ 13.02.11	4	京都大学	フィールド研	暖地性積雪地域における冬の自然環境	全学	64	13	
12.08.06 ~ 12.08.07	2	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習A(公開実習)	他大学生	2	0	(併催)
12.09.04 ~ 12.09.06	3	京都大学	フィールド研	公開森林実習	他大学生	24	9	
12.09.18 ~ 12.09.19	2	岐阜県立森林文化アカデミー		多雪地帯のスギが混交する広葉樹天然林とニホンジカの食圧による種生の変化	学生及び教職員	48	3	
12.10.17 ~ 12.10.19	3	大阪府立大学	生命環境科学研究科	緑地環境科学実験実習IIB		24	6	
12.10.18	1	京都府立林業大学校		鳥獣被害対策	生徒及び研修生	29	5	
計	55		(21件)			687	198	

北海道研究林

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
12.08.05 ~ 12.08.09	5	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「北海道の森林」	全学1回生	40	12	標茶区
12.08.31 ~ 12.09.03	4	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習C(北海道大学との共催)	全学学生	91	42	標茶区 (京大10人・北大10人)
12.09.07 ~ 12.09.14	7	京都大学	農学部	研究林実習III	3回生	49	57	標茶区
12.09.07 ~ 12.09.14	7	京都大学	フィールド研	夏の北海道・北海道東部の人と自然	全学学生	21	0	(併催)
12.09.08	1	京都大学	農学部	研究林実習III	3回生	7	8	白糠区
12.09.08	1	京都大学	フィールド研	夏の北海道・北海道東部の人と自然	全学学生	3	0	(併催)
13.02.17 ~ 13.02.23	7	京都大学	農学部	研究林実習IV	3回生	112	61	標茶区
13.02.17 ~ 13.02.23	7	京都大学	フィールド研	冬の北海道・北海道東部の厳冬の自然環境	全学学生	42	0	(併催)
計	36		(8件)			365	180	

和歌山研究林

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
12.09.27 ~ 12.09.28	2	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「森のつくりだすもの」	1回生	10	11	
計	2		(1件)			10	11	

上賀茂試験地

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
12.04.14	1	京都大学	農学部	森林科学科 ガイドダンス	1回生	52	23	
12.05.11	1	京都大学	フィールド研	博物館実習	1回生	6	2	
12.05.19	1	京都大学	大学院農学研究科	森林科学科専攻 新入生歓迎会	修士1回生	136	40	
12.05.26	1	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「京をめぐる森と人の暮らし」	1回生	8	2	
12.05.30	1	京都大学	農学部	「土壌物理学・水環境工学実験」土壌の三相分布測定及び浸入能試験実習	3回生	25	1	
12.06.07 ~ 12.06.14	2	京都大学	農学部	森林総合実習及び実習法	3回生	49	2	
12.06.09	1	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「原生的な森林の働き」	1回生	6	1	
12.06.13 ~ 12.07.19	4	京都大学	農学部	森林生物学実験および実験法	3回生	85	4	
12.07.10	1	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「木造校舎を造る：木の文化再生へ」	1回生	7	2	
12.08.20	1	京都大学	大学院地球環境学舎	里山再生論	修士	1	1	

12.05.16 ~ 12.12.05	2	京都造形芸術大学	環境デザイン学科	タギョウシヨウ等の実習	3~4回生	19	4	
12.07.02 ~ 12.07.30	2	京都府立大学	生命環境科学研究科	森林科学科 森林植物学実習	1回生、修士1回生	38	3	
12.09.04	1	京都大学	フィールド研	公開森林実習		8	2	
12.09.24	1	京都教育大学	教育学部	「栽培実習II」および「食農教育実践II」	2回生	20	7	
12.11.14 ~ 12.11.16	3	京都精華大学	人文学部	ネイチャーゲーム（自然教育論）	2~4回生	57	4	
計	23			(15件)		517	98	

徳山試験地

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
12.08.03 ~ 12.08.07	5	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「瀬戸内に見る森里海連環」	全学1回生	31	12	
計	5			(1件)		31	12	

北白川試験地

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
12.04.11	1	京都大学	農学部	食品有機化学実験および実験法	3回生	33	4	
12.04.18	1	京都大学	農学部	「土壌物理学・水環境工学実験」採土方法の習得と土壌の三相分布測定	3回生	24	1	
12.10.01	1	京都大学	農学部	森林水文学・砂防学実験および実験法		11	1	
12.09.06	1	京都大学	フィールド研	公開森林実習		8	1	
計	4			(4件)		76	7	

紀伊大島実験所

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
12.08.13 ~ 12.08.16	4	京都大学	大学院地球環境学舎	里域植生保全論	院生	8	4	
12.08.20 ~ 12.08.24	5	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「森里海のつながりを清流古座川に見る」		35	5	
12.09.03 ~ 12.09.07	5	京都大学	農学部	植物調査法と実習		61	7	
12.09.17	1	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「地域連環学入門」	全学1回生	6	3	
計	15			(4件)		110	19	

舞鶴水産実験所

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
12.06.22 ~ 12.06.24	3	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「魚類心理学入門」		18	8	
12.08.06	1	京都大学	大学院地球環境学舎	環境マネジメントセミナー(野外実習:船の実習・磯の実習)		34	11	
12.08.07 ~ 12.08.09	3	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「お魚好きのための魚類研究入門」		15	6	
12.08.07 ~ 12.08.10	4	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習A		48	46	
12.08.17 ~ 12.08.23	7	京都大学	農学部	海洋生物科学技術論と実習I		125	40	
12.08.23 ~ 12.08.29	3	京都大学	農学部	海洋生物科学技術論と実習II		136	70	
12.09.10 ~ 12.09.13	4	京都大学	農学研究科地域環境学専攻	水資源利用工学実験(大学院)、水理学実験(学部)		145	8	
12.11.02	1	京都大学	防災研究所	技術職員研修		0	10	
13.02.20 ~ 13.02.22	3	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「日本海に遊ぶ」		18	5	
12.05.22 ~ 12.05.26	5	近畿大学	農学部	環境生態学実験・実習I		115	22	
12.06.11 ~ 12.06.13	3	広島大学	大学院生物圏科学研究科	沿岸魚類生産学実習I		9	3	
12.08.07 ~ 12.08.10	4	京都大学	フィールド研	森里海連環学実習A（公開実習）		4	0	(併催)
12.08.17 ~ 12.08.23	7	京都大学	フィールド研	海洋科学技術論と実習I（公開実習）		14	0	(併催)
12.08.23 ~ 12.08.29	8	京都大学	フィールド研	海洋科学技術論と実習II（公開実習）		14	0	(併催)
12.08.29 ~ 12.09.03	6	岐阜大学	教育学部	臨海実験法および実験		88	32	
12.09.24 ~ 12.09.29	6	京都大学	フィールド研	若狭湾秋季の水産海洋生物実習（公開実習）		56	29	(京大生6人を含む)
12.10.27 ~ 12.10.28	2	放送大学		稚魚の生態に学ぶ（森里海連環）		36	6	
13.03.21 ~ 13.03.26	6	京都大学	フィールド研	若狭湾春季の水産海洋生物実習（公開実習）		78	37	(京大生3人を含む)
計	76			(18件)		953	333	

瀬戸臨海実験所

期 間	日数	大学	部局	科 目 名	学年	学生数	教員等数	備考
12.04.10 ~ 12.04.11	2	京都大学	理学部	インターラボ		90	14	
12.05.03 ~ 12.05.06	4	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「海岸生物の生活史」		20	4	
12.08.04 ~ 12.08.10	7	京都大学	理学部	臨海実習第2部	3回生以上	35	49	
12.08.27 ~ 12.09.03	8	京都大学	理学部	臨海実習第1部	2回生以上	72	56	
12.08.27 ~ 12.09.03	8	京都大学	理学部	臨海実習第4部	3回生以上	8		(併催)
12.09.06 ~ 12.09.10	5	京都大学	大学院地球環境学舎	探究型化学実験 湖と海の化学調査 (全学共通科目)	全学学部生	40	15	
12.09.13 ~ 12.09.14	2	京都大学	防災研究所	白浜海象観測所 少人数セミナー「空を観る、海を観る」		10	4	
12.09.17 ~ 12.09.21	5	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「地域連環学入門」		30	10	
12.09.24 ~ 12.09.25	2	京都大学	防災研究所	流域災害研究センター 多階層地球科学実習		10	8	
12.09.26 ~ 12.09.29	4	京都大学	フィールド研	少人数セミナー「海産無脊椎動物一分類群と形の多様性」		16	4	
12.11.09 ~ 12.11.10	2	京都大学	理学部	地層学実験		6	2	
13.03.15 ~ 13.03.20	6	京都大学	理学部	臨海実習第3部	3回生以上	18	12	
13.03.25 ~ 13.03.30	6	京都大学	フィールド研	生物学実習II[海洋生物学コース]	2回生以上	54	36	
12.04.04 ~ 12.04.07	4	龍谷大学	政策学部	(環境サイエンスコース) 環境フィールドワーク 白浜臨海実習		52	8	
12.04.22 ~ 12.04.27	6	和歌山大学	教育学部	臨海実習		90	18	
12.06.04 ~ 12.06.09	6	奈良女子大学	理学部	臨海実習II		126	14	
12.06.14 ~ 12.06.18	5	奈良教育大学	教育学部	臨海実習		100	17	
12.06.19 ~ 12.06.23	5	大阪教育大学	教育学部	臨海実習		35	20	
12.07.02 ~ 12.07.08	7	大阪市立大学	大学院理学研究科	臨海実習		180	18	
12.07.21 ~ 12.07.22	2	近畿大学	農学部	環境生態学実験・実習I		50	2	
12.08.04 ~ 12.08.10	7	京都大学	フィールド研	発展海洋生物学 (公開臨海実習)	2回生以上	14		(併催)
12.08.16 ~ 12.08.20	5	関西学院大学		臨海実習2		120	30	
12.08.21 ~ 12.08.26	6	大阪大学		生物学臨海実習		72	21	
12.08.27 ~ 12.09.03	8	京都大学	フィールド研	自由課題研究 (公開臨海実習)	3回生以上	8		(併催)
12.09.20 ~ 12.09.25	6	大阪大学	インターナショナルカレッジ	Fieldwork in Biology		90	30	
12.10.16 ~ 12.10.20	5	奈良女子大学		博物館実習		5	20	
13.03.02 ~ 13.03.09	8	京都大学	フィールド研	海産無脊椎動物分子系統学実習 (公開臨海実習)	2回生以上	96	48	(京大生3人を含む)
13.03.15 ~ 13.03.20	6	京都大学	フィールド研	藻類の系統と進化 (公開臨海実習)	2回生以上	18		(併催)
13.03.20	1	大阪教育大学	科学教育センター	海洋生物学研究の最先端の研究現場を見学・研修		6	2	
13.03.25 ~ 13.03.30	6	京都大学	フィールド研	海産無脊椎動物多様性実習 (公開臨海実習)	2回生以上	48		(併催・京大生1人を含む)
計	154		(30件)			1,519	462	

(3) 各施設を利用した社会連携教育および野外学習等

(学生数・教員等数は、延人数)

芦生研究林

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
12.05.31 ~ 12.06.01	2	美山中学校	芦生宿泊体験学習	中学1年生	66	14	
12.07.30	1	京都市立洛南中学校	サマーチャレンジ		40	5	
12.07.31	1	知井小学校他	美山町第4学年合同自然体験教室「美山っ子グリーンワールド」		39	7	
12.08.20 ~ 12.08.21	2	大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎	学校設定科目「環境論」(SSH関連科目)	高校3年生	56	0	
12.11.09	1	京都府立北桑田高校	環境科学基礎	森林リサーチ科1年生	27	8	
12.11.13	1	大阪府立住吉高校	芦生研究林フィールドワーク研修	総合科学科1,2年生	22	7	
12.04.14 ~ 12.11.24	100	美山町自然文化村	芦生ネイチャーガイドトレッキング		2,552	0	
12.04.28 ~ 12.11.18	27	針畑ルネサンスセンター	自然観察会		286	0	
12.05.04 ~ 12.11.26	49	芦生山の家	芦生研究林の自然観察、ハイキングを地元のガイドで案内する		864	0	
12.05.13 ~ 12.11.11	23	NPO法人芦生自然学校	自然観察、自然体験、環境教育		229	0	
12.05.16	1	芦生地域有害鳥獣対策協議会	活動の事前打ち合わせ・芦生の森に設置したシカ防護ネットを上げる作業及び植生観察等		5	6	
12.05.26	1	フィールド研 芦生研究林	芦生の森自然観察会(入門編)	一般	21	11	
12.07.19	1	京都中部広域消防組合	山岳救助隊訓練	消防職員	13	0	
12.07.27 ~ 12.07.29	7	フィールド研	公開講座	一般	111	68	
12.10.27	1	フィールド研 芦生研究林	芦生の森自然観察会(入門編)	一般	23	8	
12.11.06 ~ 12.11.07	2	NPO法人シニア自然大学校	芦生研究林見学		60	0	
12.11.13 ~ 12.11.14	2	NPO法人シニア自然大学校	地球環境「自然学」講座		54	0	
12.11.08	1	京都大学 工学研究科技術部	平成24年度工学研究科技術部第2回技術職員研修会	技術職員	0	23	
12.11.22	1	芦生地域有害鳥獣対策協議会	芦生の森に設置したシカ防護ネット内の植生調査及び試験地設定等		14	3	
計	224	(19件)			4,482	160	

北海道研究林

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
12.05.18	1	標茶町立標茶小学校	遠足	3年生	48	1	
12.06.27	1	標茶町立沼幌小学校	木工教室(図工)	全学年	10	7	
12.07.28	1	フィールド研 北海道研究林	大学で学ぼう2012(ひらめき☆ときめきサイエンス)	小学5年生~中学3年生	12	8	
12.10.20	1	フィールド研 北海道研究林	ミニ公開講座	一般	10	7	
13.01.19 ~ 13.01.20	2	標茶町教育委員会	しべちャアドベンチャースクール第5ステージ「冬の雪山活動」	小中高生	39	7	(共催)
計	6	(5件)			119	30	

和歌山研究林

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
12.04.24 ~ 13.01.08	11	県立有田中央高等学校清水分校	ウッズサイエンス	3年生	43	22	
12.05.09	1	県立有田中央高等学校清水分校	総合的な学習の時間「SIMIZUタイム」(森林ウォーク)	1年生	14	6	
12.06.25 ~ 12.11.29	2	有田川町立八幡小学校	総合的な学習の時間「森は友だち森林の町清水」	5年生	20	10	
12.10.02 ~ 12.10.04	3	有田川町立八幡中学校	職業体験学習	2年生	6	0	
計	17	(4件)			83	38	

上賀茂試験地

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
12.08.05	1	岡山大学 大学院環境生命科学研究科	子供たちを対象とした昆虫観察会およびセミナー	小学生高学年、中学生	37	4	
12.11.18	1	京都市青少年科学センター	未来のサイエンティスト養成事業 秋冬講座	小学4年生~中学生	25	6	
12.11.26 ~ 12.12.20	2	総合地球環境学研究所	地球環境学の扉	高校2年生	50	0	
12.04.28	1	フィールド研 上賀茂試験地	上賀茂試験地春の自然観察会		19	7	
12.06.30	1	農学部森林科学科	森を語ろう~森林科学科の集い~		75	3	
12.09.21	1	フィールド研	全国演習林協議会秋季総会 現地見学		44	12	
12.10.03 ~ 12.10.14	2	NPO法人自然観察指導員京都連絡会	秋の里山観察会		42	0	
12.11.17	1	フィールド研 上賀茂試験地	上賀茂試験地秋の自然観察会		21	7	
計	10	(8件)			313	39	

徳山試験地

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
12.06.17 ~ 12.11.18	3	周南市公園花とみどり課	京都大学フィールド研・周南市連携講座		43	8	
計	3	(1件)			43	8	

北白川試験地

(該当案件なし)

紀伊大島実験所

(該当案件なし)

舞鶴水産実験所

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
12.05.26	1	兵庫県立神戸高等学校	第1回サイエンスツアー		37	3	
12.07.22 ~ 12.07.24	3	京都教育大学付属高等学校	臨海実習		72	16	
12.07.25	1	兵庫県立西宮今津高等学校	緑洋丸による舞鶴湾の水質および底質・底生生物調査		20	3	
12.07.31 ~ 12.08.01	2	京都府立西舞鶴高等学校	SPP実習での実験・調査		76	10	
12.08.01 ~ 12.08.03	3	京都府立南陽高等学校	舞鶴臨海実習 自ら探る生物の多様性～海洋生物編		57	17	
12.10.05	1	舞鶴市立倉橋第二小学校	施設見学と講義「海の環境問題」		105	1	
12.10.15 ~ 12.10.26	10	海上保安学校	湾港測量実習		130	0	
12.11.02	1	京都府立海洋高等学校	施設見学と講義「底曳き漁業における漁獲物の研究内容について」		22	0	
12.11.04	1	中保育園・舞鶴市立中舞鶴小学校	施設見学と実習・講義「海の生物について」		113	2	
12.06.09	1	舞鶴市中央公民館	「あどべんちャークラブ」での講義と施設見学	小学4～6年生	26	1	
12.06.22 ~ 12.06.24	3	NPO法人エコロジー・カフェ関西事務所	森里海学びツアーin舞鶴(少人数セミナー「魚類心理学入門」と併催)		15	0	(高校生3人・主催者2人)
12.08.17 ~ 12.08.31	11	海上保安学校	湾港測量実習		143	0	
12.10.22	1	舞鶴市観光ボランティア「けやきの会」	施設見学と講義受講		16	1	
12.11.09	1	元総長と理学部S2クラス0B	見学と講演受講		17	0	
13.01.26	1	NPO法人シニア自然大学校	講座部マイスターらによる施設見学、講義受講		21	0	
計	41	(15件)			870	54	

瀬戸臨海実験所

期 間	日数	主催者	講座・イベント名	対象者	参加者数	教員等数	備考
12.05.21 ~ 12.05.22	2	奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校	バックヤード見学	中学生	122	8	
12.05.24	1	白浜町立日置中学校	バックヤード見学	中学生	24	2	
12.06.15	1	開智中学校	バックヤード見学		35	3	
12.06.26	1	白浜町立白浜第二小学校	バックヤード見学		22	3	
12.07.14 ~ 12.07.15	2	大阪市立汎愛高等学校	海洋生物資源の研究・バックヤード見学		32	4	
12.07.17 ~ 12.07.18	2	和歌山県立日高高等学校	水族館見学		83	2	
12.07.23 ~ 12.07.26	4	滋賀県立膳所高等学校	サイエンスキャンプ(第43回生物実習旅行)		105	12	
12.07.27 ~ 12.07.28	2	奈良県立奈良高等学校	サイエンスツアー		24	5	
12.07.29 ~ 12.07.31	3	奈良女子大学附属中等教育学校	SSHサイエンス夏の学校		95	3	
12.08.01 ~ 12.08.02	2	兵庫県立尼崎小田高等学校	臨海実習		40	2	
12.09.28	1	奈良県立奈良北高等学校	講義「海の動物の多様性について」・水族館見学		43	1	
12.10.12 ~ 12.10.14	3	大阪府立住吉高等学校	水族生理解のための臨海フィールドワーク実習		96	15	
12.10.23	1	田辺市立田辺第一小学校	水族館解説ツアー	小学2年生	31	1	
12.10.27	1	フィールド研 瀬戸臨海実験所	京大ウィークス「瀬戸臨海実験所 施設見学会」	高校生以上	11	3	
12.10.27 ~ 12.10.28	2	理学研究科	最先端科学の体験型学習講座(ELCAS)	高校生	66	14	
12.11.02	1	田辺市立秋津川中学校	バックヤード見学		21	2	
13.01.04 ~ 13.01.06	3	大阪府立豊中高等学校	生物研修実習		66	18	

12.04.11 ~ 12.04.12	2	NPO法人シニア自然大学校	講演と水族館解説	92	3	
12.04.21 ~ 12.06.16	3	和歌山県	きのくに県民カレッジ「磯採集体験」	47	9	
12.07.28 ~ 12.08.26	4	フィールド研 瀬戸臨海実験所 白浜水族館	夏休みイベント「海の生き物何でも相談会」	46	13	
12.08.05	1	フィールド研 瀬戸臨海実験所	「熊楠体験自然教室」番所崎で海の生物観察	16	1	南方熊楠記念館と共催
12.08.11 ~ 12.08.30	8	フィールド研 瀬戸臨海実験所 白浜水族館	「海の中まで白浜を知っちゃおう！水族館の裏側探検」解説ツアー	17	8	
12.08.20	1	和歌山県高等学校生徒会連絡協議会	夏期ゼミナール「水族館の案内と不思議なくらげの話」	54	1	
12.10.20 ~ 13.02.26	3	和歌山県	きのくに県民カレッジ「水族館の飼育体験」	38	9	
13.02.11	1	岸和田市教育委員会 きしわだ自然資料館	和歌山の打ちあげ貝観察会	44	0	
13.03.01	1	NPO法人シニア自然大学校	水族館解説	50	2	
13.03.03	1	白浜町環境保全協議会	ふるさと自然探検隊「水辺環境教室」バックヤード・水族館解説	13	1	
計	57	(27件)		1,333	145	

3. フィールド研教職員の活動の記録

(1) 新任教員紹介

横山 壽 連携准教授

企画研究推進部門 森里海連環学分野

(学際融合教育研究推進センター 森里海連環学教育ユニット 特定准教授)

7月1日付で着任しました。私は京都大学農学部水産学科に1970年に入学し、大学院農学研究科を1983年に単位取得退学しましたので、30年ぶりに古巣に戻ってきたこととなります。学部の卒業研究の準備として教室を回った際に、当時水産生物学講座の岩井保教授より、「沿岸の底生動物は動きが少ないからその場所の環境をよく反映する、林勇夫助手がこの観点から研究しているので、卒論のテーマにしないか」との提案があり、強く興味をそそられたことを昨日のように思い出します。

30歳を越えてようやく大阪市環境科学研究所に職を得ることができました。当時、大阪湾の水はチョコレート色に濁り、市内河川は悪臭に満ちていました。底生動物はごく少数の汚濁指標種がきわめて優占的に高密度で生息するか、無酸素となって無生物になるかという極端な状態でした。と同時に大阪南港に建設された野島公園など環境を修復・復元しようという動きもあり、そのための調査を担当したことも印象に残っています。

40歳直前の学位取得をきっかけに水産庁養殖研究所（現水産総合研究センター増養殖研究所）に移籍しました。移籍直後は長崎県にあった大村支所に勤務しましたが、まもなく三重県の本所に異動となり、養殖環境の評価や修復といったテーマに取りかかりました。養殖環境の改善を目的とした法律が制定される前後であったため、環境基準づくりの根拠となるデータ提供も大きな仕事となりました。また、三重の庁舎にはバブルのころに購入された質量分析計が未使用のまま放置されており、この高額器械の有効利用も任務となりました。生態学研究センターの中西正己先生の紹介でオーバードクターの山田佳裕さんに特別研究員としてきてもらい、機械を立ち上げることができました。以後、安定同位体分析を用いた養殖漁場における物質循環、環境対策に関する研究や沿岸の栄養構造の解析に大いに役立ちました。

昨年還暦を迎え、この3月で水産総合研究センターを定年退職しましたが、このたび突然の御縁により皆様の仲間に加えていただくことになりました。これまで、30歳、40歳、60歳と何度かの節目がありましたが、大学院以来、底生動物や底質から沿岸環境の評価や保全に関する調査・研究に携わることができたことを幸せに思っています。ただ、昨年の東北での大震災や近年の有明海の環境悪化に心が痛みます。自然には人間がどうしようもない大きな力があると同時に、人間のさまざまな活動が自然を傷めつけることもあります。自然への畏敬の念を取り戻し、循環的、持続的な社会を構築する必要があります。森里海連環学教育ユニットはその礎となる人間作りに大きな責任があり、私もその責任を果たすべく微力を尽くしたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。



徳地 直子 教授

里域生態系部門 里山資源保全学分野

本年9月1日付で現職に異動となりました。どうぞよろしくお願ひいたします。

これまで物質循環という視点から、森林生態系の維持機構の解明ならびに保全管理に関する研究を行ってきました。森林生態系は大きく、長命です。そのまま把握するには様々な試行錯誤があります。物質循環は簡便な方法のひとつであり、また、多くの人に理解されやすい定量化を基礎にしている点でこれからますます重要になってくるのではないかと思います。幸い優秀な研究者仲間や技術職員の方々に助けていただき、少しずつ情報が収集できています。今後も微力ながら精一杯がんばりますので、ご協力をどうかよろしくお願ひいたします。

学生のころは実習・研究の場として、演習林を利用させていただいておりました。当時の実習は林業関連業種への従事者の教育といった面が強く、植栽や伐採などがあり、技術職員の方がテクニックを見せてくださったのが印象に残っています。その演習林も時代の要請に応えるように2003年にはフィールド科学教育研究センターとなり、森里海連環学の創出という新しいミッションに向かっていきます。新しい学問分野、新しい価値観を作るというのは大変な仕事です。しかし環境の変化や先の大震災により既存の価値観に疑問を抱く方が多い今、健やかな森と里と海のつながりによって私たちが生かされているということを再認識する非常によい機会であると思います。皆様と一緒に考えていきたいと思っています。

清水 夏樹 連携准教授

企画研究推進部門 森里海連環学分野

(学際融合教育研究推進センター 森里海連環学教育ユニット 特定准教授)

2012年11月1日付で森里海連環学教育ユニット特定准教授およびフィールド研連携准教授に着任いたしました。前の職場は、茨城県つくば市にある農業・食品産業技術総合研究機構の農村工学研究所です。

筑波大での修士課程時代に農村計画学という分野に出会い、東大での博士課程では農業工学をベースに、日本の中山間地域の農村基盤の持続的管理について研究しました。これまで農村計画学会を中心に、多様な分野の学生や若手に呼びかけて共同のフィールドワークや座談会などを企画したり、また研究者だけでなく実務者とのネットワークを大切にしてきました。フィールドで出会った現地の方々とともに、これらの人とのつながりが私の大きな財産です。このネットワークをこれからの学生につないでいきたいと思っています。

農村工学研究所在職時は、地域資源の一つであるバイオマスの利活用について研究していました。私の関心は、地域にある資源を活かして、人々がそこに暮らしていける経済的・社会的環境を維持（あるいは再構築）していくことにあります。地域資源を活かすということは、その資源を適切に管理していくことでもあります。私は、現場での問題解決を着地点と考え、とくに人や組織を対象としたフィールドワークを中心に研究を行っています。農山村の環境はもちろん、社会自体も長い時間をかけて創られてきたものであり、また日々変わっていくものです。解決した問題の先に新たな問題も生まれます。そこには定常状態、あるいは確固たる真理（目指すべき姿）のようなものはないのかもしれませんが。研究としては非常にやりにくい、というのが正直なところですが、でも、農山村に住み続けたいという人がいて、そこに暮らしがあり続けてきた、そのことに敬意をもって研究に取り組みたいと思っています。これからも「人とその暮らし」を研究対象として、農山村をフィールドに、現場型の研究を進めていきたいと思っています。皆様、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



(2) フィールド研関連事業における活動

◆フィールド科学教育研究センター 刊行物

□フィールド研年報

『京都大学フィールド科学教育研究センター 年報 第9号』, 京都大学フィールド科学教育研究センター, 144p, 2012.

□ FSERC News

< No. 27 2012年6月 >

—目次—

ニュース・教育ノート:

森里海連環学教育ユニットの設立	(向井 宏)
ニュース: 気仙沼シンポジウム報告	(益田 玲爾)
芦生研究林における一般者入林規定の改定	(長谷川 尚史)
第2回京都大学東北復興学生ボランティア	(徳地 直子)
2011年度木文化プロジェクト報告会	(吉岡 崇仁)
研究ノート: カサガイの殻の多様性	(中野 智之)

受賞の記録

2012年度の公開実習実施予定

活動の記録: 2012年3~5月

フィールド散歩: 春から初夏にかけての各施設及びその周辺の写真3枚

<No. 28 2012年10月 >

—目次—

教育ノート: 瀬戸臨海実験所での公開臨海実習について	(朝倉 彰)
若狭湾秋季の水産海洋生物実習	(福西 悠一)
京都大学公開森林実習を開催しました	(長谷川 尚史)
社会連携ノート: 第22回公開講座「今, 森から考える—森を伐る—」	(吉岡 崇仁)
第4回由良川市民講座「森・里・海の対話—豊穡の海を育む森づくり—」	(山下 洋)

新人紹介: 横山 壽
徳地 直子

受賞の記録

2012年度の公開実習実施予定

活動の記録: 2012年6~9月

フィールド散歩: 夏から秋の各施設及びその周辺の写真3枚

<No. 29 2013年2月 >

—目次—

社会連携ノート: 京都大学フィールド科学教育研究センター10周年記念プレシンポジウム「流域研究と森里海連環学」開催報告	(吉岡 崇仁)
知ろう, 守ろう 芦生の森シンポジウム—豊かな森の再生に向けて— 開催報告	(吉岡 崇仁)
教育ノート: 水産・臨海・臨湖実験所フィールド実習ワークショップ「魅力ある, 効果の高いフィールド実習を考える」	(山下 洋)
研究ノート: 不死のベニクラゲについて New York Times が紹介	(久保田 信)
森里海連環学(CoHHO)セミナーの紹介	(横山 壽)

新人紹介: 清水 夏樹

受賞の記録

2013年度の公開実習実施予定

活動の記録: 2012年10月~2013年1月

フィールド散歩: 冬の各施設及びその周辺の写真5枚

□『森と海をむすぶ川：沿岸域再生のために』

京都大学フィールド科学教育研究センター 編, 向井 宏 監修, 京都大学学術出版会 発行, 330p, 2012.

—目次—

目次・口絵・巻頭言 [柴田 昌三]・まえがき [向井 宏]

第1章 自然河川流域と沿岸生態系—農業と沿岸—

天塩川—日本最北の大河流域—

(柴田 英昭, 上田 宏, イレバ・ニーナ, 長尾 誠也, 中村 洋平, 門谷 茂, 柴沼 成一郎)

別寒辺牛川における森と海の関わり

(向井 宏)

アムール川とオホーツク海・親潮

(白岩 孝行)

第2章 森林の管理と沿岸域管理—林業と沿岸—

仁淀川

(柴田 昌三, 長谷川 尚史)

由良川

(上野 正博, 山下 洋)

琵琶湖集水域

(吉岡 崇仁)

人工林化と河川水質

(徳地 直子, 福島 慶太郎)

第3章 沿岸管理の現実と理想—水産業と沿岸—

太田川—広島湾流域圏—

(山本 民次, 山本 裕規, 浅岡 聡)

森里海連環学の原点—有明海特産稚魚の生態に学ぶ—

(田中 克)

第4章 大型構造物による連環の分断と沿岸域

河川の公共事業と政策評価—豊川を事例に—

(佐藤 真行)

古座川・七川ダム・串本湾から考える森川里海の連環

(白山 義久, 深見 裕伸, 嶋永 元裕)

第5章 環境保全のための流域管理と海洋保護区

(向井 宏)

第6章 森・里・海の統合的な沿岸管理をめざして—討論—

用語解説・引用文献・おわりに [向井 宏]・索引

□森林研究

『森林研究』第78号, 京都大学フィールド科学教育研究センター 森林生物圏部門 発行, 田中プリント 印刷, 98p, 2012.

論文

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」における文化的景観と林業：熊野古道・中辺路ルートを事例に

(藤代 直希・松下 幸司)

森林にかかわる活動への参加希望に影響を及ぼす認識の分析—神戸市の高校生を事例に—

(河瀬 麻里)

芦生研究林上谷流域における溪流の底生動物分布パターン

(境 優・夏原 由博・加藤 真)

日本に植栽された *Quercus laurifolia* におけるカシノナガキクイムシの繁殖成功率

(山崎 理正・飯塚 弘明・二井 一禎)

芦生研究林におけるシカ防除柵によるススキ群落の回復過程

(石原 正恵・今西 亜友美・坂口 翔太・福澤 加里部・向 昌宏・吉岡 崇仁)

ニホンジカが多雪地域の樹木個体群の更新過程・種多様性に及ぼす影響

(阪口 翔太・藤木 大介・井上 みずき・山崎 理正・福島 慶太郎・高柳 敦)

短報

日本海側冷温帯性針広混交林におけるニホンジカの植物嗜好性

(阪口 翔太・藤木 大介・井上 みずき・山崎 理正・福島 慶太郎・高柳 敦)

北海道東部における初冬のホツチャレ消費者

(鎌内 宏光・佐藤 修一・林 大輔・

岡部 芳彦・勝山 智恵・福島 慶太郎・吉岡 歩・佐藤 拓哉・徳地 直子・仲岡 雅裕)

温帯の散孔材樹種における道管サイズの季節変化と水分条件との関係

(大橋 伸太・岡田 直紀)

□瀬戸臨海実験所紀要『Publications of the Seto Marine Biological Laboratory』 (2012年度は発行なし)

□Publications of the Seto Marine Biological Laboratory Special Publication Series (2012年度は発行なし)

□研究林・試験地情報

『研究林・試験地情報 2011(平成23)年度』, 京都大学フィールド科学教育研究センター森林・里域フィールド管理部, 113p, 2013.

—目次—

各施設年次報告

芦生研究林年次報告	(長谷川 尚史)
北海道研究林年次報告	(館野 隆之輔)
和歌山研究林年次報告	(徳地 直子)
上賀茂試験地年次報告	(安藤 信)
徳山試験地年次報告	(中島 皇)
北白川試験地年次報告	(柴田 昌三)

個別報告

第1回京都大学東北復興支援学生ボランティア事業に参加して	(紺野 絢・藤井 弘明)
芦生研究林におけるナラ枯れ被害木と雪害木の状況	(細見 純嗣)
芦生研究林における林道除雪について	(太田 健一)
事務所構内と長治谷の積雪深の関係	(荒井 亮)
ニホンジカスポット防除によるススキの再生	(小嶋 宏和)
事務所・幽仙谷・長治谷の気温比較	(西岡 裕平)
北海道研究林に植栽したカラマツとカラマツ品種2種の比較	(山内 隆之)
北海道研究林標茶区におけるフェノロジー観測のまとめ —2000年から2011年までの12年間の変化—	(勝山 智憲)
和歌山研究林における災害時の降雨について	(柳本 順)
温室内の外国産稀少マツの樹勢回復および育生管理	(長谷川 敦史)

研修報告

研究資料

業務資料

□瀬戸臨海実験所年報

『瀬戸臨海実験所年報』第25巻(2011年度), 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所編集, 日本印刷出版株式会社印刷, 88p, 2012.

—目次—

記事 1. 概要 2. 臨海実習 3. 研究会・来訪研究者 4. 水族館観覧者 5. 研究報告抄録 6. 業績目録
資料 水族館飼育生物 水族館水温

研究・技術報告

瀬戸臨海実験所における気象観測データ:2006年—2011年	(山本 善万)
和歌山県田辺湾で採取された日本初の <i>Bythotiar</i> 属(ホヤノヤドリヒドラクラゲ属)の一種のクラゲ	(久保田 信)
和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”に2012年2月に漂着した魚類	(久保田 信・田名瀬 英朋)
和歌山県白浜町で採取された潮間帯に生息する生きた巻貝に付着して成長したユウレイボヤ(Ascidiacea, Cionidae)	(久保田 信・新稲 一仁)
アラハダカ <i>Myctophum asperum</i> (ハダカイワシ科)が和歌山県白浜町京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”と市原海岸へ漂着	(久保田 信・新稲 一仁・東海林 明・武藤 望生・中坊 徹次)
ムラサキオカヤドカリ(甲殻類, 異尾類)の越冬個体を京都大学瀬戸臨海実験所“南浜”で2012年春に再発見	(久保田 信)
京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”とその近郊海域へのハシボソミズナギドリ(ミズナギドリ科)の漂着	(久保田 信)
和歌山県沿岸に漂着したコブシメ(コウイカ目, コウイカ科)の甲	(久保田 信)

瀬戸臨海実験所構内“研究道路”に2012年に初めて出現した熱帯性のサツマゴキブリ(ゴキブリ目, ゴキブリ上科)
(久保田 信)

瀬戸臨海実験所構内のカタバミ(カタバミ科)における3花柱型と出現頻度の経年変化
(久保田 信・梅本 信也)

台風4号が白浜町を通過した2012年6月19日の翌日にさらに陸側に移動した京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”に
打ち上がった大型の死んだイシサンゴ(刺胞動物門, 花虫綱, 六放サンゴ亜綱, イシサンゴ目, キクメイシ科)
(久保田 信)

瀬戸臨海実験所構内“研究道路”に出現したスナガニ属の一種(スナガニ科) (久保田 信)
京都大学白浜水族館水槽でギンタカハマ(ニシキウズ科)が夜間出現(2012年) (久保田 信)

□木文化プロジェクト報告書

『概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業(木文化プロジェクト)」2011年度報告書』京都
大学フィールド科学教育研究センター, 281p, 2012.

—目次—

三年目を終えた木文化プロジェクトの進捗と今後の展望

仁淀川プロジェクト

由良川プロジェクト

由良川・仁淀川流域の社会調査報告

森・里・海とつながる生態系

平成23年度木文化プロジェクトにおける主な取り組み

◆フィールド研主催事業

1) フィールド研10周年記念プレシンポジウム「流域研究と森里海連環学」

日時: 2012年12月2日(日)13:00~17:00

会場: 京都大学百周年時計台記念館2階 国際交流ホール

主催: 京都大学フィールド科学教育研究センター

共催: 京都大学学際融合教育研究推進センター 森里海連環学教育ユニット

後援: 京都府教育委員会, 京都市教育委員会

協賛: 生物地球化学研究会, NPO法人 エコロジー・カフェ, NPO法人 シニア自然大学校,
フィールドソサイエティ

助成: 公益財団法人 日本財団

企画責任者: 吉岡 崇仁, 向井 宏

(プログラム)

総合司会: 向井 宏(教育ユニット 特任教授)

開会挨拶: 柴田 昌三(フィールド研 センター長)

第1部(講演)[流域研究の今]

矢作川: 間野 隆裕(豊田市矢作川研究所 総括研究員)

天塩川: 上田 宏(北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 教授)

太田川: 山本 民次(広島大学生物圏科学研究科 教授)

仁淀川: 長谷川 尚史(フィールド研 准教授)

由良川: 吉岡 崇仁(フィールド研 教授)

質疑応答

(休憩およびパネル展示)

第2部(パネルディスカッション)[流域研究から見た森里海連環学]

司会: 吉岡 崇仁

パネラー: 小林 光(一般社団法人 水生生物保全協会代表理事・元環境省自然環境局長)

田中 耕司(京都大学学術研究支援室 室長)

間野 隆裕, 上田 宏, 山本 民次, 長谷川 尚史

閉会挨拶: 山下 洋(フィールド研 副センター長)

2) 公開講座 2012 「今、森から考えるー森を伐るー」(芦生研究林)

日時：2012年7月27日(金)13時～7月29日(日)12時(2泊3日)

会場：芦生研究林(京都府南丹市美山町芦生)

実行委員会委員長：吉岡 崇仁

企画責任者：中西 麻美

(プログラム)

7月27日

講義 「芦生研究林の概要」 中西 麻美 (助教)

「なぜ森を伐るのかーこれからの社会の中での森とのつきあい方」

長谷川 尚史 (准教授・芦生研究林長)

「森を消費するわたしたちー資源利用はどのように変わってきたか」

坂野上 なお (助教)

「森を伐ると環境はどう変わるの？」 徳地 直子 (准教授)

「樹木の識別入門」 平井 岳志 (芦生研究林 技術職員)

7月28日

天然林の観察 午前：上谷の植生などの観察

午後：班別コース(健脚コース・木を測るコース・ぶらつきコース、

人工林伐採実験地の視察)

吉岡, 安藤, 徳地, 長谷川, 中島, 寄元, 坂野上, 中西, 他職員

7月29日

講義 「産業遺産を歩こうー原生的な森林に残る人間の軌跡」

中島 皇 (講師)

3) 第4回由良川地域連携講座「森・里・海の対話ー豊穡の海を育む森づくりー」(由良川市民講座)

日時：2012年7月8日(日) 15:30～18:00

会場：舞鶴市中総合会館 コミュニティホール

主催：京都大学フィールド科学教育研究センター, 京都府中丹広域振興局

助成：公益財団法人 日本財団

後援：福知山市, 舞鶴市, 綾部市, 南丹市, 京丹波町, 国土交通省近畿地方整備局福知山河川国道事務所

協力：NPO法人 エコロジー・カフェ, 公益社団法人 京都モデルフォレスト協会

企画責任者：向井 宏

(プログラム)

基調講演「海と共に生きる」 畠山 重篤(フィールド研 社会連携教授・NPO法人 森は海の恋人 理事長)

パネルディスカッション「森は海の恋人」

コーディネーター：山下 洋 (フィールド研 教授)

パネラー：畠山 重篤, 松尾 省二 (京都府漁業士会),

山北 絵美 (林業女子会@京都), 上野 正博 (フィールド研 助教)

同時開催・由良川や里山をキーワードに活動するNPO団体のパネル展示

4) 水産・臨海・臨湖実験所フィールド実習ワークショップ 「魅力ある, 効果の高いフィールド実習を考える」

日時：2012年11月30日(金) 13:30～17:00

会場：京都大学フィールド科学教育研究センター 会議室 (農学部総合館 N283)

(プログラム)

司会：益田 玲爾 (フィールド研 准教授・舞鶴水産実験所長)

開会挨拶：山下 洋 (フィールド研 教授)

企画責任者：山下 洋

講演：「森海環学実習；フィールド実習の新たな展開」 山下 洋

「東京大学海洋アライアンスにおける海洋学際教育プログラムの現状と展望」

木村 伸吾 (東京大学大気海洋研究所)

「瀬戸内発, 未知のフィールドへの旅：広島大学の取り組み」

小路 淳 (広島大学瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター竹原ステーション)

「フィールド実習を活用した長期生態系モニタリングの試み：琵琶湖・木曾川サイトを例に」

奥田 昇（京都大学生態学研究センター）

「瀬戸臨海実験所における教育拠点利用を通じての海洋生物教育」

朝倉 彰（フィールド研 教授・瀬戸臨海実験所長）

総合討論

5) 公開森林実習

日時：2012年9月4日(火)～6日(木)

会場：芦生研究林, 上賀茂試験地, 北白川試験地

参加者 8人（信州大学, 東京農工大学, 静岡大学, 三重大学, 島根大学, お茶の水女子大学, 鳥取環境大学）

◆フィールド研共催・後援事業

- 1) 全日空「私の青空・森づくり活動」において、森林・環境教室「京都大学フィールドセミナー(青空塾)」を開講

2012年6月2日 根室中標津空港・シマフクロウの森 舘野 隆之輔

2012年6月30日 オホーツク紋別空港・とっかりの森 中島 皇

- 2) 共催：知ろう、守ろう芦生の森ー芦生の森探索とシカ防護ネット設置ボランティア活動ー

日時：2012年5月16日(水), 8月11日(土), 11月22日(木)

場所：京都大学フィールド科学教育研究センター 芦生研究林

主催：芦生地域有害鳥獣対策協議会, 南丹市, 京都府南丹広域振興局

共催：京都大学フィールド科学教育研究センター

後援：NPO法人 芦生自然学校, 公益社団法人 京都モデルフォレスト協会

内容：芦生の森に設置したシカ防護ネットに関する作業及び植生観察・調査, 活動意見交換等

- 3) 共催：知ろう、守ろう芦生の森シンポジウムー豊かな森の再生に向けてー

日時：2012年12月8日(土) 10:00～15:00

場所：京都大学北部構内 北部総合教育研究棟1階 益川ホール

主催：芦生地域有害鳥獣対策協議会, 南丹市, 京都府南丹広域振興局

共催：京都大学フィールド科学教育研究センター

後援：NPO法人 芦生自然学校, 公益社団法人 京都モデルフォレスト協会

内容：基調講演「芦生の豊かな森の再生に向けてーシカ害対策と貴重な植生回復への取組ー」

高柳 敦（京都大学農学研究科森林科学専攻・講師）

「知ろう」芦生の森からの活動報告

藤原 誉（南丹市猟友会美山支部知井班長）

村田 良浩（京都府南丹広域振興局森づくり推進室）

長野 弘（九ヶ字財産区管理委員会委員長）

岡 佑平（NPO法人芦生自然学校チーフディレクター）

長谷川 尚史（京都大学フィールド研芦生研究林長）

堀野 康平（京都府南丹広域振興局地域づくり推進室）

パネルディスカッション「守ろう」豊かな森の再生に向けて

コーディネーター：吉岡 崇仁（フィールド研 教授・芦生地域有害鳥獣対策協議会会長）

パネラー： 長野 弘, 藤原 誉, 大野 琢馬（財団法人 美山町自然文化村河鹿荘 エコツアー
ム推進スタッフ）, 長谷川 尚史, 久山 多代子（「知ろう、守ろう芦生の森」活動ボ
ランティア 森林インストラクター）

- 4) 共催：シンポジウム「祇園祭とくらしの関係って？ー伝統行事・文化を環境問題という視点から考えるー」

日時：2012年7月14日(土) 13:00～15:15

場所：京都烏丸コンベンションホール

主催：NPO法人 エコロジー・カフェ 関西事務所, 京都大学フィールド科学教育研究センター

後援：京都府, 京都市・京都府教育委員会, 公益財団法人 祇園祭山鉾連合会, KBS 京都

特別協力：株式会社ジェイ・エス・ビー

協力：美しい祇園祭をつくる会, 株式会社ベネフィット・ワン

(プログラム)

講演1 「祇園祭や京の暮らしを支えてきた里」

柴田 昌三 (フィールド研 センター長・地球環境学堂 教授)

講演2 「祭りの裏にある“ごみ”の世界」 浅利 美鈴 (環境科学センター 助教)

パネルディスカッション ～伝統行事継承のために私たちができること～

5) 後援：仁淀川の再生をめざして「仁淀川の森と水を考える」シンポジウム 2012

日時：2012年8月19日(日) 13:30～17:00

会場：「グランディール」(旧ウェディングプラザ寿苑)

主催：仁淀川漁業協同組合

共催：仁淀川流域交流会議

後援：高知県，京都大学フィールド科学教育研究センター 他

6) 京都大学ジュニアキャンパス 2012 (中学生向けゼミ)

開催日・会場：2012年9月23日(日曜日)・京都大学吉田キャンパス(農学部総合館 N283)

・10:30～12:00

「森の水はきれいな水?：森・里・海の水質くらべ」 森林育成学・森林情報学研究室 (大学院生)

・14:30～16:00

「ヒノキの花粉生産ーヒノキの花粉飛散量を予測しようー」 中西 麻美 (フィールド研 助教)

7) 共催：シンポジウム「森と海の未来力(ちから)～子どもたちに手渡すべきこと～」

日時：2012年10月11日(木) 18:15～21:20

会場：キャンパスプラザ京都

主催：NPO法人 森は海の恋人，京都大学フィールド科学教育研究センター，フィールドソサイエティー

後援：三井物産株式会社，京都市教育委員会，公益社団法人 京都モデルフォレスト協会

(プログラム)

基調講演「海と共に生きるー森は海の恋人を世界へ」

畠山 重篤 (NPO法人 森は海の恋人 理事長・フィールド研 社会連携教授)

基調報告「蘇る舞根湾の生き物たち」 益田 玲爾 (フィールド研 准教授)

報告 1. 京都の森での環境学習 (フィールドソサイエティー)

2. 森は海の恋人活動で学んだこと (京都大学 学生ボランティアチーム)

パネル討論「大震災から学び，子どもたちの未来を拓く」

コーディネーター：田中 克 (京都大学名誉教授，放送大学客員教授)

パネラー：畠山 信 (NPO法人 森は海の恋人 副理事長)

三浦 幹夫 (NPO法人 森は海の恋人 理事)

松永 智子 (京都大学教育学研究科)

久山 喜久雄 (フィールドソサイエティー代表)

8) 共催：気仙沼舞根プロジェクト・シンポジウム「地震と津波に学び“海とともに生きる”未来創生」

日時：2012年10月12日(金) 10:00～17:00

場所：財団法人 国際高等研究所 ホール

主催：舞根湾生物環境調査グループ・有明海再生研究会・NPO法人 森は海の恋人

共催：財団法人 国際高等研究所・京都大学フィールド科学教育研究センター・三井物産株式会社

後援：NPO法人 芦生自然学校，公益社団法人 京都モデルフォレスト協会

(プログラム)

～森と海を結ぶ干潟・湿地再生を考える～

趣旨説明：田中 克 (財団法人 国際高等研究所)

基調講演「巨大地震と変動する干潟」：尾池 和夫 (財団法人 国際高等研究所長)

「有明海・諫早湾の閉め切りから15年ー堤防建設がもたらした災いと環境復元の願い」

佐藤 正典 (鹿児島大学)

「気仙沼舞根湾に蘇った干潟・湿地帯とその意義」

横山 勝英 (首都大学東京)

「干潟の機能と価値ー三河湾における取り組み」

鈴木 輝明 (名城大学)

- 「気仙沼舞根湾における震災後の低次生産の動向」 吉永 郁生（京都大学）
「海のゆりかごアモモ場の機能と回復過程：東北太平洋沿岸域の事例」 小路 淳（広島大学）
「気仙沼舞根湾に蘇る魚類群集」 益田 玲爾（京都大学）
「里海創生と干潟再生－英虞湾における取り組み」 松田 治（広島大学）
「蘇る干潟における環境教育と巨大防潮堤」 国分 秀樹（三重県水産研究所）
島山 信（NPO 法人 森は海の恋人）
総合討論－「京都提言」へ向けて

9) 第8回京都大学附置研究所・センターシンポジウム

「京都からの提言～21世紀の日本を考える【科学が見いだす日本の進路】」

日時：2013年3月16日（土）10:00～17:15

会場：北海道立道民活動センター「かでの2・7」かでのホール

主催：京都大学附置研究所・センター

後援：読売新聞社、公益財団法人 京都大学教育研究振興財団、北海道大学

共催：RU11（学術研究懇談会）

10) 全国大学演習林協議会秋季総会

日時：2012年9月20日（木）～21日（金）

会場：京都大学北部構内 北部総合教育研究棟1階 益川ホールほか、上賀茂試験地

11) 全国臨海臨湖実験所長会議

日時：2012年5月30日（水）～31日（木）

会場：瀬戸臨海実験所

◆各施設等主催共催事業

1) 芦生研究林

- 芦生の森自然観察会 入門編「春の森を歩きながら樹木観察をしよう」 5月26日
美山町第4学年合同自然体験教室「美山っ子グリーンワールド」 7月31日
芦生の森自然観察会 入門編「秋の森を歩きながら樹木観察をしよう」〈京大ウィークス参加イベント〉
10月27日

2) 北海道研究林

- 標茶町立標茶小学校 遠足 5月18日
木工教室（標茶町立沼幌小学校との共催） 6月27日
大学の森で学ぼう 2012（ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～）
－模擬講義・自然観察・草木染めを開催（標茶区） 7月28日
ミニ公開講座「自然観察，草木染め」（白糠区）〈京大ウィークス参加イベント〉 10月20日
「しべちゃアドベンチャースクール」第5講座「冬の雪山活動」
（標茶町教育委員会社会教育課との共催） 1月19～20日

3) 和歌山研究林

- ウッズサイエンス（和歌山県立有田中央高等学校清水分校との共催）計27回 4月17日～1月15日
「SIMIZU タイム」（森林ウォーク）（和歌山県立有田中央高等学校清水分校との共催） 5月9日
総合的な学習の時間「森は友だち森林の町清水」（有田川町立八幡小学校との共催） 6月25日，11月29日
総合的な学習の時間「職業体験実習」（有田川町立八幡中学校との共催） 10月2～4日

4) 上賀茂試験地

- 上賀茂試験地春の自然観察会 4月28日
全国大学演習林協議会秋季総会 現地見学会 9月21日
上賀茂試験地秋の自然観察会 〈京大ウィークス参加イベント〉 11月17日
京都市青少年科学センター 未来のサイエンティスト養成事業 秋冬コース 11月18日

5) 徳山試験地

- 周南市連携講座（全3回） 6月17日，9月16日，11月18日
周南市観光ボランティアガイドの会研修会 8月25日
周南市・フィールド研連携協定締結記念公開講座 〈京大ウィークス参加イベント〉 10月21日

	徳山試験地檜皮実験林調査（伐倒調査）	1月21～23日
6)	北白川試験地 なし	
7)	紀伊大島実験所 古座川合同調査（古座川プロジェクト：第77回～第88回）	毎月開催
	第14回古座川シンポジウム（古座川流域協議会と共催・和歌山県古座川町）	6月30日
8)	舞鶴水産実験所 カナダ・アルバータ大学 留学生見学会 講演	5月8日
	兵庫県立神戸高等学校「第1回サイエンスツアー」	5月26日
	「あどべんちャークラブ中舞鶴探訪」（舞鶴市中央公民館主催）小学生見学・講義	6月9日
	NPO法人 シニア自然大学校 食と健康と環境の講座 講演	6月20日
	NPO法人 エコロジー・カフェ共催「森里海学びツアーin舞鶴」	6月22～24日
	SPP事業実習 京都府立西舞鶴高等学校	6月26日、7月31日～8月1日、2月26日
	第4回由良川市民講座（京都府と共同主催）	7月8日
	SSH事業実習 京都教育大学附属高等学校	7月22～24日
	兵庫県立西宮今津高等学校 臨海実習	7月25日
	京都府立南陽高等学校サイエンスリサーチ科 サイエンスキャンプ・臨海実習	8月1～3日
	「大浦半島エコ・ウォッチング」（舞鶴の川と海を美しくする会主催）講演	8月19日
	舞鶴市立倉橋第二小学校 総合的な学習 講義	10月5日
	白浜台親睦旅行（舞鶴再発見の旅）見学	10月14日
	舞鶴市観光ボランティア「けやきの会」研修 見学・講義	10月22日
	京丹波町立瑞穂中学校「出前授業」（京都府教育委員会との連携事業）	10月26日
	第4回高等教育機関等合同PRフェア 展示説明	10月27～28日
	京都府立海洋高等学校 見学・講義	11月2日
	中保育所・舞鶴市立中舞鶴小学校 見学・実習・講義	11月4日
	食生活改善推進員養成講座（舞鶴市主催）講演	11月28日
	舞鶴支援学校北吸分校「出前授業」（京都府教育委員会との連携事業）	11月29日
	舞鶴市立朝来小学校 全校生徒およびPTA向け講演	12月1日
	舞鶴市立中保育所、舞鶴市立中舞鶴幼稚園 ナマコに関する講演	12月10日
	NPO法人 シニア自然大学校 施設案内と講義	1月26日
	竹の整備と利用を考えるシンポジウム（京都府主催）講演	2月2日
	FM京都「SUNNYSIDE BALCONY Kyoto University Academic Talk」出演、情報発信	2月27日
	舞鶴・海のつながりフォーラム 主催と講演	3月9日
	SSH事業講演 京都教育大附属高校	3月13日
9)	瀬戸臨海実験所 春休みイベント「研究者と飼育係のこだわり解説ツアー」・「バックヤードツアー」	4月1～5日
	セミナー「魚介類疾病の海外からの侵入とその問題点」	4月3日
	NPO法人 シニア自然大学校 受講生への講演「不老不死のベニクラゲと早死の カイヤドリヒドラクラゲに関する最近の研究のいくつかの話題」	4月12日
	きのくに県民カレッジ連携講座「水族館の磯採集体験」	4月21日・5月19日・6月16日
	瀬戸海洋生物学セミナー（第25～33回） 5月14日、5月22日、6月15日、6月27日、7月23日、11月27日、12月19日、2月19日、3月6日	
	夏休みイベント「研究者と飼育係のこだわり解説ツアー」・「バックヤードツアー」	7月21日～9月2日
	夏休みイベント「大水槽のエサやり体験」（月・火・水曜日に開催）	7月23日～8月29日
	夏休みイベント「海の生き物何でも相談会」	7月28～29日、8月25～26日
	南方熊楠記念館共催 2012熊楠体験自然教室「番所崎で海の生物観察」	8月5日
	白浜温泉旅館協同組合主催「海の中まで白浜を知っちゃおう！水族館の裏側探検」解説ツアー	8月11日、14日、16日、18日、21日、23日、25日、30日

日本動物学会第83回大阪大会2012・動物学ひろば「見てみよう触ってみようー多様な動物の世界」 (大阪大学総合学術博物館)	9月15日
奈良県立奈良北高等学校 校外講義「海の動物の多様性について」	9月28日
きのくに県民カレッジ連携講座「水族館の飼育体験」	10月20日・12月15日・2月16日
瀬戸臨海実験所 施設見学会〈京大ウィークス参加イベント〉	10月27日
冬休みイベント「研究者と飼育係のこだわり解説ツアー」・「バックヤードツアー」	12月22日～1月7日
春休みイベント「研究者と飼育係のこだわり解説ツアー」・「バックヤードツアー」・「大水槽のエサやり体験」	3月23～31日

◆森里海連環学教育ユニット主催共催事業

- 1) 第13回 京都大学地球環境フォーラム「リスクとつきあう」
京都大学地球環境フォーラム「リスクとつきあう」 7月14日
場所：京都大学百周年時計台記念館 国際交流ホール
主催：地球環境学堂・共催：京都大学学際融合教育研究推進センター森里海連環学教育ユニット
- 2) 森里海連環学(CoHHO)セミナー
 - 第1回 横山 壽 「炭素・窒素安定同位体を用いた沿岸の栄養構造解析の現状と
養殖環境対策への応用」 8月2日
 - 第2回 宋 泳根 「リモートセンシングによる緑の活力診断手法の開発 (Assessment of canopy
condition using remote sensing data)」 10月11日
 - 第3回 清水 夏樹 「バイオマス活用は地域に何をもたらさうのか
～メタン発酵技術を中心としたシステムの評価～」 11月22日
 - 第4回 吉積 巳貴 「地域連携/社会貢献活動を通じた学際融合教育研究の可能性
～アジアプラットフォームの取り組みを通して～」 12月27日

◆フィールド研関連刊行物編集委員会等

- 1) 「森林研究」編集委員(フィールド研教員のみ)
吉岡 崇仁(委員長)・長谷川 尚史(幹事)・柴田 昌三・安藤 信・徳地 直子・館野 隆之輔・中島 皇・寄元 道徳・坂野上 なお・中西 麻美
- 2) 「Publications of the Seto Marine Biological Laboratory」編集委員(フィールド研教職員のみ)
朝倉 彰(委員長)・久保田 信・宮崎 勝己・大和 茂之・中野 智之

(3) 研究成果

◆著書

■柴田 昌三

柴田 昌三, 長谷川 尚史. "仁淀川" (第2章第1節). 森と海をむすぶ川: 沿岸域再生のために. 京都大学フィールド科学教育研究センター編. 京都大学学術出版会, 2012, p.183-200.

■森林生物圏部門

■吉岡 崇仁

K. M. G. Mostofa; T. Yoshioka; M. A. Mottaleb; D. Vione. Photobiogeochemistry of Organic Matter: Principles and practices in water environments. Springer-Verlag, 2013, 917p.

北方森林学会編 (吉岡 崇仁 分担編集). 北海道の森林. 北海道新聞. 2011, p.320.

吉岡 崇仁. "琵琶湖集水域(第2章第3節)". 森と海をむすぶ川: 沿岸域再生のために. 京都大学フィールド科学教育研究センター編. 京都大学学術出版会, 2012, p.98-111.

■里域生態系部門

■山下 洋

山下 洋. "ヒラメ・カレイ類". 最新水産ハンドブック. 島一雄ほか編. 講談社サイエンティフィック, 2012, p.196-198.

上野 正博, 山下 洋. "由良川" (第2章第2節). 森と海をむすぶ川: 沿岸域再生のために. 京都大学フィールド科学教育研究センター編. 京都大学学術出版会, 2012, p.81-97.

■徳地 直子

徳地 直子, 福島 慶太郎. "人工林化と河川水質" (第2章第4節). 森と海をむすぶ川: 沿岸域再生のために. 京都大学フィールド科学教育研究センター編. 京都大学学術出版会, 2012, p.112-126.

■田川 正朋

三輪 理, 田川 正朋. "変態" (8章). 魚類生理学の基礎 増補改訂版. 会田 勝美・金子 豊二編『増補改訂版 魚類生理学の基礎』. 恒星社厚生閣, 2013, p.184-192.

■梅本 信也

梅本 信也. "紀伊半島南端の植物: 里域保全論への招待". 梅本 信也編. ユニバース印刷, 2013, 88p.

梅本 信也. "里域食文化論入門 II". 梅本 信也編. ユニバース印刷, 2012, 74p.

■長谷川尚史

長谷川尚史. "路網整備を中心に林業と地域を再生する". 「天然水の森」を科学する. サントリービジネスエキスパート(株)水科学研究所・サントリーホールディングス(株)編. 日本林業調査会, 2013, p.173-189.

柴田 昌三, 長谷川 尚史. "仁淀川" (第2章第1節). 森と海をむすぶ川: 沿岸域再生のために. 京都大学フィールド科学教育研究センター編. 京都大学学術出版会, 2012, p.183-200.

■上野 正博

上野 正博, 山下 洋. "由良川" (第2章第2節). 森と海をむすぶ川: 沿岸域再生のために. 京都大学フィールド科学教育研究センター編. 京都大学学術出版会, 2012, p.81-97.

■甲斐 嘉晃

甲斐 嘉晃. "ボウエンギョ科", "ザラアンコウ科", "キバアンコウ科". 日本産魚類検索: 全種の同定. 中坊徹次編. 第3版, 東海大学出版会, 2013.

中坊 徹次・甲斐 嘉晃. "スタウナギ科", "ヤツメウナギ科", "トカゲギス科", "タヌキソコギス科", "ソコギス科", "サバヒ科", "ネズミギス科", "ロリカリア科", "ハナメイワシ科", "セキトリイワシ科", "ヒメ科", "ホタテエソ科", "ナガアオメエソ科", "シンカイエソ科", "オニアオメエソ科", "チョウチンハダカ科", "アオメエソ科", "フデエソ科", "デメエソ科", "ヤリエソ科", "ムナビレハダカエソ科", "ミズウオ科", "ハダカエソ科", "ソトオリイワシ科", "ハダカイワシ科", "チゴダラ科", "カワリヒレダラ科", "メルルーサ科", "タラ科", "サイウオ科", "ソコダラ科", "バケダラ科", "アシロ科", "フサイタチウオ科", "ソコオクメウオ科", "ヒレナガチョウチンアンコウ科", "ミツクリエナガチョウチンアンコウ科", "シダアンコウ科", "オニアンコウ科", "ラクダアンコウ科", "クロアンコウ科", "フタツザオチョウチンアンコウ科", "チョウチンアンコウ科", "ベニマトウダイ科", "ソコマトウダイ科", "マトウダイ科", "オオメマトウダイ科", "ヒシマトウダイ科", "タウナギ科", "メバル科", "キチジ科", "フサカサゴ科", "ハチ科", "ハオコゼ科", "オニオコゼ科", "イボオコゼ科", "ヒレナガカサゴ科", "ヒメキチジ科", "ウバゴチ科", "アカゴチ科", "ハリゴチ科", "コチ科", "ギンダラ科", "アイナメ科", "トリカジカ科", "

クチバシカジカ科”, “ケムシカジカ科”, “カジカ科”, “ウラナイカジカ科”, “トクビレ科”, “ダンゴウオ科”, “クサウオ科”, “ヒシダイ科”. 日本産魚類検索: 全種の同定. 中坊徹次編. 第3版, 東海大学出版会, 2013.

波戸岡 清峰・甲斐 嘉晃. “イシナギ科”, “クシスミクイウオ科”, “コバンザメ科”, “シマガツオ科”. 日本産魚類検索: 全種の同定. 中坊徹次編. 第3版, 東海大学出版会, 2013.

基礎海洋生物学部門

■朝倉 彰

日本ベントス学会編 (朝倉 彰, 共同執筆). 干潟の絶滅危惧動物図鑑: 海岸ベントスのレッドデータブック. 東海大学出版会, 2012, 285p.

■宮崎 勝己

宮崎 勝己. “節足動物”. 進化学事典. 共立出版, 2012, p. 268-270.

森里海連環学教育ユニット

■向井 宏

Ikeda; K.; H. Mukai. “Dugongs in Japan”. Sirenian Conservation: Issues and Strategies in Developing Countries. E. Hines, J.E. Reynolds III, L. V. Aragones, A.A. Mignucci-Ciannoni, and M. Marmontel ed., University Press of Florida, 2012, p. 77-83.

向井 宏. “魚付き林”. 海洋保全生態学. 白山 義久・桜井 泰憲・古谷 研・中原 裕幸・松田 裕之・加々美 康彦編. 講談社, 2012, p. 93-95.

向井 宏. “別寒辺牛川における森と海の間わり” (第1章第2節). 森と海をむすぶ川: 沿岸域再生のために. 京都大学フィールド科学教育研究センター編. 京都大学学術出版会, 2012, p. 215-238.

向井 宏. “環境保全のための流域管理と海洋保護区” (第5章). 森と海をむすぶ川: 沿岸域再生のために. 京都大学フィールド科学教育研究センター編. 京都大学学術出版会, 2012, p. 215-238.

■佐藤 真行

佐藤 真行. “河川の公共事業と政策評価: 豊川を事例に” (第4章第2節). 森と海をむすぶ川: 沿岸域再生のために. 京都大学フィールド科学教育研究センター編. 京都大学学術出版会, 2012, p. 183-200.

企画研究推進部門

■福島 慶太郎

徳地 直子, 福島 慶太郎. “人工林化と河川水質” (第2章第4節). 森と海をむすぶ川: 沿岸域再生のために. 京都大学フィールド科学教育研究センター編. 京都大学学術出版会, 2012, p. 112-126.

◆原著論文・総説 (査読あり)

■柴田 昌三

Hon, Jason; SHIBATA, Shozo. Temporal partitioning by animals visiting salt licks. International Journal of Environmental and Development. 2013, 4(1), p. 44-48.

森林生物圏部門

■吉岡 崇仁

石原 正恵, 今西 亜友美, 阪口 翔太, 福澤 加里部, 向 昌宏, 吉岡 崇仁. 芦生研究林におけるシカ排除柵によるスキ群落の回復過程. 森林研究. 2012, 78, p. 39-56.

Mostofa, Khan M. G.; Wu, Fengchang; Liu, Cong-Qiang; Vione, Davide; Yoshioka, Takahito; Sakugawa, Hiroshi; Tanoue, Eiichiro. Photochemical, microbial and metal complexation behavior of fluorescent dissolved organic matter in the aquatic environments. Geochemical Journal. 2011, 45(3), p. 235-254.

Nakanishi, Masami; Gichuki, John; Sato, Tomohiro; Tomonagi, Mayuko; Jembe, Tsuma; Sekino, Tatsuki; Yoshioka, Takahito; Muhandiki, Victor; Sato, Yurai; Nakamura, Masahisa. Removal function of the Yala Swamp (Western Kenya) on allochthonous matter transported from the Yala River. Transactions of the Research Institute of Oceanography. 2012, 25(2), p. 59-67.

■舘野 隆之輔

Shi, Wei-Yu; Tateno, Ryunosuke; Zhang, Jian-Guo; Wang, Yi-Long; Yamanaka, Norikazu; Du, Sheng. Response of soil respiration to precipitation during the dry season in two typical forest stands in the forest-grassland transition zone of the Loess Plateau. Agricultural and Forest Meteorology. 2011, 151(7), p. 854-863.

Zhang, Jian; Taniguchi, Takeshi; Tateno, Ryunosuke; Xu, Ming; Du, Sheng; Liu, Guo-Bin; Yamanaka, Norikazu. Ectomycorrhizal fungal communities of *Quercus liaotungensis* along local slopes in the temperate oak forests on the Loess Plateau, China. *Ecological Research*. 2013, 28(2), p.297-305.

稲垣 善之, 稲垣 昌宏, 三浦 覚, 小林 政広, 伊藤 優子, 吉永 秀一郎, 戸田 浩人, 福島 慶太郎, 館野 隆之輔, 徳地 直子. 針葉樹人工林流域における窒素負荷と窒素流亡の関係. *関東森林研究*. 2013, 63, p.97-100.

香山 雅純, 青木 菜保子, 平山 大輔, 館野 隆之輔, 川路 まり, 米田 健. 2 種類の土壌に植栽したオキナワウラジロガシとアマミアラカシの成長特性. *九州森林研究*. 2013, 65, p.64-67.

■坂野上 なお

門松 昌彦, 山本 博一, 坂野上 なお, 古賀 信也. 檜皮採取がヒノキの直径成長に与える影響. *北海道大学演習林研究報告*. 2012, 68(1), p.39-46.

里域生態系部門

■山下 洋

Antonio, Emily S.; Kasai, Akihito; Ueno, Masahiro; Ishihi, Yuka; Yokoyama, Hisashi; Yamashita, Yoh. Spatial-temporal feeding dynamics of benthic communities in an estuary-marine gradient. *Estuarine, Coastal and Shelf Science*. 2012, 112(0), p.86-97.

Fukunishi, Yuichi; Masuda, Reiji; Robert, Dominique; Yamashita, Yoh. Comparison of UV-B tolerance between wild and hatchery-reared juveniles of red sea bream (*Pagrus major*) and black sea bream (*Acanthopagrus schlegelii*). *Environmental Biology of Fishes*. 2013, 96(1), p.13-20.

Funahashi, Tatsuhiro; Kasai, Akihito; Ueno, Masahiro; Yamashita, Yoh. Effects of short time variation in the river discharge on the salt wedge intrusion in the Yura Estuary, a micro tidal estuary, Japan. *Journal of Water Resource and Protection*. 2013, 5, p.343-348.

Lien, YT; Keshavmurthy, S.; Nakano, Y.; Plathong, S.; Huang, H.; Hsu, CM; Fukami, H.; Yamashita, Y.; Hsieh, HJ; Wang, JT; Chen, CA. Host genetics and Symbiodinium D diversity in a stress-tolerant scleractinian coral, *Oulastrea crispata*, in the West Pacific. *Marine Ecology Progress Series*. 2013, 473, p.163-177.

Lien, Yi-Ting; Fukami, Hironobu; Yamashita, Yoh. Symbiodinium Clade C Dominates Zooxanthellate Corals (Scleractinia) in the Temperate Region of Japan. *Zoological Science*. 2012, 29(3), p.173-180.

Matsui, Shoko; Inui, Ryutei; Yamashita, Yoh. Distribution and habitat use of three Acentrogobius (Perciformes: Gobiidae) species in the coastal waters of Japan. *Ichthyological Research*. 2012, 59(4), p.373-377.

Ohata, Ryosuke; Masuda, Reiji; Takahashi, Kohji; Yamashita, Yoh. Moderate turbidity enhances schooling behaviour in fish larvae in coastal waters. *ICES Journal of Marine Science: Journal du Conseil*. 2013.

Takahashi, Kohji; Masuda, Reiji; Yamashita, Yoh. Bottom feeding and net chasing improve foraging behavior in hatchery-reared Japanese flounder *Paralichthys olivaceus* juveniles for stocking. *Fisheries Science*. 2013, 79(1), p.55-60.

Takahashi, Kohji; Masuda, Reiji; Matsuyama, Michiya; Yamashita, Yoh. Stimulus-specific development of learning ability during habitat shift in pre to post-recruitment stage jack mackerel. *Journal of Ethology*. 2012, 30(2), p.309-316.

Wada, Toshihiro; Mitsunaga, Naoki; Suzuki, Keita W; Yamashita, Yoh; Tanaka, Masaru. Occurrence and distribution of settling and newly settled spotted halibut *Verasper variegatus* and Japanese flounder *Paralichthys olivaceus* in shallow nursery grounds around Shimabara Peninsula, western Japan. *Fisheries Science*. 2012, 78(4), p.819-831.

Yatsuya, Miwa; Ueno, Masahiro; Yamashita, Yoh. Occurrence and distribution of freshwater shrimp in the Isazu and Yura Rivers, Kyoto, western Japan. *Plankton and benthos research*. 2012, 7(4), p.175-187.

■徳地 直子

Naoko, Tokuchi; Nobuhito, Ohte; Ken'ichi, Osaka; Masanori, Katsuyama. Separate estimation of N export into baseline N leakage without disturbance and N loss due to insect defoliation in a pine forest watershed in central Japan. *Environmental monitoring and assessment*. 2013, 185(1), p.855-863.

Sato, Takuya; Watanabe, Katsutoshi; Tokuchi, Naoko; Kamauchi, Hiromitsu; Harada, Yasushi; Lafferty, Kevin D. A nematomorph parasite explains variation in terrestrial subsidies to trout streams in Japan. *Oikos*. 2011, 120(10), p.1595-1599.

Koyama, Lina; Hirobe, Muneto; Koba, Keisuke; Tokuchi, Naoko. Nitrate-use traits of understory plants as potential regulators of vegetation distribution on a slope in a Japanese cedar plantation. *Plant and Soil*. 2013, 362(1-2), p. 119-134.

Ueda, Miki U.; Tokuchi, Naoko. Effects of winter buds on winter nitrogen uptake and allocation in *Pinus densiflora* saplings. *Journal of Forest Research*. 2012, p.1-4. (オンライン出版 doi: 10.1007/s10310-012-0371-0)

稲垣 善之, 稲垣 昌宏, 三浦 寛, 小林 政広, 伊藤 優子, 吉永 秀一郎, 戸田 浩人, 福島 慶太郎, 館野 隆之輔, 徳地 直子. 針葉樹人工林流域における窒素負荷と窒素流亡の関係. *関東森林研究*. 2013, 63, p.97-100.

鎌内 宏光, 佐藤 修一, 林 大輔, 岡部 芳彦, 勝山 智慧, 福島 慶太郎, 吉岡 歩, 佐藤 拓哉, 徳地 直子, 仲岡 雅裕. 北海道東部における初冬のホツチャレ消費者. *森林研究*. 2012, 78, p.81-87.

■田川 正朋

Isojima, Toshinori; Tsuji, Hirohito; Masuda, Reiji; Tagawa, Masatomo. Formation process of staining-type hypermelanosis in Japanese flounder juveniles revealed by examination of chromatophores and scales. *Fisheries Science*. 2013, 79(2), p.231-242.

Kamisaka, Yuko; Helvik, Jon Vidar; Tagawa, Masatomo; Tanaka, Masaru; Rønnestad, Ivar. Evidence for an ontogenetic change from pre-programmed to meal-responsive cck production in Atlantic herring, *Clupea harengus* L. *Comparative Biochemistry and Physiology Part A: Molecular & Integrative Physiology*. 2013, 164(1), p.17-20.

Yoshikawa, Naoki; Mammaran, Thamootharan; Bavoh, Elvin Michael; Tanaka, Masaru; Tagawa, Masatomo. Gonadal development of the primitive flatfish *Psettodes erumei* in Kota Kinabalu, Sabah, Malaysia. *Aquaculture Science*. 2012, 60(4), p.475-483.

■益田 玲爾

Masuda, Reiji; Matsuda, Katsuhiko; Tanaka, Masaru. Laboratory video recordings and underwater visual observations combined to reveal activity rhythm of red-spotted grouper and banded wrasse, and their natural assemblages. *Environmental Biology of Fishes*. 2012, 95(3), p.335-346.

Fukunishi, Yuichi; Masuda, Reiji; Robert, Dominique; Yamashita, Yoh. Comparison of UV-B tolerance between wild and hatchery-reared juveniles of red sea bream (*Pagrus major*) and black sea bream (*Acanthopagrus schlegelii*). *Environmental Biology of Fishes*. 2013, 96(1), p.13-20.

Isojima, Toshinori; Tsuji, Hirohito; Masuda, Reiji; Tagawa, Masatomo. Formation process of staining-type hypermelanosis in Japanese flounder juveniles revealed by examination of chromatophores and scales. *Fisheries Science*. 2013, 79(2), p.231-242.

Ji, Li; Haga, Yutaka; Masuda, Reiji; Takahashi, Kohji; Ohata, Hiroaki; Ishida, Shuzo; Satoh, Shuichi. Growth, survival, digestive enzyme activities, and RNA/DNA ratio in Japanese flounder *Paralichthys olivaceus* larvae fed live food and casein peptide- and fish meal-based microdiets. *Aquaculture Science*. 2013, 61(1), p.81-93.

Ohata, Ryosuke; Masuda, Reiji; Takahashi, Kohji; Yamashita, Yoh. Moderate turbidity enhances schooling behaviour in fish larvae in coastal waters. *ICES Journal of Marine Science: Journal du Conseil*. 2013.

Takahashi, Kohji; Masuda, Reiji; Yamashita, Yoh. Bottom feeding and net chasing improve foraging behavior in hatchery-reared Japanese flounder *Paralichthys olivaceus* juveniles for stocking. *Fisheries Science*. 2013, 79(1), p.55-60.

Takahashi, Kohji; Masuda, Reiji; Matsuyama, Michiya; Yamashita, Yoh. Stimulus-specific development of learning ability during habitat shift in pre to post-recruitment stage jack mackerel. *Journal of Ethology*. 2012, 30(2), p.309-316.

■長谷川 尚史

Ioki, Keiko; Imanishi, Junichi; Sasaki, Takeshi; Song, Youngkeun; Morimoto, Yukihiro; Hasegawa, Hisashi. Estimating Vertical Distribution of Vegetation Cover in Temperate Heterogeneous Forests Using Airborne Laser Scanning Data. *Open Journal of Forestry*. 2012, 2(3), p.89-96.

白澤 紘明, 長谷川 尚史, 梅垣 博之. 原木流通における輸送車両選択によるコスト低減効果: 兵庫県を事例として. *森林利用学会誌*. 2013, 28(1), p.7-16.

■上野 正博

Antonio, Emily S.; Kasai, Akihide; Ueno, Masahiro; Ishihi, Yuka; Yokoyama, Hisashi; Yamashita, Yoh. Spatial-temporal feeding dynamics of benthic communities in an estuary-marine gradient. *Estuarine, Coastal and Shelf*

- Science. 2012, 112(0), p.86-97.
- Funahashi, Tatsuhiro; Kasai, Akihide; Ueno, Masahiro; Yamashita, Yoh. Effects of short time variation in the river discharge on the salt wedge intrusion in the Yura Estuary, a micro tidal estuary, Japan. *Journal of Water Resource and Protection*. 2013, 5, p.343-348.
- Ohata, Ryosuke; Masuda, Reiji; Takahashi, Kohji; Yamashita, Yoh. Moderate turbidity enhances schooling behaviour in fish larvae in coastal waters. *ICES Journal of Marine Science: Journal du Conseil*. 2013,
- Yatsuya, Miwa; Ueno, Masahiro; Yamashita, Yoh. Occurrence and distribution of freshwater shrimp in the Isazu and Yura Rivers, Kyoto, western Japan. *Plankton and benthos research*. 2012, 7(4), p.175-187.
- 中山 耕至
- Muto, Nozomu; Nakayama, Kouji; Nakabo, Tetsuji. Distinct genetic isolation between “Kunimasu” (*Oncorhynchus kawamurae*) and “Himemasu” (*O. nerka*) in Lake Saiko, Yamanashi Prefecture, Japan, inferred from microsatellite analysis. *Ichthyological Research*. 2013, 60(2), p.188-194. (Published online: 2012-12-05)
- Suzuki, Keita W.; Ueda, Hiroshi; Nakayama, Kouji; Tanaka, Masaru. Different patterns of stage-specific horizontal distribution between two sympatric oligohaline copepods along a macrotidal estuary (Chikugo River, Japan): implications for life-history strategies. *Journal of Plankton Research*. 2012, 34(12), p.1042-1057.
- Suzuki, Keita W.; Nakayama, Kouji; Tanaka, Masaru. Distinctive copepod community of the estuarine turbidity maximum: comparative observations in three macrotidal estuaries (Chikugo, Midori, and Kuma Rivers), southwestern Japan. *Journal of Oceanography*. 2013, 69(1), p.15-33.
- Suzuki, Keita W.; Kasai, Akihide; Nakayama, Kouji; Tanaka, Masaru. Year-round accumulation of particulate organic matter in the estuarine turbidity maximum: comparative observations in three macrotidal estuaries (Chikugo, Midori, and Kuma Rivers), southwestern Japan. *Journal of Oceanography*. 2012, 68(3), p.453-471.
- 甲斐 嘉晃
- Kai Yoshiaki, Park Kyung Dong, Nakabo T. The incomplete history of mitochondrial lineages between two rockfishes, *Sebastes longispinis* and *Sebastes hubbsi* (Scorpaeniformes: Scorpaenidae). *Journal of Fish Biology*. 2012, 81(3), p.954-965.
- Hibino, Yusuke; Kai, Yoshiaki; Kimura, Seishi. *Scolecenchelys fuscogularis* (Anguilliformes: Ophichthidae, Myrophinae), a new worm eel from Japan. *Ichthyological Research*. 2013, 60(1), p.43-47.
- Muto, Nozomu; Noda, Tsutomu; Kai, Yoshiaki; Nakabo, Tetsuji. First record of albinism in the rockfish *Sebastes pachycephalus* complex (Scorpaeniformes: Scorpaenidae). *Ichthyological Research*. 2012, 60(2), p.195-197.
- 亀甲 武志, 根本 守仁, 澤田 宣雄, 藤岡 康弘, 甲斐 嘉晃. 琵琶湖沿岸におけるフナ類およびコイ産着卵の大量干出 (会員通信 新知見紹介). *魚類学雑誌*. 2012, 59(1), p.84-86.
- 明田 勝章, 淀 太我, 甲斐 嘉晃, 吉岡 基. 若狭湾西部海域におけるメバル複合種群の食性比較. *水産増殖*. 2012, 60(2), p.207-214.
- 福西 悠一
- Fukunishi, Yuichi; Masuda, Reiji; Robert, Dominique; Yamashita, Yoh. Comparison of UV-B tolerance between wild and hatchery-reared juveniles of red sea bream (*Pagrus major*) and black sea bream (*Acanthopagrus schlegelii*). *Environmental Biology of Fishes*. 2013, 96(1), p.13-20.
- Fukunishi Yuichi, Browman Howard I., Durif Caroline M. F., Bjelland Reidun M., Skiftesvik Anne Berit. Effect of Sub-Lethal Exposure to Ultraviolet Radiation on the Escape Performance of Atlantic Cod Larvae (*Gadus morhua*). *PLoS ONE*. 2012, 7(4), p.e35554.
- 高橋 宏司
- Takahashi Kohji, Masuda Reiji, Yamashita Yoh. Bottom feeding and net chasing improve foraging behavior in hatchery-reared Japanese flounder *Paralichthys olivaceus* juveniles for stocking. *Fisheries Science*. 2013, 79(1), p.55-60.
- Takahashi Kohji, Masuda Reiji, Matsuyama Michiya, Yamashita Yoh. Stimulus-specific development of learning ability during habitat shift in pre to post-recruitment stage jack mackerel. *Journal of Ethology*. 2012, 30(2), p.309-316.
- Ohata, Ryosuke; Masuda, Reiji; Takahashi, Kohji; Yamashita, Yoh. Moderate turbidity enhances schooling behaviour in fish larvae in coastal waters. *ICES Journal of Marine Science: Journal du Conseil*. 2013.

■竹下 文雄

Takeshita, Fumio; Wada, Satoshi. Morphological Comparison of the Second Gnathopod in Males of Four Caprellid Species (Amphipoda: Caprellidae). *Journal of Crustacean Biology*. 2012, 32(4), p.673-676.

基礎海洋生物学部門

■朝倉 彰

Sonoda, Kohei; Asakura, Akira; Minoura, Mai; Elwood, Robert W.; Gunji, Yukio-P. Hermit crabs perceive the extent of their virtual bodies. *Biology Letters*. 2012, 8, p.495-497.

■久保田 信

Kubota, Shin. The life cycle of a bivalve-inhabiting hydrozoan, *Eutima sapinhoa* (Cnidaria, Hydrozoa), from Florida, USA. *Biogeography*. 2012, 14, p.87-91.

Kubota, Shin; Hiran, Yayoi; Ikeguchi, Shinichiro; Minemizu, Ryo; Kitamura, Minoru. Wide geographical distribution of *Atorella vanhoeffeni* (Cnidaria, Scyphozoa, Coronatae) in Japan. *Biogeography*. 2012, 14, p.83-86.

Kubota, Shin. Evolutionary Meaning of Non-Synchronous Medusa Release and Spawning in the Most Advanced Bivalve-Inhabiting Hydrozoan, *Eugymnanthea japonica*. *Zoological Science*. 2012, 29(8), p.481-483.

久保田 信. アマクサクラゲの半世紀ぶりの和歌山県白浜町への出現. *南紀生物*. 2012, 54(2), p.147-148.

久保田 信. 多数のタコクラゲが和歌山県白浜町瀬戸漁港へ再出現:小潮時の1日の時間帯による出現数の相違. *南紀生物*. 2012, 54(2), p.139-140.

久保田 信. 和歌山県田辺湾に最近の20年間に漂着・座礁・迷入したクジラ類(哺乳類). *南紀生物*. 2012, 54(1), p.79-80.

久保田 信. 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所北浜に最近9年間(2003年-2012年)に漂着したウミガメ(爬虫類). *南紀生物*. 2012, 54(1), p.17-18.

久保田 信. オカヤドカリ類(甲殻類, 異尾類)の和歌山県白浜町における初秋季の出現時刻. *日本生物地理学会会報*. 2012, 67, p.215-217.

久保田 信. オカヤドカリ類(甲殻類, 異尾類)の和歌山県白浜町番所山付近への出現(2011年5月-2012年9月). *日本生物地理学会会報*. 2012, 67, p.209-213.

久保田 信. 長崎県対馬の最北端にカイヤドリヒドロ類(ヒドロ虫綱, 軟クラゲ目)2種が分布:コノハクラゲ中間型のGFP分布パターン. *日本生物地理学会会報*. 2012, 67, p.251-255.

久保田 信. 放射能の影響下にある福島県沿岸産コノハクラゲ(ヒドロ虫綱, 軟クラゲ目)の形態. *日本生物地理学会会報*. 2012, 67, p.203-208.

久保田 信. 北海道知床産の大型のベニクラゲ(ヒドロ虫綱, 花クラゲ目). *日本生物地理学会会報*. 2012, 67, p.223-225.

久保田 信. 緑藻で体の背側の大部分を覆われたミナミイワガニ(甲殻類). *日本生物地理学会会報*. 2012, 67, p.201-202.

久保田 信. 和歌山県白浜町で72年ぶりに採取された稀少種アカダマクラゲ(有櫛動物門, カブトクラゲ目, アカダマクラゲ科). *日本生物地理学会会報*. 2012, 67, p.219-222.

久保田 信. 和歌山県白浜町の砂浜におけるスナガニ属(甲殻類, スナガニ科)の巣穴の密度. *日本生物地理学会会報*. 2012, 67, p.277-280.

久保田 信. 和歌山県白浜町沿岸で採取された稀少種のホラガイ(巻貝綱: フジツガイ科). *Molluscan Diversity*. 2012, 3(2), p.95-96.

久保田 信. 和歌山県白浜町産ヤクシマダカラ(巻貝綱, タカラガイ科)の最大と最小の成貝. *Molluscan Diversity*. 2012, 3(2), p.97-98.

久保田 信, 小山 安生. 和歌山県で発見された稀少種スダレハマグリ(二枚貝綱: マルスダレガイ科). *Molluscan Diversity*. 2012, 3(2), p.92-94.

久保田 信, 岡田 真一, 山田 豊. 稀少種ヒクラゲ(刺胞動物門, 箱虫綱, アンドンクラゲ科)の触手断片とその刺傷. *日本生物地理学会会報*. 2012, 67, p.197-199.

久保田 信, 渡辺 葉平, 奥泉 和也. 山形県沿岸産の日本新記録の *Meliceritissa* 属のクラゲ(ヒドロ虫綱, 軟クラゲ目, ヤワラクラゲ科). *日本生物地理学会会報*. 2012, 67, p.227-230.

久保田 信, 田名瀬 英朋, 中坊 徹次. 和歌山県田辺湾にホシフグが大量漂着(2例). *漂着物学会誌*. 2012, 10, p.41-42.

久保田 信, 河村 真理子, 上野 俊士郎. エチゼンクラゲの長崎県対馬沿岸への漂着. 漂着物学会誌. 2012, 10, p. 45-46.

岩崎 敬二, 久保田 信, 桑原 康裕. 久保田信所蔵標本の外来海洋動物: 1980 年代の分布を主として. 日本生物地理学会会報. 2012, 67, p. 133-142.

中坊 徹次, 久保田 信, 東海林 明, 田名瀬 英朋. 和歌山県田辺湾にムシブグが漂着. 漂着物学会誌. 2012, 10, p. 43-44.

■宮崎 勝己

Miyazaki, Katsumi; Makioka, Toshiki. Postembryonic development of the female reproductive system in the pycnogonid *Propallene longiceps* (Pycnogonida, Callipallenidae). Invertebrate Reproduction and Development. 2012, 56(4), p. 287-292.

■大和 茂之

Yusa, Yoichi; Yoshikawa, Mai; Kitaura, Jun; Kawane, Masako; Ozaki, Yuki; Yamato, Shigeyuki; Høeg, Jens T. Adaptive evolution of sexual systems in pedunculate barnacles. Proceedings of the Royal Society B: Biological Sciences. 2011, 279 (1730), p. 959-966.

大和 茂之, 遊佐 陽一, 田名瀬 英朋. 南方熊楠の「ウガ」の標本について. 南紀生物. 2012, 54(1), p. 1-4.

■中野 智之

Nakano, Tomoyuki; Sasaki, Takenori. Recent advances in molecular phylogeny, systematics and evolution of patellogastropod limpets. Journal of Molluscan Studies. 77, p. 203-217.

Dong Yun-wei, Wang Hai-shan, Han Guo-Dong, Ke Cai-huan, Zhan Xin, Nakano Tomoyuki, Williams Gray A. The Impact of Yangtze River Discharge, Ocean Currents and Historical Events on the Biogeographic Pattern of *Cellana toreuma* along the China Coast. PLoS ONE. 2012, 7(4), p. e36178.

Gonzalez-Wevar, Claudio; Hune, Mathias; Canete, Juan; Mansilla, Andres; Nakano, Tomoyuki; Poulin, Elie. Towards a model of postglacial biogeography in shallow marine species along the Patagonian Province: lessons from the limpet *Nacella magellanica* (Gmelin, 1791). BMC Evolutionary Biology. 2012, 12(1), p. 139.

森里海連環学教育ユニット

■佐藤 真行

Sato, Masayuki; Samreth, Sovannroeun; Yamada, Katsunori. A Numerical Study on Assessing Sustainable Development with Future Genuine Savings Simulation. International Journal of Sustainable Development. 2012, 15(4), p. 293-312.

■横山 壽

Yokoyama Hisashi. Growth and food source of the sea cucumber *Apostichopus japonicus* cultured below fish cages - Potential for integrated multi-trophic aquaculture. Aquaculture. 2013, 372-375, p. 28-38.

Antonio, Emily S.; Kasai, Akihideo; Ueno, Masahiro; Ishihi, Yuka; Yokoyama, Hisashi; Yamashita, Yoh. Spatial-temporal feeding dynamics of benthic communities in an estuary-marine gradient. Estuarine, Coastal and Shelf Science. 2012, 112(0), p. 86-97.

■清水 夏樹

清水 夏樹, 柚山 義人, 中村 真人, 山岡 賢. バイオマス活用における担い手別の経済性と地産地消効果. 農村計画学会誌. 2012, 31, p. 207-212.

■宋 泳根

Song Youngkeun, Njoroge JohnB, Morimoto Yukihiro. Drought impact assessment from monitoring the seasonality of vegetation condition using long-term time-series satellite images: a case study of Mt. Kenya region. Environmental monitoring and assessment. 2012, p. 1-8.

Ioki, Keiko; Imanishi, Junichi; Sasaki, Takeshi; Song, Youngkeun; Morimoto, Yukihiro; Hasegawa, Hisashi. Estimating Vertical Distribution of Vegetation Cover in Temperate Heterogeneous Forests Using Airborne Laser Scanning Data. Open Journal of Forestry. 2012, 2(3), p. 89-96.

企画研究推進部門

■福島 慶太郎

Sakai Masaru, Natuhara Yosihiko, Fukushima Keitaro, Imanishi Ayumi, Imai Kensuke, Kato Makoto. Ecological

functions of persistent Japanese cedar litter in structuring stream macroinvertebrate assemblages. *Journal of Forest Research*. 2012, p.1-10.

Sakai, Masaru; Natuhara, Yoshihiro; Fukushima, Keitaro; Naito, Risa; Miyashita, Hideaki; Kato, Makoto; Gomi, Takashi. Responses of macroinvertebrate communities to 4 years of deer exclusion in first- and second-order streams. *Freshwater Science*. 2013, 32(2), p.563-575.

福島 慶太郎. 森林生態系の物質循環および渓流水質からみた攪乱影響評価の可能性. *森林立地*. 2012, 54(2), p.51-62.

稲垣 善之, 稲垣 昌宏, 三浦 覚, 小林 政広, 伊藤 優子, 吉永 秀一郎, 戸田 浩人, 福島 慶太郎, 舘野 隆之輔, 徳地 直子. 針葉樹人工林流域における窒素負荷と窒素流亡の関係. *関東森林研究*. 2013, 63, p.97-100.

鎌内 宏光, 佐藤 修一, 林 大輔, 岡部 芳彦, 勝山 智憲, 福島 慶太郎, 吉岡 歩, 佐藤 拓哉, 徳地 直子, 仲岡 雅裕. 北海道東部における初冬のホッチャレ消費者. *森林研究*. 2012, 78, p.81-87.

阪口 翔太, 藤木 大介, 井上 みずき, 山崎 理正, 福島 慶太郎, 高柳 敦. ニホンジカが多雪地域の樹木個体群の更新過程・種多様性に及ぼす影響. *森林研究*. 2012, 78, p.57-69.

阪口 翔太, 藤木 大介, 井上 みずき, 山崎 理正, 福島 慶太郎, 高柳 敦. 日本海側冷温帯性針広混交林におけるニホンジカの植物嗜好性. *森林研究*. 2012, 78, p.71-80.

白眉センター

■佐藤 拓哉

Sato, Takuya; Watanabe, Katsutoshi; Tamotsu, Satoshi; Ichikawa, Akihiko; Schmidt-Rhaesa, Andreas. Diversity of nematomorph and cohabiting nematode parasites in riparian ecosystems around the Kii Peninsula, Japan. *Canadian Journal of Zoology*. 2012, 90(7), p.829-838.

Sato, Takuya; Egusa, Tomohiro; Fukushima, Keitaro; Oda, Tomoki; Ohte, Nobuhito; Tokuchi, Naoko; Watanabe, Katsutoshi; Kanaiwa, Minoru; Murakami, Isaya; Lafferty, Kevin D. Nematomorph parasites indirectly alter the food web and ecosystem function of streams through behavioural manipulation of their cricket hosts. *Ecology Letters*. 2012, 15(8), p.786-793.

Miyahara, Hisae; Yamada, Hideyuki; Sato, Takuya; Harada, Yasushi; Yamamoto, Shoichiro; Kawamura, Kouichi. Mitochondrial-nuclear discordance in the amago salmon, *Oncorhynchus masou ishikawae*, in the River Miya, Japan. *Conservation Genetics*. 2012, 13(5), p.1343-1353.

鎌内 宏光, 佐藤 修一, 林 大輔, 岡部 芳彦, 勝山 智憲, 福島 慶太郎, 吉岡 歩, 佐藤 拓哉, 徳地 直子, 仲岡 雅裕. 北海道東部における初冬のホッチャレ消費者. *森林研究*. 2012, 78, p.81-87.

管理技術部

■岡部 芳彦

鎌内 宏光, 佐藤 修一, 林 大輔, 岡部 芳彦, 勝山 智憲, 福島 慶太郎, 吉岡 歩, 佐藤 拓哉, 徳地 直子, 仲岡 雅裕. 北海道東部における初冬のホッチャレ消費者. *森林研究*. 2012, 78, p.81-87.

■勝山 智憲

鎌内 宏光, 佐藤 修一, 林 大輔, 岡部 芳彦, 勝山 智憲, 福島 慶太郎, 吉岡 歩, 佐藤 拓哉, 徳地 直子, 仲岡 雅裕. 北海道東部における初冬のホッチャレ消費者. *森林研究*. 2012, 78, p.81-87.

■佐藤 修一

鎌内 宏光, 佐藤 修一, 林 大輔, 岡部 芳彦, 勝山 智憲, 福島 慶太郎, 吉岡 歩, 佐藤 拓哉, 徳地 直子, 仲岡 雅裕. 北海道東部における初冬のホッチャレ消費者. *森林研究*. 2012, 78, p.81-87.

■林 大輔

鎌内 宏光, 佐藤 修一, 林 大輔, 岡部 芳彦, 勝山 智憲, 福島 慶太郎, 吉岡 歩, 佐藤 拓哉, 徳地 直子, 仲岡 雅裕. 北海道東部における初冬のホッチャレ消費者. *森林研究*. 2012, 78, p.81-87.

■向 昌宏

石原 正恵, 今西 亜友美, 阪口 翔太, 福澤 加里部, 向 昌宏, 吉岡 崇仁. 芦生研究林におけるシカ排除柵によるスキ群落の回復過程. *森林研究*. 2012, 78, p.39-56.

■吉岡 歩

鎌内 宏光, 佐藤 修一, 林 大輔, 岡部 芳彦, 勝山 智憲, 福島 慶太郎, 吉岡 歩, 佐藤 拓哉, 徳地 直子, 仲岡 雅裕. 北海道東部における初冬のホッチャレ消費者. *森林研究*. 2012, 78, p.81-87.

◆原著論文・総説（査読なし）

■柴田 昌三

柴田 昌三. 森里海連環学的視点からみた震災と津波、そして復興とボランティア支援. 環境保全. 2012, 第 26 号 p. 12-22.

里域生態系部門

■山下 洋

渡辺 謙太, 福崎 康司, 上野 正博, 笠井 亮秀, 山下 洋. 丹後海植物プランクトン現存量に由良川の流入が与える影響. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業(木文化プロジェクト)」2011 年度報告書. 2012, p. 140-214.

舟橋 達宏, 上野 正博, 笠井 亮秀, 山下 洋. 数値実験を用いた由良川河口域の低次生産過程の再現とその考察. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業(木文化プロジェクト)」2011 年度報告書. 2012, p. 215-256.

■上野 正博

渡辺 謙太, 福崎 康司, 上野 正博, 笠井 亮秀, 山下 洋. 丹後海植物プランクトン現存量に由良川の流入が与える影響. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業(木文化プロジェクト)」2011 年度報告書. 2012, p. 140-214.

舟橋 達宏, 上野 正博, 笠井 亮秀, 山下 洋. 数値実験を用いた由良川河口域の低次生産過程の再現とその考察. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業(木文化プロジェクト)」2011 年度報告書. 2012, p. 215-256.

基礎海洋生物学部門

■久保田 信

久保田 信, 斎藤 伸輔. 茨城県産ヒルムシロヒドラ(ヒドロ虫綱, 花クラゲ目)の巨大クラゲ. Kuroshio Biosphere. 2013, 9, p. 27-30.

久保田 信, 山田 守彦, 築地 新光子, 峯水 亮, 多留 聖典, 奥田 和美. *Lobatolampea tetragona* (クシクラゲ類)は南日本に広く分布する. Kuroshio Biosphere. 2013, 9, p. 35-39.

久保田 信, 足立 文. ヒクラゲの刺傷. Kuroshio Biosphere. 2013, 9, p. 31-34.

久保田 信. アオスジアゲハ(チョウ目, アゲハチョウ科)の塩分補給. KINOKUNI. 2012, (81), p. 12.

久保田 信. アオスジアゲハ(チョウ目, アゲハチョウ科)の塩分補給を再度確認. KINOKUNI. 2012, (82), p. 14.

久保田 信. 串本町でのサツマゴキブリ(ゴキブリ目, ゴキブリ上科)の最近の出現. KINOKUNI. 2012, (81), p. 10.

久保田 信. 白浜町番所山へのサツマゴキブリ(ゴキブリ目, ゴキブリ上科)の初出現. KINOKUNI. 2012, (81), p. 11-12.

久保田 信. 和歌山県白浜町で脱皮殻上で羽化したクマゼミ(カメムシ目, セミ科). KINOKUNI. 2012, (82), p. 16.

久保田 信. 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”でセセリチョウの一種(チョウ目, セセリチョウ亜科)の塩分補給. KINOKUNI. 2012, (82), p. 15.

久保田 信. 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”で死亡していたサツマゴキブリ(ゴキブリ目, ゴキブリ上科). KINOKUNI. 2012, (82), p. 21.

久保田 信. 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所の研究棟に侵入したサツマゴキブリ(ゴキブリ目, ゴキブリ上科). KINOKUNI. 2012, (82), p. 19-20.

久保田 信. 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所構内でのクマゼミ(半翅目, セミ科)の2012年の遅鳴き. KINOKUNI. 2012, (82), p. 17-18.

久保田 信. 和歌山県白浜町の海岸へ漂着した3個体目のサツマゴキブリ. KINOKUNI. 2012, (81), p. 9.

久保田 信. コアマモが和歌山県白浜町瀬戸漁港へ初出現. くろしお. 2012, (31), p. 37.

久保田 信. タコクラゲが港の岸壁へ衝突. くろしお. 2012, (31), p. 12-13.

久保田 信. 円形の殻のマツバガイ(軟体動物). くろしお. 2012, (31), p. 25-26.

久保田 信. 吸虫の幼生が寄生した田辺湾産フウセンクラゲ型幼体. くろしお. 2012, (31), p. 33.

久保田 信. 和歌山県白浜町でツバメが巣を2度利用. くろしお. 2012, (31), p. 26.

久保田 信, 池口 新一郎. 小型の鉢クラゲ *Atorella vanhoeffeni* (刺胞動物門, 鉢クラゲ綱, 冠クラゲ目)の稀少記録. くろしお. 2012, (31), p. 32.

久保田 信. 特集2 “南紀の豊かな自然”にあたって. 環境と健康. 2012, 25(1), p. 48-49.

久保田 信. 田辺湾は“宝の海”. 環境と健康. 2012, 25(1), p.65-68.

久保田 信. 長崎県対馬に漂着したタカラガイ類とイモガイ類 (巻貝綱). 長崎県生物学会誌. 2012, (70), p.6-8.

田名瀬 英朋, 久保田 信. みなべ町“千里の浜”において自然開花 (2009年夏季)したグンバイヒルガオ (ヒルガオ科) の記録. くろしお. 2012, (31), p.17-18.

森里海連環学教育ユニット

■向井 宏

向井 宏. 東日本大震災による沿岸生態系への影響と今後の展望 (特集・海岸林再生への動きを探る). グリーン・エージ. 2012, (4), p.16-20.

◆その他 (一般誌・報告書等)

■柴田 昌三

柴田 昌三. 物質循環の視点からみた沿岸域環境の再生 (韓国語). 特別シンポジウム「海洋生態系の再生とボランティア活動」テキスト. 2012, p.36-38.

柴田 昌三. 伊勢神宮の宮域林と木材利用. 第84回京都大学社寺見学会「秋の伊勢路をたずねて」資料. 2012, p.19-28.

柴田 昌三. 大学演習林の課題と展望 (シリーズ演習林1). 森林技術. 2013, (850), p.30-31.

柴田 昌三. 京都大学フィールド科学教育研究センター その森林系施設の変遷と活動 (シリーズ演習林2). 森林技術. 2013, (851), p.36-37.

柴田 昌三. 沿岸域環境再生における森里海連環の観点の重要性 (韓国語). 特別シンポジウム「海洋生態系の再生とボランティア活動」テキスト. 2012, p.81-87.

森林生物圏部門

■吉岡 崇仁

Ishii, Katsuyuki; Fukushima, Keitaro; Yoshioka, Takahito. Comparative effects of deer grazing on soil C and N dynamics in grassland and forest ecosystems in Ashiu, Japan. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2011年度報告書. 2012, p.98-114.

松山 周平, 石原 正恵, 福島 慶太郎, 境 慎二郎, 平井 岳志, 藤井 弘明, 浅野 善和, 吉岡 崇仁. 多雪地帯のスギ人工林における間伐実験: 伐採前の毎木調査及び下層植生調査の結果. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業 (木文化プロジェクト)」2011年度報告書. p.256-263.

里域生態系部門

■益田 玲爾

益田 玲爾. 懇話会ニュース クラゲと魚類の戦略的互惠関係. 日本水産学会誌. 2013, 79(1), p.102-103.

益田 玲爾. 第8章 栽培漁業と魚類の行動. 魚類の行動研究と水産資源管理. 2013, p.116-127.

益田 玲爾. 気仙沼舞根湾における魚類潜水センサス (特集 津波の海に生きる未来創生: 気仙沼舞根湾調査). 海洋と生物. 2012, 34(6), p.562-568.

益田 玲爾. 局所的温暖化: 原発温排水に依存した魚類群集の持続性と崩壊. 科学. 2012, 82(12), p.1339-1342.

益田 玲爾. 原発の停止後 海の生きものたちに変化. 自然保護. 2012, (528), p.20-21.

益田 玲爾. たつのおとしご (広辞苑を3倍楽しむ (第50回)). 科学. 2012, 82(4).

益田 玲爾. 魚類の行動と増養殖. ミニシンポジウム記録 水産資源管理に向けた魚類の行動研究. 日本水産学会誌. 2012, 78(5), p.1038.

■梅本 信也

梅本 信也. 古座川合同調査報告集 第7巻. 2012, 326p.

梅本 信也. 異系国際法と同系御定書: 土佐藩借船いろは丸と紀州和歌山藩御用船明光丸の衝突事件資料集. 2012, 53p.

■長谷川 尚史

長谷川 尚史. 芦生の森から見える森里海の連環 (大学演習林からの便り<16>). グリーン・エージ. 2013, (4), p.40-43.

長谷川 尚史. 特集「地域の森林資源を無駄なく使う」にあたって. 森林利用学会誌. 2013, 28(1), p.3-6.

■上野 正博

上野 正博. 森・里・川と沿岸域の生物生産: 森はホンマに海の恋人なのか. 森林技術. 2012, (8), p.12-15.

基礎海洋生物学部門

■朝倉 彰

朝倉 彰. “解説編”. 杉浦千里博物画図鑑 美しきエビとカニの世界. 成山堂書店, 2012, p. 62-82.

■久保田 信

久保田 信. 和歌山県田辺湾で採取された日本初の *Bythotia* 属(ホヤノヤドリヒドラクラゲ属)の一種のクラゲ. 瀬戸臨海実験所年報. 2012, 25, p. 32-33.

久保田 信. ムラサキオカヤドカリ (甲殻類, 異尾類) の越冬個体を京都大学瀬戸臨海実験所 “南浜” で 2012 年春に再発見. 瀬戸臨海実験所年報. 2012, 25, p. 40-41.

久保田 信. 京都大学瀬戸臨海実験所 “北浜” とその近郊海域へのハシボソミズナギドリ (ミズナギドリ科) の漂着. 瀬戸臨海実験所年報. 2012, 25, p. 42-43.

久保田 信. 和歌山県沿岸に漂着したコブシメ (コウイカ目, コウイカ科) の甲. 瀬戸臨海実験所年報. 2012, 25, p. 44.

久保田 信. 瀬戸臨海実験所構内 “研究道路” に 2012 年に初めて出現した熱帯性のサツマゴキブリ (ゴキブリ目, ゴキブリ上科). 瀬戸臨海実験所年報. 2012, 25, p. 45.

久保田 信. 台風 4 号が白浜町を通過した 2012 年 6 月 19 日の翌日にさらに陸側に移動した京都大学瀬戸臨海実験所 “北浜” に打ち上がった大型の死んだイシサンゴ (刺胞動物門, 花虫綱, 六放サンゴ亜綱, イシサンゴ目, キクメイシ科). 瀬戸臨海実験所年報. 2012, 25, p. 48-49.

久保田 信. 瀬戸臨海実験所構内 “研究道路” に出現したスナガニ属の一種 (スナガニ科). 瀬戸臨海実験所年報. 2012, 25, p. 50-51.

久保田 信. 京都大学白浜水族館水槽でギンタカハマ (ニシキウズ科) が夜間出現 (2012 年). 瀬戸臨海実験所年報. 2012, 25, p. 52.

久保田 信. 海洋の多種多様なプランクトン幼生. きのかにサイエンスボックス —和歌山県理科研究ガイド—. 2012, p. 89-120.

久保田 信. 大垣俊一さんの一つの集大成. Argonauta. 2012, 21, p. 17-18.

久保田 信, 新稲 一仁, 東海林 明, 武藤 望生, 中坊 徹次. アラハダカ *Myctophum asperum* (ハダカイワシ科) が和歌山県白浜町京都大学瀬戸臨海実験所 “北浜” と市原海岸へ漂着. 瀬戸臨海実験所年報. 2012, 25, p. 39.

久保田 信, 新稲 一仁. 和歌山県白浜町で採取された潮間帯に生息する生きた巻貝に付着して成長したユウレイボヤ (Ascidacea, Cionidae). 瀬戸臨海実験所年報. 2012, 25, p. 36-38.

久保田 信, 田名瀬 英朋. 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所 “北浜” に 2012 年 2 月に漂着した魚類. 瀬戸臨海実験所年報. 2012, 25, p. 34-35.

久保田 信, 梅本 信也. 瀬戸臨海実験所構内のカタバミ (カタバミ科) における 3 花柱型と出現頻度の経年変化. 瀬戸臨海実験所年報. 2012, 25, p. 46-47.

■宮崎 勝己

宮崎 勝己. 大垣さんのこと. Argonauta. 2012, (21), p. 43-44.

福島 健太, 藤巻 真由, 藤井 温子, 宮崎 勝己. 古座川の水生昆虫相 (2011 年度森里海連環学実習 B 報告). 古座川合同調査報告集. 2012, 7, p. 16-18.

布施 翔大, 宮崎 勝己. 水生昆虫相及び水質からみた古座川と田原川の比較 (2010 年度森里海連環学実習 B 報告). 古座川合同調査報告集. 2012, 7, p. 13-15.

森里海連環学教育ユニット

■向井 宏

向井 宏. 世界に誇る日本の海. 自然保護. 2012, (5), p. 8.

向井 宏. なぜ日本の海には保護区ができてこなかったか?. 自然保護. 2012, (5), p. 9-10.

向井 宏. ジュゴンを巡る森と海. Ship & Ocean Newsletter. 2012, (2), p. 4-5.

向井 宏. 地震・津波と沿岸の自然生態系 (1). 環境と正義. 2012, 7 月号, p. 1-4.

向井 宏. 地震・津波と沿岸の自然生態系 (2). 環境と正義. 2012, 8 月号, p. 7-10.

向井 宏. 地震・津波と沿岸の自然生態系 (3). 環境と正義. 2012, 10/11 月号, p. 7-10.

企画研究推進部門

■福島 慶太郎

Ishii, Katsuyuki; Fukushima, Keitaro; Yoshioka, Takahito. Comparative effects of deer grazing on soil C and N

dynamics in grassland and forest ecosystems in Ashiu, Japan. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業（木文化プロジェクト）」2011年度報告書. p.98-114.

福島 慶太郎, 岩井 有加, 橋本 智之, 境 優, 西岡 裕平, 長谷川 敦史, 藤井 弘明, 徳地 直子, 吉岡 崇仁, 高柳 敦. 芦生冷温帯天然林における大規模シカ防除柵設置5年度の生態系機能の回復過程とそのメカニズムに関する研究. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業（木文化プロジェクト）」2011年度報告書. p.115-139.

福島 慶太郎, 徳地 直子, 竹本 雅浩, 樋口 美和, 武市 梨沙, 山中 律, 富田 健介, 大森 真貴子, 向 昌宏. 仁淀川における河川水質の形成要因：森林伐採と土地利用の影響. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業（木文化プロジェクト）」2011年度報告書. p.24-37.

松山 周平, 石原 正恵, 福島 慶太郎, 境 慎二郎, 平井 岳志, 藤井 弘明, 浅野 善和, 吉岡 崇仁. 多雪地帯のスギ人工林における間伐実験：伐採前の毎木調査及び下層植生調査の結果. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業（木文化プロジェクト）」2011年度報告書. p.256-263.

■松山 周平

松山 周平, 石原 正恵, 福島 慶太郎, 境 慎二郎, 平井 岳志, 藤井 弘明, 浅野 善和, 吉岡 崇仁. 多雪地帯のスギ人工林における間伐実験：伐採前の毎木調査及び下層植生調査の結果. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業（木文化プロジェクト）」2011年度報告書. p.256-263.

■大川 智船

大川 智船. 2011年度木文化プロジェクト社会調査. 「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業（木文化プロジェクト）」2011年度報告書. 2012, p.268-276.

大川 智船. 木文化プロジェクト関連セミナー「バイオマスセミナー」の記録. 「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業（木文化プロジェクト）」2011年度報告書. 2012, p.277-278.

技術管理部

■浅野 善和

松山 周平, 石原 正恵, 福島 慶太郎, 境 慎二郎, 平井 岳志, 藤井 弘明, 浅野 善和, 吉岡 崇仁. 多雪地帯のスギ人工林における間伐実験：伐採前の毎木調査及び下層植生調査の結果. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業（木文化プロジェクト）」2011年度報告書. 2012, p.256-263.

■荒井 亮

荒井 亮. 事務所構内と長治谷の積雪深の関係. 研究林・試験地情報 2011(平成23)年度. 2013.

■太田 健一

太田 健一. 芦生研究林における林道除雪について. 研究林・試験地情報 2011(平成23)年度. 2013.

■勝山 智憲

勝山 智憲. 北海道研究林標茶区におけるフェノロジー観測のまとめ：2000年から2011年までの12年間の変化. 研究林・試験地情報 2011(平成23)年度. 2013.

■小嶋 宏和

小嶋 宏和. ニホンジカスポット防除によるススキの再生. 研究林・試験地情報 2011(平成23)年度. 2013.

■紺野 絡

紺野 絡, 藤井 弘明. 第1回京都大学東北復興支援学生ボランティア事業に参加して. 研究林・試験地情報 2011(平成23)年度. 2013.

■境 慎二郎

松山 周平, 石原 正恵, 福島 慶太郎, 境 慎二郎, 平井 岳志, 藤井 弘明, 浅野 善和, 吉岡 崇仁. 多雪地帯のスギ人工林における間伐実験：伐採前の毎木調査及び下層植生調査の結果. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業（木文化プロジェクト）」2011年度報告書. 2012, p.256-263.

■西岡 裕平

西岡 裕平. 事務所・幽仙谷・長治谷の気温比較. 研究林・試験地情報 2011(平成23)年度. 2013.

福島 慶太郎, 岩井 有加, 橋本 智之, 境 優, 西岡 裕平, 長谷川 敦史, 藤井 弘明, 徳地 直子, 吉岡 崇仁, 高柳 敦. 芦生冷温帯天然林における大規模シカ防除柵設置5年度の生態系機能の回復過程とそのメカニズムに関する研究. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業（木文化プロジェクト）」2011年度報告書. p.115-139.

■長谷川 敦史

長谷川 敦史. 温室内の外国産稀少マツの樹勢回復および育苗管理. 研究林・試験地情報 2011(平成23)年度. 2013.

福島 慶太郎, 岩井 有加, 橋本 智之, 境 優, 西岡 裕平, 長谷川 敦史, 藤井 弘明, 徳地 直子, 吉岡 崇仁, 高柳 敦.

芦生冷温帯天然林における大規模シカ防除柵設置5年度の生態系機能の回復過程とそのメカニズムに関する研究. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業(木文化プロジェクト)」2011年度報告書. p. 115-139.

■平井 岳志

松山 周平, 石原 正恵, 福島 慶太郎, 境 慎二郎, 平井 岳志, 藤井 弘明, 浅野 善和, 吉岡 崇仁. 多雪地帯のスギ人工林における間伐実験: 伐採前の毎木調査及び下層植生調査の結果. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業(木文化プロジェクト)」2011年度報告書. 2012, p. 256-263.

■藤井 弘明

紺野 絡, 藤井 弘明. 第1回京都大学東北復興支援学生ボランティア事業に参加して. 研究林・試験地情報 2011(平成23)年度. 2013.

福島 慶太郎, 岩井 有加, 橋本 智之, 境 優, 西岡 裕平, 長谷川 敦史, 藤井 弘明, 徳地 直子, 吉岡 崇仁, 高柳 敦. 芦生冷温帯天然林における大規模シカ防除柵設置5年度の生態系機能の回復過程とそのメカニズムに関する研究. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業(木文化プロジェクト)」2011年度報告書. p. 115-139.

松山 周平, 石原 正恵, 福島 慶太郎, 境 慎二郎, 平井 岳志, 藤井 弘明, 浅野 善和, 吉岡 崇仁. 多雪地帯のスギ人工林における間伐実験: 伐採前の毎木調査及び下層植生調査の結果. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業(木文化プロジェクト)」2011年度報告書. 2012, p. 256-263.

■細見 純嗣

細見 純嗣. 芦生研究林におけるナラ枯れ被害木と雪害木の状況. 研究林・試験地情報 2011(平成23)年度. 2013.

■向 昌宏

福島 慶太郎, 徳地 直子, 竹本 雅浩, 樋口 美和, 武市 梨沙, 山中 律, 富田 健介, 大森 真貴子, 向 昌宏. 仁淀川における河川水質の形成要因: 森林伐採と土地利用の影響. 概算要求事業「森里海連環学による地域循環木文化社会創出事業(木文化プロジェクト)」2011年度報告書. 2012, p. 24-37.

■柳本 順

柳本 順. 野生動物による山引き苗の被害状況. 研究林・試験地情報 2010(平成22)年度. 2012, p. 33-34.

柳本 順. 和歌山研究林における災害時の降雨について. 研究林・試験地情報 2011(平成23)年度. 2013.

■山内 隆之

山内 隆之. 北海道研究林に植栽したカラマツとカラマツ品種2種の比較. 研究林・試験地情報 2011(平成23)年度. 2013.

■山本 善万

山本 善万. 瀬戸臨海実験所における気象観測データ:2006年-2011年. 瀬戸臨海実験所年報. 2012, 25, p. 29-31, 53-88.

◆学会発表(発表要旨を含む)

■柴田 昌三

大川 智船, 柴田 昌三, 吉岡 崇仁, 長谷川 尚史, 佐藤 真行, 野瀬 光弘. "森林資源に対する住民意識:由良川流域および仁淀川流域をケーススタディとして". 日本森林学会第124回大会. 盛岡, 2013-03-26, 2013.

塩野崎 和美, 山田 文雄, 佐々木 茂樹, 柴田 昌三. "飼い猫適正飼育条例"施行による奄美大島鳩浜地区のネコ密度と出没傾向の変化". 沖縄生物学会第49回大会. 2012/5/26, 琉球大学, 2012.

中西 麻美, 稲垣 善之, 新井 宏受, 柴田 昌三, 大澤 直哉. "異なる気象条件におけるヒノキ林分の葉の窒素安定同位体比と土壌特性との関係". 第124回日本森林学会大会. 岩手大学, 2013-03-27, 2013.

森林生物圏部門

■吉岡 崇仁

Fukuzaki, Koji; Yoshioka, Takahito; Imai, Ichiro. "Iron requirement of various red tide causing microalgae.". The 15th International Conference on Harmful Algae, ICHA 2012 Korea. Changwon Gyeongnam, Korea, 2012-10-28, 2012.

Fukuzaki, K.; Yoshioka, T.; Imai, I. "Characterization of fluorescent dissolved organic matter exuded from red tide algae". 2012 ASLO Aquatic Sciences Meeting. Shiga, Japan, 2012-07-12, Biwako Hall.

大川 智船, 柴田 昌三, 吉岡 崇仁, 長谷川 尚史, 佐藤 真行, 野瀬 光弘. "森林資源に対する住民意識:由良川流域および仁淀川流域をケーススタディとして". 日本森林学会第124回大会. 盛岡, 2013-03-26, 2013.

大槻 あずさ, 福崎 康司, 鈴木 伸弥, 福島 慶太郎, 吉岡 崇仁. "由良川流域における溶存有機物の蛍光特性". 日本陸水学会第77回大会. 名古屋市, 2012-09-15, 2012.

鈴木 伸弥, 福島 慶太郎, 吉岡 崇仁, 徳地 直子. "由良川流域における河川水中の硝酸塩の起源推定—窒素と酸素の同位体組成を用いた解析—". 日本生態学会近畿地区会 2012 年度第 1 回例会. 大津市, 2012-06-09, 京大生態学研究センター, 2012.

日高 渉, 福島 慶太郎, 向 昌宏, 西岡 裕平, 福崎 康司, 大槻 あずさ, 鈴木 伸弥, 吉岡 崇仁. "由良川流域における土地利用形態が水質に与える影響: 鉄と硝酸態窒素からの考察". 日本森林学会第 124 回大会. 盛岡, 2013-03-26.

■安藤 信

寄元 道德, 山内 隆之, 佐藤 修一, 長谷川 孝, 勝山 智憲, 柳本 順, 岡部 芳彦, 古田 卓, 安藤 信. "北方針広混交林の尾根・谷斜面地形におけるトドマツの種子散布と実生の消長". 第 123 回日本森林学会大会. 2012-03-28, 2012.

■館野 隆之輔

Imada, S.; Tateno, R.; Acharya, K. "Effects of soil water content on soil respiration in a riparian forest of southern Nevada". 日本生態学会第 60 回全国大会. 静岡大学 (静岡), 2013.

館野 隆之輔, Kim Mincheol, Adams Jonathan. "土壌窒素動態に微生物群集が果たす役割: メタゲノム研究の可能性". 第 124 回日本森林学会大会. 岩手大学 (盛岡), 2013.

今村 志帆美, 館野 隆之輔. "北海道東部における異なる森林タイプでの土壌溶存有機態炭素の季節性". 第 124 回日本森林学会大会. 岩手大学 (盛岡), 2013.

浦川 梨恵子, 柴田 英昭, 黒岩 恵, 稲垣 善之, 館野 隆之輔, 菱 拓雄, 福澤 加里部, 平井 敬三, 戸田 浩人, 小柳 信宏, 中田 誠, 中西 麻美, 福島 慶太郎, 榎木 勉, 木庭 啓介, 諏訪 裕一. "森林生態系における土壌の窒素動態に冬季気候変動にともなう凍結融解サイクルの変化が及ぼす影響". 第 124 回日本森林学会大会. 岩手大学 (盛岡), 2013-03-27, 2013.

福澤 加里部, 浦川 梨恵子, 菱 拓雄, 柴田 英昭, 宮本 敏澄, 館野 隆之輔. "北海道の冷温帯林における土壌の窒素無機化の変化に対する細根の応答". 第 124 回日本森林学会大会. 岩手大学 (盛岡), 2013.

■寄元 道德

寄元 道德, 山内 隆之, 佐藤 修一, 長谷川 孝, 勝山 智憲, 柳本 順, 岡部 芳彦, 古田 卓, 安藤 信. "北方針広混交林の尾根・谷斜面地形におけるトドマツの種子散布と実生の消長". 第 123 回日本森林学会大会. 2012-03-28, 2012.

■坂野上 なお

坂野上 なお, 山本 博一. "原木市場における檜皮剥皮木の評価 (II): 剥皮木の価格分布と買方による評価". 第 124 回日本森林学会大会. 岩手大学 (盛岡), 2013-03-27, 2013.

古賀 信也, 内海 泰弘, 大崎 繁, 井上 一信, 斎藤 幸恵, 門松 昌彦, 坂野上 なお, 山本 博一. "檜皮剥皮がヒノキの成長と材質に及ぼす影響". 第 63 回日本木材学会. 岩手大学 (盛岡), 2013.

■富樫 博幸

Togashi; H.; Kato; Y.; Ishikawa; N. F.; Yoshimura; M.; Tokuchi; N.; Ohte; N.; Okuda; N.; Tayasu; I. "A difference in food web structures with various forest stand ages in headwater streams in central Japan". 2012 ASLO Aquatic Sciences Meeting. Biwako Hall, Shiga, Japan, 2012-07-12, 2012.

Kato, Y.; Ishikawa, N. F.; Togashi, H.; Yoshimura, M.; Itoh, M.; Osaka, K.; Okuda, N.; Ohte, N.; Yoshimizu, C.; Tayasu, I. "Food web analysis based on nitrogen isotopic ratio of amino acids in river ecosystem". 2012 ASLO Aquatic Sciences Meeting. Biwako Hall, Shiga, Japan, 2012-07-12, 2012.

石川 尚人, 加藤 義和, 富樫 博幸, 吉村 真由美, 由水 千景, 奥田 昇, 陀安 一郎. "河川複雑系食物網の高精度解析: アミノ酸窒素安定同位体比からのアプローチ". 第 60 回日本生態学会大会. 静岡, 2013-03-07, 2013.

加藤 義和, 石川 尚人, 富樫 博幸, 吉村 真由美, 由水 千景, 奥田 昇, 陀安 一郎. "アミノ酸の窒素安定同位体比を用いた琵琶湖流域の食物網解析". 第 77 回日本陸水学会大会. 名古屋, 2012-09-16, 2012.

加藤 義和, 石川 尚人, 富樫 博幸, 由水 千景, 陀安 一郎, 奥田 昇. "アミノ酸の窒素安定同位体比を用いた琵琶湖産魚類の栄養段階推定". 第 60 回日本生態学会大会. 静岡, 2013-03-07, 2013.

富樫 博幸, 加藤 義和, 石川 尚人, 吉村 真由美, 徳地 直子, 大手 信人, 由水 千景, 陀安 一郎. "森林施業が河川生態系へ及ぼす長期的影響とその解明: 安定同位体比を利用して". 第 124 回日本森林学会大会. 岩手, 2013-03-27.

富樫 博幸, 加藤 義和, 石川 尚人, 吉村 真由美, 徳地 直子, 大手 信人, 由水 千景, 陀安 一郎. "アミノ酸の窒素安定同位体比から読み解く山地溪流域の食物網構造: 護摩壇山試験地の事例". 第 77 回日本陸水学会大会. 名古屋, 2012-09-16, 2012.

富樫 博幸, 加藤 義和, 石川 尚人, 尾坂 兼一, 吉村 真由美, 由水 千景, 徳地 直子, 陀安 一郎, 大手 信人. "ミカン畑と魚類をつなぐ硝酸: 土地利用が河川生態系へ及ぼす影響に関する安定同位体解析". 第 60 回日本生態学会大会.

静岡, 2013-03-07, 2013.

里域生態系部門

■山下 洋

- Fuji, Taiki; Kasai, Akihide; Ueno, Masahiro; Yamashita, Yoh. "Relative contribution of the river nursery areas to temperate seabass *Lateolabrax japonicus* adult population revealed by otolith Sr:Ca ratio.". 50th ECSA (Estuarine Coastal Science Association) Conference. Venice, Italy, 2012-06-05, 2012.
- Miyajima, Yuko; Masuda, Reiji; Yamashita, Yoh. "Filefish as a jellyfish-feeder: their potential, preference and ontogeny". The 36th Annual Larval Fish Conference. Os, Norway, 2012-07-02, 2012, p. 94.
- Ohata, Ryosuke; Masuda, Reiji; Yamashita, Yoh. "Trubidity improves anti-predator performance and schooling behaviour in clupeiform-like larvae". The 36th Annual Larval Fish Conference. Os, Norway, 2012-07-02, p. 109.
- Watanab, Kenta; Fukuzaki, Koji; Akiyama, Satoshi; Ichimi, Kazuhiko; Kasai, Akihide; Ueno, Masahiro; Yamashita, Yoh. "Influence of river flow on the dynamics of phytoplankton blooms during winter to spring in a micro-tidal estuary: Yura River Estuary, Japan". ECSA 50. Venice, Italy, 6月, 2012.
- 青木 貴志, 富士 泰期, 笠井 亮秀, 上野 正博, 山下 洋. "由良川河口域における魚類群集と餌生物の相互関係". 2012年度水産学会近畿支部後期例会. 大阪, 2012-12-01, 2012.
- 大嶋 真謙, 上原 伸二, 栗田 豊, 米田 道夫, 上野 正博, 山下 洋. "ヒラメ浮遊仔魚の分布水温の海域差". 水産海洋学会創立50周年記念大会. 2012.
- 大畑 亮輔, 益田 玲爾, 山下 洋. "アユ仔魚の群れ形成に及ぼす濁度の影響". 日本水産学会春季大会. 東京, 2012, p. 61.
- 大畑 亮輔, 益田 玲爾, 山下 洋. "濁りによる仔魚の成長・生残の向上". 日本生態学会60回大会. 静岡, 2013-03-06, 2013.
- 大畑 亮輔, 益田 玲爾, 山下 洋. "濁りによるマダイおよびクロダイ仔魚の成長・生残率の向上". 平成24年度日本水産学会秋季大会要旨集. 下関, 2012-09-15, 2012, p. 30.
- 大畑 亮輔, 益田 玲爾, 山下 洋. "カタクチイワシ仔魚の濁度走性の個体発生". 日本動物行動学会第31回大会. 奈良, 11月, 2012.
- 大畑 亮輔, 益田 玲爾, 山下 洋. "濁りによるカタクチイワシ仔魚の成長率の向上". 水産海洋学会50周年記念大会. 東京, 2012-11-17, 2012.
- 笠井 亮秀, 安佛 かおり, 舟橋 達宏, 石井 健一郎, 上野 正博, 山下 洋. "弱混合型エスチュアリー由良川における基礎生産構造". 平成25年度日本水産学会春季大会. 東京, 2013-03-28, 2013, p. 172.
- 桑原 卓哉, 一見 和彦, 岩本 有司, 富士 泰期, 笠井 亮秀, 山下 洋, 荻野 裕平, 中野 光, 小路 淳. "3つの河川の下流〜河口域におけるスズキ稚魚の摂餌生態比較". 日本水産学会・平成24年度秋季大会. 下関, 2012-09-15, 2012.
- 桑原 卓哉, 富士 泰期, 笠井 亮秀, 山下 洋, 一見 和彦, 岩本 有司, 荻野 裕平, 中野 光, 小路 淳. "日本海と瀬戸内海に流入する河川におけるスズキの初期生態比較". 日本水産学会・平成25年度春季大会. 東京, 2013-03-27, 2013.
- 荻野 裕平, 福西 悠一, 山下 洋, 山本 昌幸, 桑原 卓哉, 中野 光, 小路 淳. "ヒラメ着底稚魚の摂餌と成長: 若狭湾と瀬戸内海の比較". 日本水産学会・平成25年度春季大会. 東京, 2013-03-28, 2013.
- 荻野 裕平, 福西 悠一, 山下 洋, 山本 昌幸, 桑原 卓哉, 中野 光, 小路 淳. "ヒラメ着底稚魚の摂餌と餌料生物環境: 若狭湾と瀬戸内海の比較". 日本水産学会・平成24年度秋季大会. 下関, 2012-09-15, 2012.
- 富士 泰期, 笠井 亮秀, 上野 正博, 山下 洋. "スズキ稚魚の河川遡上メカニズム1: 塩水遡上との関係". 平成25年度日本水産学会春季大会. 東京, 2013-03-27, 2013, p. 67.
- 富士 泰期, 笠井 亮秀, 上野 正博, 山下 洋. "スズキ稚魚の河川遡上メカニズム2: 水温との関係". 平成25年度日本水産学会春季大会. 東京, 2013-03-27, 2013, p. 67.
- 富士 泰期, 笠井 亮秀, 上野 正博, 山下 洋. "河川はスズキの生育場として重要なのか? - 耳石Sr/Caによるアプローチ". 2012年度水産学会近畿支部後期例会. 大阪, 2012-12-01, 2012.
- 荻野 裕平, 福西 悠一, 山下 洋, 山本 昌幸, 桑原 卓哉, 中野 光, 小路 淳. "ヒラメ着底稚魚の摂餌と成長: 若狭湾と瀬戸内海の比較". 日本水産学会・平成25年度春季大会. 東京, 2013-03-28, 2013.
- 松井 彰子, 上野 正博, 中山 耕至, 甲斐 嘉晃, 山下 洋. "若狭湾西部海域におけるスジハゼ複合種群仔魚の分布・分散生態". 日本魚類学会・2012年度日本魚類学会年会. 下関, 2013-09-23, 2012.
- 宮島 悠子, 益田 玲爾, 盛満 亮, 石井 晴人, 中島 兼太郎, 山下 洋. "カワハギによるミズクラゲポリプ摂餌の水温依存性". 平成25年度日本水産学会春季大会. 東京, 2013-03-27, 2013, p. 53.

高橋 宏司, 益田 玲爾, 山下 洋. "ブリ, シマアジ, マダイにおける水面および水中構造物の学習能力の比較". 平成 24 年度日本水産学会秋季大会. 下関, 2012-09-15, 2012, p. 96.

■徳地 直子

Tokuchi; N.; Hidaka; W.; Fujii; K.; Osada; N.; Koyama; L.; Ohte; N.; Shi; J.; Fujimaki; R. "Consideration of plant N use and soil N dynamics under increasing N deposition; interaction between N and C as revealed by natural". 2012 ASLO Aquatic Sciences Meeting. Biwako Hall, Shiga, Japan, 2012-07-12, 2012.

Tokuchi, Naoko; Hidaka, Wataru; Fujii, Kazumichi; Osada, Noriyuki; Koyama, Lina; Fujimaki, Reiji. "Respiration costs associated with nitrate reduction as estimated 14C02 pulse labeling and nitrate reductase activity of evergreen oak". Ecological Society of America the 97th Annual Meeting. Portland, 2012-08-09, 2012.

Ohte, Nobuhito; Shimizu, Michiko; Tokuchi, Naoko; Matsuo, Naoko. "Nitrogen utilization and life cycle of *Sabina vulgaris*: Developing islands of fertility in a semi-arid desert in northern China". The Preliminary Program for 97th ESA Annual Meeting. 2012.

Tayasu, I.; Okuda, N.; Tokuchi, N.; Ohte, N.; Kondoh, M. "Multiple isotope approach for studying material flow and food web structures of stream ecosystems in lake Biwa watershed". 2012 ASLO Aquatic Sciences Meeting. Biwako Hall, Shiga, Japan, 2012-07-12, 2012.

徳地 直子, 福島 慶太郎, 鮫島 弘光, 甲山 治. "マレーシアサラワク州の河川水質の広域的特徴". 第 22 回日本熱帯生態学会年次大会. 横浜, 2012-06-16, 2012.

徳地 直子, 加藤 義和. "森林施業が河川生態系に及ぼす影響". 第 124 回日本森林学会大会. 岩手大学, 2013-03-27, 2013.

落合 夏人, 徳地 直子, 福島 慶太郎. "奈良県護摩壇山試験地における渓流水質の長期変動". 日本陸水学会第 77 回大会. 名古屋, 2012-09-16, 2012.

鈴木 伸弥, 福島 慶太郎, 吉岡 崇仁, 徳地 直子. "由良川流域における河川水中の硝酸塩の起源推定: 窒素と酸素の同位体組成を用いた解析". 日本生態学会近畿地区会 2012 年度第 1 回例会. 大津市, 2012-06-09, 京大生態学研究センター, 2012.

富樫 博幸, 加藤 義和, 石川 尚人, 吉村 真由美, 徳地 直子, 大手 信人, 由水 千景, 陀安 一郎. "森林施業が河川生態系へ及ぼす長期的影響とその解明: 安定同位体比を利用して". 第 124 回日本森林学会大会. 岩手, 2013-03-27, 2013.

富樫 博幸, 加藤 義和, 石川 尚人, 吉村 真由美, 徳地 直子, 大手 信人, 由水 千景, 陀安 一郎. "アミノ酸の窒素安定同位体比から読み解く山地渓流域の食物網構造: 護摩壇山試験地の事例". 第 77 回日本陸水学会大会. 名古屋, 2012-09-16, 2012.

富樫 博幸, 加藤 義和, 石川 尚人, 尾坂 兼一, 吉村 真由美, 由水 千景, 徳地 直子, 陀安 一郎, 大手 信人. "ミカン畑と魚類をつなぐ硝酸: 土地利用が河川生態系へ及ぼす影響に関する安定同位体解析". 第 60 回日本生態学会大会. 静岡, 2013-03-07, 2013.

■田川 正朋

浅田 憲貴, 松田 泰平, 田川 正朋. "飼育下のアカガレイに見られる多様な形態異常は眼と体色の組み合わせの異常によって生じる". 平成 25 年度日本水産学会春期大会. 東京都, 2013-03-26/30, 2013.

磯島 俊実, 高草木 将人, 牧野 直, 田川 正朋. "ヒラメ無眼側における着色型黒化進行過程の個体識別による検討". 平成 24 年度日本水産学会秋期大会. 下関市, 2012-09-14/17, 2012.

磯島 俊実, 深山 義文, 牧野 直, 田川 正朋. "ヒラメ無眼側黒化の程度におよぼす黒化開始時期および黒化中断の影響". 平成 25 年度日本水産学会春期大会. 東京都, 2013-03-26/30, 2013.

越後 はるな, 藤浪 祐一郎, 田川 正朋. "底砂の有無がヒラメの無眼側傷修復部の黒化に与える影響". 平成 24 年度日本水産学会秋期大会. 下関市, 9/14-9/17, 2012.

吉川 尚樹, 松田 泰平, 高橋 明義, 田川 正朋. "マツカワにおけるメラニン凝集ホルモン (MCH) 反応性は変態後期に左右差を生じる". 第 37 回 日本比較内分泌学会大会. 福井市, 11/30-12/1, 2012.

■益田 玲爾

Masuda, Reiji. "Local Warming: Stability and collapse of a subtropical fish assemblage dependent on the thermal discharge from a nuclear power station". The 36th Annual Larval Fish Conference. Os, Norway, 2012-07-06, 2012, p. 88.

Masuda, Reiji. "Underwater visual census as a tool to monitor coastal ecosystems: Seasonal and interannual

- fluctuations, effect of thermal discharge from power stations, and recovery from the tsunami disaster". PICES Symposium. Hiroshima, 2012-10-15, 2012, p.12.
- Masuda, Reiji; Miyajima, Yuko; Ohata, Ryosuke; Yamashita, Yoh. "Jellyfish as a predator and prey of fishes: Underwater observations and rearing experiments". PICES Symposium. Hiroshima, 2012-10-18, 2012, p.89.
- Miyajima, Yuko; Masuda, Reiji; Yamashita, Yoh. "Filefish as a jellyfish-feeder: their potential, preference and ontogeny". The 36th Annual Larval Fish Conference. Os, Norway, 2012-07-02, 2012, p.94.
- Ohata, Ryosuke; Masuda, Reiji; Yamashita, Yoh. "Trubidity improves anti-predator performance and schooling behaviour in clupeiform-like larvae". The 36th Annual Larval Fish Conference. Os, Norway, 2012-07-02, 2012, p.109.
- 益田 玲爾. "クラゲと魚類の戦略的互惠関係". 平成 24 年度日本水産学会水産増殖懇話会第 1 回講演会「最近のクラゲ研究とその水産増養殖への展望について」. 下関, 2012-09-14, 2012.
- 益田 玲爾, 畠山 信, 田中 克. "気仙沼・舞根湾における生物環境調査-7 潜水観察から見た魚類相と磯根資源の回復". 平成 25 年度日本水産学会春季大会. 東京, 2013-03-27, 2013, p.54.
- 大畑 亮輔, 益田 玲爾, 山下 洋. "濁りによる仔魚の成長・生残の向上". 日本生態学会 60 回大会. 静岡, 2013-03-06.
- 大畑 亮輔, 益田 玲爾, 山下 洋. "濁りによるマダイおよびクロダイ仔魚の成長・生残率の向上". 平成 24 年度日本水産学会秋季大会要旨集. 下関, 2012-09-15, 2012, p.30.
- 大畑 亮輔, 益田 玲爾, 山下 洋. "カタクチイワシ仔魚の濁度走性の個体発生". 日本動物行動学会第 31 回大会. 奈良, 11 月, 2012.
- 大畑 亮輔, 益田 玲爾, 山下 洋. "濁りによるカタクチイワシ仔魚の成長率の向上". 水産海洋学会 50 周年記念大会. 東京, 2012-11-17, 2012.
- 南 憲史, 益田 玲爾, 上野 正博, 大嶋 真謙, 谷本 愛奈, 山下 洋. "舞鶴湾におけるマナマコ天然採苗の好適環境". 平成 23 年度日本水産学会秋季大会. 長崎大学, 2011, p.127.
- 南 憲史, 益田 玲爾, 横山 壽, 上野 正博, 大嶋 真謙, 山下 洋. "由良川・丹後海における生物生産構造 1 : 底質組成からみた舞鶴湾の環境と水域区分". 平成 24 年度日本水産学会春季大会. 東京海洋大学, 2012, p.49.
- 宮島 悠子, 益田 玲爾, 盛満 亮, 石井 晴人, 中島 兼太郎, 山下 洋. "カワハギによるミズクラゲポリプ摂餌の水温依存性". 平成 25 年度日本水産学会春季大会. 東京, 2013-03-27, 2013, p.53.
- 高橋 宏司, 益田 玲爾. "魚が釣られにくくなる過程の心理学". 動物行動学会第 31 回大会. 奈良, 2012-11-24.
- 高橋 宏司, 益田 玲爾, 山下 洋. "ブリ, シマアジ, マダイにおける水面および水中構造物の学習能力の比較". 平成 24 年度日本水産学会秋季大会. 下関, 2012-09-15, 2012, p.96.
- 田中 克, 横山 勝英, 藤浪 祐一郎, 山田 雄一郎, 畠山 信, 西谷 豪, 山本 光夫, 益田 玲爾, 吉永 郁生, 中山 耕至, 張野 宏也, 劉 丹. "気仙沼・舞根湾における生物環境調査-1". 日本水産学会. 東京海洋大学, 2012-03-26/30, 2012.
- 長谷川 尚史
- Bastos, Alex Souza; Hasegawa, Hisashi. "Evaluation of GPS signal reception under tree canopies using different antenna heights". Proceedings of International Ergonomic Workshop: Ergonomic Challenges in Future Forest and Forestry. 2012, p.P305.
- Shirasawa, Hiroaki; Hasegawa, Hisashi. "Forest road network design for walking load reduction". Proceedings of International Ergonomic Workshop: Ergonomic Challenges in Future Forest and Forestry. 2012, p.S203.
- 大川 智船, 柴田 昌三, 吉岡 崇仁, 長谷川 尚史, 佐藤 真行, 野瀬 光弘. "森林資源に対する住民意識: 由良川流域および仁淀川流域をケーススタディとして". 日本森林学会第 124 回大会. 盛岡, 2013-03-26, 2013.
- 中西 麻美
- 浦川 梨恵子, 柴田 英昭, 黒岩 恵, 稲垣 善之, 館野 隆之輔, 菱 拓雄, 福澤 加里部, 平井 敬三, 戸田 浩人, 小柳 信宏, 中田 誠, 中西 麻美, 福島 慶太郎, 榎木 勉, 木庭 啓介, 諏訪 裕一. "森林生態系における土壌の窒素動態に冬季気候変動にともなう凍結融解サイクルの変化が及ぼす影響". 第 124 回日本森林学会大会. 岩手大学 (盛岡), 2013-03-27, 2013.
- 林 貴広, 木庭 啓介, 眞壁 明子, 稲垣 善之, 中西 麻美, 高橋 千恵子, 楊 宗興. "森林生態系の窒素飽和の指標としてのドンダリの窒素安定同位体比の使用". 日本地球惑星科学連合 2012 年大会. 幕張メッセ, 2012-05-23, 2012.
- 中西 麻美, 稲垣 善之, 新井 宏受, 柴田 昌三, 大澤 直哉. "異なる気象条件におけるヒノキ林分の葉の窒素安定同位体比と土壌特性との関係". 第 124 回日本森林学会大会. 岩手大学, 2013-03-27, 2013.
- 藤井 一至, 山田 高大, 舟川 晋也, 中西 麻美. "森林土壌における窒素無機化の律速要因の解明". 第 124 回日本森林

学会大会. 岩手大学, 2013-03-27, 2013.

■上野 正博

Fuji, Taiki; Kasai, Akihide; Ueno, Masahiro; Yamashita, Yoh. "Relative contribution of the river nursery areas to temperate seabass *Lateolabrax japonicus* adult population revealed by otolith Sr:Ca ratio.". 50th ECSA (Estuarine Coastal Science Association) Conference. Venice, Italy, 2012-06-05, 2012.

Watanab, Kenta; Fukuzaki, Koji; Akiyama, Satoshi; Ichimi, Kazuhiko; Kasai, Akihide; Ueno, Masahiro; Yamashita, Yoh. "Influence of river flow on the dynamics of phytoplankton blooms during winter to spring in a micro-tidal estuary: Yura River Estuary, Japan". ECSA 50. Venice, Italy, 6月, 2012.

青木 貴志, 富士 泰期, 笠井 亮秀, 上野 正博, 山下 洋. "由良川河口域における魚類群集と餌生物の相互関係". 2012年度水産学会近畿支部後期例会. 大阪, 2012-12-01, 2012.

井関 智明, 八木 佑太, 上原 伸二, 後藤 常夫, 梶原 直人, 甲斐 嘉晃, 上野 正博. "日本海西部におけるアカアマダイ浮遊期仔魚の出現・分布状況". 日本水産学会. 下関市, 2012.

大嶋 真謙, 上原 伸二, 栗田 豊, 米田 道夫, 上野 正博, 山下 洋. "ヒラメ浮遊仔魚の分布水温の海域差". 水産海洋学会創立50周年記念大会. 2012.

笠井 亮秀, 安佛 かおり, 舟橋 達宏, 石井 健一郎, 上野 正博, 山下 洋. "弱混合型エスチュアリー由良川における基礎生産構造". 平成25年度日本水産学会春季大会. 東京, 2013-03-28, 2013, p.172.

富士 泰期, 笠井 亮秀, 上野 正博, 山下 洋. "スズキ稚魚の河川遡上メカニズム1: 塩水遡上との関係". 平成25年度日本水産学会春季大会. 東京, 2013-03-27, 2013, p.67.

富士 泰期, 笠井 亮秀, 上野 正博, 山下 洋. "スズキ稚魚の河川遡上メカニズム2: 水温との関係". 平成25年度日本水産学会春季大会. 東京, 2013-03-27, 2013, p.67.

富士 泰期, 笠井 亮秀, 上野 正博, 山下 洋. "河川はスズキの生育場として重要なのか?: 耳石 Sr/Ca によるアプローチ". 2012年度水産学会近畿支部後期例会. 大阪, 2012-12-01, 2012.

松井 彰子, 上野 正博, 中山 耕至, 甲斐 嘉晃, 山下 洋. "若狭湾西部海域におけるスジハゼ複合種群仔魚の分布・分散生態". 日本魚類学会・2012年度日本魚類学会年会. 下関, 2012-09-23, 2012.

■中山 耕至

亀甲 武志, 根本 守仁, 三枝 仁, 臼杵 崇広, 藤岡 康弘, 甲斐 嘉晃, 中山 耕至. "琵琶湖のホンモロコ遺伝的集団構造と放流種苗の遺伝的多様性". 平成24年度日本水産学会春季大会. 東京, 2012-03-26/30, 2012.

田路 拓人, 中山 耕至. "アカシタビラメとデンベシタビラメの遺伝的比較". 2012年度日本魚類学会年会. 水産大学校, 2012-09-21/24, 2012.

田中 克, 横山 勝英, 藤浪 祐一郎, 山田 雄一郎, 畠山 信, 西谷 豪, 山本 光夫, 益田 玲爾, 吉永 郁生, 中山 耕至, 張野 宏也, 劉 丹. "気仙沼・舞根湾における生物環境調査-1". 日本水産学会. 東京海洋大学, 2012-03-26/30, 2012.

松井 彰子, 上野 正博, 中山 耕至, 甲斐 嘉晃, 山下 洋. "若狭湾西部海域におけるスジハゼ複合種群仔魚の分布・分散生態". 2012年度日本魚類学会年会. 水産大学校, 2012-09-23, 2012.

■甲斐 嘉晃

Kai, Y.; Jeong, CH; Nakabo, T. "Molecular phylogenetic perspective on the morphological diversification of *Sebastes* (Scorpaeniformes: Scorpaenidae) from the western North Pacific". Fish Barcode of Life World Conference 2012. Yeosu, Korea, 2012.

Kai, Y.; Nakabo, T. "Rediscovered type specimens in the fish collection of Kyoto University (FAKU)". Association of Pacific Rim Universities (APRU) Research Symposium on University Museums: Forming a University Museum Collection Network As the Core of Frontier Research. 京都市, 2012.

Muto, N.; Kai, Y.; Noda, T.; Nakabo, T. "Extensive introgressive hybridization in marine fishes and its geographic trends: a case of rockfishes *Sebastes vulpes* and *S. zonatus* (Scorpaeniformes: Scorpaenidae) from Japan.". Fish Barcode of Life World Conference 2012. Yeosu, Korea, 2012.

甲斐 嘉晃, Duane E., Stevenson, 上田 祐司, 濱津 友紀, 中坊 徹次. "北太平洋におけるコンペイトウ (ダンゴウオ科) の形態変異と遺伝的集団構造". 2012年度日本魚類学会年会. 水産大学校, 2012.

井関 智明, 八木 佑太, 上原 伸二, 後藤 常夫, 梶原 直人, 甲斐 嘉晃, 上野 正博. "日本海西部におけるアカアマダイ浮遊期仔魚の出現・分布状況". 日本水産学会. 下関市, 2012.

亀甲 武志, 根本 守仁, 三枝 仁, 臼杵 崇広, 藤岡 康弘, 甲斐 嘉晃, 中山 耕至. "琵琶湖のホンモロコ遺伝的集団構造と放流種苗の遺伝的多様性". 平成24年度日本水産学会春季大会. 東京, 2012-03-26/30, 2012.

亀甲 武志, 岡本 晴夫, 氏家 宗二, 孝橋 賢一, 石崎 大介, 二宮 浩司, 臼杵 崇広, 澤田 宣雄, 根本 守仁, 三枝 仁, 藤岡 康弘, 甲斐 嘉晃. “西の湖におけるホンモロコ親魚の繁殖形質と流水環境での産卵”. 日本水産学会. 東京海洋大学, 2013年3月26~30日, 2013.

亀甲 武志, 石崎 大介, 氏家 宗二, 二宮 浩司, 澤田 宣雄, 北門 利英, 三枝 仁, 酒井 明久, 鈴木 隆夫, 西森 克浩, 甲斐 嘉晃. “伊庭内湖周辺におけるホンモロコ遊漁の釣獲尾数の推定”. 日本水産学会. 東京海洋大学, 2013年3月26~30日, 2013.

東海林 明, 甲斐 嘉晃, 上田 祐司, 濱津 友紀, 伊藤 正木, 中坊 徹次. “アバチャン(クサウオ科:スイショウウオ属)に見られる2色彩型の遺伝的差異”. 2012年度日本魚類学会年会. 水産大学校, 2012.

松井 彰子, 上野 正博, 中山 耕至, 甲斐 嘉晃, 山下 洋. “若狭湾西部海域におけるスジハゼ複合種群仔魚の分布・分散生態”. 2012年度日本魚類学会年会. 水産大学校, 2012-09-23, 2012.

武藤 望生, 甲斐 嘉晃, 野田 勉, 中坊 徹次. “シマゾイとタヌキメバルにおける過去の交雑の痕跡”. 日本魚類学会. 下関, 2012.

■南 憲史

南 憲史, 安間 洋樹, 濱野 明, 東条 斉興, 中村 武史, 宮下 和士. “計量魚群探知機を用いたガラモ場の現存量推定”. 海洋音響学会 2012年度研究発表会. 東京工業大学, 2012-06-01, 海洋音響学会, 2012.

南 憲史, 益田 玲爾, 横山 寿, 上野 正博, 大嶋 真謙, 山下 洋. “由良川・丹後海における生物生産構造-1:底質組成からみた舞鶴湾の環境と水域区分”. 平成24年度日本水産学会春季大会. 東京, 2012-03-27, 2012, p. 49.

南 憲史, 高橋 宏司, 益田 玲爾, 上野 正博, 大嶋 真謙, 山下 洋. “放流時の天然および人工稚ナマコの行動の違い”. 平成24年度日本水産学会秋季大会. 水産大学校(下関), 2012-09-16, 2012, p. 101.

■福西 悠一

Fukunishi, Yuichi; Browman, Howard; Durif, Caroline; Bjelland Reidun; Shema, Steven; Fields, David; Skiftesvik Anne, Berit. “Sub-lethal exposure to ultraviolet radiation reduces prey consumption by Atlantic cod larvae (*Gadus morhua*)”. 36th Annual Larval Fish Conference. Bergen, Norway, 2012-07-06, 2012.

福西 悠一, Browman, Howard, Durif, Caroline, Bjelland, Reidun, Shema, Steven, Fields, David, Skiftesvik, Anne, Berit. “紫外線がタイセイヨウダラ (*Gadus morhua*) 仔魚の捕食者回避能力と摂餌に及ぼす影響”. 日本水産学会・平成25年度春季大会. 東京, 2013-03-27, 2013.

荻野 裕平, 福西 悠一, 山下 洋, 山本 昌幸, 桑原 卓哉, 中野 光, 小路 淳. “ヒラメ着底稚魚の摂餌と成長:若狭湾と瀬戸内海の比較”. 日本水産学会・平成25年度春季大会. 東京, 2013-03-28, 2013.

荻野 裕平, 福西 悠一, 山下 洋, 山本 昌幸, 桑原 卓哉, 中野 光, 小路 淳. “ヒラメ着底稚魚の摂餌と餌料生物環境:若狭湾と瀬戸内海の比較”. 日本水産学会・平成24年度秋季大会. 下関, 2013-09-15, 2012.

■高橋 宏司

高橋 宏司, 益田 玲爾. “魚が釣られにくくなる過程の心理学”. 動物行動学会第31回大会. 奈良, 2012-11-24, 2012.

高橋 宏司, 益田 玲爾, 山下 洋. “ブリ, シマアジ, マダイにおける水面および水中構造物の学習能力の比較”. 平成24年度日本水産学会秋季大会要旨集. 下関, 2012-09-15, 2012, p. 96.

■竹下 文雄

高 宛愉, 竹下 文雄, 園木 詩織, 富安 信, 小河 道生, 廣瀬 太郎, 黒坂 浩平, 鶴専 太郎, 南 憲史, 宮下 和士. “音響計測手法を用いたタチウオの現存量モニタリング”. 平成25年度日本水産学会春季大会. 東京, 2013.

富安 信, 山本 圭一, 濱田 貴史, 小河 道生, 廣瀬 太郎, 竹下 文雄, 三谷 曜子, 宮下 和士. “バイオロギング手法を用いたタチウオの姿勢角推定”. 平成25年度日本水産学会春季大会. 東京, 2013.

基礎海洋生物学部門

■久保田 信

Ueno, Shunshiro; Kawamura, Mariko; Lee, Hye Eun; Kubota, Shin; Yoon, Won Duk. “The first international collaboration on age survey of *Nemopilema nomurai* between Japan and Korea, and the preliminary report on age information based on statocyst weight collected in 2011 and 2012”. 9th Japan-China-Korea International Jellyfish Workshop. Naha, Okinawa, Japan., December 2012.

久保田 信. “不死のベニクラゲについて:特に東北地方の記録”. 日本腔腸動物等談話会. 北里大学, 第8回大会, 2012.

久保田 信. “カイヤドリヒドラクラゲ *Eugymnanthea japonica* は赤色を感知”. 日本腔腸動物等談話会. 北里大学, 第8回大会, 2012.

久保田 信. “カイヤドリヒドラクラゲの Spawning は進化的途中段階にある”. 日本動物学会 2012年度支部大会. 奈良

女子大学, 2012.

久保田 信. “和歌山県で発見された稀少2種貝類と白浜産ヤクシマダカラ成貝のサイズの著しい個体変異”. 軟体動物多様性学会. 大阪市立自然博物館, 2012-12-08, 2012.

山田 浩二, 久保田 信, 岡村 親一郎, 児嶋 格. “人工飼育下におけるシヤコとコフジガイの生態(予報):シヤコが脱皮したときに見えたコフジガイの行動について”. 阪神貝類懇談会. 西宮, 2012.

■宮崎 勝己

Shinta Fujimoto; Katsumi Miyazaki. “Musclular architecture of marine heterotardigrades”. 12th International Symposium on Tardigrada. Vila Nova de Gaia, Portugal, 2012-07-24, 2012.

宮崎 勝己, 山田 勝雅, 鳥羽 光晴. “カイヤドリウミグモの後胚発生段階区分とその現場動態調査への応用”. 平成25年度日本水産学会春季大会. 東京都港区, 2013.

山田 勝雅, 小林 豊, 深山 義文, 張 成年, 山本 敏博, 柴田 玲奈, 宮崎 勝己, 山北 剛久, 鳥羽 光晴. “外来種? 在来種? 東京湾に大発生した二枚貝に寄生する小型節足動物:カイヤドリウミグモ”. 日本生態学会第58回大会. 2011.

■中野 智之

Kurihara, T.; Suzuki, K.; Itani, G.; Iseda, M.; Nakano, T.; Kamimura, S.; Seike, K.; Sasaki, T.; Takami, H.; Chiba, S. “Effects of natural and anthropogenic stressors in the North Pacific ecosystems: scientific challenges and possible solutions.”. PICES 2012 Annual Meeting. Hiroshima, Japan, 2012-10-12/21, 2012.

Suwa, R.; Nakano, T.; Nojiri, Y.; Shirayama, Y. “Effects of low pCO₂ conditions on sea urchin larval size.”. The Ocean in a High-CO₂ World Ocean Acidification Third Symposium. Monterey, California, 2012-09-24/27, 2012.

照屋 清之助, 横田 賢史, Strussmann C.A., 中野 智之, 佐々木 猛智. “クサイロアオガイの系統地理”. 日本貝類学会平成24年度大会. 東京家政学院, 2012-04-14, 2012.

照屋 清之助, 中野 智之, 佐々木 猛智. “日本列島におけるアオガイ属(腹足類:カサガイ目:ユキノカサガイ科)の系統地理”. 日本進化学会第14回東京大会. 首都大学東京, 2012-08-21, 2012.

■河村 真理子

Ueno, Shunshiro; Kawamura, Mariko; Lee, Hye Eun; Kubota, Shin; Yoon, Won Duk. “The first international collaboration on age survey of *Nemopilema nomurai* between Japan and Korea, and the preliminary report on age information based on statocyst weight collected in 2011 and 2012.”. 9th Japan-China-Korea International Jellyfish Workshop. Naha, Okinawa, Japan., December 2012.

河村 真理子. “クラゲの平衡石を用いた日齢推定”. 平成24年度水産増殖懇話会 第1回講演会「最近のクラゲ研究とその水産増養殖への展開について」. 水産大学校、山口県下関市, 2012-09-14, 2012.

■岡西 政典

Okanishi, M.; Fujita, T. “A new family-level classification of the order Euryalida (Echinodermata: Ophiuroidea)”. Joint Seminar of LIPI and ACOE Program of JSPS. Indonesian Institute of Science, Indonesia, 2012-11-12,

岡西 政典. “分子系統に基づくツルクモヒトデ目(棘皮動物門:クモヒトデ綱)の系統分類学的再検討”. 日本動物学会 第83回大会. 大阪大学, 2012-09-13, 2012.

岡西 政典. “100年ぶりに発見されたヒメモヅル属(クモヒトデ綱:ツルクモヒトデ目)の新種”. 第9回棘皮動物研究集会. 東北大学農学部, 2012-12-08, 2012.

森里海連環学教育ユニット

■横山 壽

Yokoyama, Hisashi. “Culturing the sea cucumber *Apostichopus japonicus* in suspended cages below fish pens: viability of integrated multi-trophic aquaculture”. The First Asian Marine Biology Symposium. Phuket, Thailand. 2012-12-14, 2012, p. 124.

横山 壽, 田所大二, 三浦仁嗣. “ブリ養殖場堆積物中の残餌・糞の定量とマナマコによる糞の摂取”. 平成24年度日本水産学会秋季大会. 下関, 2012-09-14, 2012, p. 113.

横山 壽. “五ヶ所湾のカキ養殖場におけるマナマコの垂下飼育”. 平成25年度日本水産学会春季大会. 東京, 2013-03-26/30, 2013, p. 190.

■大嶋 真謙

大嶋 真謙, 上原 伸二, 栗田 豊, 米田 道夫, 上野 正博, 山下 洋. “ヒラメ浮遊仔魚の分布水温の海域差”. 水産海洋学会創立50周年記念大会. 2012.

企画研究推進部門

■福島 慶太郎

Fukushima; K.; Suzuki; S.; Fukuzaki; K.; Ueno; M.; Tokuchi; N.; Yoshioka; T. "Spatial pattern and its controlling factors of the nitrate concentration in river water in the Yura river basin, Japan". 2012 ASLO Aquatic Sciences Meeting. shiga, Japan, 2012-07-12, Biwako Hall. 2012.

Katsuyama, Masanori; Fukushima, Keitaro. "Mechanisms of Long-term Effects of Forest Disturbance on Streamwater Nitrate Concentration in Headwaters - Application of Residence Time Concept". 3rd International Conference on Forests and Water in a Changing Environment. Fukuoka, 2012-09-19, 2012.

Sakai, Masaru; Fukushima, Keitaro; Natuhara, Yoshihiro; Kato, Makoto; Gomi, Takashi. "Deer overbrowsing alters stream macroinvertebrate community structure: implication for nutrient-cycling change within forest-stream ecosystem". 3rd International Conference on Forests and Water in a Changing Environment. Fukuoka, 2012-09-19.

福島 慶太郎, 金子 有子, 徳地 直子, 籠谷 泰行, 浜端 悦治, 尾坂 兼一, 國松 孝男. "過去の草原利用が現在の森林生態系の物質循環に与える影響: PnET モデルを用いた長期影響評価から". 日本陸水学会第 77 回大会. 名古屋, 2012-09-16, 2012.

福島 慶太郎, 鈴木 伸弥, 福崎 康司, 日高 涉, 大槻 あずさ, 池山 祐司, 上野 正博, 徳地 直子, 向 昌宏, 吉岡 崇仁. "森林から沿岸までの河川流下過程に伴う栄養塩濃度の規定要因". 第 60 回日本生態学会. 静岡, 2013-03-07.

浦川 梨恵子, 柴田 英昭, 黒岩 恵, 稲垣 善之, 館野 隆之輔, 菱 拓雄, 福澤 加里部, 平井 敬三, 戸田 浩人, 小柳 信宏, 中田 誠, 中西 麻美, 福島 慶太郎, 榎木 勉, 木庭 啓介, 諏訪 裕一. "森林生態系における土壌の窒素動態に冬季気候変動にともなう凍結融解サイクルの変化が及ぼす影響". 第 124 回日本森林学会大会. 岩手大学 (盛岡), 2013-03-27, 2013.

大槻 あずさ, 福崎 康司, 鈴木 伸弥, 福島 慶太郎, 吉岡 崇仁. "由良川流域における溶存有機物の蛍光特性". 日本陸水学会第 77 回大会. 名古屋市, 2012-09-15, 2012.

落合 夏人, 徳地 直子, 福島 慶太郎. "奈良県護摩壇山試験地における渓流水質の長期変動". 日本陸水学会第 77 回大会. 名古屋, 2012-09-15, 2012.

鈴木 伸弥, 福島 慶太郎, 吉岡 崇仁, 徳地 直子. "由良川流域における河川水中の硝酸塩の起源推定-窒素と酸素の同位体組成を用いた解析-". 日本生態学会近畿地区会 2012 年度第 1 回例会. 大津市, 2012-06-09, 京大生態学研究センター, 2012.

日高 涉, 福島 慶太郎, 向 昌宏, 西岡 裕平, 福崎 康司, 大槻 あずさ, 鈴木 伸弥, 吉岡 崇仁. "由良川流域における土地利用形態が水質に与える影響: 鉄と硝酸態窒素からの考察". 日本森林学会第 124 回大会. 盛岡, 2013-03-26.

藤巻 玲路, 笹尾 庸嵩, 橋本 美紀, 尾崎 嘉信, 福島 慶太郎. "島根県三瓶山の落葉広葉樹林下層に密生するチュウゴクザサの土壌養分動態への影響". 第 60 回日本生態学会. 静岡, 2013-03-07, 2013.

■松山 周平

松山 周平, 水貝 翔太, 森本 美樹, 名波 哲, 伊東 明. "カンサイタンポポ、セイヨウタンポポ、雑種タンポポの遺伝的多様性と類縁関係". 第 44 回種生物学シンポジウム. 2012.

松山 周平, 福島 慶太郎, 河村 耕史, 鈴木 伸弥, 吉岡 崇仁. "冷温帯スギ人工林の間伐林・未間伐林における土壌細菌群集の比較". 日本森林学会第 124 回大会. 盛岡, 2013-03-26, 2013.

松山 周平, 名波 哲, 伊東 明. "京都周辺におけるカンサイタンポポと雑種タンポポの遺伝的多様性と類縁関係". 第 60 回日本生態学会大会. 2013.

伊東 明, 原田 剛, 名波 哲, 山倉 拓夫, 松山 周平, Tan Sylvester, Diway Bibian, Chong Lucy. "森林の断片化がフタバガキ科の遺伝的多様性に与える長期的影響: 遺伝的個体ベースモデルシミュレーションによる予測". 第 22 回日本熱帯生態学会年次大会. 2012, p. P-09.

水貝 翔太, 伊東 明, 名波 哲, 松山 周平. "大阪周辺での雑種タンポポの遺伝的多様性". 第 60 回日本生態学会大会. 2013.

■安佛 かおり

安佛 かおり, 舟橋 達宏, 笠井 亮秀, 上野 正博, 山下 洋. "由良川河口域における浮遊藻類の分布と一次生産について". 日本陸水学会第 77 回大会. 名古屋, 2012-09-16, 2012.

安佛 かおり, 舟橋 達宏, 石井 健一郎, 笠井 亮秀, 上野 正博, 山下 洋. "由良川河口域における植物プランクトンの基礎生産構造". 日本生態学会静岡大会. 静岡, 2013-03-06, 2013.

笠井 亮秀, 安佛 かおり, 舟橋 達宏, 石井 健一郎, 上野 正博, 山下 洋. "弱混合型エスチュアリー由良川における

基礎生産構造”。平成25年度日本水産学会春季大会。東京，2013-03-28，2013，p.172.

■大川 智船

大川 智船，柴田 昌三，吉岡 崇仁，長谷川 尚史，佐藤 真行，野瀬 光弘。“森林資源に対する住民意識：由良川流域および仁淀川流域をケーススタディとして”。日本森林学会第124回大会。2013-03-26，岩手大学（盛岡），2013.

白眉センター

■佐藤 拓哉

Sato, T.; Watanabe, K. “Resource subsidy alters a trophic cascade in a recipient system through consumer’s stagespecific functional responses”. 2012 ASLO Aquatic Sciences Meeting. Shiga, Japan, 2012-07-11, Biwako Hall, 2012.

Sato, Takuya; Egusa, Tomohiro; Fukushima, Keitaro; Oda, Tomoki; Ohte, Nobuhito; Tokuchi, Naoko; Watanabe, Katsutoshi; Kanaiwa, Minoru; Murakami, Isaya. “Nematode parasites indirectly alter the food web and ecosystem function of streams through behavioral manipulation of their cricket hosts”. Ecological Society of America the 97th Annual Meeting. Portland, 2012-08-08, 2012.

佐藤 拓哉。“森と川の季節的な繋がり：森林管理が資源移動の季節性に与える影響とその帰結”。第60回日本森林学会。2013-03-27，岩手大学（盛岡），2013.

技術管理部

■岡部 芳彦

寄元 道德，山内 隆之，佐藤 修一，長谷川 孝，勝山 智憲，柳本 順，岡部 芳彦，古田 卓，安藤 信。“北方針広混交林の尾根・谷斜面地形におけるトドマツの種子散布と実生の消長”。第123回日本森林学会大会。2012-03-28，2012.

■勝山 智憲

寄元 道德，山内 隆之，佐藤 修一，長谷川 孝，勝山 智憲，柳本 順，岡部 芳彦，古田 卓，安藤 信。“北方針広混交林の尾根・谷斜面地形におけるトドマツの種子散布と実生の消長”。第123回日本森林学会大会。2012-03-28，2012.

■佐藤 修一

寄元 道德，山内 隆之，佐藤 修一，長谷川 孝，勝山 智憲，柳本 順，岡部 芳彦，古田 卓，安藤 信。“北方針広混交林の尾根・谷斜面地形におけるトドマツの種子散布と実生の消長”。第123回日本森林学会大会。2012-03-28，2012.

■西岡 裕平

日高 涉，福島 慶太郎，向 昌宏，西岡 裕平，福崎 康司，大槻 あずさ，鈴木 伸弥，吉岡 崇仁。“由良川流域における土地利用形態が水質に与える影響：鉄と硝酸態窒素からの考察”。日本森林学会第124回大会。盛岡，2013-03-26.

■長谷川 孝

寄元 道德，山内 隆之，佐藤 修一，長谷川 孝，勝山 智憲，柳本 順，岡部 芳彦，古田 卓，安藤 信。“北方針広混交林の尾根・谷斜面地形におけるトドマツの種子散布と実生の消長”。第123回日本森林学会大会。2012-03-28，2012.

■古田 卓

寄元 道德，山内 隆之，佐藤 修一，長谷川 孝，勝山 智憲，柳本 順，岡部 芳彦，古田 卓，安藤 信。“北方針広混交林の尾根・谷斜面地形におけるトドマツの種子散布と実生の消長”。第123回日本森林学会大会。2012-03-28，2012.

■向 昌宏

日高 涉，福島 慶太郎，向 昌宏，西岡 裕平，福崎 康司，大槻 あずさ，鈴木 伸弥，吉岡 崇仁。“由良川流域における土地利用形態が水質に与える影響：鉄と硝酸態窒素からの考察”。日本森林学会第124回大会。盛岡，2013-03-26.

■柳本 順

寄元 道德，山内 隆之，佐藤 修一，長谷川 孝，勝山 智憲，柳本 順，岡部 芳彦，古田 卓，安藤 信。“北方針広混交林の尾根・谷斜面地形におけるトドマツの種子散布と実生の消長”。第123回日本森林学会大会。2012-03-28，2012.

■山内 隆之

寄元 道德，山内 隆之，佐藤 修一，長谷川 孝，勝山 智憲，柳本 順，岡部 芳彦，古田 卓，安藤 信。“北方針広混交林の尾根・谷斜面地形におけるトドマツの種子散布と実生の消長”。第123回日本森林学会大会。2012-03-28，2012.

(4) 教育活動

◆全学共通科目

フィールド研は、学内共同教育研究施設として京都大学の全学共通科目へ多くの講義を行っている。集中講義として開講する実習が3科目、リレー講義を3科目、新入生向け少人数セミナー（ポケゼミ）を今年度は17科目開講した。さらに、農学部提供している講義を3科目、全学共通科目としても履修できるようにしている。また、他部局が提供する全学共通科目4科目に教員を非常勤講師として派遣している。（B群：自然科学系科目・A群：人文・社会科学系科目）

（講義・実習：B群）

講義名	担当教員（敬称略） *印はコーディネータ	科目	対象	開講期	単位
森里海連環学実習 A	山下*, 益田, 長谷川, 上野, 中西, 甲斐ほか	実習	全回生	前期集中	2
森里海連環学実習 C	吉岡*, 安藤, 中山, 坂野上	実習	全回生	前期集中	2
水圏生物学入門	山下, 久保田, 益田, 田川, 宮崎*, 上野, 大和ほか	講義	全回生	前期	2
森里海連環学－森里海のつながり－	山下*, 白山, 柴田, 吉岡, 徳地, 長谷川, 中島, 畠山ほか	講義	全回生	後期	2
森林学	柴田, 吉岡, 徳地*, 芝, 長谷川, 安藤, 中島, 寄元, 坂野上, 中西ほか	講義	全回生	後期	2
暖地性積雪地域における冬の自然環境	中島	実習	全回生	後期集中	1
北海道東部の人と自然	吉岡, 徳地, 坂野上ほか（農学部講義と合同）	実習	全回生	前期集中	2
北海道東部の厳冬期の自然環境	吉岡, 徳地, 長谷川ほか（農学部講義と合同）	実習	全回生	後期集中	2
生物学実習 II [海洋生物学コース]	朝倉, 久保田, 宮崎, 大和, 中野	実習	全回生	後期集中	
昆虫・魚・哺乳動物の生理学	田川ほか（農学部講義と合同）	講義	主として1・2回生	前期	2

（少人数セミナー：B群）

講義名	担当教員（敬称略）	科目	対象	開講期	単位
原生的な森林の働き	中島	ゼミ	1回生	前期集中	2
お魚好きのための魚類研究入門	田川, 中山	ゼミ	1回生	前期集中	2
海岸生物の生活史	久保田	ゼミ	1回生	前期集中	2
魚類心理学入門	益田	ゼミ	1回生	前期集中	2
森里海のつながりを清流古座川に見る	梅本	ゼミ	1回生	前期集中	2
フィールド実習“森は海の恋人”	長谷川, (中野, 畠山)	ゼミ	1回生	前期集中	2
木造校舎を造る：木の文化再生へ	柴田ほか	ゼミ	1回生	前期	2
海産無脊椎動物－分類群と形の多様性	宮崎	ゼミ	1回生	前期集中	2
京をめぐる森と人の暮らし	寄元, 坂野上	ゼミ	1回生	前期集中	2
森のつくりだすもの	徳地	ゼミ	1回生	前期集中	2
地域連環学入門	梅本, 田川, 宮崎, 佐藤, 中野	ゼミ	1回生	前期集中	2
北海道の森林	舘野	ゼミ	1回生	前期集中	2
森林の再生と動態	安藤	ゼミ	1回生	前期集中	2
日本海に遊ぶ～日本海学入門	上野	ゼミ	1回生	後期	
環境と魚の河口域生態学入門	山下	ゼミ	1回生	前期集中	2

（少人数セミナー：A群）

講義名	担当教員（敬称略）	科目	対象	開講期	単位
環境の評価	吉岡	ゼミ	1回生	前期	2
瀬戸内に見る森里海連環	中島, (向井)	ゼミ	1回生	前期	2

(他部局提供科目への協力：B群)

講義名	担当教員 (敬称略)	科目	対象	開講期	単位
探究型化学実験－湖と海の化学調査－	大和ほか (総合人間学部提供科目)	実験	全回生	前期集中	2
生物圏の科学－生命・食糧・環境－	吉岡, 安藤, 徳地ほか (農学部提供科目)	講義	全回生	後期	2
基礎生物学 A	朝倉ほか (理学部提供科目)	講義	主として1・2回生	前期	2
博物館実習 (自然史)	安藤ほか (理学部提供科目)	講義		前期集中	2

なお、フィールド研の非常勤講師として、全学共通科目の講義の教員を担当していただいている方は、次の通りである。

全学共通科目における非常勤講師 (学外は3人)

森里海連環学－森里海のつながり－	畠山 重篤 (社会連携教授)
	谷内 茂雄 (京大大学生態学研究センター・准教授)
	竹門 康弘 (京都大学防災研究所・准教授)
	中野 孝教 (総合地球環境学研究所・教授)
	磯崎 博司 (明治学院大学・教授)
森林学	松下 幸司 (京都大学大学院農学研究科・准教授)
水圏生物学入門	奥田 昇 (京大大学生態学研究センター・准教授)
	鯨坂 哲朗 (京都大学大学院農学研究科・助教)
	加藤 真 (京都大学地球環境学堂・教授)
木造校舎を造る：木の文化再生へ	小林 正美 (京都大学地球環境学堂・教授)
	小林 広英 (京都大学地球環境学堂・准教授)

◆大学院教育・学部教育

フィールド研は、協力講座として、京都大学大学院農学研究科へ3分野、理学研究科へ1分野が参画して、大学院教育および学部教育を行っている。また、大学院地球環境学舎へ基幹分野及び協力分野として参画している。さらに、今年度、森里海連環学教育ユニットが発足し、来年度から開講する大学院生を対象とする教育プログラムの準備を進めている。なお、フィールド研河口域生態学分野は、フィールド研に農学研究科から現在参画している流動分野であり、農学研究科では応用生物科学専攻海洋生物増殖学分野として位置づけられている。

協力講座としての教員配置と学生数（2012年9月現在）

	専攻	分野	教員	ポスドク など	博士後期 課程	修士課程	学部生 (4回生)
農学研究科	森林科学専攻 森林資源学講座	森林育成学分野	徳地 直子 (教授) 安藤 信 (准教授) 長谷川 尚史 (准教授) 寄元 道德 (助教)	1	1	5	1
		森林情報学分野	吉岡 崇仁 (教授) 館野 隆之輔 (准教授) 中島 皇 (講師) 中西 麻美 (助教) 坂野上 なお (助教)	1	3	3	0
	応用生物科学専攻	海洋生物増殖学分野 (流動分野)	田川 正朋 (准教授) 中山 耕至 (助教) 中坊 徹次 (総合博物館教授)	0	0 +1	4 +2	3
		里海生態保全学分野 <舞鶴水産実験所>	山下 洋 (教授) 益田 玲爾 (准教授) 上野 正博 (助教) 甲斐 嘉晃 (助教)	1	6 +1	5(1) +1	-
	(講義担当教員として協力)			梅本 信也 (准教授)	-	-	-
理学研究科	生物科学専攻	海洋生物学分科 <瀬戸臨海実験所>	朝倉 彰 (教授) 久保田 信 (准教授) 宮崎 勝己 (講師) 大和 茂之 (助教) 中野 智之 (助教)	1	2(1) +2	2	0
地球環境学舎	資源環境学廊 (基幹分野)	水域生物環境論	山下 洋 (教授) 上野 正博 (助教)	0	1	1	-

() 内は、休学中の学生数・+は、他分野所属だが当該分野で指導している学生数

森里海連環学教育ユニットの教員配置（2012年11月現在）

	教員	(所属)
総合生態系管理学領域	藤原 建紀 (教授)	(農学研究科)
	山下 洋 (教授)	(フィールド研)
	向井 宏 (特任教授)	
	横山 壽 (特定准教授)	
流域環境ガバナンス領域	柴田 昌三 (教授)	(地球環境学舎)
	吉岡 崇仁 (教授)	(フィールド研)
	清水 夏樹 (特定准教授)	
沿岸管理政策学領域	浅野 耕太 (教授)	(人間・環境学研究科)

大学院での提供科目

大学院農学研究科 農学専攻

講義名	担当教員 (敬称略)	科目	対象	開講期	単位
雑草学専攻実験	梅本ほか	I 55	修士	通年	10

大学院農学研究科 森林科学専攻

講義名	担当教員 (敬称略)	科目	対象	開講期	単位
森林情報学特論 I	吉岡, 中島	II 113	修士	後期	2
森林育成学特論 I	徳地, 長谷川	II 115	修士	後期	2
森林情報学専攻演習	吉岡, 館野, 中島, 坂野上, 中西	II 207	修士	通年	8
森林育成学専攻演習	安藤, 徳地, 長谷川, 崙元	II 208	修士	通年	8
森林情報学専攻実験	吉岡, 館野, 中島, 坂野上, 中西	II 307	修士	通年	10
森林育成学専攻実験	安藤, 徳地, 長谷川, 崙元	II 308	修士	通年	10
環境デザイン学専攻実験	柴田ほか	II 305	修士	通年	10
環境デザイン学専攻演習	柴田ほか	II 205	修士	通年	8
緑地環境デザイン学特論	柴田	II 109	修士	後期	2

大学院農学研究科 応用生物科学専攻

講義名	担当教員 (敬称略)	科目	対象	開講期	単位
海洋生態学特論	山下, 益田	IV 225	修士	前期	2
海洋資源生物学演習	田川, 中山ほか	IV 307	修士	通年	3
里海生態保全学演習	山下, 益田, 上野, 甲斐	IV 317	修士	通年	3
海洋資源生物学専攻実験	田川, 中山ほか	IV 407	修士	通年	6
里海生態保全学専攻実験	山下, 益田, 上野, 甲斐	IV 418	修士	通年	6

大学院理学研究科 生物科学専攻動物学系

講義名	担当教員 (敬称略)	科目	対象	開講期	単位
形態機能系統特論A	朝倉, 久保田, 宮崎, 大和, 中野	8006	修士	前期	2
形態機能系統特論B	朝倉, 久保田, 宮崎, 大和, 中野	8007	修士	後期	2
海洋生物学特論	朝倉, 久保田, 宮崎, 大和, 中野	8040	修士	前期集中	2
海洋生物学ゼミナールA	朝倉, 久保田, 宮崎, 大和, 中野	8091	修士	前期	2
海洋生物学ゼミナールB	朝倉, 久保田, 宮崎, 大和, 中野	8092	修士	後期	2
海洋生物学ゼミナールC	朝倉, 久保田, 宮崎, 大和, 中野	8093	修士	前期	2
海洋生物学ゼミナールD	朝倉, 久保田, 宮崎, 大和, 中野	8094	修士	後期	2
動物学特殊研究・海洋生物学A-D	朝倉, 久保田, 宮崎, 大和, 中野	8099-8102	修士	通年	各3
海洋生物学ゼミナール	朝倉, 久保田, 宮崎, 大和, 中野	—	博士後期	—	—

大学院地球環境学舎 環境マネジメント専攻

講義名	担当教員 (敬称略)	科目	対象	開講期	単位
里海学	山下	3273	修士	後期前半	1
里山再生論	柴田ほか	3507	修士	前期集中	1
里域植生保全論	梅本	3563	修士	前期集中	2
地球資源・生態系管理論	柴田, 山下ほか	3103	修士	前期	2
景観生態保全論	柴田ほか	3217	修士	前期前半	2
景観生態保全論演習	柴田ほか	3319	修士	後期不定	1

学部での提供科目

農学部 森林科学科

講義名	担当教員 (敬称略)	科目	対象	開講期	単位
森林基礎科学 I	吉岡ほか	E103	1 回生	前期	2
森林基礎科学 IV	柴田ほか	E106	1 回生	後期	2
森林育成学	徳地, 長谷川, 寄元	E128	3 回生	後期	2
森林植物学	安藤	E129	3 回生	前期	2
森林資源管理学	館野, 坂野上	E130	3 回生	後期	2
造園学実習 I	柴田ほか	E234	3 回生	後期	2
造園学実習 II	柴田ほか	E235	4 回生	前期	2
緑地植物学	柴田ほか	E125	4 回生	前期	2
造園学 I	柴田	E123	3 回生	前期	2
造園学 II	柴田	E124	3 回生	後期	2
森林科学 IV	柴田ほか	E114	2 回生	後期	2
森林環境学	吉岡, 中島	E131	3 回生	後期	2
森林科学実習 IV	徳地, 安藤, 坂野上, 寄元ほか	E214	2 回生	後期集中	1
森林総合実習及び実習法	安藤, 長谷川, 寄元, 中島, 坂野上ほか	E221	3 回生	前期集中	2
研究林実習 II	徳地ほか	E238	3 回生	後期集中	1
研究林実習 III	吉岡, 館野, 坂野上ほか	E239	3 回生	前期集中	2

農学部 資源生物科学科

講義名	担当教員 (敬称略)	科目	対象	開講期	単位
資源生物科学概論 B	山下, 中山ほか	A106	2 回生	後期	2
動物生理学	田川ほか	A113	2 回生	前期	2
資源生物科学基礎実験	資源生物科学科教員 (益田, 田川, 中山ほか)	A118	2 回生	後期	1
海洋生物科学技術論と実習 I	山下, 田川, 益田, 上野, 中山, 甲斐ほか	A205	2 回生	前期集中	2
海洋生物科学技術論と実習 II	山下, 上野, 甲斐ほか	A206	2 回生	前期集中	2
植物調査法と実習	梅本ほか	A208	2 回生	前期集中	2
海洋生物生態学	山下, 田川, 益田, 上野, 中山, 甲斐	A224	3 回生	前期	2
資源生物科学専門外書講義 II	田川, 中山ほか	A237	3 回生	後期	2
資源生物科学実験および実験法 I	資源生物科学科教員 (田川, 中山ほか)	A238	3 回生	前期	6
資源生物科学実験および実験法 II	資源生物科学科教員 (田川, 中山ほか)	A239	3 回生	後期	6
海洋生物生理学	田川	A248	3 回生	後期	2
魚類学	中山, 甲斐ほか	A250	3 回生	後期	2
海洋生物資源学演習	田川, 中山ほか	A512	4 回生	通年	2

理学部 生物科学科

講義名	担当教員 (敬称略)	科目	対象	開講期	単位
無脊椎動物学	朝倉, 久保田, 宮崎, 大和, 中野	2708	2 回生以上	後期	2
海洋生物学	朝倉	2705	2 回生以上	前期	2
臨海実習第 1 部	朝倉, 久保田, 宮崎, 大和, 中野	2733	2 回生以上	前期集中	2
臨海実習第 2 部	朝倉, 久保田, 宮崎, 大和, 中野	3767	3 回生以上	前期集中	2
臨海実習第 4 部	朝倉, 久保田, 宮崎, 大和, 中野	3769	3 回生以上	前期集中	2
生物学セミナー B	久保田, 宮崎, 大和, 中野ほか	3761	3 回生以上	後期	2

◆学位授与

(森林情報学分野)

修士 大槻 あずさ 森林-河川系における溶存有機物の動態に関する研究

(森林育成学分野)

修士 池山 祐司 由良川流域における森林と農地からの栄養塩負荷の時空間的影響
八木 弥生 素材生産システムの選択モデルの構築

学士 落合 夏人 窒素負荷量の異なる森林間における土性と窒素・炭素保持の関係

(海洋生物増殖学分野)

修士 越後 はるな ヒラメの傷は元通りに治るとは限らない-白い体表が黒く修復される要因を探る-
吉川 尚樹 マツカワ変態期における2種の黒色素胞発現およびメラニン凝集ホルモン(MCH)感受性の検討

東海林 明 Morphological and genetic divergence in *Crystallichthys matsushimae* (Cottoidei:Liparidae) アバチャン(カジカ亜目:クサウオ科)の形態学的・遺伝学的研究

学士 浅田 憲貴 飼育下のアカガレイに見られる多様な形態を眼と体色の組み合わせの異常によって説明する試み

山口 真以 マナマコの日周活動性, 馴致, 及び餌場学習の検討

(里海生態保全学分野)

課程博士 大嶋 真謙 ヒラメ仔稚魚の成長・生残と成育場加入機構に関する研究

八谷 三和 生息環境に基づいた淡水性エビ類の保全生態学的研究

大畑 亮輔 海産魚類の初期生活史における濁りの生態学的意義

Yi-Ting Lien (連 怡婷)

Molecular phylogenetic and ecological analyses of algal endosymbionts (zooxanthellae) in the scleractinian corals in the temperate region of Japan (日本温帯域に生息する造礁サンゴに共生する褐虫藻の分子遺伝学および生態学的研究)

修士 小澤 諒 シュードカリグス(*Pseudocaligus fugu*)の宿主選択性とクサフグの対寄生虫戦略

(海洋生物学分科)

修士 藤本 心太 Muscular architecture of marine heterotardigrades (Tardigrada: Heterotardigrada)

海産異クマムシ綱(緩歩動物門:異クマムシ綱)の筋系走向

(農学研究科森林科学専攻 環境デザイン学) (柴田 昌三)

博士 康 寧 A Study of the Cultural Landscape Transition on the Oguraike Floodplain, Kyoto (京都府巨椋池における文化的景観の変容過程に関する研究)

修士 板垣 智美 丹後半島から京都市内へのササ葉流通の現状と可能性

藤馬 裕一 京都市の都市緑地におけるタチツボスミレの遺伝的多様性の評価と保全

西村 大志 絶滅植物種の標本記録に基づく環境変遷評価の試み

学士 窪田 孔明 京都市「街路樹サポーター制度」を通じて見る人々と街路樹の関わり方

新野 彬子 京都市中心部における通り庭型公開緑地の空間特性と環境が利用形態に与える影響

三好 京子 薪ストーブによる森林資源の利用可能性と CO₂ 削減における意義-京都市松ヶ崎エコ学区を事例として-

(地球環境学舎 景観生態保全論分野) (柴田 昌三)

博士 内藤 梨沙 Evaluation of rice paddy area as habitat of the endangered pond frog *Pelophylax porosa* Brevipoda. - Implication for conservation (絶滅危惧種ナゴヤダルマガエルの生息地としての水田地域の評価-保全へ向けた提案)

Jason Hon Importance of salt licks and roles of production forests for the conservation of wildlife in central Sarawak, Malaysian Borneo (マレーシアボルネオサラワク州における野生生物保全に向けた塩なめ場の重要性と資源生産林の役割)

修士 芹澤 貴裕 丹後半島世屋高原における里山景観と鳥類との関係

メリーナ 崎山 Satakeholder's perspectives regarding the process of biodiversity valuation (ユースの視点で見た生物多様性の評価に関するステイクホルダーのあり方)

秋田 桂 京町家改装カフェの空間構成と魅力に関する研究

阿野 晃秀 エコロジカルネットワークの改善と内水氾濫抑制に対するレインガーデンの効果

Gou Shi Wei Assessing the Spatial Distribution of Neighborhood Parks in Urban Area of Kyoto City, Japan (京都市市街地における近隣公園の空間分布に関する研究)

Meghan O'connell The Role of Conservation Medicine in Japanese Wildlife Management Practices- A Case Study in Hokkaido (北海道を事例にした日本の野生動物管理の実践における保全医学の役割)

◆瀬戸臨海実験所・公開臨海実習

科目名	担当教員(敬称略)	実習期間	日数	学生数	学生の所属等
発展生物学実習	朝倉, 久保田, 宮崎, 大和, 中野	2012-08-04/10	7	2	東京農工大学, 愛媛大学
自由課題研究	朝倉, 久保田, 宮崎, 大和, 中野	2012-08-27/09-03	8	1	東邦大学
海産無脊椎動物分子系統学実習	朝倉, 久保田, 宮崎, 大和, 中野	2013-03-02/09	8	12	信州大学, 同志社大学, 九州大学, 北海道大学, 東洋大学, 北里大学, 京都大学(3)
藻類の系統と進化	朝倉, 久保田, 宮崎, 大和, 中野	2013-03-15/20	6	3	福井県立大学, 三重大学, お茶の水女子大学
海産無脊椎動物多様性実習	朝倉, 久保田, 宮崎, 大和, 中野	2013-03-25/30	6	8	山形大学, 千葉大学, 岡山大学, 京都大学(1)

◆舞鶴水産実験所・公開実習

科目名	担当教員(敬称略)	実習期間	日数	学生数	学生の所属等
海洋科学技術論と実習 I	田川, 益田, 上野, 中山, 甲斐ほか	2012-08-17/23	7	2	東京海洋大学, 鹿児島大学
海洋科学技術論と実習 II	山下, 上野, 甲斐ほか	2012-08-23/29	7	2	鹿児島大学, 東京理科大学
森里海連環学実習 A	山下, 長谷川, 上野, 中西, 甲斐ほか	2012-08-06/10	5	1	お茶の水女子大学
若狭湾秋季の水産海洋生物実習	益田, 上野, 甲斐	2012-09-24/29	6	10	東京農業大学, 島根大学, 高知大学, 近畿大学, 京都大学(3)
若狭湾春季の水産海洋生物実習	山下, 益田, 上野, 甲斐	2013-03-21/26	6	13	お茶の水女子大学, 東京海洋大学, 長崎大学, 北海道大学, 三重大学, 立命館アジア太平洋大学, 北里大学, 京都大学(3)

◆公開森林実習

「京都大学公開森林実習－近畿地方の奥山・里山の森林とその特徴－」は、全国大学演習林協議会の取り組みの一環として、標準履修年次：2・3年、1単位の実習として2011年度から開設している科目である。京都大学農学部の特別聴講学生となる制度による受講が1人(宇都宮大学)、それ以外の一般聴講生が4人(筑波大学2回生2人, 信州大学3回生1人, 新潟大学4回生1人)であった。9月4～6日に開催した。初日に上賀茂試験地において里山(京都市近郊の二次林)の植生について学び、翌日は芦生研究林において奥山(天然林や人工林)の観察、獣害被害地・調査区等の見学を行った。そして、3日目は、美山町北山かやぶきの里、京都北山丸太生産協同組合、北白川試験地を観察して林業や森と人のかかわりについて学んだ。アンケートとレポートを課し、実習中の受講態度と合わせて成績を評価した。京都大学特別聴講生には、大学事務を通して正式に単位を発行した。他の学生には、京大フィールド研センター長名の受講証明書(成績評価付)を発行した。

公開森林実習(芦生研究林・上賀茂試験地・北白川試験地)

科目名	担当教員(敬称略)	実習期間	日数	学生数	学生の所属等
近畿地方の奥山・里山の森林とその特徴	吉岡, 安藤, 長谷川, 寄元	2012-09-04/06	3	8	信州大学, 東京農工大学, 静岡大学, 三重大学, 島根大学, お茶の水女子大学, 鳥取環境大学

◆他大学・各種学校の講義・実習

(高校生以下を対象とする講義などは、(6)社会貢献活動 参照)

柴田 昌三 京都府立大学生命環境学部森林科学科「造園学」・「森林風致論」

森林生物圏部門

中島 皇 京都教育大学「栽培と飼育の実践 II-いのちを育み、慈しむ」

里域生態系部門

山下 洋 国際エメックスセンター (JICA)・沿岸域・内湾およびその集水域 における統合的水環境管理学講座講師

益田 玲爾 岐阜大学教育学部・臨海実習

高知大学 総合研究センター JICA 集団研修「海域における水産資源の管理及び培養」

放送大学 (京都学習センター面接授業) , 2012-10-27

長谷川 尚史 京都府立林業大学校「高性能林業機械作業システム」・「鳥獣被害対策」・非常勤講師

甲斐 嘉晃 近畿大学実習

基礎海洋生物学部門

久保田 信 大阪市立大学・臨海実習

大阪大学大学院理学研究科・生物学臨海実習

大阪大学インターナショナルカレッジ

社会保険紀南看護専門学校「生物学」

宮崎 勝己 社会保険紀南看護専門学校「生物学」

奈良教育大学教育学部・「野外実習 A-II」

大阪教育大学教育学部・臨海実習

大和 茂之 関西学院大学・臨海実習

社会保険紀南看護専門学校「生物学」

中野 智之 社会保険紀南看護専門学校「生物学」・非常勤講師

企画研究推進部門

松山 周平 大阪工業大学「森林生態学」「環境・エネルギー施設管理演習」・非常勤講師

学校法人修成学園「造園植物 I」「造園植物 II」・非常勤講師

(5) 学会等における活動

◆学会役員・シンポジウム企画等

柴田 昌三 竹類勉強会 代表

日本造園学会 理事・編集委員会副会長・関西支部幹事・学会賞選考委員

日本緑化工学会 副会長・理事・環境林研究部会長・学会賞選考委員会委員長

竹文化振興協会 参与・研究雑誌編集委員

京都竹文化振興財団 評議員

World Bamboo Organization: Member of Board

International Consortium of Landscape and Ecological Engineering: Secretary general

セニード(Center for Nepal Environmental and Educational Development)後援会 会長

森林生物圏部門

吉岡 崇仁 日本生態学会近畿地区委員

館野 隆之輔 一般社団法人 日本森林学会・英文誌編集委員

一般社団法人 日本森林学会・Journal of Forest Research 論文賞選考委員

北方森林学会・評議員

坂野上 なお 日本森林学会・代議員

里域生態系部門

山下 洋 Fisheries Oceanography 副編集委員長

日本プランクトン学会 評議員

水産海洋学会・国際誌委員会委員長

水産海洋学会・学会賞受賞候補者推薦委員会委員

水産海洋学会・幹事
 公益社団法人 日本水産学会 国際交流委員会委員・学会賞選考委員会委員
 徳地 直子 日本森林学会評議員
 日本生態学会関西支部会評議員
 田川 正朋 公益社団法人 日本水産学会 水産増殖懇話会委員・水産教育推進委員会委員
 益田 玲爾 Journal of Plankton Research 編集委員
 公益社団法人 日本水産学会・シンポジウム企画委員会委員・編集委員会委員
 梅本 信也 日本雑草学会 用語委員 幹事
 照葉樹林文化研究会 幹事
 長谷川 尚史 森林利用学会常務理事・編集委員
 森林計画学会企画委員
 森林生産システム研究会主事
 森林空間利用研究会主事
 第124回日本森林学会テーマ別シンポジウム「森林資源の積極的な利用に伴う生態系サービス間のトレードオフ：森林管理と流域管理のバランスポイントを探る」座長(2013年3月26日)
 中山 耕至 日本魚類学会 電子情報委員会委員長
 甲斐 嘉晃 日本魚類学会 評議員・Ichthyological Research, 魚類学雑誌, 編集委員・電子情報委員(副委員長)
 福西 悠一 36th Annual Larval Fish Conference. member of organizing committee. Bergen, Norway

基礎海洋生物学部門

朝倉 彰 国際甲殻類学会 The Crustacean Society: Immediate-Past President
 日本甲殻類学会 会長
 久保田 信 漂着物学会誌編集委員
 日本動物学会近畿支部委員
 宮崎 勝己 日本節足動物発生学会 編集委員
 大和 茂之 南紀生物同好会 編集委員
 中野 智之 軟体動物多様性学会 副会長および会紙編集委員
 加藤 哲哉 日本動物分類学会・選挙管理委員

森里海連環学教育ユニット

向井 宏 日本生態学会生態系管理専門委員会委員・自然保護専門委員会上関問題アフターケア委員会委員
 日本ベントス学会環境保全委員会委員
 清水 夏樹 農村計画学会学術交流委員会委員

企画研究推進部門

福島 慶太郎 種生物学会 Plant Species Biology 編集委員
 第124回日本森林学会テーマ別シンポジウム「森林資源の積極的な利用に伴う生態系サービス間のトレードオフ：森林管理と流域管理のバランスポイントを探る」企画者(2013年3月26日)

◆受賞歴

森林生物圏部門

吉岡 崇仁 年月日：2012年9月16日
 受賞者名：大槻 あずさ・福崎 康司・鈴木 伸弥・福島 慶太郎・吉岡 崇仁
 受賞内容：「由良川流域における溶存有機物の蛍光特性」(日本陸水学会第77回大会, ポスター賞,)

里域生態系部門

山下 洋・上野 正博
 年月日：2012年12月1日
 受賞者名：青木 貴志・富士 泰期・笠井 亮秀・上野 正博・山下 洋
 受賞内容：由良川河口域における魚類群集と餌生物の相互関係 (2012年度水産学会近畿支部後期例会, 優秀発表賞)
 山下 洋・上野 正博
 年月日：2012年12月1日
 受賞者名：富士 泰期・笠井 亮秀・上野 正博・山下 洋
 受賞内容：河川はスズキの生育場として重要なのか? - 耳石 Sr/Ca によるアプローチ. (2012年度水産学会近畿支部後期例会, 優秀発表賞)
 山下 洋・益田 玲爾
 年月日：2013年3月6日
 受賞者名：大畑 亮輔・益田 玲爾・山下 洋

授賞内容：第 60 回日本生態学会 ポスター講演 最優秀賞<動物生活史・繁殖>「濁りによる海産仔魚 3 種の成長・生残の向上」

山下 洋・益田 玲爾

年月日：2013 年 3 月 27 日

受賞者名：高橋 宏司・益田 玲爾・山下 洋

授賞内容：平成 25 年度 日本水産学会論文賞 School for learning: sharing and transmission of feeding information in jack mackerel *Trachurus japonicus* juveniles. Fisheries Science 78 (2): 269-276. (学習のための群れ：マアジ稚魚における餌情報の共有と伝達)

徳地 直子

年月日：2012 年 9 月 16 日

受賞者名：落合 夏人・徳地 直子・福島 慶太郎

授賞内容：「奈良県護摩壇山試験地における渓流水質の長期変動」(日本陸水学会第 77 回大会, ポスター賞)

田川 正朋

年月日：2013 年 3 月 27 日

受賞者名：有瀧 真人・田川正朋

授賞内容：Pseudoalbinism and ambicoloration in hatchery-reared pleuronectids as malformations of asymmetrical formation (Fisheries Science 78 巻 2 号: 327-335 (2012)) 平成 25 年度日本水産学会春季大会 日本水産学会論文賞

長谷川 尚史

年月日：2013 年 3 月 26 日

受賞者名：白澤 紘明・長谷川 尚史

授賞内容：「林内路網計画アルゴリズムの性能比較」(日本森林学会第 124 回大会, 学生ポスター賞 (防災・利用・立地分野))

基礎海洋生物学部門

岡西 政典

年月日：2012 年 9 月 14 日

受賞者名：岡西 政典

授賞内容：2012 年度 Zoological Science Award (日本動物学会)

岡西 政典

年月日：2012 年 9 月 14 日

受賞者名：岡西 政典

授賞内容：2012 年度 藤井賞 (日本動物学会)

西本 篤史

年月日：2012 年 10 月 7 日

受賞者名：西本 篤史

授賞内容：深海に流入した木片における生物侵蝕過程 (2012 年度日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会, 日本ベントス学会学生発表賞 (ポスター))

企画研究推進部門

福島 慶太郎

年月日：2012 年 9 月 16 日

受賞者名：大槻 あずさ・福崎 康司・鈴木 伸弥・福島 慶太郎・吉岡 崇仁

授賞内容：「由良川流域における溶存有機物の蛍光特性」(日本陸水学会第 77 回大会, ポスター賞)

福島 慶太郎

年月日：2012 年 9 月 16 日

受賞者名：落合夏人・徳地直子・福島慶太郎

授賞内容：「奈良県護摩壇山試験地における渓流水質の長期変動」(日本陸水学会第 77 回大会, ポスター賞)

管理技術部

柳本 順

年月日：2012 年 9 月 20 日

受賞者：柳本 順

授賞内容：平成 24 年度全国大学演習林協議会, 第 14 回森林管理技術賞 [学術貢献賞]

(6) 社会貢献活動

◆学外委員会委員等

柴田 昌三 全国大学演習林協議会・会長
京都府山城広域振興局・木津川右岸運動公園（仮称）管理運営会議委員
科学研究費委員会専門委員（資源保全学）
京都府バイオマス活用検討委員会（京都府）座長
京都エコ・エネルギー戦略検討委員会（京都府）委員
奈良学園高等学校 SSH 運営指導委員

森林生物圏部門

吉岡 崇仁 特定非営利活動法人日本国際湿地保全連合・環境省「モニタリングサイト 1000（陸水域調査）」事業の
会議等の有識者委員
全学大学演習林協議会・公開森林実習運営委員会委員
安藤 信 京都伝統文化の森推進協議会・京都伝統文化の森推進協議会委員・専門委員
財団法人 阪本奨学会 理事
京都市・森づくりアドバイザー
館野 隆之輔 標茶町・標茶町林業推進協議会委員
坂野上 なお 滋賀県 琵琶湖環境部森林政策課・森林審議会委員
社団法人 滋賀県造林公社・理事
京都市環境政策局・京都市バイオマス活用推進委員会
大阪府・大阪府森林審議会委員

里域生態系部門

山下 洋 京都府漁業調整委員（8月まで）
文部科学省科学技術・学術政策局・海洋環境放射能調査検討会委員
京都府農林水産技術センター評議委員
環境省依託事業有明海生態系回復方策検討委員会委員
環境省地球環境推進費アドバイザー
財団法人シップ・アンド・オーシャン財団（海洋政策研究財団）・河口域の一体的管理に関する調査研究
委員会委員
財団法人シップ・アンド・オーシャン財団（海洋政策研究財団）・「海の健康診断」等による宮古市沿岸域
の評価委員会委員
独立行政法人水産総合研究センター・平成 24 年度水産基盤整備調査委託事業アサリ・干潟グループ評価
委員
舞鶴環境市民会議顧問
徳地 直子 京都市・京都市土地利用審査会委員
財団法人防災研究協会・非常勤研究員
京都市・京都市環境審議会委員
西山森林整備推進協議会・会長
八幡市環境審議会・委員
長岡京市環境審議会・委員
天王山周辺森林整備推進協議会・顧問
京都府八幡市・八幡市環境審議会
農林水産省・独立行政法人評価委員会専門委員
益田 玲爾 舞鶴市・舞鶴市リーディング産業チャレンジファンドに係るファンド委員会委員
独立行政法人水産総合研究センター・新たな農林水産施策を推進する実用技術開発事業アドバイザー
京都府農林水産部水産課長・京都海区漁業調整委員会委員
梅本 信也 和歌山県環境影響評価審査会委員
和歌山県森林審議会委員
古座川流域協議会専門委員
長谷川 尚史 独立行政法人 森林総合研究所 四国支所・事前推進評価会議外部評価委員
日吉町森林組合（林野庁委託）・先進林業機械の導入・改良事業運営委員
兵庫県林業普及全県プロジェクト委員
兵庫県森林審議会委員・松くい虫防除対策部会長
芦生地域有害鳥獣対策協議会委員
南丹市美山エコツーリズム推進協議会委員

滋賀県水源涵養機能評価に向けた検討会外部委員
京都府森林組合連合会・原木供給体制検討委員会委員
全国森林組合連合会・森林施業プランナー育成対策事業ステップアップ研修講師
株式会社自然産業研究所（林野庁補助事業）・先進林業機械改良・新作業システム開発事業検討委員
十津川村・十津川村森林基本計画策定委員会委員
京都府農林水産部・森林・林業経営高度化プラン検討委員
株式会社自然産業研究所・平成24年度林野庁補助事業 先進林業機械改良・新作業システム開発事業検討委員
全学大学演習林協議会・森林技術賞表彰委員会委員
京都府農林水産部・社団法人京都府森と緑の公社 経営検討委員会委員
国立大学法人岐阜大学・農林水産省「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」外部有識者委員

上野 正博 株式会社カンネツ・事業推進委員
中西 麻美 特定非営利活動法人森林再生支援センター 理事
甲斐 嘉晃 舞鶴市高等教育機関等合同PR事業・実行委員

基礎海洋生物学部門

朝倉 彰 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター・水圏ステーション厚岸臨海実験所及び室蘭臨海実験所共同利用協議会委員
久保田 信 和歌山県立自然博物館 協議会委員
海の生き物を守る会 関西地区運営委員
白浜国際交流協会副会長
大和 茂之 財団法人 天神崎の自然を大切にすの会 評議員

森里海連環学教育ユニット

向井 宏 日本学術会議連携会員
茨城県鹿島灘生態調査委員会委員長・同専門部会委員長
特定非営利活動法人 日本国際湿地保全連合・モニタリングサイト1000 アマモ場調査事業会議参画
厚岸町史編集委員会協力員
環境省環境研究企画委員会第4研究分科会
厚岸湖・別寒辺牛湿原学術研究奨励補助金審査会委員
"Marine Ecology" editorial board
水源地生態研究会環境経済研究グループ委員
日本自然保護協会沿岸保全部管理検討会座長
海の生き物を守る会 代表・事務局長
佐藤 真行 財団法人 ダム水源地環境整備センター「水源地生態研究会」委員
清水 夏樹 近畿農政局・農村振興情報整備・分析調査現地調査に係る有識者
財団法人福井県産業廃棄物処理公社・下水汚泥の固形燃料化研究会委員
埼玉県景観審議会委員

◆高校生までを対象としたプログラム

柴田 昌三 第2回「生駒みどりの小学校」において、講義「竹はどんな植物？」（生駒市高山竹林園），2012-04-22

森林生物圏部門

館野 隆之輔 日本学術振興会 研究成果の社会還元・普及事業「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」の一環で、「大学の森で学ぼう2012」を開催（北海道研究林），2012-07-28
「しべちゃアドベンチャースクール」第5ステージ（標茶町教育委員会主催，北海道研究林後援） 北海道研究林，2013-01-19/20
坂野上 なお 有田中央高校清水分校「ウッズサイエンス」「SIMIZU タイム」（森林ウォーク）講師（和歌山研究林）

里域生態系部門

山下 洋 京都府立西舞鶴高等学校・講師
田川 正朋 京都府教育委員会・講師
益田 玲爾 舞鶴市主催「あどべんちゃークラブ中舞鶴探訪」講師，2012-06-09
京都教育大学附属高校 臨海実習・講師，2012-07-22/24
京都府立南陽高校 臨海実習・講師（福井県海浜自然センター），2012-08-01/03
舞鶴の川と海を美しくする会主催「大浦半島エコウォッチング」講師（舞鶴市漁協田井支所），2012-08-19
舞鶴市立倉梯第二小学校 総合的な学習・講演（倉梯第二小学校），2012-10-05
京都府京丹波町立瑞穂中学校「出前授業」（京都府教育委員会連携事業），2012-10-26
舞鶴市立中舞鶴小学校・中舞鶴幼稚園・中保育所 見学・実習・講義，2012-11-04

- 舞鶴支援学校北吸分校「出前授業」(京都府教育委員会連携事業), 2012-11-29
 舞鶴市立朝来小学校・全校生徒およびPTA 向け講演, 2012-12-01
 舞鶴市立中保育所・中舞鶴幼稚園 園児対象・講演, 2012-12-10
 京都教育大学附属高校 SSH 事業・講演 (京都教育大学附属高校), 2013-03-13
 京都府西舞鶴高校 SPP・講師(舞鶴水産実験所, 京都府立西舞鶴高等学校ほか)
 京都大学 ジュニアキャンパス 2012 において, 中学生向けゼミ「ヒノキの花粉生産ーヒノキの花粉飛散量を予測しようー」を実施, 2012-09-23
 大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎 SSH・講師(聴山美術館(南丹市美山町)), 2012-08-19
 大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎 SSH・講師(大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎), 2012-12-15
 上野 正博 京都府立西舞鶴高等学校・講師
 甲斐 嘉晃 神戸高校 SSH 実習・講師, 2012-05-26
 京都府南陽高校 SPP・講師(事前授業・京都, 2012-07-14, 実習・舞鶴, 2012-08-02/03)
 京都府海洋高校講義・施設見学, 2012-11-02
 京都府立西舞鶴高等学校・講師, 2012-07-31/08-01

基礎海洋生物学部門

- 久保田 信 大阪府立住吉高校 課題研究・指導, 2012-07-14/15
 滋賀県立膳所高等学校 生物実習旅行・講師, 2012-07-23/26
 奈良県立奈良高等学校 SSH サイエンスツアー, 2012-07-27/28
 和歌山県高等学校生徒会連絡協議会・講演, 2012-08-20
 大阪府立住吉高校 臨海フィールドワーク実習・講師, 2012-10-12/14
 大阪府立豊中高等学校 臨海実習・講師, 2013-01-04/05
 宮崎 勝己 奈良女子大学附属中等教育学校 SSH サイエンス夏の学校・講師, 2012-07-29/31
 奈良学園登美ヶ丘中学校白浜宿泊研修・講師, 2012-05-21/22
 大阪府立汎愛高等学校 SPP プログラム「海洋生物資源の研究」・講師, 2012-07-14/15
 滋賀県立膳所高等学校 SSH 生物実習旅行・講師, 2012-07-23/26
 兵庫県立尼崎小田高等学校 SSH 臨海実習・講師, 2012-08-01/02
 奈良県立奈良北高等学校校外研修・講師, 2012-09-28
 大阪府立豊中高等学校 SSH 生物特別臨海実習・講師, 2013-01-04/07
 大和 茂之 大阪府立汎愛高等学校 SPP プログラム「海洋生物資源の研究」・講師, 2012-07-15
 和歌山県立日高高校 SSH・講師(田辺市天神崎), 2012-07-17/18
 中野 智之 滋賀県立膳所高等学校 生物実習旅行・講師, 2012-07-22/25
 奈良県立奈良高等学校 SSH 関連講座の講演・講師
 奈良学園登美ヶ丘中学校白浜宿泊研修・講師
 大阪府立豊中高等学校 SSH 生物特別臨海実習・講師

森里海連環学教育ユニット

- 佐藤 真行 招待講演「経済発展と環境・資源・生態系」(伊那市生涯学習センター), 2012-05

◆社会人等を対象としたプログラム

- 柴田 昌三 2012 年麗水 EXPO 開催に向けたボランティア活動における特別シンポジウム「海洋生態系の再生とボランティア活動」, 「沿岸域環境再生における森里海連環的観点の重要性」(基調講演, MVL Hotel, Yeosu, Korea), 2012-05-04
 2012 年麗水 EXPO 開催に向けたボランティア活動における特別シンポジウム「海洋生態系の再生とボランティア活動」, 「物質循環の視点からみた沿岸域環境の再生」(講義, 全南大学, Yeosu, Korea), 2012-05-05
 三重県「みんなで支える森林づくりフォーラム」において, 基調講演「森里海連環学 山が元気になれば, 川も海もまちも豊かになる」(津市文化芸術会館), 2012-05-19
 NPO 法人 エコロジー・カフェ関西事務所第 4 回シンポジウム「祇園祭とくらしの関係って?ー伝統行事・文化を環境問題という視点から考えるー」において, 講演「祇園祭や京のくらしを支えてきた里」 京都烏丸コンベンションホール, 2012-07-14
 高槻市民林業士養成講座開講式において, 基調講演「日本の森の今を知り, 何をすべきかを考える」(高槻森林市民交流センター), 2012-07-26
 大分県竹産業文化振興連合会発会記念式典において, 基調講演「竹文化と日本人ー過去・現在・未来ー」(別府市公会堂), 2012-09-02
 京都大学社寺見学会講師「伊勢神宮の森林」(伊勢神宮), 2012-10-20
 平成 24 年度全日本竹産業連合会パネルディスカッション コーディネータ(大阪市), 2012-11-22
 連続講座「自然に学ぶ“森里海連環学”カルチャー教室「宮城の海で畠山重篤さんと考えた～豊かな自然とそれに依存した生活はどのようにして得られるのか～」(島根県益田市), 2012-12-14

第 15 回京都大学地球環境フォーラム「森が壊れる」において、講演「人間の関与を失った森林はどうなったのか」(京都大学百周年時計台記念館 国際交流ホール)、2013-02-02

森林生物圏部門

- 吉岡 崇仁 フィールド研公開講座実行委員長(芦生研究林)、2012-07-27/29
「知ろう、守ろう芦生の森ー芦生の森探索とシカ防護ネット設置ボランティア活動ー」を開催(芦生研究林)、2012-08-11
「知ろう、守ろう芦生の森シンポジウムー豊かな森の再生に向けてー」において、パネルディスカッション コーディネーターとして参加)、2012-12-08
フィールド研シンポジウム「流域研究と森里海連環学」において、講演およびパネルディスカッション司会者として参加、2012-12-02
- 安藤 信 上賀茂試験地「春の自然観察会」講師、2012-04-28
フィールド研公開講座において講師(野外実習)(芦生研究林)、2012-07-28
上賀茂試験地「秋の自然観察会」講師、2012-11-17
- 館野 隆之輔 ANA 青空塾 私の青空 根室中標津空港:シマフクロウの森、2012-06-02
第1回周南市連携講座(徳山試験地)において講演および野外実習講師、2012-06-17
ミニ公開講座「自然観察・草木染め」を実施(北海道研究林白糠区)、2012-10-20
- 中島 皇 ANA 青空塾 私の青空 オホーツク紋別空港:とっかりの森(徳島県板野郡松茂町)、2012-06-30
フィールド研公開講座において講師(野外実習)(芦生研究林)、2012-07-29
周南市・フィールド研連携協定締結記念公開講座「森・里・海がつながる未来ー周南市で学ぶ京大の知ー」(山口県周南市・徳山試験地 共催)において講演「森から見える森里海連環」(周南市徳山保健センター)、2012-10-21
- 寄元 道德 上賀茂試験地「春の自然観察会」講師、2012-04-28
上賀茂試験地「秋の自然観察会」講師、2012-11-17
- 坂野上 なお フィールド研公開講座において講演および講師(野外実習)、2012-07-27/29

里域生態系部門

- 山下 洋 第4回由良川市民講座「森・里・海の対話〜豊穡の海を育む森づくり〜」において、パネルディスカッションのコーディネーターとして参加(舞鶴市中総合会館 コミュニティホール)、2012-07-08
第2回周南市連携講座(徳山試験地)において講演、2012-09-16
「水産・臨海・臨湖実験所フィールド実習ワークショップ」において講演、2012-11-30
NPO 法人 シニア自然大学校主催 連続環境講座「森里海連環の時代を拓く I」において、講演(大阪市立環境学習センター(生き生き地球館))、2013-01-12
「舞鶴・海のつながりフォーラム」において、パネルディスカッション座長およびコンビーナー(舞鶴市政記念館)、2013-03-09
- 徳地 直子 フィールド研公開講座において講演および講師(野外実習)、2012-07-27/29
- 益田 玲爾 森は海の恋人シンポジウム「海と共に生きるーよみがえる海の生き物・復興へのメッセージー」にて講演(日経ビル3階 日経ホール・東京)、2012-04-03
カナダ・アルバータ大学留学生対象 講義、2012-05-08
第3回有明海再生シンポジウム「干潟を再生するー福岡市民と“ムツゴロウ”はお隣さん」において、基調報告およびパネル討論パネラー(福岡市民会館)、2012-05-10
テレビ番組出演 NHK 総合テレビ ニュース 610 京いちにち「高浜原発停止で暖かい海域の魚消える」、2012-06-01
テレビ番組出演 NHK 総合テレビ ニュース「雪どけに伴う赤潮によるトリガイの被害」、2012-06-11
シニア自然大学 食と健康と環境の講座 講演(生き生き地球館)、2012-06-20
テレビ番組出演 NHK 総合テレビ ニュース 610 京いちにち「気仙沼市舞根湾における潜水調査」、2012-06-21
NPO 法人エコロジー・カフェと共催で「森里海学びツアーin 舞鶴」を開催、2012-06-22/24
テレビ番組出演 MBS テレビ「VOICE」「クラゲ大量発生 そのワケは…」、2012-07-25
テレビ番組出演 関西テレビ「スーパーニュースアンカー」「発電所にクラゲ大発生のワケ」、2012-07-27
舞鶴市ネイチャーガイド養成講座 講演(舞鶴市商工観光センター)、2012-09-18
シンポジウム「森と海の未来力(ちから)〜子どもたちに手渡すべきこと〜」において、基調報告(キャンパスプラザ京都)、2012-10-11
気仙沼舞根プロジェクト・シンポジウム「地震と津波に学び“海とともに生きる”未来創生」において、講演(財団法人国際高等研究所)、2012-10-12
舞鶴市観光ボランティア「けやきの会」講演、2012-10-22
京都大学理学部 S2 同窓会 講演、2012-11-09
東北大学農学カルチャー講座 講演(エル・パーク仙台)、2012-11-22

- 舞鶴市食生活改善推進員養成講座 講演(舞鶴市中央公民館), 2012-11-28
「水産・臨海・臨湖実験所フィールド実習ワークショップ」において総合司会, 2012-11-30
NPO 法人シニア自然大学校マイスター 施設案内と講演, 2013-01-26
京都府主催 竹の整備と利用を考えるシンポジウムにおいて講演(舞鶴勤労者福祉会館), 2013-02-02
ラジオ番組出演 α-STATION エフエム京都「SUNNYSIDE BALCONY」のコーナー「Kyoto university academic talk」「魚のココロを探る」, 2013-02-27
「舞鶴・海のつながりフォーラム」において, 講演およびコンビーナー(舞鶴市政記念館) 2013-03-09
- 長谷川 尚史 「知ろう, 守ろう 芦生の森ー芦生の森探索とシカ防護ネット設置ボランティア活動ー」を開催(主催: 芦生地域有害鳥獣対策協議会, 京都府南丹広域振興局/共催: フィールド研他), 2012-05-16, 2012-08-11
芦生の森自然観察会 入門編「春の森を歩きながら自然観察をしよう」, 2012-05-26
フィールド研公開講座において講演および講師(野外実習), 2012-07-27/29
第3回周南市連携講座(徳山試験地)において講演および野外実習講師, 2012-11-18
フィールド研シンポジウム「流域研究と森里海連環学」において, 講演およびパネルディスカッションパネラーとして参加, 2012-12-02
「知ろう, 守ろう 芦生の森シンポジウムー豊かな森の再生に向けてー」において, 活動報告, 2012-12-08
芦生の森自然観察会 入門編「秋の森を歩きながら樹木観察をしよう」, 2012-10-27
- 中西 麻美 芦生の森自然観察会 入門編「春の森を歩きながら自然観察をしよう」, 2012-05-26
フィールド研公開講座において講演および講師(野外実習), 2012-07-27/29
芦生の森自然観察会 入門編「秋の森を歩きながら樹木観察をしよう」, 2012-10-27
- 上野 正博 第4回由良川市民講座「森・里・海の対話ー豊穡の海を育む森づくりー」において, パネルディスカッションのパネラーとして参加(舞鶴市中総合会館 コミュニティホール), 2012-07-08
「生物描写のコツをお教えする出張お絵描き教室」企画責任者(総合博物館), 2013-02-13
- 中山 耕至 NPO 法人シニア自然大学校主催 連続環境講座「森里海連環の時代を拓く I」において講演(大阪市立環境学習センター(生き生き地球館)), 2012-12-15
- 甲斐 嘉晃 テレビ番組出演 関西テレビ「スーパーニュースアンカー」クロアチアに関するニュース, 2012-04-19
京都府ゆたかな海作り大会, 展示(舞鶴), 2012-07-08
舞鶴市高等教育機関等合同 PR フェア, 2012-10-27/28
- 福西 悠一 「舞鶴・海のつながりフォーラム」において司会進行, 2013-03-09
- 高橋 宏司 「舞鶴・海のつながりフォーラム」において講演, 2013-03-09

基礎海洋生物学部門

- 朝倉 彰 「水産・臨海・臨湖実験所フィールド実習ワークショップ」において講演, 2012-11-30
日本動物学会第 83 回大阪大会 2012 動物学ひろば「見てみよう触ってみようー多様な動物の世界」に, 瀬戸臨海実験所が参加(大阪大学総合学術博物館), 2012-09-15
- 久保田 信 白浜水族館 研究者と飼育係のこだわり解説ツアー・バックヤードツアー, 2012-04-05, 07-21, 22, 08-11, 12, 13, 12-29, 2013-01-06
NPO 法人シニア自然大学校受講生に対して, 講演「不老不死のベニクラゲと早死のカイヤドリヒドラクラゲに関する最近の研究のいくつかの話題」, 2012-04-12
ラジオ番組出演 静岡放送「ほのぼのワイド 中村こずえの興味津津」, 2012-04-17, 24
テレビ番組出演 テレビ愛知「山浦ひさしのトコトン! 1 スタ」, 2012-04-18
白浜国際交流協会 水族館案内, 2012-07-06
海の生き物何でも相談会, 2012-07-28, 29, 08-25, 26
白浜水族館「海の中まで白浜をしっちゃおう!」解説ツアー, 2012-08-11, 14, 16, 18, 21, 23, 25, 30
テレビ番組出演 ブラジルテレビ局 GLOBO "FANTASTICO" 「Cientista acredita que seres humanos poderão viver mais de mil anos」でベニクラゲの紹介, 2013-01-06
ラジオ番組出演 白浜コミュニティ FM ラジオビーチステーション 「クラブミセスマチネ(パーソナリティ 水上くみこ)」, 2013-02-16, 23
- 宮崎 勝己 瀬戸臨海実験所「施設見学会」(京大ウィークス)を開催, 2012-10-27
- 大和 茂之 公益財団法人 南方熊楠記念館「番所崎で海の生物観察」講師, 2012-08-05

森里海連環学教育ユニット

- 向井 宏 フィールド研シンポジウム「流域研究と森里海連環学」において総合司会, 2012-12-02
周南市・フィールド研連携協定締結記念公開講座「森・里・海がつながる未来ー周南市で学ぶ京大の知ー」(山口県周南市・フィールド研徳山試験地 共催) で講演「海から見た森里海連環」(周南市徳山保健センター), 2012-10-21
- 横山 壽 第1回森里海連環学 (CoHHO) セミナーにおいて講演「炭素・窒素安定同位体を用いた沿岸の栄養構造解析の現状と養殖環境対策への応用」, 2012-08-02
- 清水 夏樹 第3回森里海連環学 (CoHHO) セミナーにおいて, 講演「バイオマス活用は地域に何をもちたらしうるのか

～メタン発酵技術を中心としたシステムの評価～」, 2012-11-22

企画研究推進部門

福島 慶太郎 芦生地区に関する木文化プロジェクト報告会において活動報告, 2012-09-26
第1回芦生の森ガイド連絡会講師, 2013-03-21

管理技術部

加藤 哲哉 テレビ番組出演 (ヤマトメリベの解説) 朝日放送テレビ 「探偵! ナイトスクープ」『ウミウシからグ
レープフルーツの匂い! ?』, 2012-06-01
平井 岳志 京都大学フィールド科学教育研究センター公開講座(芦生研究林)講師 (樹木識別入門), 2012-07-27

(7) 国際活動

◆国際研究プロジェクト

里域生態系部門

甲斐 嘉晃 ダンゴウオ科魚類の系統地理学的研究 (米国 ワシントン大学)
クサウオ科魚類の分類学的研究 (米国 ワシントン大学)
メバル属魚類の形態進化に関する研究 (米国 ハーバード大学)

森里海連環学教育ユニット

向井 宏 JSPS 二国間交流事業共同研究 (日・フィリピン) 「環境攪乱に対するバイオシールドとしての海草藻場生
態系機能の解明」(代表: 山室真澄)
APN Project ARCP2011-12NMY "Seagrass-Mangrove Ecosystems: Bioshields against Biodiversity Loss
and Impacts of Local and Global Change along Indo-Pacific Coasts"

◆国際学会

森林生物圏部門

中島 皇 Second International Conference on Biodiversity in Forest Ecosystems and Landscapes 参加・発表
(アイルランド コーク大学, 2012-08-20/31)

里域生態系部門

山下 洋 50th ECSA 国際シンポジウム (イタリア NH ラグーナパレス ベニス, 2012-06-04/07)
徳地 直子 第 97 回アメリカ生態学会においてポスター発表 (米国 オレゴンコンベンションセンター,
2012-08-07/09)
学会「ボルネオリサーチカウンシル」に参加, プランテーション型バイオマス社会の総合的研究に関する
情報収集 (ブルネイ ブルネイ・ダルサラーム大学, 2012-06-25/26)
プランテーション型バイオマス社会の総合的研究に関するアブラヤシプランテーションの資料収集/
シンポジウム「Human-Nature Interactions of the Riverine Societies in Sarawak」で発表 (マレーシア
マレーシアサラワク大学東アジア研究所/クチンハーバービューホテル, 2012-06-27/29)
水文学と森林生物地球科学に関する日米研究会 (米国 ハワイ大学イーストウエストセンター,
2013-03-03/09)
益田 玲爾 第36回国際仔稚魚学会 (ノルウェー Solstrand Hotel, 2012-07-02/06)
甲斐 嘉晃 「FISH-BOL Conference」に参加/朝鮮半島南部における魚類採集 (韓国・麗水市 International Pavillion
C at the Expo exhibition area/釜山港魚市場, 2012-06-12/15)
福西 悠一 第36回国際仔稚魚学会 (ノルウェー Solstrand Hotel, 2012-06-30/07-07)

基礎海洋生物学部門

朝倉 彰 SICB Annual Meeting 2013 (米国 Hilton San Francisco Union Square, 2013-01-03/07)

岡西 政典 国際セミナー参加/アジア諸国における海洋生物学教育に関する研修および情報収集 (インドネシア
LIPI, Convention Hall, 2012-11-11/14)

森里海連環学教育ユニット

向井 宏 第一回アジア海洋生物学会 First Asian Marine Biology Conference (タイ Cape Panwa Hotel,
2012-12-14/17)
横山 壽 第一回アジア海洋生物学会 (タイ Cape Panwa Hotel, 2012-12-13/15)
宋 泳根 「LiDAR リモートセンシングによる森林構造の評価」研究会および The 55th Symposium of the
International Association for Vegetation Science に参加/地上 LiDAR 計測による都市林の4次元構
造の評価に関する研究」研究調査 (韓国 ソウル大学/ソウルの森林/Hyundai Hotel, 2012-07-20/30)

企画研究推進部門

福島 慶太郎 学会「ボルネオリサーチカウンスル」に参加，プランテーション型バイオマス社会の総合的研究に関する情報収集（ブルネイ プルネイ・ダルサラーム大学，2012-06-25/26）
プランテーション型バイオマス社会の総合的研究に関するアブラヤシプランテーションの資料収集／シンポジウム「Human-Nature Interactions of the Riverine Societies in Sarawak」で発表（マレーシア マレーシアサラワク大学東アジア研究所／クチンハーバービューホテル，2012-06-27/29）

白眉センター

佐藤 拓哉 The 87th Meeting of the American Society of Parasitologists 発表・参加（米国 Omni Richmond Hotel，2012-07-13/16）
ESA Meeting にて発表・情報収集・サンプリング（米国 Oregon Convention Center，2012-08-06/09）

◆海外調査

柴田 昌三 韓国慶北州森林組合との情報交換および視察（韓国 大邱，2012-09-10/12）
インド・アルナチャルプラデシュ州における里山資源利用に関する調査および情報交換（インド アルナチャルプラデシュ州内：イタナガル，ジロ，2012-10-28/11-03）

森林生物圏部門

安藤 信 ボゴール植物園の植生視察，ジャワ島西部の森林植生の調査（インドネシア ボゴール植物園，2013-02-19/26）
舘野 隆之輔 タマリスク林の視察（コロラド川およびバージン川流域），松林・ソノラ砂漠北限の植生・浸食地形・乾燥地植物の視察および情報収集（米国 Boyd Deep Canyon Center／コロラド川・バージン川流域，2012-12-23/27）
中島 皇 都市公園における樹林帯の利用に関する資料収集（トルコ イスタンブール市内公園，2012-09-03/04）

里域生態系部門

山下 洋 沿岸域の複合生態系モデリングと資源培養に関する情報収集（米国 ニューハンプシャー大学，2012-06-16/18）
徳地 直子 セミナー参加および研究林の視察（カナダ コロンビア大学，2012-08-10/12）
東アジア熱帯域におけるプランテーション型バイオマス社会に関する水質調査（マレーシア ビンツル周辺クメナ川等流域，2012-08-25/09-03）
プランテーション型バイオマス社会の総合的研究に関するアブラヤシプランテーションの資料収集（マレーシア マレーシアサラワク大学東アジア研究所，2013-03-14/19）
甲斐 嘉晃 東部北太平洋の魚類の分類学的研究（米国 シアトル ワシントン大学水産学部，2012-11-13/15）

基礎海洋生物学部門

久保田 信 ミンダナオ島沿岸のクラゲ調査（フィリピン ダバオ，2013-02-27/03-07）
河村 真理子 韓国水域における大型クラゲ出現情報の収集（韓国 National Fisheries Research and Development Institute，2012-11-20/23）

森里海連環学教育ユニット

向井 宏 環境攪乱に対するバイオシールドとしての海草藻場生態系機能の解明についての研究（マリタ市）／南フィリピン農業技術海洋科学大学および東ダバオ州立科学技術大学との同意書との学術協力に関する同意書の締結，知事および市長への表敬訪問等（フィリピン 南フィリピン農業技術海洋科学大学／東ダバオ州立科学技術大学，2013-02-26/03-07）

企画研究推進部門

福島 慶太郎 東アジア熱帯域におけるプランテーション型バイオマス社会に関する水質調査（マレーシア ビンツル周辺クメナ川等流域，2012-08-25/09-04）
プランテーション型バイオマス社会の総合的研究に関するアブラヤシプランテーションの資料収集（マレーシア マレーシアサラワク大学東アジア研究所，2013-03-14/19）

白眉センター

佐藤 拓哉 研究発表および打ち合わせ（米国 カリフォルニア大学バークレー，2012-05-11/13）
ハリガネムシ類の分類・生態・進化について情報収集／ハリガネムシの宿主採取調査（米国 ニューメキシコ大学，2012-08-27/31）
Department of Biology にて招待講演およびプロジェクトに関する情報収集（米国 カリフォルニア大学サンタバーバラ校，2012-12-03/05）
ハリガネムシ類の広域モニタリングに関する情報収集（米国 Barstow 周辺の砂漠エリア，モハビ国立保護区，2012-12-15/17）
河川における栄養塩添加実験の手法について実験技術の習得および研究打ち合わせ（カナダ ビクトリア大学，2013-02-02/04）

◆在外研究

白眉センター

佐藤 拓哉 溪流生態系に関する野外実験研究 (カナダ プリティッシュコロンビア大学, 2012-03-28/2013-02-24)

◆その他出張研修

柴田 昌三 海洋生態系の再生とボランティア活動 -2012麗水EXPOの成功的な開催に向けたボランティア活動 特別フォーラム- において, 基調講演「沿岸域環境再生における森里海連環的観点の重要性」(韓国 麗水エンブルホテル, 2012-05-03/06)

南太平洋大学における情報交換とインターン研修学生指導, 島東部のナタレイラ村における資源利用の視察 (フィジー スバ, ナタレイラ, 2012-10-02/08)

ブータン王立大学における情報交換とインターン研修学生指導, ブータン中西部の森林資源利用の視察 (ブータン ティンピー, ポブジカ, プンツォリン, 2012-11-22/30)

シンガポール植物園における情報交換とインターン研修学生指導 (シンガポール, 2012-12-15/19)

里域生態系部門

益田 玲爾 気仙沼における生物環境調査の支援に関する協力依頼 (フランス ノシカ水族館, 2012-07-07)

◆招聘外国人学者

里域生態系部門

MIA Md. Younus (ミア エムディー ユーヌス) / 丹後海の生物生産構造における鍵生物群としてのアミ類の摂餌生態 (パングラデシュ モラナーバシヤナ科学技術大学 准教授, 2011-06-16/2012-04-15, 受入教員: 山下 洋)

Campbell John Law (キャンベル ジョン ロウ) / 森林生態系の物質収支に関する不確実性の検討 (米国 アメリカ林野局 研究員/ニューヨーク州立大学博士課程修了 博士(森林生物), 2012-10-21/11-09, 受入教員: 徳地 直子)

Gwak Woo-Seok (カク ウ ソク) (京大農学部博士課程卒業) / 「DNA 分析による海産魚類の遺伝子的多様性と集団分析に関する検討」(韓国 国立慶尚大学校 海洋科学大学 海洋生命科学科 助教授, 2012-07-25/08-23, 受入教員: 中山 耕至)

Gwak Woo-Seok (カク ウ ソク) (京大農学部博士課程卒業) / 「DNA 分析による海産魚類の遺伝子的多様性と集団分析に関する検討」(韓国 国立慶尚大学校 海洋科学大学 海洋生命科学科 助教授, 2013-01-28/02-07, 受入教員: 中山 耕至)

白眉センター

Laurie Marczak (ローリー マーザック) / 第60回日本生態学会大会シンポジウムおよびフィールド研「Ecology Special Seminar」にて講演 / 「Variable timing of a subsidy produces negative effects for a riparian consumer」(米国 モンタナ大学 助教, 2013-03-05/12, 受入教員: 佐藤 拓哉)

◆外国人共同研究員

里域生態系部門

Sparrevohn Claus Reedtz (スパレボン クラウス リーズ) / ヒラメの初期生態と栽培漁業技術開発に関する研究 (デンマーク王国 デンマーク工科大学水圏資源研究所・研究員/PhD., Wageningen University 博士課程 (2008年), 2012-06-04/08-31)

◆留学生

森林育成学分野

Alex Souza 国費留学生 (ブラジル, 柴田 昌三/長谷川 尚史)

里海生態保全学分野

Yi-Ting Lien (連怡婷) 私費留学生 (台湾, 山下 洋)

Kenneth Ramsey Kasseem 私費留学生 (米国, 山下 洋, 地球環境学舎)

(8) 研修参加・資格取得等

◆職員研修（学外）

平成 24 年度国立大学法人北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 森林圏ステーション 技術職員研修
主催 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター森林圏ステーション（全国演習林協議会）
開催日時・場所 1 月 22～24 日・北海道大学北方生物圏フィールド科学センター森林圏ステーション北管理部雨龍研究林
参加者 山内 隆之（1 人）

第 21 回九州地区国立大学法人農学部附属演習林等 技術職員研修
主催 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター（全国演習林協議会）
開催日時・場所 10 月 31～11 月 2 日 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター田野フィールド（演習林）
参加者 西岡裕平（1 人）

平成 24 年度東海地区農学部附属演習林等 技術職員研修
主催 静岡大学農学部附属地域フィールド科学教育研究センター（全国演習林協議会）
開催日時・場所 10 月 16～18 日 静岡大学農学部附属地域フィールド科学教育研究センター天竜フィールド（上阿多古）、南アルプスフィールド（中川根）
参加者 荒井 亮（1 人）

平成 24 年度中国・四国・近畿地区大学附属演習林等 技術職員研修
主催 高知大学農学部附属暖地フィールドサイエンス教育研究センター
開催日時・場所 10 月 23～26 日 高知大学農学部附属暖地フィールドサイエンス教育研究センター嶺北フィールド（演習林）・嶺北フィールド 教育実習実験研究施設
参加者 平井 岳志・細見 純嗣・中川 智之・安藤 公（4 人）

◆職員研修（学内）

京都大学技術職員研修（第 37 回）：理学研究科セミナーハウス・農学研究科附属牧場
11 月 15～16 日 向 昌宏・北川 陽一郎・山内 洋紀・山本 恒紀（4 人）
農学研究科・フィールド科学教育研究センター第 15 回技術職員研究集会：フィールド研究会議室
3 月 15 日 佐藤 修一・境 慎二郎・伊藤 雅敏・長谷川 敦史・北川 陽一郎・榎田 盤・中村 はる奈（7 人）

京都大学技術職員研修（第 4 専門技術群：生物・生態系）：フィールド科学教育研究センター・京都府立植物園
10 月 3 日 北川 陽一郎・長谷川 敦史・小嶋 宏和・林 大輔・伊藤 政敏・大橋 健太・紺野 絡・境 慎二郎・佐藤 修一（9 人）

京都大学技術職員研修（第 6 専門技術群：情報系）：京都大学学術情報メディアセンター北館
10 月 19 日 榎田 盤・中村 はる奈（2 人）

京都大学技術職員研修（第 6 専門技術群：情報系）：医学部構内医学部 G 棟セミナー室
2 月 15 日 中村 はる奈（1 人）

パソコン研修

Word2007 基礎 西岡 裕平（1 人）
Word2007 応用 富田 寿子（1 人）
PowerPoint2007 基礎 長谷川 敦史（1 人）
PowerPoint2007 ビジネス活用 小嶋 宏和（1 人）

◆免許・資格等の取得

危険物取扱者免状	中川 智之・安藤 公・奥田 賢 (3人)
中型車自動車運転免許 (8t 限定解除)	紺野 絡・荒井 亮 (2人)
大型特殊自動車運転免許 (以上, 免許)	浅野 善和・太田 健一 (2人)
車両系建設機械 (整地等) 運転技能講習	なし
車両系建設機械 (解体用) 運転技能講習	なし
高所作業車運転技能講習	長谷川 敦史 (1人)
フォークリフト運転技能講習	なし
玉掛け技能講習	なし
小型移動式クレーン運転技能講習	奥田 賢 (1人)
はい作業主任者技能講習 (以上, 労働安全衛生法による技能講習: 修了証明書表記順)	奥田 賢 (1人)
自由研削用といしの取替え等の業務に係る特別教育	なし
伐木等の業務に係る特別教育	藤木 孝一・北村 伊都子 (2人)
小型車両系建設機械 (整地等) の運転の業務に係る特別教育	なし (機体重量3トン未満)
クレーンの運転の業務に係る特別教育 (以上, 労働安全衛生法による特別教育 労働安全衛生規則第36条の順)	平井 岳志・荒井 亮 (2人) (つり上げ荷重5t未満)
振動工具取扱作業安全衛生教育	なし
刈払機取扱作業安全衛生教育 (以上, 労働安全衛生法による安全衛生教育 通達順)	藤木 孝一 (1人)
林内作業車を使用する集材作業に従事するものに対する安全教育 (労働省通達による安全衛生教育等)	山内 隆之・柴田 泰征・浅野 善和・岡部 芳彦・太田 健一・ 勝山 智恵・古田 卓・北川 陽一郎 (8人)

◆安全衛生に関する講習会等

安全運転管理者講習	山内 隆之・境 慎二郎・上西 久哉 (3人)
危険物取扱者保安講習	柴田 泰征・太田 健一・柳本 順・上西 久哉 (4人)
安全衛生推進者養成講座	なし

4. 資料

(1) 職員配置表

平成24年11月 1日現在

区分	教授	准教授	講師	助教	事務職員	技術職員	非常勤職員等
センター長 流動分野研究室	(併) ■柴田昌三						
研究室 (北部構内)	吉岡 崇仁 □ 山下 直子 ◇ 向井 宏	◆ 横山 壽 ◆ 清水 夏樹	中島 皇	中山 耕至 坂野上 なお ◆ 佐藤 拓哉			黒河 七菜子 村上 彩子 石角 静子 長田 典之 金井 美代 富博 幸子 ▼ 植田 晶子 小林 宜子 李野 正美 杉島 佳姫 谷村 満里子
企画情報室	(室長[兼]) 柴田 昌三					●横田 盤 中村 はる奈	
森里海連環学 プロジェクト支援室	(室長[兼]) 吉岡 崇仁 (副室長[兼]) 徳地 直子			(研究員) ◆ 福島 慶太郎 ◆ 松山 周平		向 昌宏	大川 智船
事務部					(課長補佐) 牛田 俊夫 (掛長) 奥村 和彦 浦 彰子		山本 みゆき
図書室							
森林フィールド管理部門						△◎山内 隆之 ▲◎境 慎二朗	
里域フィールド管理部門						◎佐藤 修一 ▽黒田 眞人 ◎津越 健	
水域フィールド管理部門							
芦生研究林		(研究林長) 長谷川 尚史		▼ 中西 麻美	(掛長) 石田 将人 (専門職員) 川俣 昭	●紺野 絡志 ●平井 岳嗣 ○細見 純亮 ○荒井 大輔 ○林 宏裕 ○小嶋 和 ○西岡 平	天牧 治夫 山口 サト子 中野 はるみ
北海道研究林	★ 吉岡 崇仁	(研究林長) 館野 隆之輔			(掛長) 川合 忍	[標茶区] ●柴田 泰和 ○浅野 善彦 ○岡部 芳智 ○勝太 健一 ○古田 卓	川村 由紀枝
和歌山研究林	★(研究林長) 徳地 直子			▲ 坂野上 なお		●上西 久哉 ○柳本 智順 ○中川 賢公 ○奥田 藤安	松場 香枝
上賀茂試験地		(試験地長) 安藤 信		寄元 道徳		●藤井 弘明 (育)○大橋 健太 伊藤 雅敏 長谷川 敦史 (休)吉岡 一歩 北川 陽一郎	
徳山試験地			★(試験地長) 中島 皇			●長谷川 孝 (再)秋田 豊 (兼)●佐藤 修一 (再)藤木 孝一	近森 道子 石丸 美由希 北村 伊都子
北白川試験地	(試験地長[兼]) 吉岡 崇仁						
紀伊大島実験所		(実験所長) 梅本 信也					
舞鶴水産実験所	★ 山下 洋	(実験所長) 益田 玲爾		上野 正博 甲斐 嘉晃	(再)松尾 壽雄	○志賀 生実 (再)佐藤 一夫	荻野 文枝 山下 正炳 陳谷 愛春 松尾 悠美 福西 宏一 高橋 宏司 岡野 紀子 藤井 道子
瀬戸臨海実験所	(実験所長) 朝倉 彰	久保田 信	宮崎 勝己	大和 茂之 中野 智之	(掛長) 砂田 明展 (主任) 福岡 由美 川中 健	(兼)●津越 健一 ○加藤 哲哉 原田 桂太 山内 洋紀 山本 恒紀 興田 喜久 (再)山本 善万	興田 道子 笠松 麻衣子 太田 満理 河村 真政 岡西 政典
森里海連環学教育 ユニット	◇ 向井 宏	◆ 横山 壽 ◆ 清水 夏樹			◆ 林 晴夫		安佛 かおり 大嶋 真謙 ■ 富田 寿根 宋 泳 上田 美保子

■センター長 ★勤務地:京都 ▼勤務地:北白川試験地 ▲勤務地:北海道研究林 ●技術長 ●技術班長 ○技術主任
□副センター長 ◆特定有期雇用教職員 ◇有期雇用教職員 (兼)兼務 (再)再雇用

(2) 常設委員会名称及び委員一覧

平成 24 年 4 月 13 日現在

<教授が担う委員会>

将来構想企画委員会	柴田・山下・吉岡・向井・朝倉
教育研究評価委員会	柴田・山下・吉岡・向井・朝倉
施設・設備整備委員会	柴田・山下・吉岡・向井・朝倉

<教授が当面委員長を務める委員会>

教育プログラム委員会	○朝倉・田川・長谷川・中島・宮崎・佐藤真行
研究プログラム委員会	○山下・安藤・梅本・益田・館野・徳地・中野
広報委員会	○吉岡・久保田・梅本・寄元・坂野上・甲斐・佐藤真行・槇田
人権問題対策検討委員会	○柴田・山下・吉岡・朝倉・徳地・益田・和田
情報セキュリティ委員会	○柴田・上野(幹事)・中山・槇田

<准教授・講師・助教が委員長を務める委員会>

施設・設備整備委員会ワーキンググループ	
遠隔講義システム等整備 WG	○安藤・館野・宮崎・坂野上・上野
連携棟新営 WG	○梅本・久保田・田川・中西
社会連携委員会	○田川・長谷川・中島・益田・大和・中山・寄元・中西
国際委員会	○佐藤・益田・中西・中野
労働安全衛生委員会	○徳地・坂野上・甲斐・大和・吉岡・向

(○ は、委員長)

技術職員の在り方検討委員会(役職指定)

センター長・副センター長・総務課長・技術長・森林系教授

危機管理委員会

全教授・各施設長・技術職員(若干名)

(3) 全学委員会等

平成 24 年 4 月 1 日現在

<部局長が対応する委員会>

教育研究評議会	全学共通教育委員会	生態学研究センター 協議員会
地球環境学舎・学舎 協議会	総合技術部 委員会	全学情報セキュリティ委員会

<他の教員が対応する委員会>

附属図書館協議会協議員	柴田
附属図書館運営委員会	柴田
研究資源アーカイブ運営委員会	柴田
野生動物研究センター連携協議会	柴田
学際融合教育研究推進センター運営委員会	山下
学生の安全対策検討 WG	吉岡
組換え DNA 実験安全委員会	中山
高等教育研究開発推進機構 全学共通教育システム委員会 少人数教育部会	益田
高等教育研究開発推進機構 全学共通教育システム委員会 生物学部会	田川
広報委員会	吉岡
国際交流委員会	山下
情報環境機構 KUINS 利用負担金検討委員会	中西
ジュニアキャンパス実施検討委員会	徳地

生態学研究センター運営委員会	徳地
生態学研究センター共同利用運営委員会	徳地
総合博物館運営委員会	久保田
大学評価委員会 点検・評価実行委員会	朝倉
施設整備委員会吉田キャンパス整備専門委員会	安藤
〈その他学内委員会等〉	
農学研究科コンピュータ援用物理系実習室運営委員会	長谷川
農学研究科コンピュータ援用物理系実習室管理実務委員会	坂野上

(4) 運営委員会

平成 24 年 4 月 1 日現在

区分	氏名	所属・職名
議長	柴田 昌三	フィールド研 センター長
1 号	山下 洋	フィールド研 教授
	吉岡 崇仁	フィールド研 教授
	朝倉 彰	フィールド研 教授
2 号	渡辺 勝敏	理学研究科 准教授
	北山 兼弘	農学研究科 教授
	星野 敏	地球環境学堂 教授
	高林 純示	生態学研究センター 教授
	本川 雅治	総合博物館 准教授
	安藤 和雄	東南アジア研究所 准教授

(5) 協議員会

平成 24 年 5 月 1 日現在

区分	氏名	所属・職名	備考
1 号	柴田 昌三	フィールド研 センター長	
2 号	山下 洋	フィールド研 教授	
	吉岡 崇仁	フィールド研 教授	
	朝倉 彰	フィールド研 教授	
3 号	林 信夫	法学研究科 教授	高等教育研究開発推進機構長
	山極 壽一	理学研究科 教授	理学研究科研究科長
	堀 道雄	理学研究科 教授	
	遠藤 隆	農学研究科教授	農学研究科長
	米森 敬三	農学研究科 准教授	農学研究科附属農場長
	藤井 滋穂	地球環境学堂 教授	地球環境学堂長
	中村 裕一	学術情報メディアセンター 教授	
	樺 宜高	生態学研究センター 教授	
	大野 昭文	総合博物館 教授	総合博物館長

(6) 教育関係共同利用拠点運営委員会

舞鶴水産実験所共同利用運営委員会

平成 24 年 4 月 1 日現在

区分	氏名	所属・職名
1号	柴田 昌三	フィールド研 センター長
2号	山下 洋	フィールド研 教授（舞鶴水産実験所長）
3号	益田 玲爾	フィールド研 准教授（舞鶴水産実験所）
4号	笠井 亮秀	京都大学 農学研究科 准教授
3号	渡邊 良朗	東京大学 大気海洋研究所 教授
	張野 宏也	神戸女学院大学 人間科学部 教授
	白山 義久	独立行政法人 海洋研究開発機構 理事
	富永 修	福井県立大学 海洋生物資源学部 教授
	小路 淳	広島大学 生物圏科学研究科 准教授
	古屋 康則	岐阜大学 教育学部 准教授

瀬戸臨海実験所共同利用運営委員会

平成 24 年 4 月 1 日現在

区分	氏名	所属・職名
1号	柴田 昌三	フィールド研 センター長
2号	朝倉 彰	フィールド研 教授（瀬戸臨海実験所長）
3号	宮崎 勝己	フィールド研 講師（瀬戸臨海実験所）
4号	疋田 努	京都大学 理学研究科教授
3号	仲岡 雅裕	北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター 教授
	和田 恵次	奈良女子大学 共生科学研究センター 教授
	西田 宏記	大阪大学 理学研究科 教授
	川井 浩史	神戸大学 内海域環境教育研究センター 教授
	深見 裕伸	宮崎大学 農学部 准教授
	白山 義久	独立行政法人 海洋研究開発機構 理事

(7)新聞・雑誌等に掲載された記事

センターに関する記事

年月日	掲載面	掲載紙	タイトル	内容・キーワード等
2012年4月6日	8面	紀伊民報	裏側どうなってる？白浜水族館 バックヤードツアー	白浜水族館
2012年4月20日	夕刊11面	毎日新聞	津波で浸水した海岸部 干潟で復興目指す	フィールド研
2012年4月21日	朝刊23面	京都新聞	銀行員、森林保全に協力	フィールド研
2012年4月21日	朝刊35面	日本経済新聞	京都市北区で森林保全	フィールド研
2012年4月25日	朝刊7面	京都新聞	観光と環境保護どう両立	芦生研究林
2012年4月27日	9面	紀伊民報	白浜へ遠足 すさみの見老津小	白浜水族館
2012年5月18日	夕刊4面	京都新聞	カメラは見た「太古からの命 連続」と	芦生研究林
2012年5月19日	朝刊22面	京都新聞	芦生に小型水力発電施設	芦生研究林
2012年5月24日	1面	紀伊民報	アマクサクラゲ初展示 白浜・京大水族館	白浜水族館
2012年6月10日	朝刊27面	京都新聞	森林保全誓い 北区で開山式	フィールド研
2012年6月15日	朝刊24面	京都新聞	「森・里・海」テーマ 舞鶴で市民講座式	フィールド研
2012年6月19日	2面	日刊新周南	20人が森林の役割学ぶ	徳山試験地
2012年6月21日	朝刊21面	京都新聞	「森から考える」京大芦生林で来月公開講座	フィールド研
2012年7月5日	朝刊34面	朝日新聞	シンポジウム「祇園祭とくらしの関係って？」	フィールド研
2012年7月5日	朝刊34面	朝日新聞	由良川市民講座「森・里・海の対話」	フィールド研
2012年7月16日	4面	京都大学新聞	専門家と市民が語る「まつり」の未来	フィールド研
2012年7月20日	12面	紀伊民報	夏休みイベント 白浜水族館	白浜水族館
2012年7月27日	14面	紀伊民報	海の生物を観察	白浜水族館
2012年7月29日	11面	紀伊民報	「疑問が解けた」海の生き物相談会	白浜水族館
2012年7月30日	朝刊21面	京都新聞	芦生の豊かな森 観察	フィールド研
2012年8月28日	夕刊8面	北海道新聞	標茶の京大研究林って何をするとところ？	北海道研究林
2012年8月29日	朝刊22面	読売新聞	宮城 海の復興語る 下京で10月11日シンポ	フィールド研
2012年9月1日	4面	紀伊民報	学生が聞き取り調査	紀伊大島実験所
2012年9月8日	朝刊29面	京都新聞	芦生の自然 次世代に	芦生研究林
2012年9月12日	朝刊24面	京都新聞	海との共生から震災復興考える	フィールド研
2012年9月17日	21面	中国新聞	森・川・海 つながり学ぶ	徳山試験地
2012年9月19日	2面	日刊新周南	海と森の関係学ぶ	徳山試験地
2012年9月23日	朝刊24面	京都新聞	生態系 調べた成果報告	舞鶴水産実験所
2012年9月28日	3面	山口新聞	周南市と京大フィールド研 地域振興で連携協定	フィールド研
2012年9月28日	朝刊35面	読売新聞	周南市、京大科学研と協定	フィールド研
2012年10月3日	9面	紀伊民報	京大が施設見学会	瀬戸臨海実験所
2012年10月10日	朝刊21面	毎日新聞	三陸の海の再生を考える震災シンポ	フィールド研
2012年10月19日	朝刊25面	京都新聞	京大の15施設、あすから公開	フィールド研
2012年10月29日	夕刊6面	読売新聞	ズームアップ 虫害防ぐラップの包帯	芦生研究林
2012年11月1日	10面	紀伊民報	太平洋フィッシング・ダービー 印南から串本の海域	白浜水族館
2012年11月4日	朝刊26面	京都新聞	秋の里山を観察しよう	上賀茂試験地
2012年11月7日	1面	紀伊民報	ソウシハギに注意	白浜水族館
2012年11月9日	朝刊25面	京都新聞	シカ 植物食い荒らす「害獣」に	芦生研究林
2012年11月26日	朝刊24面	京都新聞	森と里と海のつながり探る	フィールド研
2012年12月6日	夕刊8面	京都新聞	ブナ、謎の立ち枯れ	芦生研究林
2012年12月9日	朝刊28面	京都新聞	シカ食害から芦生林再生を	フィールド研
2012年12月10日	夕刊3面	京都新聞	大学博物館巡り13	白浜水族館
2012年12月12日	夕刊11面	日本経済新聞	那智勝浦に日本一短い川	紀伊大島実験所
2012年12月22日	朝刊20面	京都新聞	シカ食害から芦生の森守れ	フィールド研
2012年12月28日	9面	紀伊民報	裏側見学や生き物解説	白浜水族館
2013年冬号	2-4頁	「MURYOJU」88号	森と海の未来力(ちから)ー子どもたちに手渡すべきことー(フィールドソサイエティー会報)	フィールド研
2013年1月号	No.685	京大広報	フィールド研10周年記念プレシンポジウム「流域研究と森里海連携学」を開催	フィールド研
2013年1月号	No.685	京大広報	京大ウィークス2012期間中に全国各地の15施設が公開イベントを開催	フィールド研
2013年3月10日	朝刊31面	京都新聞	舞鶴湾のアサリ復活願う	舞鶴水産実験所
2013年3月13日	-	北日本新聞	京大と実習受け入れ協定	教育ユニット
2013年3月13日	-	富山新聞	インターンシップで協定	教育ユニット
2013年3月29日	9面	紀伊民報	裏側見学や餌やり体験	白浜水族館

教職員に関する記事

年月日	掲載面	掲載紙	タイトル	教職員
2012年5月26日	e6面	朝日新聞be	竹にも花や種はあるの？	柴田 昌三
2012年11月1日号	20-29頁	社団法人学士会『U7』46号	森林から沿岸へと連なる環境を人の文化でつなぐ総合科学を目指す	
2012年7月1日	朝刊13面	読売新聞	美しきエビとカニの世界	朝倉 彰、畠山 重篤
2012年6月18日	8面	coop教職員情報 No.112(190)	東日本大震災を忘れない「学生復興ボランティア」	徳地直子
2013年1月15日号	4頁	「たちばな」第48号	連載：研究者になる！第41回 (女性研究者支援センター ニュースレター)	
2012年4月4日	10面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国 番外編「マミズクラゲ」	久保田 信
2012年4月11日	10面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「カギノテクラゲ」	
2012年4月12日	朝刊33面	朝日新聞	猛毒タコに注意 天草海岸で発見	
2012年4月13日	14面	紀伊民報	久保田准教授が日本生物地理学会賞受賞	
2012年4月18日	10面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「アカダマクラゲ」	
2012年4月25日	10面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「ホヤノヤドリヒドロの一種」	
2012年5月2日	10面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「ムラサキクラゲ」	
2012年5月16日	10面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「トウロウクラゲ」	
2012年5月23日	10面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「ヤワラクラゲ」	
2012年5月30日	10面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「アマサクラゲ2」	
2012年6月1日	1面	紀伊民報	「コブシメ」の甲漂着	
2012年6月14日	12面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「ネジレクラゲ」	
2012年6月21日	12面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「モモチカギノテクラゲ」	
2012年6月24日	10面	紀伊民報	ハシボソミズナギドリの死骸 白浜海岸に相次ぎ漂着	
2012年6月28日	12面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「ヒメツリガネクラゲ」	
2012年7月4日	10面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「カタアシクラゲモドキ」	
2012年7月11日	10面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「アイオイクラゲ」	
2012年7月18日	12面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「フチコブクラゲ」	
2012年7月26日	12面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「ヤマトサルシアクラゲ」	
2012年8月2日	12面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「オビクラゲ」	
2012年8月7日	-	荘内日報	クラゲ研究の成果発表	
2012年8月25日	10面	紀伊民報	南紀生物第54巻 同好会が発行	
2012年8月26日	10面	紀伊民報	タコクラゲ今年が多め	
2012年8月30日	14面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「シミコクラゲ」	
2012年9月5日	12面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「ドフラインクラゲ」	
2012年9月13日	14面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「オオカラカサクラゲ」	
2012年9月19日	10面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「タマクラゲ」	
2012年9月27日	12面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「コマイクラゲムシ」	
2012年9月28日	1面	紀伊民報	田辺湾で72年ぶり確認	
2012年10月18日	12面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「カタアシクラゲ」	
2012年10月20日	10面	紀伊民報	会誌第67号発行	
2012年10月26日	14面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「フクロソトエリクラゲ」	
2012年11月1日	14面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「ジュズクラゲ」	
2012年11月21日	12面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「フウセンクラゲ」	
2012年11月29日	12面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「コザクラゲの一種」	
2012年12月号	32頁	ケトル VOL.10	不老不死の夢、かなうかも？かもしれません	
2012年12月1日	1面	紀伊民報	毛むくじらのカニ 白浜で捕獲	
2012年12月2日号	32-39頁他	The New York Times Magazine	Does this little jellyfish live forever?	
2012年12月8日	15面	紀伊民報	国の天然記念物 オカヤドカリ調査	
2012年12月8日	10面	紀伊民報	会報『くろしお』発行	
2012年12月9日	11面	紀伊民報	外洋性オキクラゲ漂着	
2012年12月14日	16面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「エダクラゲの一種」	
2012年12月25日	4面	北日本新聞	不老不死 ベニクラゲの謎 人の若返りに応用？	
2012年12月25日	7面	愛媛新聞	不老不死 謎解明へ 若返り繰り返す「ベニクラゲ」	
2012年12月26日	10面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「ベニクラゲムシ2」	
2013年1月10日	12面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「バヌッチイクラゲ」	
2013年1月12日	10面	紀伊民報	ニューヨーク・タイムズ 久保田准教授を紹介	
2013年1月13日	1面	紀伊民報	ハマダイコン満開 1株だけ季節外れ	
2013年1月17日	12面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「ゴトウカカタアシクラゲ」	
2013年1月23日	10面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「アミガサウリクラゲ(改称)」	
2013年1月26日	1面	紀伊民報	温帯性二枚貝姿消す	
2013年1月30日	10面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「タマゴフタツクラゲ」	
2013年2月6日	10面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「ウスフタツレンズクダクラゲ(新称)」	
2013年2月13日	10面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「フウセンクラゲ2」	
2013年2月22日	14面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国 番外編2「ロバトランベア」	
2013年2月28日	10面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「エダクラゲ」	
2013年3月7日	12面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国「ボウシクラゲ」	
2013年3月13日	12面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国 番外編3「ヒメムツアシカムリクラゲ」	
2013年3月14日	1面	紀伊民報	タコブネの貝殻漂着	
2013年3月20日	12面	紀伊民報	日本一のクラゲ天国 番外編4「オキアイコモチタマクラゲ」	

2012年5月11日	1面	舞鶴市民新聞	高浜原発運転停止で海に異変	益田 玲爾	
2012年5月17日	夕刊8面	毎日新聞	南方系の魚死滅か・若狭・内浦湾		
2012年5月24日	夕刊1面	朝日新聞	原発停止 高浜の海異変		
2012年6月19日	朝刊25面	京都新聞	南方系ウニ、魚介激減		
2012年9月24日	-	新潟日報	原発停止し生態系戻る	梅本 信也 上野 正博	
2012年11月30日	朝刊24面	産経新聞	舞鶴湾の魚にびっくり		
2012年7月20日	4面	紀伊民報	イノシシ対策 あの手この手	中山 耕至	
2012年4月4日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (25)「公開実習」		
2012年4月18日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (26)「バイ」		
2012年5月2日	7面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (27)「指標生物図鑑」		
2012年5月16日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (28)「魚たちの幼稚園」		
2012年5月30日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (29)「平たい方が得」		
2012年6月13日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (30)「どっちが得」		
2012年6月27日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (31)「海ホオズキ」		
2012年7月11日	8面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (32)「ニナ」		
2012年7月25日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (33)「縦泳ぎと横泳ぎ」		
2012年8月8日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (34)「住宅難」		
2012年8月22日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (35)「地球温暖化とロンドン五輪」		
2012年9月5日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (36)「秋刀魚」		
2012年9月19日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (37)「ギンカクラゲ」		
2012年10月3日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (38)「京都府の鳥」		
2012年10月17日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (39)「セピア色」		
2012年10月31日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (40)「宮津でホエールウォッチング」		
2012年11月14日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (41)「紙のノーチラス」		
2012年11月28日	6面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (42)「アミモンガラ」		
2012年12月12日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (43)「泥エビ」		
2012年12月26日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (44)「キチン」		
2013年1月9日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (45)「神馬藻」		
2013年1月23日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (46)「産地地消」		
2013年2月6日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (47)「この生物の名前は？」		
2013年2月20日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (48)「白ナマコ」		
2013年3月6日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (49)「川で遊ぼう」		
2013年3月27日	4面	両丹日日新聞	日本海に遊ぶII (50)「春の嵐」		
2012年7月15日	22面	山梨日日新聞	本栖にクニマスの“痕跡”		甲斐 嘉晃
2012年12月6日	朝刊27面	京都新聞	西湖のクニマス交雑せず 近縁種のヒメマスと		
2012年4月20日	朝刊29面	毎日新聞	雑記帳「太いのがうねうね…京都府立海洋高の実習船が捕獲」		佐藤 拓哉
2012年5月25日	431号	京漁連だより	日本海のさかなの話～最新の魚類学研究から「イカナゴのなかま」		
2012年7月31日	432号	京漁連だより	日本海のさかなの話～最新の魚類学研究から「ウナギのなかま」		
2012年9月25日	433号	京漁連だより	日本海のさかなの話～最新の魚類学研究から「ホウボウのなかま」		
2012年11月30日	434号	京漁連だより	日本海のさかなの話～最新の魚類学研究から「カマスのなかま」		
2013年1月1日	435号	京漁連だより	日本海のさかなの話～最新の魚類学研究から「タイのなかま」		
2012年3月29日	436号	京漁連だより	日本海のさかなの話～最新の魚類学研究から「カレイのなかま」		
2012年6月21日	-	バンクーバー新報	寄生虫から分かる、川と森の蜜月な関係	諏訪 僚太 (特別研究員)	
2012年11・12月号	32-34頁	自然保護 No.530	ハリガネムシがつなぐ森と川の生態系		
2013年3月4日	朝刊22面	朝日新聞	寄生生物巧みな支配	畠山 重篤 (社会連携教授)	
2013年3月16日	朝刊e6面	朝日新聞	海の酸性化		
2012年4月16日	朝刊1面	京都新聞	凡語「カキと森」	田中 克(名誉教授)、 畠山 重篤(社会連携教授)	
2012年4月29日	朝刊30面	日本経済新聞	UNFFフォレストヒーロー受賞記念講演会 畠山重篤氏		
2012年12月23日	朝刊21面	毎日新聞	再び豊かな小里に	藤井 弘明	
2012年12月号	10-15頁	小原流挿花 No.745	自然と人のつながりを再生する。		
2012年9月25日	22号	紅萌	京都大学をささえる人びと		

(8)各施設利用者数(2012年度)

(単位：人)

(所属) (目的) (利用者)	京都大学					他大学				
	教育		研究		その他	教育		研究		その他
	教職員等	学生	教職員等	学生		教職員等	学生	教職員等	学生	
芦生研究林	325	537	472	810	112	11	60	31	362	16
北海道研究林標茶区	191	337	293	179	7	4	41	17	0	0
北海道研究林白糠区	15	10	73	24	0	0	0	1	0	0
和歌山研究林	49	10	24	40	1	0	0	1	6	1
上賀茂試験地	108	373	293	200	107	14	149	7	5	67
徳山試験地	22	31	20	0	14	3	0	0	0	0
北白川試験地	7	68	487	827	34	0	8	0	5	1
紀伊大島実験所	20	110	1	12	0	0	0	22	6	0
舞鶴水産実験所	344	598	310	3,045	13	34	384	58	305	6
瀬戸臨海実験所	448	481	125	1,855	13	136	1,074	213	310	0
計	1,529	2,555	2,098	6,992	301	202	1,716	350	999	91

(所属) (目的)	教育研究機関等			一般			合計
	教育	研究	その他	教育	研究	その他	
芦生研究林	324	48	60	528	235	7,151	11,082
北海道研究林標茶区	10	3	13	98	67	32	1,292
北海道研究林白糠区	0	2	0	10	15	26	176
和歌山研究林	82	8	1	1	8	0	232
上賀茂試験地	14	6	121	133	5	892	2,494
徳山試験地	9	0	4	43	0	154	300
北白川試験地	0	0	0	0	41	81	1,559
紀伊大島実験所	0	39	0	0	572	0	782
舞鶴水産実験所	694	43	163	49	14	116	6,176
瀬戸臨海実験所	1192	149	0	136	70	69,109	75,311
計	2,325	298	362	998	1,027	77,561	99,404

(9)瀬戸臨海実験所附属水族館 月別入館者数(2012年度)

(単位：人)

月	有料入館者数				計	有料入館者 徴収金額計 (円)	無料 入館者 数	入館者 数 計	(参考) 前年度有料 入館者数 計
	個人		団体						
	大人	小人	大人	小人					
4月	4,152	504	111	232	4,999	2,195,310	433	5,432	3,875
5月	4,814	661	24	155	5,654	2,499,810	0	5,654	5,776
6月	3,100	344	155	45	3,644	1,660,290	0	3,644	3,620
7月	4,568	254	139	0	4,961	2,374,490	854	5,815	4,820
8月	9,703	0	50	0	9,753	4,874,000	3,832	13,585	8,987
9月	4,451	358	74	0	4,883	2,298,180	168	5,051	4,216
10月	3,598	333	92	493	4,516	1,906,610	0	4,516	4,584
11月	3,604	382	230	143	4,359	1,956,100	0	4,359	3,411
12月	3,637	161	162	0	3,960	1,909,110	566	4,526	3,226
1月	4,801	235	48	3	5,087	2,448,130	598	5,685	4,413
2月	3,526	307	200	45	4,078	1,889,470	0	4,078	3,713
3月	5,266	325	127	76	5,794	2,730,460	864	6,658	6,861
計	55,220	3,864	1,412	1,192	61,688	28,741,960	7,315	69,003	57,502

(上記の集計には、臨海実習等で実験所を利用した学生や教員、ならびに外来研究者等の来訪者は含まれていない。)

(10) 人事異動 (2012 年度)

氏名	新職名	旧職名	異動年月日
柴田 昌三	センター長 (地球環境学堂・教授)	センター長・教授	2012. 4. 1
吉岡 崇仁	北白川試験地長・教授	教授	〃
柴田 昌三	北白川試験地長 免		〃
向井 宏	学際融合教育研究推進センター森里海 連環学教育ユニット・特任教授 (フィールド研 連携教授)	海域陸域統合管理学研究部門・特任教授	〃
佐藤 真行	学際融合教育研究推進センター森里海 連環学教育ユニット・特定准教授 (フィールド研 連携准教授)	海域陸域統合管理学研究部門・特定准教授	〃
清水 尚	総務部人事課課長補佐 (福利厚生主査, 兼共済掛長)	事務室・フィールド担当専門員	〃
牛田 俊夫	事務室・フィールド担当総務課課長補佐	総務部職員課専門員 (課長補佐 (福利厚生主査), 兼共済掛長)	〃
奥村 和彦	事務室・フィールド研担当経理課掛長	宇治地区専門職員 (旅費事務センター)	〃
林 晴夫	森里海連環学教育ユニット支援室・特定職員	経済研究所事務長	〃
安佛 かおり	学際融合教育研究推進センター森里海 連環学教育ユニット・研究員 (産官学連携)	海域陸域統合管理学研究部門・教務補佐員	〃
津越 健一	海域フィールド管理部門・技術長 ・瀬戸 臨海実験所・技術班長 (兼) (技術専門職員)	瀬戸臨海実験所・技術主任 (技術専門職員)	〃
藤井 弘明	上賀茂試験地・技術班長 (技術専門職員)	里域フィールド管理部門・技術班長 (技術専門職員)	〃
柴田 泰征	北海道研究林・技術班長 (技術専門職員)	上賀茂試験地・技術班長 (技術専門職員)	〃
山内 隆之	北海道研究林・技術班長 (兼) 免		〃
太田 健一	北海道研究林・技術職員	芦生研究林・技術職員	〃
林 大輔	芦生研究林・技術職員	北海道研究林・技術職員	〃
加藤 哲哉	瀬戸臨海実験所・技術主任	瀬戸臨海実験所・技術職員	〃
向 昌宏	森里海連環学プロジェクト支援室・技術職員 (技術専門職員)	森里海連環学プロジェクト支援室・技術職員	〃
中川 智之	和歌山研究林・技術主任 (技術専門職員)	和歌山研究林・技術主任	〃
岡部 芳彦	北海道研究林・技術主任 (技術専門職員)	北海道研究林・技術主任	〃
河村 真理子	瀬戸臨海実験所・研究員 (特別教育研究)	瀬戸臨海実験所・特定研究員	〃
岡西 政典	瀬戸臨海実験所・研究員 (特別教育研究)	(採用)	〃
福西 悠一	舞鶴水産実験所・研究員 (特別教育研究)	(採用)	〃
高橋 宏司	舞鶴水産実験所・研究員 (特別教育研究)	(採用)	〃
大嶋 真謙	森里海連環学教育ユニット支援室・教務補佐員	舞鶴水産実験所・研究員 (産官学連携)	〃
宋 泳根	学際融合教育研究推進センター森里海 連環学教育ユニット・研究員	(採用)	2012. 5. 1

佐藤 真行	辞職(学際融合教育研究推進センターグローバル生存学大学院連携ユニットへ異同)	学際融合教育研究推進センター森里海連環学教育ユニット・特定准教授	2012. 5. 31
山本 恒紀	瀬戸臨海実験所・技術職員	(採用)	2012. 6. 16
横山 壽	学際融合教育研究推進センター森里海連環学教育ユニット・特定准教授(フィールド研 連携准教授)	水産総合研究センター 増養殖研究所・主幹研究員	2012. 7. 1
益田 玲爾	舞鶴水産実験所長・准教授	准教授	〃
山下 洋	舞鶴水産実験所長 免		〃
徳地 直子	和歌山研究林長・教授	和歌山研究林長・准教授	2012. 9. 1
北川 陽一郎	上賀茂試験地・技術職員	(採用)	〃
長野 敏	辞職	芦生研究林 事務掛・事務職員(再雇用)	2012. 9. 30
南 憲 吏	辞職(北海道大学へ異動)	舞鶴水産実験所・研究員(産官学連携)	〃
清水 夏樹	学際融合教育研究推進センター森里海連環学教育ユニット・研究員(産官学連携)	農学研究科・研究員	2012.10. 1
川 俣 昭	芦生研究林 事務掛・専門職員	野生動物研究センター・専門職員	〃
清水 夏樹	学際融合教育研究推進センター森里海連環学教育ユニット・特定准教授(フィールド研 連携准教授)	学際融合教育研究推進センター森里海連環学教育ユニット・研究員(産官学連携)	2012.11. 1
佐藤 修一	里域フィールド管理部門・技術長・北白川試験地・技術班長(兼)	里域フィールド管理部門・技術長	〃
境 慎二郎	芦生研究林・技術班長(兼) 免		〃
紺野 絡	芦生研究林・技術班長(技術専門職員)	北白川試験地・技術主任(技術専門職員)	〃
平井 岳志	芦生研究林・技術班長(技術専門職員)	芦生研究林・技術主任(技術専門職員)	〃
竹下 文雄	舞鶴水産実験所・研究員(産官学連携)	(採用)	2012.11.16
富樫 博幸	辞職(水産総合研究センター 東北区水産研究所 任期付研究員へ異動)	研究員(産官学連携)	2013. 1. 31
宋 泳根	辞職(ソウル大学校 農業生命科学大学 博士研究員へ異動)	学際融合教育研究推進センター森里海連環学教育ユニット・研究員	2013. 2. 28
田川 正朋	流動分野の交代(農学研究科へ異動)		2013. 3. 31
中山 耕至	〃		〃
志賀 生実	定年退職	舞鶴水産実験所・技術主任(技術専門職員)	〃
佐藤 一夫	任期満了退職	舞鶴水産実験所・技術職員(再雇用職員)	〃
山本 善万	任期満了退職	瀬戸臨海実験所・技術職員(再雇用職員)	〃
竹下 文雄	辞職	舞鶴水産実験所・研究員(産官学連携)	〃

(11) 規程の改正等

- ・「京都大学フィールド科学教育研究センター森林ステーション芦生研究林共同利用運営委員会内規」の一部改正（平成 24 年 6 月 13 日教授会決定・施行）
- ・「京都大学フィールド科学教育研究センター森林系図書利用内規」の一部改正（平成 24 年 7 月 11 日センター長裁定・施行）
- ・「京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所図書利用内規」の一部改正（平成 24 年 7 月 11 日センター長裁定・施行）
- ・「フィールド科学教育研究センターに勤務する教職員の兼業の取扱いに関する内規」の一部改正（平成 25 年 1 月 9 日教授会決定・施行，1 月 1 日から適用）
- ・「フィールド科学教育研究センター兼業審査委員会内規」の一部改正（平成 25 年 1 月 9 日教授会決定・施行，1 月 1 日から適用）

京都大学フィールド科学教育研究センター 年報 第10号
平成25年11月29日発行

発行 京都大学フィールド科学教育研究センター
〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

印刷 株式会社 北斗プリント社
〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2